

**科目名/Subject : 情報リテラシー****曜日・講時/Day/Period :** 前期後半 水曜日 1 講時**担当教員/Instructor :** 佐藤 克美 / 熊井 正之 / 小嶋 秀樹 / 中島 平 / 渡部 信一**単位数/Credit(s) :** 1**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育実践や教育学研究に必須となる「情報を扱う能力」の修得

Information processing literacy for the research and practice in education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

ICT (Information and Communication Technology) 社会においては ICT 利用の操作の知識、技術のみならず、法律等も知らなければならない (知識)。そして、その知識をもとにうまく ICT を活用していく必要がある (実践)。さらに教育者は、学習者にその知識を伝え、ICT を活用させること (教授) が求められる。本講義では ICT を活用した教育を実施するうえで必要となる、コンピュータとそのネットワークについて、知識、実践、教授の 3 側面から学習する。

より具体的には、コンピュータとネットワークで使われている技術について解説し、その技術が教育現場にどのようにおおよされているのか紹介していく。

In our society that relies on ICT (Information and Communication Technology), one must possess not only the knowledge and skills for using ICT but also the law with regard to the use of ICT. Also, one has to utilize ICT effectively, and also has to have skills for teaching such knowledge and skills to the learners. In this course of lectures, students learn to utilize computers and networks for educational purposes, from three viewpoints of knowledge, practice, and teaching.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・情報通信技術 (ネットワーク、情報の収集・管理、セキュリティなど) の基礎を理解することができる。

- ・教育における情報通信技術活用のあり方 (実践例・今後の展望を含む) について考察し、その後の学修・研究に向けた動機づけや、実践的な教育方法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。

To be able to understand the basic concepts regarding ICT (network, security, and handling information).

To be able to envision how ICT can be utilized for education and be motivated for further study and research on the field.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第 1 回: イントロダクション: 情報リテラシーとは

第 2 回: 教育学を志す人のための情報通信技術 : デジタルの基礎

第 2 回: 教育学を志す人のための情報通信技術: コンピュータ技術

第 3 回: 教育学を志す人のための情報通信技術: ネットワークおよびセキュリティ

第 4 回: 情報活用の実践: 新しい技術の活用

第 5 回: 情報活用の実践: 教育現場での活用

第 6 回: 情報活用の実践: 障害者支援での活用

第 7 回: まとめ: AI 時代における教育

Introduction What is information literacy?

1 What is digital?

2 Information and communication technology

3 Network and security

4 Utilization of ICT

5 Utilization of ICT in schools

6 Utilization of ICT to support people with disabilities

7 Summary

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

ミニットペーパーとレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance, participation in discussions, and reports.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特になし (授業内で資料を適宜配布する)

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

講義の理解を深めるため、各回の復習が必要となる、また課題に取り組むための時間が必要である

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

受講生の興味・関心に合わせ講義の内容、順番を若干変更する可能性がある

Google クラスルーム  
クラスコード ofmc5cs

BCP レベルによる授業の形態については、講義開始前（5 月末～6 月）までにクラスルームから連絡します。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/01 15:42:16

**科目名/Subject : エデュフェア・マインド****曜日・講時/Day/Period :** 前期前半 水曜日 1 講時**担当教員/Instructor :** 後藤 武俊 / 島 一則 / 李 仁子 / 前田 駿太 / 鷲谷 洋輔 / 柴山 直 / 劉 靖 / 神谷 哲司 / 川崎 聡大**単位数/Credit(s) :** 1**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

エデュフェア・マインド

Edu-fair/fare Mind

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

この授業の目的は次の3点である。①博士課程前期2年の課程で研究を進めるために必要な研究倫理を理解する。②「公正で包摂的な社会」の必要性やその構築に向けた諸分野の取組について学び、今後の研究・教育活動のなかに視点として採り入れていけるようにする。③コースや専門領域の異なる人と話をする際に必要なコミュニケーション能力を獲得する。

第1回、2回は、研究倫理に関する現状と諸課題について、その基礎となる人間と倫理の関係を踏まえつつ講ずる。東北大学「研究倫理に関するキャリア・ステージ別学習参照基準」をふまえた内容とする。第3回から8回は、各コース1名の教員が1回ずつ担当する。指定された文献に基づき、受講生はワークショップを行う。

In the 1st and 2nd class, professors will discuss the current status and issues related to research ethics, taking into account the relationship between humans and ethics as the basis. These are based on Tohoku University's "Criteria for Study Ethics at Each Career Stage".

From the 3rd to the 8th lesson, professors of each course are in charge. Students will have discussions based on the specified articles.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1) 研究倫理を学び「公正で包摂的な社会」の必要性やその構築につながる諸研究分野の取組について大学院生が学び、今後の研究活動のなかに視点として採り入れていけるようにすること。

2) 他の分野・領域の学生と対話することを通じて、分野・領域の異なる人と話をする際に必要なコミュニケーション能力を獲得すること。

3) 他の分野・領域の学生と知り合い、今後の共同研究に向けた素地を創り出すこと。

Students will

1) while learning research ethics, learn about the necessity of a "fair and inclusive society" and activities in various research fields that will lead to it, and be able to adopt this perspective..

2) gain the necessary communication skills to talk to researchers in other fields by discussion with students in other courses.

3) get acquainted with students in other fields and areas and prepare a foundation for future joint research.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回：人間と倫理（池尾 恭一）

第2回：研究と倫理（野口 和人）

第3回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（李 仁子）

第4回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（島 一則）

第5回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（前田 駿太）

第6回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（川崎 聡大）

第7回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（劉 靖）

第8回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ（柴山 直）

The 1st: Humans and ethics (By Ikeo)

The 2nd: Research and ethics (By Noguchi)

The 3rd : Workshop 1 on "Fair and Inclusive Society" (By Lee)

The 4th : Workshop 2 on "Fair and Inclusive Society" (By Shima)

The 4th : Workshop 3 on "Fair and Inclusive Society" (By Maeda)

The 5th : Workshop 4 on "Fair and Inclusive Society" (By Kawasaki)

The 6th : Workshop 5 on "Fair and Inclusive Society" (By Liu)

The 8th : Workshop 6 on "Fair and Inclusive Society" (By Shibayama)

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

出席と各回ごとに提出するレポートによる。

Depending on attendance and reports submitted each class.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

指定された文献をあらかじめ読んで出席することが求められる。

Read the specified article in advance.

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○"Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

業務の都合等で指定された曜限に出席できない場合は相談の上、オンデマンドによる受講を認める場合がある。あらかじめ神谷まで申し出ること (tetsuji.kamiya.a4@tohoku.ac.jp)。

If a student is unable to attend due to business reasons, Learning through on-demand system may be considered. In this case, be sure to inform KAMIYA in advance. (tetsuji.kamiya.a4@tohoku.ac.jp)

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード: gvf7qnc

②第一回授業の開始時期: 4月14日(水) 8:50~

③授業の実施方法

- ・リアルタイム&オンデマンド (Google Meet を使用)
- ・リアルタイムでの受講者には、第2回からオンライン上でのグループワークを課す。
- ・オンデマンドでの受講者は、講義と全体討議の録画を後日視聴し、課題を提出する。オンデマンド受講を希望する場合は、

4月20日(火) までに後藤までDCメールで連絡すること (taketoshi.goto.a8@tohoku.ac.jp)。

- ・M1は必修科目なので、必ず履修すること。

④関連資料の入手方法

- ・google classroom から入手すること

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・オンデマンドの受講を勧めるが、それも難しい場合は個別に相談 (tetsuji.kamiya.a4@tohoku.ac.jp) のこと

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/09 14:58:23

**科目名/Subject : 生涯教育科学基礎論****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 石井山 竜平**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

生涯学習と地域社会教育/Lifelong learning and community education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

成人教育とそれを支える公的条件をめぐる基本理念と、それをめぐる今日的課題についての理解を深める。

In this course, students will learn about adult education, the basic principles of administration that support adult education, and their current challenges.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

現代では、学校教育に限定されない教育への世間的な認知は一定程度広がっている。しかし、そうした領域を指す、たとえば、「生涯学習」「社会教育」などの概念が普及したのは 20 世紀、とりわけその後半からのことであり、人類史からすれば、ごく最近のことであるという。このことが持つ意味とは何なのだろうか。そして今、地域における学習にはいかなる展開がみられるのだろうか。

この講義では、今日の地域学習の諸相を手がかりに、私たちが生きている現代社会の課題をとらえ返しつつ、これからの時代における地域生涯学習の在り方について考察する。

The purpose of this course is to provide students with an understanding of the reality and meaning of learning in fields other than schooling. In addition to this, the course will help students understand the characteristics of the systems that support such learning.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

- ・成熟社会における生活課題と、その解決を目指す学習実践の実際
- ・社会教育・生涯学習を支える理念と法制、国際的動向
- ・社会教育・生涯学習の制度と地方分権改革
- ・社会教育・生涯学習の提供主体の多元化
- ・変革の時代をきりひらく学びと自治の創造
- ・東日本大震災と社会教育、など。

This is a lecture-centered course.

- ・ Actual life issues in society and learning practices
- ・ Philosophy, legal system, and international trends that support social education and lifelong learning
- ・ Lifelong learning system and decentralization reform
- ・ Diversification of providers of social education and lifelong learning
- ・ Great East Japan Earthquake and social education, etc.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

小レポート（約 3 回）、および学期末レポートによる総合評価

Submitted reports, attendance and so on are evaluated.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第 9 版』（エイデル研究所、2017）など。その他、授業中に指示する。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :****8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラウドルーム対応)

**① クラスコード**

myry2ix

**② 第 1 回授業の開始時期**

10 月 7 日(木) 3 限 (13:00～) 実施。

**③ 授業の実施方法**

初回は ZOOM を活用する予定。URL 等は授業開始時期に Classroom に掲示する。

本授業の一環として、宮城県社会教育職員等研修（オンライン）などへの参加を位置づけている。その参加ルールを本授業も適用し、本授業への受講においては、ビデオを ON にした状態で臨んで頂くこととする。

**④ 関連資料の入手方法**

Classroom で紹介する。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 10:51:26

**科目名/Subject : 教育政策科学基礎論**

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 青木 栄一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

教育制度を支える教育行政

Politics of Education and Education System

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育行政、学校、教職員に関する法制度・歴史・実態を講義する。

This course introduces the institution, history, and implementation of educational administration and schools, and teachers and staff.

それらに関する主要な論点を議論する。

The main issues will be discussed in this course.

さらに教育行政を理解するために必要な視点の一つである社会科学的な「もののみかた」の基礎を養うことも本授業の目的である。

Students are expected to learn how to communicate and think critically.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

教育行政組織、学校、教職員に関する法制度の基本的事項を理解する。

This course is designed to help students understand the institution, history, and implementation of educational administration and schools, and teachers and staff.

教育行政組織、学校、教職員に関する論点について社会科学的に考察する力を身につける。

This course is designed to help students understand the main issues of the institution, history, and implementation of educational administration and schools, and teachers and staff and discuss academically.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

【オンデマンド型オンライン授業】

Google Classroom クラスコード : 5zoh6dv

第1回授業開始時期 : 2021 年 10 月 5 日 (火) 4 限 : 14:40~

授業の実施方法 : 全ての回でオンデマンド方式 (動画配信方式)。予習で関連資料・文献を読みリアクションペーパーを提出し、授業で動画を視聴し毎回フィードバックを送信し、復習でさらに関連資料・文献を読む。

関連資料の配布方法 : 全て Google Classroom で配布する。当該回の資料は前日 23:59 までにアップロードする。授業は音声解説動画 (mp4) およびスライド資料 (pdf) を中心とする。

オンライン授業への対応が困難な学生への対応 : 個別に担当教員に相談

内容及び進捗は以下の通りであるが、内容を変更する場合もある。

The contents and schedule are as shown below but subject to change.

講義とリアクションペーパーを用いた質疑応答を中心とした授業とする。

This course is centered on a lecture and questions and answers using the reaction paper.

毎回、授業のテーマについてディスカッションを行う。

In every class, students discuss the issues of politics and education.

1. イントロダクションー教育政策、教育制度、教育行政

2. 教員行政

3. 就学前教育と幼稚園

4. 初等中等教育と学校

5. 高等教育・私立学校行政と学校

6. 特別支援教育と学校・学校外教育

7. 教育課程行政

8. 教育委員会と学校/学校と外部環境

9. 学校施設・学校統廃合

10. 学校安全

11. 地方教育政治/地方教育行政

12. 教育財政

13. 教育行政の政府間関係

14. 中央政府/教育制度の法体系と原理

15. まとめ

1. Introduction: Policy, Institution, Administration
2. Teachers
3. PreK and Kindergarten
4. Elementary and Secondary School
5. Higher Education and Private School
6. Special Needs Education and Nonformal Education
7. Curriculum
8. School Board-School Relations/School-Community Relations
9. School Buildings and School Consolidation
10. Safety Guideline
11. Local Politics of Education
12. Financial Issues
13. Intergovernmental Relations
14. Central Government/ Political Philosophy of Education

#### 5. 成績評価方法/Evaluation method :

教科書は各自購入すること。

Textbooks are available for purchase at Amazon.

成績評価：期末レポート（100%）。

Term paper (100%).

【レポート】 期末レポート（6000 字以上。詳細は授業で説明）で成績評価を行う。期末レポート提出前に内容等を記入した「届」を 11 月 22 日（月）23:59（日本時間）までに提出する。期末レポートの締め切りは 1 月 31 日（月）23:59 である。

【合格の目安】 授業中に説明する。

【出席状況・リアクションペーパー】 期末レポートの提出資格をこれらで判断する。リアクションペーパー合計回数の 6 割（小数第一位を四捨五入。12 回分で  $12 \times 0.6 = 7.2$ 、7 回の提出が必要）の回数の期限内の提出が必要である。

【授業資料】 授業に用いる資料は Google Classroom 上に掲載する。これには講義を収録した動画データへのリンクも含む。これらを許可無くこの授業以外に用いてはならない。これらの本人以外の第三者への転送等は厳に禁じる。他者との共有目的のための授業資料のスクリーンショット、録画、録音も禁じる。

【授業】 担当教員の指示を遵守する。授業に関して SNS への不適切な投稿等が発覚した場合、レポートの採点対象外とする。この授業については、他大学のものであるが「中央大学 ソーシャル・メディア・ガイドライン (学生用)」<[https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/communication/social\\_media/st\\_guideline/](https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/communication/social_media/st_guideline/)>も本学のガイドラインに抵触しない限り適用する。

【レポート】 剽窃等の非違行為については学則等に即した対応を行う。

#### 6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：青木栄一編（2019）『教育制度を支える教育行政』ミネルヴァ書房。

Textbook: Aoki, E. ed. (2019). Politics of Education and Education System. Minerva Shobo.

教科書：解説教育六法編修委員会（2021 年）『解説教育六法 2021』（令和 3 年版）三省堂。

Textbook: Kaisetsushouroppouhenshuinkai. (2020). Kaisetsushouroppou. Sanseido.

#### 7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

指定したテキスト等の授業当日の該当箇所を読み予習してくること。これは全受講生にとって極めて重要なことである。

Every student is required to prepare for the assigned part of the designated textbook, papers, and books for each class.

リアクションペーパーを投稿すること。締め切りは授業の前日月曜日の 23:59 である。

Every student is required to write papers reacting to the week's reading along with questions and post them on ISTU no later than 9 a.m. on Monday before class.

復習を必ず行うようにすること。

Students are required to review for each class.

本授業を深く理解したい場合には、大学設置基準（第 21 条）の規定に基づいた自己学習（予習復習等）を行うことを強く推奨する（1 回あたり 4 時間程度が標準）。

Students are required to study at home for about four hours per class according to government guidelines.

#### 8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business



**9. その他/In addition :**

【オンデマンド型オンライン授業】

Google Classroom クラスコード : 5zoh6dv

授業中の各種 SNS への投稿行為等の不適切行為が判明次第、受講資格を喪失する。

Every student is strongly expected not to post to SNS inappropriately.

「教育行政学講義Ⅱ」と合わせての受講を推奨する。

Every student is expected to take the class Educational Administration Ⅱ.

担当教員ホームページ : <http://researchmap.jp/read0124718/>

See the website of the lecturer: <http://researchmap.jp/read0124718/>.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/25 13:01:32

**科目名/Subject : グローバル共生教育論基礎論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 松本 大**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

成人教育・生涯学習の新しい現代的実践

The New, Modern Practice of Adult Education and Lifelong Learning

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

(1) 学校やフォーマル教育とは異なる学習の意味は何か。そもそも人間の学習とは何かを成人教育や生涯学習の観点から考える。

(2) 具体的な社会問題と関連づけて成人教育・生涯学習の意義を考察する。子育て、居場所、地域づくり、高齢者などと「学習」との関係性を取り上げる予定である。

(1) This course offers an opportunity to think about what learning means differently from school or formal education. Students learn about what human learning is from the perspective of adult education and lifelong learning.

(2) Students explore the significance of adult education and lifelong learning in relation to social issues. This course will discuss the relationship between "learning" and child-rearing, "Ibasho", community development, and older adults.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

(1) 成人教育、生涯学習、ノンフォーマル教育、インフォーマル学習に関する理念や意味を理解できる。

(2) 成人教育や生涯学習における学習支援の理論を理解できる。

(3) 社会問題との関わりから成人教育・生涯学習の可能性を考察できる。

(1) The purpose of this course is to help students better understand the concepts and significance of adult education, lifelong learning, non-formal education, informal learning.

(2) Students learn about learning theory in adult education and lifelong learning.

(3) The aim of this course is to help students explore the possibilities of adult education and lifelong learning in relation to social issues.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. 成人教育・生涯学習と現代社会／Adult learning and lifelong learning in today's world
2. 成人教育・生涯学習政策に関する国際的な視点／Global perspectives on adult education and lifelong learning policy
3. 成人教育・生涯学習における学習理論 (1) : 社会教育研究の観点／Learning theory in adult education and lifelong learning(1): the viewpoint of social education research in Japan
4. 成人教育・生涯学習における学習理論 (2) : 成人教育研究の観点／Learning theory in adult education and lifelong learning(2): the viewpoint of adult education research
5. 成人教育・生涯学習における学習理論 (3) : 構成主義的学習論の観点／Learning theory in adult education and lifelong learning(3): the viewpoint of constructivism
6. 生涯学習支援の理論 (4) : ナラティブの観点／Learning theory in adult education and lifelong learning(4): the viewpoint of the narrative approach
7. 学習権保障を目指した成人教育実践／Adult education practices for the assurance of the rights to learn
8. 子育て支援における成人教育実践／Adult education practices in child-rearing support
9. 「共同学習」としての成人学習／"Kyodo-Gakushu" in social education in Japan as adult learning
10. 子どもを対象とした社会教育/子ども自身の社会教育／Social education for children and social education by children themselves
11. 「居場所」と成人教育実践／"Ibasho" and adult education practices
12. 地域学校協働活動と成人教育実践／Adult education practices through collaboration between schools and local communities
13. 地域づくりと成人教育実践／Community vitalization and adult education practices
14. 高齢者、高齢化と生涯学習／Older people, aging society and lifelong learning
15. まとめ／review

## ○授業実施方法について

## 【BCP レベル1 の場合】

リアルタイム・対面併用方式 (ハイブリッド方式)

・Google Classroom のクラスコード : ihahv5a

・第1回授業 : 開始時期 : 4月16日 (金) 4限 : 14 : 40 ~

・授業の実施方法 : 初回と2回目は、Meet を用いた双方向授業、3回目以降は、教室での対面方式とリアルタイム配信の同時

併用によるハイブリッド方式。3回目以降の対面式の教室での受講については、収容人数の上限があるため、前後の授業スケジュールやオンライン授業への対応が困難な状況について、学生から聞き取りを行いながら決定する。恒常的にオンライン授業への対応が困難な学生あるいは、対面授業への対応が困難な学生に対しては、事前に要相談とするので、dai.matsumoto.c5@tohoku.ac.jpへ連絡のこと。

【BCP レベル 2 の場合】

リアルタイム方式（ウェブ会議方式）

- ・ Google Classroom のクラスコード：ihahv5a
- ・ 第1回授業の開始時期：4月16日（金）4限：14:40～
- ・ 授業の実施方法：Meet を用いた双方向授業。
- ・ 関連資料の入手方法：授業用の資料は Classroom で紹介
- ・ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策：個別に相談  
(dai.matsumoto.c5@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

5. 成績評価方法/Evaluation method:

毎回の課題提出（40%）、期末レポート（60%）による評価を行う。

Students are evaluated on their submitted assignment(40%) and the final report(60%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references:

教科書は使用しない。毎回の授業で資料を配付する。

No textbooks will be used. References are handed out at every class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review:

新聞や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。

Students are required to collect information and topics related to the content of the class using newspapers and books.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition:

10. 更新日付/Last Update:

2021/03/11 19:17:56

**科目名/Subject : 教育情報アセスメント基礎論****曜日・講時/Day/Period :** 後期 火曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 有本 昌弘**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育アセスメント：その概念、枠組み、研究方法

Educational assessment: its concepts, framework, and research methods

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

○リアルタイム・対面混合方式

・Google Classroom のクラスコード : qsbpxbk

教育アセスメントという学問は、近年成長が著しく、教育心理学、特別支援教育、教育工学が、応用科学である教育学と、交差する融合領域である。その動向、背景についてレビューするとともに、学びの幅を狭めることなく、アセスメントの基礎を固める手法と、成果やプロセス、文脈に応じた国内での応用を図る。

The discipline of educational assessment has been growing rapidly in recent years, and is an interdisciplinary field where the fields of educational psychology, inclusive education, and educational technology intersect with the applied science of pedagogy. This lecture will review the trends and background of the field, and without narrowing the scope of study, will provide a method to solidify the foundation of assessment and its application in Japan according to the products, processes and context.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

学習者が、激変する今日の複雑な世界において、成長するしなやかなマインドセットをもって、チームをもとに対話できる知識とスキル、人間性や価値観、振り返りとフィードバックによるメタラーニングを実感する枠組みを見出す。文献サーチ能力や研究方法論、論文執筆能力を身につける。

Find a framework for learners to realize the knowledge and skills to interact with teams, humanity and values, and meta-learning through reflection and feedback, with a flexible mindset to grow in today's rapidly changing and complex world. Develop literature search skills, research methodologies and thesis writing skills.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

・第一回授業：開始時期：10月12日（火）4限：14：40～

・授業の実施方法：Meet を用いた双方向授業（1回～2回）。Meet 等での会議の実施方法について Classroom で紹介

・その後対面方式（3～15回）（306教室（時間割や上記201教室からの変更）、その後の教室は別途指示）

ただし、海外留学生の参加、季節的にインフルエンザ等他の感染症の増加も予想され、コロナ感染症のリスクがある場合には、オンラインに切り替える。

・関連資料の入手方法：授業用の資料は Classroom や教室で紹介

・オンライン授業への対応が困難な学生への対応策：個別に相談

・対面授業への対応が困難な学生への対応策：個別に相談

(m.a@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

第1回 講義のアウトライン、これまでの学生のワークによるクライテリアの共有

第2回 鍵概念

第3回 "

第4回 ミニパフォーマンス課題による文脈・プロセスの共有（初回）

第5回 枠組み

第6回 "

第7回 パフォーマンス課題の共有と振り返り（中間）

第8回 研究方法論

第9回 " 自然現象、社会現象※とシステム思考からの「つながり」

第10回 " 教育課程における教科・領域、課程外の「つながり」

第11回 " 個人の人格統合に向けた発達成長の「つながり」と改善

第12回 " 生徒と教職員など人との関係の「つながり」と絆、関係

第13回 " 「型」と社会的文脈の中の個人の「つながり」と気付き

第14回 " 日本の文化の諸刃の剣と、国際教育協力への活用

第15回 パフォーマンス課題の振り返り（最終回）

First class: Start time: Tuesday, October 12, 4th period: 14:40- •Method of class: Interactive class using Meet (once or twice)

Method of class: Interactive class using Meet (once or twice); introduction in Classroom on how to conduct meetings using Meet, etc.

After that, face-to-face classes (3-15 times) (Classroom 306 (timetable and changes from Classroom 201 above); subsequent classrooms to be announced separately)

However, if there is a risk of coronary infections due to the participation of overseas students or the seasonal increase of other infectious diseases such as influenza, we will switch to online.

However, if there is a risk of coronary infection, we will switch to online.

How to deal with students who have difficulty in dealing with online classes: Individual consultation

How to handle students who have difficulty in face-to-face classes: Individual consultation

(Please contact m.a@tohoku.ac.jp.)

1. Outline of the lecture, sharing of criteria based on work done by students so far.
2. Key concepts
3. The key concepts
4. Sharing context and process through mini performance tasks (first time)
5. Framework
6. Framework
7. Sharing and reflecting on performance tasks (mid-term)
8. Research Methodology
9. "Connections" between natural and social phenomena\* and systems thinking
10. "Connections" between subjects/areas in the curriculum and outside the curriculum
11. "Connections" and improvement in the period of achievement towards humanistic integration
12. "Connections", bonds and relationships between students and staff and other human beings
13. Personal 'connections' and awareness within the 'pattern' and social context
14. The double-edged sword of Japanese culture and its use in international educational cooperation
15. Reflection on performance tasks (final)

#### 5. 成績評価方法/Evaluation method:

無断欠席は2回までとする。パフォーマンス課題を複数回に分けたミニタスクによるレポート提出 (40%)、ルーブリック (採点指標) によるセルフ・ピアアセスメント (40%)、ポートフォリオの選択 (20%)とするが、これについては、意味のあるクライテリア (尺度や物差し) を受講生と探し、共有することに努める。

No more than two trespasses will be allowed. Performance tasks will consist of multiple mini-tasks (40%), self- and peer-assessment using rubrics (40%), and portfolio selection (20%), with an effort to find and share meaningful criteria (scales and measures) with students. We will try to find and share meaningful criteria with the students.

#### 6. 教科書および参考書/Textbook and references:

OECD (2005) 『形成的アセスメントと学力ー人格形成を目指して』(有本監訳 2008) 明石書店

OECD (2005), Formative Assessment and Academic Achievement: Aiming for Character formation, translated by Arimoto, 2008.

Clark, I. (2012). Formative assessment: Assessment is for self-regulated learning. Educational Psychology Review, 24(2), 205-249.

#### 7. 授業時間外学習/Preparation and Review:

講義する側からは、文献からビデオを含めアセスメントタスクをいくつか用意する。これを時間外学習で取り組みその成果を講義の中でもちよる。そのために、講義する側は、教育アセスメント用のアプリにて、クイズやオープンエンド型の設問によりフィードバックを行うので、受講する側は、BYOD により、指定された文献 (書籍と論文) のみにとどまらず、英語関連文献により掘り下げる。

The lecturer will prepare several assessment tasks, including videos from literature. Students will work on these tasks in their extra time and bring the results to the lecture. For this purpose, the lecturer will provide feedback through quizzes and open-ended questions in the application for educational assessment, and the students will use BYOD to explore not only the specified literature (books and articles) but also English-related literature.

#### 8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

○ JICA ベトナム派遣教育専門家、アフリカ・中南米 (南アフリカ、ガーナ; ボリビア、ペルー) 派遣教員向け講義

Lecture for education experts dispatched to Vietnam by JICA and teachers dispatched from Africa and Latin America (South Africa, Ghana; Bolivia, Peru)

#### 9. その他/In addition:

受講者の顔ぶれを見て、学部教育アセスメント論講義とは、初回と最終回のみ合流する。学部生は、SDGs17 の目標と合わせクイズやゲームなどを実際に創り出す課題に重きを置いたため、大学院の授業とは一旦切り離す。

対面で行う場合でも、個人保有の携帯用機器を教室に持ち込み、それを授業に使用する BYOD (Bring your own device、ビーワイオーディ)で行う。

Based on the number of students, we will join the undergraduate educational assessment lecture only for the first and last sessions. The undergraduate students will be separated from the graduate class in order to focus on the task of actually creating quizzes and games in line with the 17 SDG goals.

Even in face-to-face sessions, students will bring their own portable devices into the classroom and use them for class BYOD (Bring your own device).

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/06 15:25:47

**科目名/Subject : 教育心理学基礎論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 工藤 与志文**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

学習心理学と教授ストラテジー

Psychology of Learning and Teaching Strategy

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

ストラテジー(strategy)とは目的遂行のための長期的な総合戦術のことである。教育においても、個別の教授活動をどうするかという問題を越えた、長期的かつ総合的な教授ストラテジー(teaching strategy)が必要となる。この講義では、教授ストラテジーとその理論的ベースを提供する学習心理学理論について概説する。

This course deals with theories of psychology of learning and its relation to teaching strategies.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ①学習心理学の基本概念を知る。
- ②学習心理学理論と教授ストラテジーの関連について理解を深める。

The goals of this course are to

- (1) Obtain basic knowledge about psychology of learning.
- (2) Understand the relationship between theories of learning and teaching strategies.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. ガイダンス
2. 教授ストラテジーはなぜ必要か
3. 行動主義的学習理論
4. 行動主義的学習理論と教授ストラテジー
5. 積み重ね型ストラテジーの特徴(1)
6. 積み重ね型ストラテジーの特徴(2)
7. 認知主義的学習理論
8. 認知主義的学習理論と教授ストラテジー
9. 組みかえ型ストラテジーの特徴－対決型ストラテジー(1)
10. 組みかえ型ストラテジーの特徴－対決型ストラテジー(2)
11. 組みかえ型ストラテジーの特徴－懐柔型ストラテジー(1)
12. 組みかえ型ストラテジーの特徴－懐柔型ストラテジー(2)
13. 状況主義的学習理論
14. 状況主義的学習理論と教授ストラテジー
15. まとめ

1. Introduction
2. Why teaching strategy is needed.
3. Behaviorist view of learning theory
4. Behaviorism and teaching strategy
- 5～6. Cumulative-type strategy
7. Cognitivist view of learning theory
8. Cognitivism and teaching strategy
- 9～10. Teaching strategy for conceptual change; Confrontation-type strategy
- 11～12. Teaching strategy for conceptual change; Conciliation-type strategy
13. Situationist view of learning theory and teaching strategy
14. Situationism and teaching strategy
15. Review

・Google Classroom のクラスコード : 6zcs2c

・第1回授業の開始時期 : 4月16日(金) 2限 : 10 : 30～

・授業の実施方法 : BCP レベル1および2ともに資料配付方式とし、Classroomに講義資料と課題をアップする。

・関連資料の入手方法 : 授業用の資料はClassroomで紹介。

・オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

・対面授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

(kudou@sed. tohoku. ac. jp へ連絡のこと)

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

各講義後のレポート課題20%、期末テスト80%である。

Short Reports 20%, Final Exam 80%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

授業内で指示する。

Will be introduced in the class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

前回の講義内容を復習するとともに、与えられたレポート課題に取り組む。

The students are expected to 1)review the last lecture; 2) work on the given subject for the next lecture.

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

連絡先 : kudou@sed. tohoku. ac. jp

(Google クラスルーム対応)

クラスコード 6zcsm2c

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/24 15:50:52



**科目名/Subject : 臨床心理学基礎論****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 若島 孔文**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

臨床心理学概論 / Clinical Psychology

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

臨床心理学における代表的諸理論（精神分析、来談者中心療法、認知・行動療法、家族療法など）について改札する。また、それら代表的諸理論の日本への導入における東北大学の役割と貢献について補足する。 / In this subject, we will explain the major theories of clinical psychology (psychoanalysis, client-centered therapy, cognitive behavioral therapy, family therapy, etc.). In addition, we supplement the Tohoku University's role and contribution in introducing these major theories into Japan.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ①臨床心理学が人間を理解し、援助することを志向した実践の学問であることを知り、人間のこころの固有性と可変性に対する柔軟な視点について理解を深めること。
- ②東北大学の歴史の一端を知り、臨床心理学の大きな流れに向けて興味が喚起されること。

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 1. ～ 2. 生物・心理・社会モデルと心理療法の効果的要因について
- 3. ～ 5. 精神分析・分析心理学
- 6. 来談者中心療法
- 7. ～ 8. 認知・行動療法
- 9. ～ 10. システム理論とコミュニケーション理論
- 11. 家族療法のモデル
- 12. 解決志向短期療法
- 13. ナラティブセラピー
- 14. ～ 15. 事例の検討 /

- 1. ～ 2. Introduction to clinical psychology
- 3. ～ 5. Psychoanalysis
- 6. Client-centered therapy
- 7. ～ 8. Cognitive behavioral therapy
- 9. ～ 10. System theory and Communication theory
- 11. Family therapy
- 12. Solution focused brief therapy
- 13. Narrative therapy
- 14. ～ 15. Case study

○リアルタイム方式（オンラインにより実施する）

- ・Google Classroom クラス コード ukv32rs
- ・第1回開始時期： 10月4日（火）5限：16:20～
- ・授業の実施方法： Meet を用いた双方向授業、あるいは対面
- ・関連資料の入手方法： Classroom で紹介
- ・オンライン対応が困難な学生への対応策： 事前に相談  
(kobun.wakashima.d3@tohoku.ac.jp へ連絡)

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

期間中、活動と複数のレポートによる。 / Evaluate by submitting activities and reports

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

野島一彦・岡村達也 2018 第3巻『臨床心理学概論』（遠見書房）

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

予習・復習については、授業の際、資料を配布する。

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :****10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/15 12:55:07



科目名/Subject : Practical English for Education

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 5 講時

担当教員/Instructor : ナール マシユ

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

Practical English for Educational Sciences

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

In this course, we will look at skills required for speaking in public as well as participating in discussions.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

At the end of the course, you will be able to confidently lead and participate in lectures, poster sessions, and workshops.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1 回目 Course introduction. What makes a good public speaker? (オンライン)

2 回目 Parts of a presentation. Presentation flow. Citations, References. Using pictures. (オンライン)

3 回目 The Introduction and Conclusion. Using notecards and eye contact. Explanation of Presentation 1. (オンライン)

4 回目 Presentation 1 (3 minutes) (オンライン)

5 回目 The Body 1 - Research Questions, Describing the Study (methodology, participants, etc.), Figures & Tables (オンライン)

6 回目 The Body 2 - Discussion the results of your study, Importance of three main points (with the strongest point last), Why did you find these results?, What is interesting for the listener?, What implications are there from the results of this study? (オンライン)

7 回目 Presentation 2 (8 minutes) (オンライン)

8 回目 The Conclusion 1 - What is the purpose of the conclusion, What are limitations?, What are future directions? (オンライン)

9 回目 The Conclusion 2 - Telling a story to finish, One big story (referring back to the introduction), Finishing (オンライン) strong.

10 回目 Presentation 3 (3 minutes) (オンライン)

11 回目 Performing under pressure, Making a good impression, When you are not prepared. (オンライン)

12 回目 Presentation 4 (8 minutes) (オンライン)

13 回目 Who is listening?, Changing the language and style of your presentation to match your audience, Bilingual presentations, Design of slides, Using humor (オンライン)

14 回目 Final presentations (対面)

15 回目 Final presentations (対面)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

Presentations 1-4 30%

Classwork 20%

Final Presentation 40%

Participation 10%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

なし

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事前に配布する資料を勉強しておくこと。Handouts and information regarding the next week's lesson will be distributed in class. Make sure you read the material beforehand.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

講師連絡先 : matthewgarynall@gmail.com

9. その他/In addition :

You must attend class each week. If you are going to be late or absent, contact the lecturer beforehand. A maximum of three absences will be allowed. If you are absent four or more times, you will not be able to pass the course.

この科目は BCP レベルにより以下のとおり実施します。

BCP レベル 1 の場合は、第 1 回の講義から第 13 回までの授業全てをオンラインで行います。第 14 回と第 15 回は期末試験を行うため、講義室で (対面) 授業を行います。

BCP レベル 2 になった場合、全てのクラスをオンラインで行います。

リアルタイム方式の授業について : (1) Google Classroom クラスコード tadxrpa. Google Classroom の Stream に第

1 回の授業 ZOOM リンク表示してあります。それをクリックして、授業に参加できます。（2）第 1 回の授業開始時間：4 月 12 日（月）16:20 からです。ZOOM 入室できない場合には—matthewgarynall@gmail.com—に連絡ください（授業中でもいいです！）。（3）授業の実施方法：Classroom に資料などをアップ。（4）対面授業への対応な学生に対応策：個別相談 (matthewgarynall@gmail.com)

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/08 19:52:42

**科目名/Subject : 人間形成学概論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 八鍬 友広**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

人間形成の歴史

History of human formation

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

人間が成長して社会に参画していく過程は、個体としての人間形成と、社会的な存在としての人間形成とが同時に展開する全体的な過程にほかならない。現代においては、以上のような人間形成の過程に、近代学校による教育の過程が組み合わされて構造化されている。本講義では、日本の歴史に即して、このような教育と人間形成の在り方について考察し、現代教育の歴史的成り立ちについての理解を育成する。

The purpose of this lecture is to consider the relationship between modern school education and human formation according to the history of Japan.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

・日本における教育と人間形成の歴史的な展開過程について、の概略を把握し、マクロな視点から考察する態度を持つことができる。

The students can grasp the outline of the historical development process of education and human formation in Japan and have an attitude to consider from a macro viewpoint.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

授業実施方法等について

・東北大学 BCP レベル 1, レベル 2 いずれの場合も、オンライン（リアルタイム方式）により授業をおこなう。ただし、受講生数や回によっては、対面とする場合もある。

・グーグルクラスルームのクラスコード : xmoaw4k

・第 1 回授業の開始時期 : 2021 年 4 月 15 日 (木) 2 限 : 10 : 30 ~

・授業の実施方法 : Google Meet を用いた双方向授業。

Meet のリンク : クラスルームのバナー下にある「Meet のリンク」右 URL をクリックのこと。

・関連資料の入手方法

クラスルームに資料を置いておくので、各自ダウンロードのこと。

・オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談する。

・対面授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談する。

・連絡先 : 下記メールアドレスへメールのこと。

tomohiro.yakuwa.b8@tohoku.ac.jp

第 1 回 マクロな視点から教育・人間形成を考えるということ

第 2 回 前近代日本における家・地域社会と子ども

第 3 回 前近代日本における子どもの生育と教育

第 4 回 前近代日本における子どもの教育の展開

第 5 回 近代学校制度に関する理論

第 6 回 近代学校制度と人間形成の変容

第 7 回 日本における近代学校制度の導入と人間形成

第 8 回 日本における近代学校制度の展開と人間形成

第 9 回 近代国家における規律訓練化と人間形成

第 10 回 学校化する社会

第 11 回 新自由主義の下における教育と人間形成

第 12 回 後期近代社会における教育と人間形成

第 13 回 教育と人間形成に関する事例検討

第 14 回 教育の人間形成に関する事例検討

第 15 回 最終レポート提出

Thinking about education and human formation from a macro perspective

Home and community in pre-modern Japan and children

Child's growth ritual in pre-modern Japan

Development of education for children in pre-modern Japan

Theory on Modern School System

Modern school system and transformation of human formation

Introduction of Modern School System in Japan and Human Formation  
Development of modern school system in Japan and human formation  
Discipline training and human formation in modern states  
School society  
Education and human formation under neo-liberalism  
Education and human formation in the late modern society  
Case study on education and human formation  
Case study on education and human formation  
Submitting a final report

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

レポート課題 (50%)、カンファレンス発表 (50%)

Report:50%

Presentation on conference:50%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書は指定しない。

参考書については、授業時間中に適宜指示する。

No text book

Reference books will be introduced in the lecture

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

レポートの作成およびカンファレンスの発表のための学習を要する。

Students need to prepare for report and presentation on conference

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

グーグルクラスルーム

クラス コード : xmoaw4k

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/01 16:33:12

**科目名/Subject : スポーツ文化論概論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 甲斐 健人**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

スポーツ社会学研究法

Methods on sociology of sport

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

毎回取り上げるスポーツ社会学領域の文献について、そこで用いられている方法を確認する目的で講義する。

This advanced lectures will be given on the literature in the field of sports sociology, which will be taken up each time, for the purpose of confirming the methods used there.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

スポーツ社会学の文献で用いられている方法について理解する。

Understand the methods used in the sociology of sports literature.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回: ガイダンス

第2回: 機能主義

第3回: コンフリクト理論

第4回: 批判理論

第5回: 相互作用論

第6回: エリアス&amp;ダニング『スポーツと文明化』

第7回: グットマン『スポーツと帝国』

第8回: ハーグリーブス『スポーツ・権力・文化』

第9回: ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』

第10回: ブルデュー「スポーツ社会学の計画表」

第11回: リーヴァー『サッカー狂の社会学』

第12回: 多木浩二『スポーツを考える』

第13回: 井上俊『武道の誕生』

第14回: 亀山佳明『生成する身体社会学』

第15回: スポーツ社会学における生活論

1. Guidance

2. functionalism

3. Conflict theory

4. Critical theory

5. Interaction theory

6. Elias &amp; Dunning "Sports and Civilization"

7. Goodman "Sports and Empire"

8. Hargreaves "sports, power, culture"

9. Huizinga "Homo Ludens"

10. Bourdieu "Plan of sports sociology"

11. Lever "Sociology of Soccer Madness"

12. Koji Taki "thinking about sports"

13. Shun Inoue "Birth of martial arts"

14. Yoshiaki Kameyama "Sociology of the body to be generated"

15. "Seikatsuron" in Japanese sociology of sport

【BCP レベル1 の場合】(予定)

対面方式 (初回のみリアルタイム方式を想定)

Google Classroom のクラスコード: 5numn3n

第1回授業開始時期: 4月12日(月)3限 13:40~

授業の実施方法: 初回のみグーグルミートで実施。2回目からは対面予定(受講者数等により検討する)。

関連資料の入手方法: 相談

オンライン授業への対応が困難な学生への対応策: 個別に相談

対面授業への対応が困難な学生への対応策: 個別に相談

【BCP レベル2 以上の場合】(予定)

リアルタイム方式

Google Classroom のクラスコード : 5numn3n

第1回授業開始時期 : 4月12日(月)3限 13:00~

授業の実施方法 : グーグルミートによる双方向授業。

関連資料の入手方法 : 授業の資料はクラスルームを通じて配布

オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

対面授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

レポート (40%)、小レポート (60%)

Final report 40%

Short Report 60%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

コークリー&ドネリー (前田他共編訳 2011)『現代スポーツの社会学』南窓社

各回で取り扱う文献以外は適宜指示する

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

適宜指示する

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

連絡先 : taketo.kai.a2@tohoku.ac.jp

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 22:05:59



**科目名/Subject : 教育政策科学概論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 水曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 井本 佳宏 / 青木 栄一 / 島 一則 / 福田 亘孝 / 後藤 武俊**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育政策科学研究の基礎 / Basic Research Methods in Education Policy

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

この授業は、教育政策科学を構成する教育社会学、教育行政学、比較教育学の学問分野において、共通かつ必須の研究法の基礎をトレーニングするための演習科目である。研究全体の計画から、研究の方法論、量的な研究計画、質的な研究計画に至るまでの基礎事項を学ぶ。また、同時に、研究のための英語力を培うことも、この授業のねらいである。／

This course deals with the basics of research methods in education policy composed of educational sociology, educational administration study, and comparative education study. In this course, the basics from total planning of research to the methodology of research, designing quantitative research, and designing qualitative research are introduced. And it is also an aim of this course to improve the ability of English for research.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

学術水準の高い論文を執筆するための基礎的能力を身につける。／

The goal of this course is to be able to write high quality academic papers.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

1 回 : 授業概要の説明、2～5 回 : 研究計画・方法論、6～10 回 : 量的データとその取り扱い、11～15 回 : 質的データとその取り扱い／

1. Orientation, 2-5. Research Designs and Methodology, 6-10. Analysis of Quantitative Data, 11-15. Analysis of Qualitative Data

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への貢献度による 5 名の担当教員の評価を総合化する。／

Grading will be decided based on class attendance and attitude in class. Five teachers evaluate separately and, finally, marks are averaged.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

Punch, K. F. and Oancea, A., Introduction to Research Methods in Education (2nd edition), Sage, 2014.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

毎回指示する英文文献について予習と学習内容の整理を行うこと。／

The participants need to read before each lesson the literature written in English, and need to reflect on the contents after each lesson.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

・教育政策科学コースに属する博士課程前期 1 年生は、必ず履修すること。それ以外の学生についても、教育政策科学の研究方法を身に付けたい学生には、本授業の履修を勧める。

・授業に関する諸連絡、資料の配付、課題等の提示や提出には Google Classroom を利用します。クラスコードは 3amgfgx です。第 1 回授業の前に各自で生徒登録してください。／

- 1st-year students in master's course belonging to Education Policy and Social Analysis Program must take this course. It is recommended also for other students who want to learn the research methods in education policy to take this course.

- We will use google classroom to manage the course. The class code is "3amgfgx". Please register yourself before the first lesson.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/25 16:05:48

**科目名/Subject : 成人教育概論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 松本 大**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

成人教育と社会的な不平等

Adult education and social inequality

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

コロナ禍において社会的な不平等が強化されたと指摘されている。この授業では、社会的な不平等に焦点をあてて成人教育の課題を考察することを目的とする。前半は、現代社会における成人教育と社会的な不平等の関係性に関する文献講読を行う。後半は、社会的な不平等と成人教育に関連した論文を各自が紹介し、それについて議論を行う。

As pointed out by many scholars in the field of adult education, COVID-19 has rendered social inequalities. The purpose of this course is to explore the challenges of adult education focusing on social inequalities. In the first half, students learn about the relationship between adult education and social inequality through reading literature. In the second half of the session, students introduce and discuss literature on social inequality and adult education.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

(1) 成人教育と社会的な不平等との関係性に関する国際的な議論を理解できる。

(2) 成人教育と社会的な不平等という観点から、自らの研究課題に関する考察を深めることができる。

(1) The purpose of this course is to help students better understand the international discussions on the relationship between adult education and social inequality.

(2) Students explore their research issues from the perspectives of adult education and social inequality.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. オリエンテーション/Orientation

2~8. 文献講読/Reading literature

9~15. 受講生による文献発表と議論/Presentation and discussion of literatures

## ○授業実施方法について

## 【BCP レベル 1 の場合】

リアルタイム・対面併用方式（ハイブリッド方式）

・Google Classroom のクラスコード : pktx27f

・第 1 回授業 : 開始時期 : 4 月 16 日（金）5 限 : 16 : 20 ~

・授業の実施方法 : 初回と 2 回目は、Meet を用いた双方向授業、3 回目以降は、教室での対面方式とリアルタイム配信の同時併用によるハイブリッド方式。3 回目以降の対面式の教室での受講については、収容人数の上限があるため、前後の授業スケジュールやオンライン授業への対応が困難な状況について、学生から聞き取りを行いながら決定する。恒常的にオンライン授業への対応が困難な学生あるいは、対面授業への対応が困難な学生に対しては、事前に要相談とするので、dai.matsumoto.c5@tohoku.ac.jp へ連絡のこと。

## 【BCP レベル 2 の場合】

リアルタイム方式（ウェブ会議方式）

・Google Classroom のクラスコード : pktx27f

・第 1 回授業の開始時期 : 4 月 16 日（金）5 限 : 16 : 20 ~

・授業の実施方法 : Meet を用いた双方向授業。

・関連資料の入手方法 : 授業用の資料は Classroom で紹介

・オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

(dai.matsumoto.c5@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表・授業への取り組み (80%)、期末レポート (20%) による評価を行う。

Students are evaluated on their presentations and class participation (80%) and the final report (20%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

文献は受講生と相談の上、決定する。

The literature will be decided after consulting with the students.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

文献を十分に予習してくること。

Students are required to prepare for the assigned part of the literature for each class.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/11 19:17:56

**科目名/Subject : 多文化教育論概論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 渡部 由紀 / 末松 和子**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

グローバル化と高等教育の国際化

Globalization and Internationalization in Higher Education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

グローバル化及び知識基盤社会の進展とともに、国内外で指導的人材として活躍する、いわゆる高度専門グローバル人材育成を目指した高等教育改革が世界規模で進みつつある。例えば、世界銀行やアジア開発銀行などの国際開発金融機関は、その投資を初・中等教育から高等教育に移行し、欧州委員会などの地域連合政策執行機関は、地域的な高等教育圏を構築し、欧州域内の高等教育の質と競争力の向上を目指している。

本授業では、グローバル化の高等教育への影響を分析し、グローバル化に対応するために、大学や高等教育機関が促進する国際化の課題及び高等教育の国際化に関する主要概念の理解を深めると同時に、国や地域レベルの高等教育政策や、大学の高等教育機関における具体的な国際化の戦略や施策等について考察し、議論する。

Due to the advancement of globalization and a knowledge-based society, higher education reforms have been taking place worldwide, aiming at nurturing global talents (or global human resources equipped with advanced knowledge, skills, and expertise). For instance, the World Bank and the Asian Development Bank began shifting their investment in higher education rather than in elementary and secondary education. The European Commission, a regional organization, aims to develop a European Area of Higher Education and enhance the quality and competitiveness of European universities.

This course aims to deepen an understanding of the issues and challenges to internationalize higher education and its essential concepts by examining the impact of globalization on higher education. Students will discuss and analyze national and regional higher education policies and institutional level internationalization strategies and initiatives.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・高等教育におけるグローバル化と国際化に関する主要な概念を理解する。
- ・グローバル化が進む知的基盤社会における、高等教育の役割を探索する。
- ・日本の大学国際化政策を批判的に分析し、グローバル化・多様化する日本社会及び国際社会に必要な教育課題を発見する。

The learning objectives for students taking this course are to:

- ・Understand key concepts related to globalization and internationalization in higher education
- ・Explore the role of higher education in a globalizing knowledge-based society
- ・Identify critical educational issues for Japanese society, which is globalizing and diversifying, and international society, by critically analyzing Japan's policy for higher education internationalization.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 グローバル化と高等教育への影響
- 第3回 高等教育の国際化に関する主要な概念
- 第4回 学生の国際的なモビリティー 1
- 第5回 学生の国際的なモビリティー 2
- 第6回 教育の国際化とグローバル人材育成
- 第7回 外国人および留学生への教育・支援
- 第8回 教育の国際化を实践でとらえる
- 第9回 教育の国際化のケースに学ぶ
- 第10回 アカデミック主要言語としての英語
- 第11回 国境を超える高等教育
- 第12回 高等教育の国際化とODA
- 第13回 ファイナル・レポート・フィードバック
- 第14回 高等教育の国際化と質保証
- 第15回 新しい高等教育のモデル

Week 1 Orientation

Week 2 Globalization and its impact on higher education

Week 3 Key concepts to internationalization in higher education

Week 4 International student mobility 1

Week 5 International student mobility 2  
 Week 6 Internationalization of education and global human resource development  
 Week 7 Education and support for international residents and students  
 Week 8 Internationalization of higher education from the practical perspective  
 Week 9 Internationalization of higher education: looking at cases  
 Week 10 English as the academic language  
 Week 11 Cross-border higher education  
 Week 12 Internationalization of higher education and ODA  
 Week 13 Final report feedback  
 Week 14 Internationalization of higher education and quality assurance  
 Week 15 new models in higher education  
 Week 16 Final Report Submission

【Google クラスルーム情報及び授業運営の詳細】

①クラスコード

・PM230030

②第一回授業の開始時期

・4月12日（月）2限：10：30～

③授業の実施方法

A. BCP レベル1の場合

・初回と2回目は、Zoomを用いた双方向授業、3回目以降は、教室での対面方式とリアルタイム配信の同時併用によるハイブリッド方式。Zoomへのアクセス情報はGoogle Classroomに掲載。  
 ・3回目以降の対面式の教室での受講については、収容人数の上限があるため、前後の授業スケジュールやオンライン授業への対応が困難な状況について、学生から聞き取りを行いながら決定する。恒常的にオンライン授業への対応が困難な学生あるいは、対面授業への対応が困難な学生に対しては、事前に要相談とするので、yuki.watabe.c6@tohoku.ac.jpへ連絡のこと。基本的に特別の事情がない場合は、担当発表者は対面にて教室で発表を行う。

B. BCP レベル2の場合

・授業の実施方法：Zoomを用いた双方向授業。Zoomへのアクセス情報はGoogle Classroomに掲載  
 ・オンライン授業への対応が困難な学生への対応策：個別に相談（yuki.watabe.c6@tohok.ac.jpへ連絡のこと）

④関連資料の入手方法

・授業の資料は、Google Classroomで共有

5. 成績評価方法/Evaluation method:

1. 授業の参加・貢献度 + ショートプレゼンテーション 65%
2. ファイナル・レポート 35%

1. Class participation + short presentations 65%
2. Final report 35%

6. 教科書および参考書/Textbook and references:

教科書は特に定めませんが、授業に沿った課題図書及び参考図書を教材とし、最初の授業で提示する。

A list of required readings for each class will be provided in the first class. Additional reading will be announced in class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review:

授業でのディスカッションに貢献できるよう課題図書等を精読し準備すること

Discussions and presentations are central to this course and will be developed around the required reading materials and assignments. Your careful reading in advance of each session and effort on assignments are expected.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition:

10. 更新日付/Last Update:

2021/02/16 13:09:48

**科目名/Subject : 教育アセスメント概論****曜日・講時/Day/Period :** 前期集中 その他 連講**担当教員/Instructor :** ポール・ウィキン**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

Assessment in Education: Key concepts, frameworks, Researching

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

This course presents a general overview of the theory and practice of assessment in educational settings. Key concepts are outlined and explored, major assessment frameworks are discussed, and some principles and methods for research are introduced.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

By the end of the course, students will have a deeper understanding of the theory and practice of assessment, particularly in the Japanese cultural context. They will also be able to design an effective assessment scheme for a course of study, and be equipped with some methodological tools for conducting their own research into assessment.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

DAY ONE: Key concepts

## 1. Introduction

Welcome. Ice-breakers. Overview of the course.

The importance of assessment.

## 2. Summative vs. formative

Definition of summative and formative assessment

## 3. Feedback

Theoretical principals and good practice for giving feedback

## 4. Self-assessment

Actively involving learners in reflection and evaluation

## 5. Peer assessment

Methods and models of peer assessment

DAY TWO: Assessment frameworks

## 6. Assessment for learning

Research based principles of assessment for learning (AfL) to guide classroom practice

## 7. Learning-oriented assessment

The conceptual framework and practical application of learning-oriented assessment (LOA)

## 8. Assessing 21st Century skills

Alternative assessments and assessment strategies for hard-to-measure skills

## 9. Teacher belief &amp; practice

How teacher beliefs are manifested in the classroom

## 10. Student conceptions

How students conceptualize assessment and the 'hidden curriculum'

DAY THREE: Researching assessment

## 11. Japan as a research context

Contextually grounded research in Japan

## 12. Quantitative, qualitative, and mixed methods

A definition and overview of three research methods

## 13. Narrative inquiry 1: Narrative frames

Introduction to the use of narrative frames as a data collection tool

## 14. Narrative inquiry 2: Interviews

Theory and practice of interview studies

## 15. Conclusion &amp; wrap-up

Explanation of final project. Concluding remarks

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

Reflection sheets (15 x 4%) 60%

Final report 40%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

参考書 :

1. Sambell, K., McDowell, L., & Montgomery, C. (2013). Assessment for Learning in Higher Education. New York: Routledge.

2. Carless, D. (2011). From Testing to Productive Student Learning: Implementing Formative Assessment in Confucian-Heritage Settings. Routledge.

3. Gardner, J. (2012). Assessment and Learning (2nd ed.) London: Sage.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

Students will need to complete all of the required reading before class. There is one reading for each unit (13 in total). Students must also complete a reflection sheet at the end of each unit.

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

Depending on the situation with the coronavirus pandemic, this course may be conducted fully or partly online.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/15 14:02:01

**科目名/Subject : 教育測定学概論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 火曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 柴山 直**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育測定学概論

Introduction to Educational Testing and Measurement

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育測定の基礎理論を体系的に学ぶ。初等統計レベルの知識を前提とする。

The aim of this course is to acquire the basic skills and knowledge of educational measurement and assessment. Elementary statistical skills are required.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ① 大規模アセスメントによって収集されるデータに関して実証的な観点からの品質保証ができること
- ② そのデータからさまざまな情報を読み取れ適切な客観的判断ができること
- ③ エビデンスにもとづく教育施策立案 (EBPM) 等に生かすためのバックグラウンドとなる力を修得すること

After taking this course, you will be able to:

- analyze the data such as scores obtained from large-scale assessments to infer the proficiencies of students.
- obtain various information from the data and make appropriate objective decisions.
- acquire basic skills to use in evidence-based education policy making (EBPM).

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回 テスト実施・採点・評価・報告 第1回 オリエンテーション(教育測定論入門)

第2回 必要な数学的基礎

第3回 教育における測定と評価

第4回 日本のテスト文化について

第5回 項目分析

第6回 心理測定モデル：古典的テスト理論

第7回 因子分析モデル（1）

第8回 因子分析モデル（2）

第9回 確率分布

第10回 心理測定モデル：項目反応理論

第11回 OECD/PISA に見る国際水準の学力調査技術

第12回 テスティング技術の最前線尺度の標準化・等化・対応づけ

第13回 テストの実際（1）教師作成テストの作成・客観的テストの作成

第14回 テストの実際（2）解釈課題・論述・パフォーマンス課題の作成

第15回 テストの実際（3）テスト実施・採点・評価・報告

1. Orientation

2. Statistical Methods

3. Educational Measurement and Evaluation

4. Large-scale assessment in Japan

5. Item Analysis

6. Construction and Use of Evaluation Instruments

7. Factor Analysis 1

8. Factor Analysis 2

9. Score Distribution and Scaling Methods

10. Item Response Theory

11. International Large-Scale Assessment

12. Equating and Scaling of Educational Tests

13. Class room application

14. Performance assessment

15. Test Development Process and Test Evaluation

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

ほぼ毎回課するショート・レポート（100%）

100% for submitted assignments

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :****7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**



8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード： ehbm5nr

②第一回授業の開始時期： 4月20日(火)4限

③授業の実施方法： Classroomに講義資料と課題をアップ

④関連資料の入手方法： 授業用の資料はClassroomで紹介

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策：

オンライン授業への対応が困難な学生への対応策：個別に相談(sibayama@tohoku.ac.jpへ連絡のこと)

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/09 14:30:51

**科目名/Subject : 教育情報学基礎論概論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 佐藤 克美 / 熊井 正之 / 渡部 信一**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育情報学基礎

Educational informatics

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育情報学とは超高度情報化社会、知的基盤社会における教育について、基礎及び応用そして実践と言う領域を内包した、融合的・学際的・先端的な学問領域である。基礎論概論では、教育情報学について、教育、心理学、認知科学、コミュニケーション論、情報科学、テクノロジーなどの視点から概観することで教育情報学という学問の融合性・学際性・先端性を理解するとともに、教育情報学の基礎的な知識を学習する。

Educational informatics is an integrated, interdisciplinary, and advanced academic discipline that encompasses basic, applied, and practical areas of education in highly computerized society and an intellectually-based society. In the introduction to fundamentals, students will provide an overview of the educational informatics focusing on the perspectives of education, psychology, cognitive science, communication theory, information science, and technology and understand the academic integration, interdisciplinary, and advanced academic discipline for educational informatics. At the same time, learn the basic knowledge of educational informatics.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・教育情報学の融合性・学際性・先端性について理解する
- ・教育情報学の基礎となっている心理学、認知科学、コミュニケーション論、情報科学、テクノロジーについて基本的な知識を学習する。

The purpose of this course is to help students better:

- ・Understand the academic integration, interdisciplinary, and advanced academic discipline
- ・Learn the basic knowledge of psychology, cognitive science, communication theory, information science, and technology, which are the foundations of educational informatics.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回: オリエンテーション

第2回: 教育情報学と心理学 (担当: 渡部信一)

第3回: 教育情報学と文化人類学 (担当: 渡部信一)

第4回: 教育情報学とロボット工学 (担当: 渡部信一)

第5回: 教育情報学と認知科学 (担当: 渡部信一)

第6回: 教育情報学とコミュニケーション (1) コミュニケーションについて (担当: 熊井正之)

第7回: 教育情報学とコミュニケーション (2) コミュニケーションの障害 (担当: 熊井正之)

第8回: 教育情報学と遠隔教育 (1) e-ラーニング (担当: 熊井正之)

第9回: 教育情報学と遠隔教育 (2) Mooc (担当: 熊井正之)

第10回: 教育情報学と学校教育 (担当: 佐藤克美)

第11回: 教育情報学と情報科学 (担当: 佐藤克美)

第12回: 教育情報学を支えるテクノロジー (1) インターネット (担当: 佐藤克美)

第13回: 教育情報学を支えるテクノロジー (2) ICT 機器と表現 (担当: 佐藤克美)

第14回: 教育情報学基礎概論まとめ (1) ディスカッション (担当: 全員)

第15回: 教育情報学基礎概論まとめ (2) ディスカッション (担当: 全員)

1 Introduction

2 Educational Information and psychology

3 Educational Information and Cultural anthropology

4 Educational Information and Robotics

5 Educational Information and Cognitive science

6-7 Educational Information and Communication

8-9 Educational Information and Distance Education

10 Educational Information and School Education

11 Educational Information and Information science

12-13 Educational Information and ICT

14 Summary, Discussion

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

数回のレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance, participation in discussions, and reports.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

参考書

佐伯胖監修・渡部信一編 『「学び」の認知科学辞典』 大修館書店

坂元 昂・岡本敏雄・永野和男編著『教育工学とはどんな学問か』 ミネルヴァ書房

渡部信一監修 『高度情報化時代の「学び」と教育』 東北大学出版会

渡部信一 『超デジタル時代の「学び」 よいかげんな知の復権をめざして』 新曜社

その他、必要に応じて配布

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

レポートの他、講義で課題を出します。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

GoogleClassroomを活用する。クラスコードは sdx67et です。

BCP レベルが 1 以下の場合は、対面による講義を予定しています。

BCP レベルが 2 以上の場合は、オンラインによる講義にします。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/11 13:35:41

**科目名/Subject : 教育情報学実践論概論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 小嶋 秀樹 / 中島 平**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育情報学に基づく教育／学習方法の実践例研究と新手法の創出

Case studies and original creation of new methods for teaching/learning based on educational informatics

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育情報学の実践に関して、様々な実践例を通して学ぶ。具体的には例えば研究中の最先端の ICT 機器を現場で活用した事例を視聴したあとで議論し、実際に教室内で体験した後で、新たな実践方法を考え出すという活動を行う。それらの活動を通して教育情報学の実践に対する興味を引き出し、その基礎的な内容を理解するとともに、自分自身で簡単な教育／学習方法を提案・実践できるようになることを目的とする。

Students learn the practical cases of educational informatics. For example, you will be studying the cases of utilizing advanced ICTs in educational fields and discussing with your co-learners about the cases in order to create a new method. Through these activities, students will deepen their interest and understanding of educational informatics, and will be able to design their own method for teaching/learning.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・教育情報学の融合性・学際性・先端性について理解する

- ・教育情報学の様々な実践例を学ぶことを通して、自分自身で情報通信技術を用いた簡単な教育／学習方法を提案し、実践できる。

- ・To be able to understand the integrity, interdisciplinarity, and advancement of educational informatics.

- ・To be able to design, propose, and practice your own teaching/learning method using ICTs.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回：オリエンテーション（担当：全員）

第2回：ロボットを使った自閉症療育支援（担当：小嶋秀樹）

第3回：人工知能の本質（担当：小嶋秀樹）

第4回：教育におけるデザイン（担当：小嶋秀樹）

第5回：障害者福祉におけるデザイン（担当：小嶋秀樹）

第6回：情報の可視化とファシリテーション（担当：小嶋秀樹）

第7回：人間理解のための質的アプローチ（担当：小嶋秀樹）

第8回：学びの促進を支援する（担当：中島平）

第9回：あなたが学びで使うテクノロジー（担当：中島平）

第10回：4種の学習観（担当：中島平）

第11回：4種の学習観とクリッカー（担当：中島平）

第12回：4種の学習観に基づく学びの分析（担当：中島平）

第13回：学びを改善する方法の提案（担当：中島平）

第14回：教育情報学実践論概論まとめ(1)：実践に関するディスカッション（担当：全員）

第15回：教育情報学実践論概論まとめ(2)：全体のふり返り（担当：全員）

定期試験（レポート）

（上記の予定は変更となる場合があります。）

Part 1: Orientation (Kozima and Nakajima)

Part 2: Using robots in autism therapy (Kozima)

Part 3: The essence of AI (Kozima)

Part 4: Designing educational environment (Kozima)

Part 5: Designing assistive environment for challenged people (Kozima)

Part 6: Information visualization and facilitation (Kozima)

Part 7: Qualitative approach to understanding people (Kozima)

Part 8: Helping to Facilitate Learning (Nakajima)

Part 9: Technology you use in your learning (Nakajima)

Part 10: Four Types of Learning Perspectives (Nakajima)

Part 11: Four Learning Perspectives and Clickers (Nakajima)

Part 12: Analyzing learning based on the four perspectives of learning (Nakajima)

Part 13: How to improve your learning? (Nakajima)

Part 14: Discussions (Nakajima and Kozima)

Part 15: Reflections (Nakajima and Kozima)

Final Essay(s)

（The course plan above is subject to change.）

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

ミニットペーパーとレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

Grade evaluation will be made by putting outcomes of the minute-papers, the final essay, and engagement to the course activities together.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特になし。必要に応じて配布する。

None in particular. Provided from the course, if necessary.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

第2回目以降では、事前に前回の講義について自主レビューしておくこと。

Individually review what you have learned in the previous lecture before the succeeding lecture.

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

クラスコード mwjb674

初回は 4/15 (木) 10:30 にオンラインで実施する。クラスルームの Meet から参加すること。

2回目以降の予定については、初回「イントロダクション」の授業内で周知する。

7/22 (海の日) にも授業があるので注意すること。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 17:14:59

**科目名/Subject : 教育情報学応用論概論**

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 倉元 直樹

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

Intermediate Lecture on Application Theories of Educational Informatics

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

青年期にあたる高校生の心身の発達状況を所与の前提として、「高大接続」という概念を中心に大学進学の実像について「学ぶ側」と「教える側」の双方の視点から迫る。前半では現在の我が国の大学入試の実情について、学際的な学術研究や各種の教育関連データを基に国際的な軸と歴史的な軸から俯瞰的に把握する視点を学ぶ。後半では高校の進路指導や大学入試の実施について、社会的、制度的な観点でアプローチするとともに、事例から具体的に学ぶ。最後に受講者自身の経験を交換し、受験生、学生にとって望ましい大学入試制度の条件を考える。

なお、対面での実施を予定している。Google Classroom を補助的に利用する可能性がある。

Given the mental and physical development of high school students in adolescence, we will approach the real image of going on to university from the perspectives of both the "learning side" and the "teaching side", focusing on the concept of "educational articulation". In the first half, you will learn to overlook the current state of university admissions in Japan from an international and historical axis based on interdisciplinary academic research and various education-related data. In the second half, we will approach high school career guidance and university admissions from a social and institutional perspective, and learn concretely from case studies. Finally, exchange the students' own experiences and consider the conditions of the university admission system that are desirable for the examinees and students.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・自らが経験してきた大学入試について教員・大学の側から見る視点の転換を行う。
- ・教育の一環として、選抜制度をどのように位置づけるか、多層的に考える視座を獲得する。
- ・高校と大学の接続関係を題材にして歴史的・国際的視点からの広い視野を養う。
- ・将来、教員や保護者の立場で入学者選抜に関わる際に重要な考え方について学ぶ。

1. Learn a different perspective of university admissions compared with that you have experienced.
2. As part of education, acquire a multi-layered perspective on how to position the selection system.
3. Develop a broad perspective from a historical and international perspective on the subject of the articulation between high school and university.
4. Learn important ideas when you are involved in the selection of new students from the standpoint of teacher or parent in the future.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

授業計画

第1回：オリエンテーション——高大接続：大学入試に対する受験者以外の視点——

第2回：大学入試の現場1：実施側から見た共通試験、個別試験の実情（担当：宮本友弘）

第3回：大学入試の現場2：高校における進路指導の考え方（担当：宮本友弘）

第4回：大学入試の現場3：受験勉強に対する批判と受験指導の教育的意義（担当：宮本友弘）

第5回：世界の大学入試1：世界の大学と学校教育、入学者選抜制度（担当：倉元直樹）

第6回：世界の大学入試2：北米の大学入学者選抜（担当：倉元直樹）

第7回：世界の大学入試3：ヨーロッパの大学入学者選抜（担当：倉元直樹）

第8回：世界の大学入試4：東アジアの大学入学者選抜他（担当：倉元直樹）

第9回：大学入試の歴史1：戦前の旧制高校入試制度（担当：倉元直樹）

第10回：大学入試の歴史2：戦後の大学入試制度（担当：倉元直樹）

第11回：大学入試の歴史3：現在の教育改革と大学入試（担当：倉元直樹）

第12回：大学入試の諸相1：進路指導と進学動向の地域における多様性（担当：宮本友弘）

第13回：大学入試の諸相2：進路指導と進学動向の設置者、学校種による多様性（担当：宮本友弘）

第14回：大学入試の諸相3：大学の学生獲得戦略と教育産業（担当：宮本友弘）

第15回：まとめ（討論）：望ましい大学入試制度——体験の共有と相対化——（担当：全員）

1. Orientation

2. The actual situation of common examinations and individual examinations from the perspective of the implementing side

3. Concept of career guidance in high school

4. Cramming or guidance?

5. Universities and school education around the world

6. University admissions in the world
7. University Admissions in Europe
8. University Admissions in East Asia
9. History of university admissions 1: Prewar period
10. History of university admissions 2: Postwar period
11. History of university admissions 3: Current reform
12. Diversity of career guidance in regions
13. Diversity of career guidance in school types
14. Public relations of university for candidates
15. Summary and discussion

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

出席状況（ミニットペーパーと授業内の発言）とレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

Attendance, assignments, and the content and attitude of remarks in discussions will be comprehensively judged and evaluated.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

東北大学高等教育開発推進センター編（2011）『高大接続関係のパラダイム転換と再構築』東北大学出版会  
東北大学高等教育開発推進センター編（2012）『高等学校学習指導要領 VS 大学入試』同上  
東北大学高等教育開発推進センター編（2013）『大学入試と高校現場——進学指導の教育的意義——』同上  
東北大学高等教育開発推進センター編（2014）『「書く力」を伸ばす——高大接続における取組みと課題——』同上  
東北大学高度教養教育・学生支援機構編（2016）『高大接続改革にどう向き合うか』同上  
その他、必要に応じて配付

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

毎回の講義内容の予習・復習，課題提出

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

- ・クラスコード wgxww5c
- ・ゲスト講師を招く予定あり。初回の講義で授業運営方針について説明する。
- ・授業形態および授業内容・方法は変更の可能性がある。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 18:01:14

**科目名/Subject : 教育心理学概論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 深谷 優子 / 工藤 与志文**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

日本における教育心理学研究の諸問題

Problems in Educational Psychology Research in Japan

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育心理学研究の諸問題およびわが国におけるそれらの研究動向について学ぶ。本授業では、わが国における教育心理学研究の各部門の研究動向について、主に日本語で公開された展望論文（査読付）を用いながら検討する。

The aim of this course is to help students acquire current educational psychology research trends in Japan.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

・教育心理学研究の諸問題について学ぶ。

・展望論文のスタイルについて学ぶ。

The students are expected to 1) Read the paper that they are responsible for presenting, 2) Prepare for their presentation.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回：展望論文とは

第2回～第7回：教育心理学年報掲載の論文の報告・討議

第8回～第14回：児童心理学の進歩掲載の論文の報告・討議

第15回：まとめ

(1) What is a "review paper"?

(2) ～(8) Reports and discussions of papers published in "The annual report of educational psychology in Japan".

(9)～(14) Reports and discussions of papers published in "Annual review of Japanese child psychology".

(15) Review

**①クラスコード**

ynzr4yo

**②第一回授業の開始時期**

4月12日（月）3限：13：00～

**③授業の実施方法**

BCP レベル1, 2ともにMeetを用いた双方向授業を基本とする。詳細はClassroomで連絡する

**④関連資料の入手方法**

授業用の資料はClassroomで共有

**⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策**

個別に相談（4月9日まで に yuko.fukaya.a7@tohoku.ac.jp へ連絡のこと）

**⑥その他****5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表および授業への参加・貢献（70%）、期末レポート（30%）により評価する。

Grading will be based on your presentations and a fraction of in-class participation(70%) and term paper(30%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教育心理学研究年報 "The annual report of educational psychology in Japan"

児童心理学の進歩 "Annual review of Japanese child psychology"

その他授業中に適宜参考書を紹介する。

Will be introduced in the class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

・査読付の展望論文を読む。

・簡潔に発表できるよう、レジュメ作成と発表準備を行う。

The students are expected to 1) Read the paper that they are responsible for presenting 2) Prepare for their presentation.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラウドルーム対応)

クラスコード

ynzr4yo

**10. 更新日付/Last Update :**



2021/02/19 12:27:40

**科目名/Subject : 発達障害学概論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 水曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 川崎 聡大 / 野口 和人**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

発達障害学概論 blmz6qf

Introduction to studies on developmental disabilities

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

本講義の目的は発達障害の現状を様々な角度から理解することです。

発達障害に関わる教育および保育・医療・療育の現状について観察・見学・参加を通じて理解を深めます。

The purpose of this lecture is to understand the current situation of developmental disabilities from various perspectives.

Through observation, tours, and participation, students will deepen their understanding of the current situation of education, childcare, medical care, and nursing related to developmental disabilities.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

発達障害や発達障害を引き起こす疾患、気になる子どもの実態について理解を深めます。

After taking this class, you will deepen your understanding of developmental disabilities, diseases that cause developmental disabilities, and the actual situation of children who are worried that there may be some problems.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

本講義は発達障害を支援する現場や実際の事例指導への参加・観察を中心に構成されます。そのため、講義は見学先等の都合により所定の時間外に行われることがあります。第14回と第15回の授業では、全員が参加しての学習成果の発表と討論を行います。(授業の内容は一部変更される場合があります。)

**【その他】**

1) 初回授業時に講義概要と今後の予定について説明します。

2) 参加観察は、「①個別支援(事例指導)」と「②集団支援(教育・福祉に関わる支援機関等の見学)の二つから構成されます。

3) 履修を希望する方は、川崎(akihiro.kawasaki.c5@tohoku.ac.jp)および野口(kazuhito.noguchi.a5@tohoku.ac.jp)まで、本講義の履修を希望する旨を記したDCメールを送ってください。期限は4月20日(火)17時とします。

4) 学習成果の発表も成績評価の対象となります。

This lecture is mainly composed of participation and observation in the field and case guidance to support developmental disabilities. Therefore, lectures may be held outside the designated hours due to the circumstances of the tour destination. In the 14th and 15th classes, everyone will participate in the presentation and discussion of the learning outcomes. (The content of the class is subject to change.)

**[Other]**

1) At the first class, the lecture outline and future plans will be explained.

2) Participation and observation consist of "(1) individual support (case guidance)" and "(2) group support (visiting support organizations related to education and welfare)."

3) If you would like to take this course, please send DCmail to Kawasaki (akihiro.kawasaki.c5@tohoku.ac.jp) and Noguchi (kazuhito.noguchi.a5@tohoku.ac.jp) stating that you would like to take this course. The deadline is 17:00 on April 20th (Tuesday).

4) Presentations of learning outcomes are also subject to grade evaluation.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業(観察含む)への参加(70%), レポート(30%)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 70%

- Short reports: 30%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に指定しません。

Not specified.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

授業の中で指示します。

Assignments are presented in each lesson.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicate the practical business

○

**9. その他/In addition :**

発達障害や「気になる子ども」、障害や医療に関する研究テーマに興味関心の高い人が望ましい

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

・ blmz6qf

② 第一回授業の開始時期

・ 上述の通り、この授業は実践の場への参画を通じた学修をねらいとしています。しかしながら、新型コロナ・ウィルス感染症の現在の感染状況においては、実践の場を確保する見通しが不透明な状況にあります。そのため、授業開始を4月21日(水)とし、その時点での感染状況等により、授業の実施方法を見直す場合があります。

③ 授業の実施方法

・ 初回の授業の際に提示します。

④ 関連資料の入手方法

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

⑥ その他

・ 受講を希望する方は、川崎 (akihiro.kawasaki.c5@tohoku.ac.jp) および野口 (kazuhito.noguchi.a5@tohoku.ac.jp) まで、本講義の履修を希望する旨を記したDCメールを送ってください。期限は4月20日(火)17時とします。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/12 16:09:30

**科目名/Subject : 臨床心理学概論****曜日・講時/Day/Period :** 後期 金曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 中島 正雄**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

臨床心理学に基づく思春期・青年期の人への多様な支援  
Support for adolescents based on clinical psychology

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

臨床心理学は、心の傷や躓きの体験をもつ人を支援する実践的な学問である。本授業では、心の傷や躓きの体験をかかえた思春期・青年期の人への多様な支援方法に関する実践的な知識について、テーマを選んで事例論文を読み込み、ディスカッションを通して学ぶ。

Clinical psychology is a practical discipline that helps people with experiences of trauma and stumbling. In this class, students will learn practical knowledge about various support methods for adolescents who have experienced trauma and stumbling by selecting a theme, reading case papers, and through discussions.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

臨床心理学に基づく支援の考え方、思春期・青年期の人への支援方法と支援内容について理解を深める。

The goal of this class is to deepen the understanding of the concept of support based on clinical psychology, the method of support for adolescents, and the content of support.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :****1 オリエンテーション**

Guidance

(2回目以降: 事例論文を選んでそのテーマにおける支援方法と支援内容についての発表と討議)

Second and subsequent times: Students select case studies, present and discuss support methods and content on the subject.

**2、3 : いじめ、ハラスメント**

Bullying, Harassment

**4、5 : 自閉症スペクトラム障害**

Autism spectrum disorder

**6、7 : 不登校・ひきこもり**

School refusal, Social withdrawal

**8、9 : 神経症性障害**

Neurotic disorder

**10、11 : 気分障害**

Mood disorder

**12、13 : 統合失調症**

Schizophrenia

**14 自殺、他職種との連携・協働など**

Suicide, Cooperation, Collaboration

**15 まとめ**

Summary

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

ディスカッションへの参加度 (20%)、発表 (30%)、期末レポート (50%)

Participation in discussion (20%)、Presentation (30%)、Term-end report (50%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

初心の支援者が何をどのように考えているか、どのような心境になりやすいかを著した参考書として、田中千穂子・内海新佑 (編)「ここで関わりここをつかう 心理臨床への手びき その実践」(2021 年、日本評論者) や、田中千穂子「心理臨床への手びきー初心者の問いに答える」(2002 年、東京大学出版会) が挙げられる。いずれも教科書ではなく、参考書である。その他の参考書は授業内で適宜紹介する。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

事例論文 1 本について、支援のアプローチの特徴に触れながら、1 人 1 回は発表する。事例論文は事前に用意するが、学生自身が探してきて良い。発表後は全員でディスカッションを行うが、その内容も含めてレポートを書いて提出することを課題とする。

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

・臨床心理学コースの学生だけではなく、臨床心理学コース以外の学生も受講可能である。

・Google クラウド対応

クラスコード 27pdbcg

・授業の実施方法

Classroom に講義資料と課題をアップ。第一回授業は Meet を用いてガイダンスを行う。

- ・ 関連資料の入手方法

授業用の資料は Classroom で紹介

- ・ 不明な点等があれば個別に相談。

masao.nakashima.d3@tohoku.ac.jp へご連絡ください。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/08 18:49:19

**科目名/Subject : 人間形成論特論 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 李 仁子**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

地域社会と祭り

Community and Festivals

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

東日本震災の被災地では、地域の祭礼を支えるコミュニティが大きな傷手を被り、多くの祭りが一時的に開催不能に追い込まれた。しかし、復興の精神的象徴として祭りの復活を求める声は日増しに大きくなり、規模や形式は従前とは異なるものの多くの地域で祭りが再び行われるようになってきた。そこで、この授業では、被災地で復活した地域密着型の祭りを主たる対象にして、従来の祭り研究の蓄積を参照しつつ、地域社会と祭りについて再考していきたい。同時に、さまざまな地域の伝統的な祭りから都市部の現代的な祭礼まで、多様な祭りを比較軸に据え、祭りをめぐる諸問題についても考察を深めていく。

In the areas affected by the Great East Japan Earthquake, the communities that support local festivals were severely damaged, and many festivals were forced to temporarily stop being held. However, the call for the revival of festivals as a spiritual symbol of reconstruction is growing louder by the day, and festivals are now being held again in many areas, although the scale and form differ from before. In this class, I would like to reconsider the relationship between local communities and festivals, mainly focusing on the community-based festivals that have been revived in the disaster-affected areas, while referring to the accumulated research on festivals in the past. At the same time, we will deepen our consideration of various issues surrounding festivals by placing a variety of festivals, from traditional festivals in various regions to modern festivals in urban areas, on a comparative axis.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・ 祭りという文化的事象を通して地域社会や伝統文化に対する理解を深める。
- ・ 被災地のコミュニティや個人にとって祭りとはどのようなものかを考えることで、被災地やその復興プロセスに関して複眼的な視点を得る。
- ・ 現代の多様な祭りを横断的に比較することにより、異質なものと他者に対する文化人類学的なとらえ方を身につける。

To deepen understanding of local communities and traditional culture through cultural events such as festivals. By considering what festivals mean to the communities and individuals in the disaster areas, students will gain a multifaceted perspective on the disaster areas and their recovery process.

To acquire a cultural anthropological perspective on the heterogeneous and the other by comparing various contemporary festivals from a cross-sectional perspective.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 1) オリエンテーション
- 2) 祭りに関する民俗学的研究
- 3) 祭りに関する宗教学的研究
- 4) 祭りに関する文化人類学的研究
- 5) 祭りの諸相① (都市と地方)
- 6) 祭りの諸相② (伝統と革新)
- 7) 祭りの諸相③ (平時と非常時)
- 8) 大規模な祭りを支えるコミュニティとネットワーク
- 9) 地域密着型の祭りを支えるコミュニティとネットワーク
- 10) 祭りの継承と伝授
- 11) 村おこしとしての祭り
- 12) 被災地の復興とコミュニティ
- 13) 被災地のコミュニティと祭り
- 14) 被災者にとっての祭り
- 15) 地域社会と祭り再考

- 1) Orientation
- 2) Ethnographic research on festivals
- 3) Religious studies on festivals
- 4) Cultural anthropological studies on festivals
- 5) Aspects of festivals 1) (urban and rural)
- 6) Aspects of festivals 2) (Tradition and innovation)
- 7) Aspects of Festivals 3) (Ordinary Times and Emergency Times)
- 8) Communities and networks that support large-scale festivals

- 9) Communities and networks that support community-based festivals
- 10) Succession and transmission of festivals
- 11) Festivals as village revitalization
- 12) Reconstruction and community in disaster areas
- 13) Communities and festivals in the disaster area
- 14) Festivals for disaster victims
- 15) Reconsideration of local communities and festivals

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業での発表やディスカッション (50%)、レポート (50%)

Presentations and discussions in class (50%), reports (50%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

授業の初回に紹介する。

It will be introduced at the beginning of the class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

授業においては積極的に発言し、自発的に発表するような姿勢が求められる。

In class, students are expected to speak up and present their ideas spontaneously.

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

rx51ja

② 第一回授業の開始時期

4月15日 開始

③授業の実施方法

- ・リアルタイム・対面混合方式
- ・オンライン授業 (Google Meet、Zoom)

④関連資料の入手方法

初回の授業にて紹介する。基本的には、Classroomで紹介

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

対応困難な理由に沿って提示する。

個別相談 (inja.lee.d1@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 09:23:25

**科目名/Subject : 人間形成史特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 金曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 池尾 恭一**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

ヒューム道徳哲学講読/Reading Hume's Original Text

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

デイヴィッド・ヒューム (1711～1776) の文献を精読し、その内容を検討することにより、哲学文献の読解を通して自律的に思考する態度を身につける。/The purpose of this class is to introduce the basic concepts and principles of David Hume's moral philosophy.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

ヒュームの哲学文献を正確に読み解き、そこにあらわれた思考を追思考しながら、受講者自らが哲学的に思考することができる。/At the end of this class, students are able to understand and describe the basic concepts and principles of David Hume's moral philosophy through the close reading of Hume's original text.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

1～3 ヒュームの「道徳哲学」概観 4～6 『人間本性論』序論 講読 7～14 『人間本性論』「道徳について」 講読 15 ヒュームの「道徳哲学」総括/1～3 Introduction: Hume's moral Philosophy 4～14 Reading Hume's original text 15 Review:: Hume's moral philosophy

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

テキストの読解とそれに基づくディスカッションへの積極的な参加・取り組みを総合的に評価する。/Grading is to be based on the quality of the students' performance in the classroom.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

David Hume, A Treatise of Human Nature, Being An Attempt to introduce the the experimental Method of Reasoning into Moral Subjects, 1739-40.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

Students are required to prepare for reading Hume's text.

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

クラスコード eni7imt

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/08 14:31:00



**科目名/Subject : 社会教育学特論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 火曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 石井山 竜平**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

自治体改革と住民の学び / Local government reform and residents' learning

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

日本の教育システムを支える法、制度、行政施策は、大きな転換点を経由している。そこには、戦後改革の中から生まれた憲法的価値の転換を図る、グローバル経済に対応した新自由主義的な改革原理と、それに親和的な新保守主義的な原理が融合がみられる。

こうした教育をめぐる構造改革の影響に加えて、社会教育・生涯学習行政には、市町村合併に伴う社会教育の再編、指定管理者制度の広がり、首長部局行政への社会教育行政の包摂、社会教育の学校支援行政への特化など、大きな変化が現れている。

こうした社会教育・生涯学習をめぐる今日の変化と、そのなかでいかなる生涯学習計画の組み立てられ方が実効的であるのか、それが先行研究でどこまで究明されているのかを確認する。あわせて、文献でとらえたことを確かめるために、授業の一部を活用して、地元自治体への調査も予定している。

／We will examine the current changes in local governments and what kind of lifelong learning planning is possible under these circumstances. In parallel, we plan to use part of the class time to conduct a survey of local governments in order to confirm the content of previous research.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

地域・自治体レベルの社会教育・生涯学習行政の再編をめぐるこれまでの動向と最新動向を理解する。／Deepen your understanding of the history and latest trends in the restructuring of social education and lifelong learning administration in local governments.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 1 イントロダクション
- 2 社会教育・生涯学習政策の動向
- 3 社会教育法改正をめぐる近年の動向
- 4 地方分権・規制緩和・行政改革
- 5 市町村合併と社会教育
- 6 社会教育・生涯学習行政と首長部局移管
- 7 社会教育財政
- 8 住民参画による社会教育・生涯学習の計画づくりの系譜(1)
- 9 住民参画による社会教育・生涯学習の計画づくりの系譜(2)
- 10 教育振興基本計画
- 11 韓国における社会教育・生涯学習の動向
- 12 中国における社会教育・生涯学習の動向
- 13 日本各地における社会教育行政の再編の動向と住民の対応(1)
- 14 日本各地における社会教育行政の再編の動向と住民の対応(2)
- 15 日本各地における社会教育行政の再編の動向と住民の対応(3)

Trends in social education and lifelong learning policies  
Recent trends in the revision of the Social Education Law  
Decentralization, deregulation, and administrative reform  
Municipal mergers and social education  
Genealogy of planning for social education and lifelong learning  
etc.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業および調査活動への参加、最終レポートにより評価する。／Evaluation will be based on participation in class and research activities, and final report.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

授業中に指示する。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

正規の時間外での訪問調査を予定している。

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

8月29～31日に南三陸で開催される社会教育研究全国集会への参加もあわせて取り組んでいただくことを求める。

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

2wli3ix

②第一回授業の開始時期

4月13日(火)3限13:00～から実施

③授業の実施方法

初回はZOOMを活用する予定。URL等は授業開始時期にClassroomに掲示する。その後、対面の授業にしていくかどうかは、受講生の希望を確認しながら定めることとする。

④関連資料の入手方法

Classroomで紹介する。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 10:55:38

**科目名/Subject : スポーツ文化論特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 火曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 鷺谷 洋輔**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

からだで学ぶということ

Learning from the body

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

「からだで学ぶ」とはどういうことか。いかなる学びも、からだを除いては成立しない。ゆえに、「からだで学ぶ」ということの意匠を考えるには、からだとは何か、学びとは何かというように重層的に入り組んだ問いにあらためて向き合うことが求められる。これを踏まえながら、本授業では「からだで学ぶ」ということを検証すること、実践することの二つの軸を縫い合わせながら進めていく。

What does “learning from the body” mean? It is necessary to reconsider the multi-layered questions around what is the body and what is learning. The course focuses on examining the acts of learning through/with /from the body, while simultaneously practicing such attempts through self-directed fieldwork.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

「からだで学ぶ」ということの理解を深める

Develop an understanding of learning through/with /from the body through fieldwork.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

授業は以下のようなテーマに沿って進められる。トピックごとの発表者を決め、レポートの発表とディスカッションを行う。

Contents and progress schedule of the class: Students give presentations on topics suggested below and lead classroom discussions.

1－3 身体知 Bodily knowledge

4－6 エンボディメント Embodiment

7－9 フィールドワーク Fieldwork

10－12 観察 Observation

13－15 アートと学術 Arts and academic productions

\*授業はBCPレベル1、2の場合いずれもオンラインで実施する。

\*Classes will be held online, both BCP level 1 and 2.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

中間レポート (40%)、期末レポート (60%)

Midterm paper (40%), Final paper (60%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :****7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

文献の精読とディスカッション、発表準備に加え、フィールドでの実践を各自が同時進行で進めることが求められる。

Aside for reading materials and preparing for presentations, each student is required to conduct fieldworks of their chosen interests on their own.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: “○” Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラウド対応)

クラスコード

2tfaz2w

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/25 11:34:16

**科目名/Subject : 教育社会学特論 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 福田 亘孝**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

社会理論の基礎と応用

Sociological Theory

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

現代社会学の理論を理解し、実証分析に応用できるようになる

This course examines theories served as the central concerns of sociology. A theory in its most simple form is an idea that guides and explains observations of the world. Every scientific discipline has theories that both guide observation and provide characteristic or explanations. In sociology, the idea allows for seeing patterns, forces, and power relations, encouraging us to make sense of all kinds of social phenomena, ranging from everyday interactions between friends to decades of violent conflicts. In this class, we will read theoretical texts every week, and then we will spend time understanding how they are used to understand specific social phenomena. Theory must be relevant to real life, that is, social facts to survive, and we will work toward bridging the abstract concepts in our readings with the world around us.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- (1) 社会学研究で用いられる社会理論の基礎を理解する
- (2) 社会理論の知識を用いて、社会現象の分析が可能になる

Goals of the course are:

- (1) To familiarize students with key concept and knowledge regarding sociological theory
- (2) To understanding the fit between methodology and theory in sociology
- (3) To develop skills to be conversant with social theory
- (4) To enable students to conduct original empirical research

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 1 Introduction: What is sociological theory?
- 2 The Origins of Social Theory
- 3 Evolutionism and Functionalism
- 4 Radical Anti-capitalism
- 5 Social Action and Social Complexity
- 6 Political Social Theories
- 7 Economic Social Theories
- 8 Social Theory and Gender
- 9 Society, Self, and Mind
- 10 Systems, Structuration, and Modernity
- 11 Critical Theory
- 12 World System Theories
- 13 Symbolic Interactionism
- 14 Rational Choice and Exchange
- 15 Knowledge, Truth, and Power

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への参加度 (20%), 発表・レポート (40%), 課題 (40%)

Class participation, attendance, and discussion (20%)

Oral presentation (30%)

Mid-term and final exam (50%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

Turner, R. (2008). The New Blackwell Companion to Social Theory. Wiley-Blackwell.  
 Ritzer, G. & Stepnisky, J. (2014). Sociological Theory. McGraw-Hill Education.  
 Calhoun, C. et al. (2012). Contemporary Sociological Theory. Wiley-Blackwell.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

- ★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする
- ★必要に応じて Reading Assignment と Writing Assignment を課す

★Students read required texts accurately and write a brief summary of the reading before the class.

★Students thoroughly review topics dealt with in the class and acquire knowledge regarding social theory.

★Each student prepares a research paper on a topic of interest in social theory, and have to submit it by the end of the term.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

★This is NOT an introductory class.

★A high level of proficiency in English is required for this class.

★Students should complete required assignments before they attend the class.

★Students should attend the class with good manners.

★The schedule of the class is a map, not a fixed train timetable, and it may be changed. Also, the grading method is subject to change.

★Assignment は必ずやり遂げてから授業に出席すること

★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる

★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります

★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります

★本授業科目は東北大学国際高等研究教育院の授業も兼ねる。

(Google クラスルーム対応)

クラスコード gdtlruv

Google Classroom Class Code

gdtlruv

(1) 授業の実施方法

授業形式は原則的に Google Meet あるいは Zoom による Online 授業とする。

(2) 関連資料の入手方法

関連資料の入手方法は google classroom において指示する。

(3) その他

通常の教室での対面授業が可能になり次第、必要に応じてそちらに戻す

This course is provided in a hybrid mode. Students mainly participate in a class online through Zoom or Google Meet. Yet, If COVID-19 becomes less prevalent and students can safely attend a class, it will be conducted in person. All necessary information on joining this course online will be posted by email or on Google Classroom before the class.

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/06 16:16:47

**科目名/Subject : 教育社会学特論Ⅱ**

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 島 一則

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

教育経済学の潮流:Trends in Economics of Education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

本特論では、①教育経済学の学問的性格、②その理論と方法の特質、③教育経済学の各研究領域における研究の展開と現状に理解し、実際のデータ・方法論を踏まえたうえで、教育がどのような経済的効果を有しているのか、教育の意義について考究する（以下のレビュー論文を前提としつつ、領域のキーとなる近年の論文に合わせて取り組む）。

In this class, we will understand (1) the academic character of economics of education, (2) the characteristics of its theory and methods, (3) the development and current state of research in each research area of economics of education.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

受講学生は、専門的知識・技能という観点からは、教育経済学という学問の特徴と研究の現状を英文文献の読解に基づき理解し、経済学の視点から教育に関わる研究課題を設定、データ・方法論の選択などを行える力量を身に付ける。また、汎用的技能、態度志向性という観点からは、コミュニケーションスキル・数量的スキル・論理的思考力・自己管理力・批判的思考力、生涯学習力を向上させる。

Students can understand the characteristics of economics of education and the current state of research based on their reading of readings of economics of education.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 1・2回 : Theoretical Concepts in the Economics of Education
- 3・4回 : Empirical Research Methods in the Economics of Education
- 5・6回 : Data in the Economics of Education
- 7・8回 : Human Capital
- 9・10回 : Signaling in the Labor Market
- 11・12回 : Returns to Education in Developed Countries
- 13・14回 : School Quality and Earnings
- 15回 : Education and Economic Growth

- ・クラスルームコード : k4enrcp
- ・第一回授業の開始時期 : 16 日（受講希望の学生は前日 15 日正午までに以下のメールアドレスに連絡すること）
- ・授業の実施方法 : オンラインを基本とするが、コロナの状況によっては対面に移行する可能性を有する
- ・関連資料の入手方法 : クラスルーム等で配布
- ・オンライン授業（の場合）の対応が困難な学生への対応策 : kazunori.shima.e6@tohoku.ac.jp 連絡・相談
- ・対面授業（の場合）の対応が困難な学生への対応策 : kazunori.shima.e6@tohoku.ac.jp 連絡・相談
- ・その他（特になし）

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業内容についての理解とコミットメント（50%）・最終レポート（50%）による。ただし、出席状況によっては受験資格を喪失する。

Quiz (50%) / Final Report (50%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書/Textbook : D. J. Brewer and P. J. McEwan (eds.), Economics of Education Elsevier, 2010.

参考書/Related Material : 島一則編（2011）『大学とマネー 経済と財政』（リーディングス日本の高等教育 第8巻）玉川大学出版。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。

For the preparation and review, specific contents will be instructed in the class.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

授業中の発言など積極的な関与を求める。

Ask for active involvement, such as remarks during class.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/10 12:51:47

**科目名/Subject : 教育行政学特論 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 火曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 青木 栄一**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育政治学—基礎編

Politics of Education: Basic

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育政治に関する代表的研究と政治学の関連文献を学ぶ。ストリートレベルの官僚制論の理解を通じて、たとえば「(教育の) 地方分権改革が、地方政治にどのような変容をもたらすのか?」「地方政府間で教育政策にはどのような相違が存在するのか、そして相違をもたらす要素は何か」という論点を扱う。

This course explains the politics of education, which is constructed of policy, election, political party, interest group, legislature, executive, bureaucracy, local government, street-level bureaucracy, and the teachers union.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

教育政治についての基礎的文献を批判的に読解できる。

The purpose of this course is to help students review the essential articles on the politics of education.

英語文献から社会科学としての教育政治学に寄与する基礎的情報を析出できる。

The purpose of this course is to help students learn the essence of social sciences from English literature.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

【オンラインによるリアルタイム授業】

Google Classroom クラスコード : krpurhw

Zoom を使用予定。事前に Zoom アプリをインストールしておくこと。

アクセス情報は事前に Google Classroom で連絡する。

第 1 回授業開始時期 : 2021 年 4 月 13 日 (火) 6 限 : 18:00~

授業の実施方法 : 全ての回でオンラインのリアルタイム授業 (ウェブ会議方式)。予習で関連資料・文献を読みリアクションペーパーを提出し、授業を受講し毎回フィードバックを送信し、復習でさらに関連資料・文献を読む。

関連資料の配布方法 : 全て Google Classroom で配布する。当該回の資料は前週月曜日 23:59 までにアップロードする。

オンライン授業への対応が困難な学生への対応 : 個別に担当教員に相談

東北大学 BCP レベル 2、1、0 いずれの場合も同様の授業方法。

内容及び進度は以下の通りであるが、内容を変更する場合もある。

The contents and schedule are as shown below but subject to change.

毎回、授業のテーマについてリアクションペーパーを用いたディスカッションを行う。

In every class, students discuss the issues of politics and education using the reaction paper.

1. イントロダクション Introduction

2. 教科書講読 (1) 教育と単一目的政府 Education and Single-Purpose Governance

3. 教科書講読振り返り (1)

4. 教科書講読 (2) 新しい教育首長 The New Education Executives

5. 教科書講読振り返り (2)

6. 中間まとめ

7. 教科書講読 (3) 議会と裁判所の役割拡大 An Expanded Role for Legislatures and the Courts

8. 教科書講読振り返り (3)

9. 教科書講読 (4) 変容するアクター・イシュー・アイデア Changing Actors, Issues, and Policy Ideas

10. 教科書講読振り返り (4)

11. 中間まとめ

12. 教科書講読 (5) 教育例外主義の終焉 The End of Exceptionalism

13. 教科書講読振り返り (5)

14. 中間まとめ

15. まとめのディスカッション Looking Back and Looking Forward

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への貢献度 (20%)、リアクションペーパー (40%)、期末レポート (40%)。

Class participation (20%), Reaction papers (40%), Review paper (40%).



リアクションペーパー (Reaction papers) は 13 回課され、最低でも 8 回の期限内提出が必要である。さもなければ試験の受験資格を失う。

There are 13 weeks with reading assignments; students should post at least 8 reaction papers.

欠席 3 回に達した時点で評価の対象から外れる。

Every student is expected to attend this class regularly, but can be absent up to 3 times.

#### 6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：青木栄一監訳 (2021) 『アメリカ教育例外主義の終焉—変貌する教育改革政治』 東信堂。

開講時に参考文献を提示する。

The textbook will be used. References are provided via Google Classroom.

#### 7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

指定したテキスト等の該当箇所を読み予習してくる。これは全受講生にとって極めて重要なことである。

Every student is required to prepare for the assigned part of the designated textbook, papers, and books for each class.

リアクションペーパーを投稿すること。締め切りは授業の前日月曜日 23:59 である。

Every student is required to write a paper reacting to the week's reading assignment along with questions and post them on Google Classroom no later than 23:59 on the Monday before the class.

復習を必ず行うようにすること。

Every student is required to review for each class.

本授業を深く理解したい場合には、大学院設置基準 (第 15 条)、大学設置基準 (第 21 条) の規定に基づいた自己学習 (予習復習等) を行うことを強く推奨する (1 回あたり 4 時間程度が標準)。

Students are required to study at home for about four hours per class according to government guidelines.

#### 8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

#### 9. その他/In addition :

【オンラインによるリアルタイム授業】

Google Classroom クラスコード : krpurhw

Zoom を使用予定。事前に Zoom アプリをインストールしておくこと。

アクセス情報は事前に Google Classroom で連絡する。

受講要件 : 「教育行政学講義 I・II」。

※これに該当しない受講希望者は事前に担当教員と相談し、必要に応じて第 1 回授業までに最大で 12,000 字の教育行政学に関するレポートを提出し、受講可否に関する判断を仰ぐこと。

Students who have not got credits of Educational Administration I, II should see the lecturer.

教育政策科学コース博士課程前期及び他コース学生の「自由聴講」は認めない。

Students who are in the master course of the EPSA Program or other programs cannot audit.

担当教員ホームページ : <https://researchmap.jp/read0124718/>

Lecturer website: <https://researchmap.jp/read0124718/>

#### 10. 更新日付/Last Update :

2021/02/15 15:52:33

**科目名/Subject : 教育行政学特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 後藤 武俊**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育政策研究の基盤的知識としての政治哲学

/ Political Philosophy as the Basic Knowledge for Education Policy Studies.

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

政治哲学の基礎的諸概念（社会正義、自由、平等、民主主義等）を理解し、当該知識を用いて、教育制度・政策に関する規範的判断の論拠を適切に分析できるようになることを目標とする。

/ The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts of political philosophy (social justice, freedom, equality, democracy and so on). It also enhances the development of students' skill in analyzing normative justification behind educational policies by using those concepts.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1) 政治哲学の基礎的諸概念を理解できるようになる。

2) 政治哲学の基礎的諸概念を用いた論文を正確に読みこなせるようになる。

3) 政治哲学の基礎的諸概念を用いて適切な論証を行えるようになる。

--The goals of this course are to

1) understand the basic concepts of political philosophy.

2) obtain the skill to read correctly the articles using the concepts of political philosophy.

3) obtain the skill to discuss thoughts by using the concepts of political philosophy.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

テキスト・参考書に挙げた図書を輪読するかたちで進めていく。論点・疑問点をまとめた資料（ワークシート）を毎回作成して持参することが求められる。

/ We will discuss the contents of the textbooks. Participants are required to write their impressions, thoughts and questions for the textbooks on the worksheet every week.

## 1. オリエンテーション

## 2. 政治理論の始め方／政治とは何か？

## 3. 「私の勝手」で済むか？／どうして助け合わなければいけないのか？

## 4. あなたも「不正義」に加担している？／みんなで決めたほうがよい？

## 5. 多数決で決めればよい？／民主主義は国境を越えるか？

## 6. 「私」とは誰か？／私は何をどこまでできるのか？／できないのか？

## 7. 「私のこと」も政治か？／「国民である」とはどういうことか？

## 8. 異文化体験でわかりあえるか？／公共性はどこにある？

## 9. 「市民である」とはどういうことか？

## 10. ジェンダーと平等／健康と平等

## 11. 障害と平等／情報と平等

## 12. 責任と平等／教育と平等

## 13. グローバリゼーションと平等／賃金と平等

## 14. 福祉国家と平等／税と平等

## 15. 総括討議

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

ワークシートへの評価 (60%)、最終レポート (40%)

/ Your overall grade in this class will be decided based on the following:

-- Quality of comments written in worksheet: 60%

-- Final report: 40%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

【テキスト】

・田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望 (2017)『ここから始める政治理論』有斐閣。

・新村聡・田上孝一編 (2020)『平等の哲学入門』社会評論社。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

テキストの熟読およびワークシートの作成。

/ Reading textbooks and writing worksheets.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○"Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

【使用言語】日本語のみ。/ This course will be required in Japanese.

【受講要件】 特になし

【Google Classroom 対応】

- ・ クラスコード : mc3depl
- ・ 初回 : 4 月 12 日 (月) 4 限 14:40～
- ・ 授業の実施方法 : 初回はオンラインで実施する。受講人数が 5 名以下の場合は、感染状況と受講生の希望を踏まえて対面授業への切り替えも検討する。
- ・ 資料の入手方法 : 資料は Classroom で配信する。
- ・ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 下記連絡先まで個別に相談すること。

【連絡先】

E-mail: taketoshi.goto.a8@tohoku.ac.jp

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/09 14:32:39

**科目名/Subject : 比較教育学特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 井本 佳宏**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

現代ドイツにおける教育の論点 / Current Issues of Education in Germany

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

ドイツの教育制度は日本の教育制度と比較して、分岐型の中等学校制度や充実した職業教育制度など、対照的な特徴を示している。本授業では、ドイツの教育雑誌 Pädagogik の Stand Punkt および Kontrovers の両コーナー掲載の諸論稿をもとに、現代ドイツにおいて教育上の論点となっている事項について日独比較の視点から考察を加えることで、日本の教育を広い視野から考察する力の育成を目指す。／

This course deals with the current issues of education in Germany. It also enhances the development of students' skill in looking at education from a comparative perspective.

Notice: This course will be taught in Japanese. But we shall read texts written in German.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 現代ドイツにおける教育上の諸論点について把握する。

2. ドイツにおける教育事情を日独比較の視座から考察することを通じて、海外の教育情報を普遍的な教育理解のための資源として活用するスキルを身につける。

3. 授業への参加を通じて独文読解力、討議能力および論証力を獲得する。／

The goals of this course are to

- understand educational issues in contemporary Germany,

- acquire the skills to use foreign educational information as a resource for universal understanding of education,

- acquire the basic skills to read texts in German and ability for discussion and demonstration.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回 オリエンテーション / Orientation

第2回 Meldepflicht für antisemitische Vorfälle an Schulen

第3回 Fördern Schulhunde die Lernatmosphäre?

第4回 Vegetarische Mensa

第5回 »Religiöse Sonderwege« in der Schule

第6回 Dürfen Schultoiletten etwas kosten?

第7回 第2回から第6回までのまとめと討議 / Review and reflection from the 2nd to the 6th lesson

第8回 Lernen ohne Noten?

第9回 Sollen Lehrer\*innenporträts auf Schulhomepages erscheinen?

第10回 Sollen Klassenreisen per Flugzeug verboten werden?

第11回 Sind Bewerbungsschreiben noch zeitgemäß?

第12回 Schau doch mal rein! Schulleitungen regelmäßig den Unterricht aller Lehrkräfte besuchen

第13回 Klassenarbeiten flexibel terminieren?

第14回 第8回から第13回までのまとめと討議 / Review and reflection from the 8th to the 13th lesson

第15回 全体のまとめと補足 / Review, reflection, and course evaluation

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

1. 授業内での報告および議論への貢献 (40%)

2. 期末レポート (60%) /

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Presentation and attitude in class: 40%

- Final paper: 60%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

以下の雑誌に所収の論稿の中から検討対象とするものを適宜指示する。

・Pädagogik, Beltz Verlag. /

The papers to be discussed are selected from the following journal:

- Pädagogik, Beltz Verlag.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

・検討対象の文献については授業までに必ず読んでおくこと。／

-The students are required to read the assigned papers.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

・授業に関する諸連絡、資料の配付、課題等の提示や提出には Google Classroom を利用します。クラスコードは vuzifyx です。第1回授業の前に各自で生徒登録してください。

・毎回、雑誌見開き 2 ページ程度のドイツ語の記事を読むため、受講前に初歩的な独文読解力を身につけておくことが望ましい。ただし、このことはドイツ語初学者の受講を排除するものではない。

・比較教育学特論 I の単位の既修得者については履修登録を認めない。

・オフィスアワー 火曜日 13:00～15:00／

-We will use google classroom to manage the course. The class code is “vuzifyx”. Please register yourself before the first lesson.

-In each lesson, we will read two pages of articles written in German, so it is advisable to acquire basic German reading skills before taking the course. However, this does not preclude beginners of German from attending the course.

- Students who have already earned the credit of Advanced Lecture of Comparative Education I will not be allowed to register for the course.

-Office Hour: 13:00-15:00, Every Tuesday

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/25 16:24:20

**科目名/Subject : 教育政策科学特論****曜日・講時/Day/Period :** 前期集中 その他 連講**担当教員/Instructor :** 柏木 智子**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

公正な民主主義社会のための教育政策

education policy for equity-oriented democratic society

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育政策の基礎的事項を理解した上で、公正な民主主義社会のための実行可能な教育政策の立案について検討することを目的とする。

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts of education policy, and discussing practicable education policy making for equity-oriented democratic society.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

・教育政策の基礎的事項を把握する。

・政策立案のための重要概念（公正・正義・自由・平等・連帯・寛容・民主主義）について理解する。

・実行可能な政策立案の検討を行えるようになる。

--The goals of this course are to

1) understand the basic concepts of education policy.

2) understand the important concepts for policy making (equity, justice, freedom, equality, solidarity, tolerance democracy).

3) be able to discuss practicable education policy making.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

毎回配布する資料をもとに、基礎的事項を把握した上で、議論を行い、各自の考えを深める。

1. オリエンテーション

2. 国の教育政策過程

3. 地方自治体の教育政策過程

4. 公教育制度と官民連携政策

5. 教員の人事・養成・労働政策

6. 教育課程政策

7. 学力テストとEBPM政策

8. 教育と福祉の連携に関する政策

9. GIGAスクール構想と教育政策

10. 重要概念の検討1（公正・正義・平等）

11. 重要概念の検討2（自由・連帯・寛容・民主主義）

12. 中央教育審議会答申の政策分析

13. 公正な民主主義社会の形成に向けての政策立案1

14. 公正な民主主義社会の形成に向けての政策立案2

15. 教育政策のまとめと議論

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表・授業への取り組み 70%、レポート 30%

Presentations and class participation 70%, essay 30%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書は特に指定しない。

参考書

村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政の考え方』有斐閣、2020年。

青木栄一・川上泰彦『教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会、2019年。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

授業時に課される宿題を提出するだけでなく、配布されるプリントにより授業内容を復習し、理解できていない点があれば質問を用意し、次回授業時に質問すること。

Students are required not only to submit class assignments but also to review each class using handouts. If there remain any parts they cannot understand, they should ask questions in the next class.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :****10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/22 15:25:13



**科目名/Subject : 成人教育特論**

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 松本 大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

ナラティブ、生活史と成人学習

Narrative, life history, and adult learning

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

この授業では、成人の学習とは何かを明らかにする際の、ナラティブや生活史の可能性を考える。学習は個人のバイオグラフィーへと統合されるプロセスであり (Jarvis, 2010)、ナラティブや生活史という観点は、人生における成人の経験と学習の社会的過程を総体的にとらえる視点を提供する。また、文献講読をとおして、成人が直面している多様な学習課題についての理解を深めることも目的とする。

In this class, students explore the possibilities of narrative and life history in understanding adult learning. Learning is a process that is integrated into individual person's biography (Jarvis, 2010), and the perspective of narrative and life history provides a holistic view of the social processes of adult experience and learning in life. In addition, the purpose of this class is to deepen students' understanding of the various problems of learning faced by adults through reading the literature.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

(1) ナラティブや生活史という観点から、成人の学習過程と課題を理解できる。

(2) ナラティブや生活史という観点から、自らの研究課題に関する考察を深めることができる。

(1) The purpose of this course is to understand the processes and challenges of adult learning from the perspective of narrative and life history.

(2) Students explore their research issues from the perspectives of narrative and life history.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

基本的には、Wright, H.R. & Høyen, M. (2020) Discourses We Live By: Narratives of Educational and Social Endeavour. Cambridge, UK: Open Book Publisher を用いて文献講読を行う。受講生は任意の章を選択し、発表すること。

Basically, students read the literature using Wright, H.R. & Høyen, M. (2020) Discourses We Live By: Narratives of Educational and Social Endeavour. Cambridge, UK: Open Book Publisher. Students select any chapter and give a presentation.

1. オリエンテーション/Orientation

2~15. 受講生による文献発表と議論/Presentation and discussion of literature

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表・授業への取り組み (80%)、期末レポート (20%) による評価を行う。

Students are evaluated on their presentations and class participation (80%) and the final report (20%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

Wright, H.R. & Høyen, M. (2020) Discourses We Live By: Narratives of Educational and Social Endeavour. Cambridge, UK: Open Book Publisher

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

文献を十分に予習してくること。

Students are required to prepare for the assigned part of the literature for each class.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :****10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/11 19:17:56



**科目名/Subject : 多文化教育論特論****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 高橋 美能 / 末松 和子**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

多文化共生と人権教育 Multicultural Education and Human Rights Education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

本コースは、多文化共生と人権をテーマに学ぶ中で、グローバルシティズンシップに必要な知識、技能、態度、行動力とは何かをクラス内で議論し、社会に参加し、積極的に意見を述べる市民となっていく素養を身に着けることを目的としている。そのため、クラス内に「多文化理解」と「人権」を柱に据えた文化を築き、参加者一人ひとりがクラスに積極的に参加・貢献することが期待されている。

本コースの中ではビデオ教材などを取り入れ、グローバル社会の中で、身近な多文化共生に関する課題や人権問題を他人事ではなく、自分と関わりのある問題と捉え、いかに課題を解決していくのかを具体的に考え、提案してもらう。コースを通じて学んだ知識を基に、最後のプレゼンテーションを通じて、グローバル社会の中で起こっているさまざまな課題・問題に対する解決策を提案する。

The purpose of this course, while learning about multicultural community and human rights as a theme, is to discuss what knowledge, skills, attitudes and ability to take action are necessary for global citizenship. Further, this course aims to cultivate the ability to participate in society, and become citizens who can enthusiastically express their own opinions. Thus, in order to build a culture founded on multicultural understanding and human rights as its central pillar, each participant is expected to enthusiastically take part and contribute in class.

This course integrates a range of learning resources such as videos, and discussions, and while grasping multicultural understanding and human rights issues of immediate concern within global society not as other people's problems but are rather as issues connected to one's own life, we will concretely think about and make suggestions concerning how to solve the issues. Based on the knowledge gained through this course, participating students will heighten their knowledge of various issues and problems occurring in global society and cultivate the power to take action and change the surrounding society, the training of which will be reinforced through a final presentation.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 多文化共生・人権の知識の深化 Deepened knowledge of multicultural community and human rights
2. 多文化共生・人権課題に対して自分なりの意見を持つこと、当事者意識を持つこと Having personal opinions in regards to multicultural community and human rights issues and having awareness that these issues involve and affect you.
3. 多文化共生・人権課題に対して行動を起こすこと Taking action for multicultural community and human rights issues

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

1 回目の授業 : イントロダクション「多文化共生と人権教育とは何か」

First class: Introduction 'What is multicultural education and human rights education?

2-6 回目の授業

総論「多文化共生、人権の歴史、世界人権宣言」など

各論：個別具体的な人権問題「部落問題、アイヌ民族の問題、戦争と平和、東日本大震災、ジェンダーLGBT」など

2nd to 6th classes:

General Outline: Multicultural Community, the History of Human Rights, the World Declaration of Human Rights, etc.

Specific Themes: Individual Concrete Human Rights Problems 'the Buraku issue, issues related to the Ainu ethnic minority, War and Peace, the Great East Japan Earthquake, gender/LGBTQ'

7-10 回目の授業 :

総論「多文化共生を身近な視点で捉え課題を洗い出す」

各論：外国人留学生、外国人住民、技能実習生問題、国際共修を通じた多文化共生

7th to 10 classes:

General Outline: Reviewing Multicultural Society/Community at more personal level and identifying "issues"

Specific Themes: International students, International residents, Special trainees, Development of multicultural society/community through intercultural collaborative learning.

11-14 回目の授業：グループでの発表準備&発表「授業で学んだ内容に対して、グループ、または個人で身近に感じた（重要だと思う）問題を取り上げ、自分たちにできる解決策を考え、アクション・プランを立てて実行可能性を評価し、発表すること」

11th to 14th classes: Group Presentation Preparation & Presentations 'Choose one of the issues discussed in class which as a group or as an individual you felt close to(thought important), think about strategies to solve these issues

yourself, and present on the results of your effort to develop an action plan and discuss the possibility of implementation.

15 回目の授業：レポートの提出

15th class: Submission of Report

**5. 成績評価方法/Evaluation method:**

ディスカッション 30%、発表 40%、レポート 30%、Discussion 30%, Presentation 30%, Report 30%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references:**

クラス内で説明 will be explained in the classroom.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review:**

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

○

**9. その他/In addition:**

Google Classroom のクラス コードは、sy2mwvu です。

初回の授業はクラスルーム内の Meet で行います。

**10. 更新日付/Last Update:**

2021/03/02 14:55:29

**科目名/Subject : 国際教育論 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期集中 その他 連講**担当教員/Instructor :** Will Brehm**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

Introduction to International Development and Education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

International Development and Education introduces students to the field of international development and education using new media sources and content. The course shines a critical light on the economic, social, and political dimensions of development, unsettling the common assumption that progress through education is always possible. It also explores the prospects and perils of new media as sources of knowledge production and exchange, which are increasingly common within the field of international development. Some of the topics discussed include: the promises and pitfalls of the Sustainable Development Goals; the similarities and differences between UNESCO and the World Bank; the development challenges brought on by the climate crisis; the rise of non-state actors and new educational financing mechanisms; and the prospects of post-development theories in education. The course will draw on the experiences from across the globe with special emphasis on Asia and engage with a diversity of knowledge mediums, including academic publications, social media content, as well as podcasts, news articles, and film/documentaries.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

International Development and Education aims:

- ・To develop a thorough understanding of the economic, social, and political dimensions of international development in education;
- ・To foster a greater awareness of the role of international, national, and local actors and institutions in international development and education theory and practice;
- ・To discuss and critique prevailing assumptions and sources of knowledge about international development and education.

By the end of this course, students will be able to:

- ・ Describe the dimensions (technical, political, economic, etc.) of international development and education.
- ・ Compare key actors in international development and education, outlining different priorities and interests.
- ・ Strengthen their research skills, by learning how to identify relevant and reliable information across mediums about international development and education in other countries.
- ・ Evaluate the prevalence of new media sources as a form of knowledge production.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

September 6: Live Zoom Session

Session 1: 17:00 - 18:30 - Introduction to Course

Student and lecturer self-introductions. Overview of course content and schedule. Review of assignment. We will also put students in groups and review the group presentation.

Session 2: 18:45 - 20:15 - What is IDE?

By way of introduction, Will Brehm which provides an introduction to the idea of international development and education. Framing questions: How would you define development? What might it look like in the town in which you grew up? How might it look in other places?

September 7: Group/Individual Work

Session 3: 9:00 - 10:30 - Reading and Listening

Reading 1: Education and international development p. 1-9; 31-48.

Reading 2: Grading goal four, p. 1-27

Listening 1: <https://freshedpodcast.com/danwagner/>Listening 2: <https://freshedpodcast.com/benavot/>

Session 4: 10:45 - 12:15 - Watch Recorded Lectures

History of Development:

Global Agenda

Theories of Development

Session 5: 14:00 - 15:30 - Group Work

In your groups, work on the Group Assignment

September 7: Live Zoom Session

Session 6: 17:00 - 18:30 - Seminar

In this seminar, we will discuss history of development and the global agenda. Framing questions: what historical legacies in international development and education continue to exist even to this day? Think of the country in which you were born and/or raised. What historical events are important to understand when thinking about the country's education system today?

Session 7: 18:45 - 20:15 - Seminar

In this seminar we will discuss theories of development in relation to the global goals. Framing questions: Do you think the global goals are important or not? Which theory (or theories) mentioned in the resources do you like most? Why?

September 8: Group/Individual Work

Session 8: 9:00 - 10:30 - Reading and Listening

Reading 1: Education and international development p.127-148; 111-126

Listening 1: <https://freshedpodcast.com/andygreen/>

Listening 2: <https://freshedpodcast.com/steveklees/>

Session 9: 10:45 - 12:15 - Watch Recorded Lectures

Inequalities and Education

Economics of Education

Citizenship Education

Climate Crisis

Session 10: 14:00 - 15:30 - Group Work

In your groups, work on the Group Assignment

September 8: Live Zoom Session

Session 11 17:00 - 18:30 - Seminar

In this session we will talk about inequality in education as well as issues of economics of education. Framing Questions: What is the difference between inequality and inequity? Can you think of any examples from your own background/history of schooling? Can you identify when an economic approach to education is good and valuable? Who might approach education from an economic perspective? Why?

Session 12 18:45 - 20:15 - Seminar

In this session we will discuss citizenship education and social cohesion. We will connect this to the idea of global citizenship education and the climate crisis. Framing questions: Reflect on the citizenship education you received growing up. How did your schooling try to instill notions of national unity and cohesion? What was taught, how, and to what end? Do you think it worked? Do you think schools can really solve (in part) the climate crisis? If so, how? If not, why not?

September 9: Group/Individual Work

Session 13: 9:00 - 10:30 - Group Work

In your groups, finalize your Group Assignment

September 9: Live Zoom Session

Session 14: 17:00 - 18:30 Group Presentations

Each group will have 20 minutes to present followed by 10 minutes of Q&A

Session 15: 18:45 - 20:15 Conclusion

By way of conclusion, Will Brehm will provide a final lecture on de-growth and development. Framing questions: Do you think the idea of de-growth could actually be taken up in the various institutions of international development and education we discussed during the term?

#### **5. 成績評価方法/Evaluation method:**

Seminar Participation (30 percent)

Students are expected to actively participate during the seminars.

Group Presentation (20 percent) - 20 Minutes (due Session 14)

Prompt: Reflect critically on one contemporary issue of education and development in a low or middle-income country. Analyse this issue using two relevant theoretical perspectives.

Teamwork (20 percent) - 1 page statement (Due one week after the course ends )

Prompt: how you contributed to group presentation

Written Essay (30 percent) - 4,000 words excluding references (due [TBD ])

Prompt: Reflect critically on one contemporary issue of education and development in a low or middle-income country. Analyse this issue using two relevant theoretical perspectives. This can be the same or different as the group presentation.

Below are some examples of issues students have used in the past to answer this assignment question:

- Universal Primary Education (UPE)
- Gender equality in education
- HIV/ AIDS and its effect on access
- Quality of education
- Education in post-conflict and fragile states
- Education, migration and displacement
- Adult literacy
- Early childhood care and education
- Vocational / technical education
- Access to higher education
- Language of instruction
- Private schooling

Examples of theoretical perspectives that have been used to address the same issue (and some starting point sources) have included:

Human Capital Theory (see Becker, Psacharopoulos) Dependency (see Carnoy, Mazrui)

The capability approach (see Sen, Nussbaum) Rights-based approaches (see Tomasevski) Post-colonialism (see Said, Spivak)

Screening theory and the diploma disease (see Dore)

Globalisation (see Tickly, Held, Lauder, Green et al)

Gender and development (see Unterhalter, Kabeer, Arnot, and Mac an Ghail) Social reproduction theory (see Bourdieu, Carnoy)

The vocational school fallacy (see Foster)

Social capital (see Putnam, Coleman, Fine)

The group presentation and final essay are intended to give you an opportunity to read widely in a number of different disciplinary areas and reflect critically from an original standpoint on the debates concerning policy and practice in education and international development.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

Education and international development: an introduction edited by Tristan McCowan and Elaine Unterhalter

Grading Goal Four edited by Antonia Wulff

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/15 14:04:26

**科目名/Subject : 教育アセスメント特論 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 有本 昌弘**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

「イノベティブな学習環境」: 定義、枠組み、文化的文脈からの読み直し

The 'innovative learning environment': definitions, frameworks, and cultural and social contexts.

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

激変する世界と人口減少の地方の諸課題の中で震災後のパイロット校ともコラボを進めつつ、システム思考を進めてきた海外の学校から学ぶ。「各人は所詮お互い分かり合えず、学習者は伝えられる以上のことを知って」おり、アセスメントを積み重ねることが、生徒や学生が未来の概念に格闘できるカリキュラムを創造できるという前提からスタートする。学校教育のみならず、良き市民、近年の職場学習における「学び」を、アセスメントとエヴァリュエーションの枠組みの下、豊かな概念から、21 世紀型のコンピテンシーとその測り方について、学習者・教師・コンテンツ・リソース・構成要素の組織を通じて吟味・検討する。様々な学問分野（太陽光、機械、生物や生体、水資源・生態、社会経済）でみられるシステム思考の方法論を（教科）教育学に導入し、教科を重視し、教科を超える知識を、STEAM として新たな知育の可能性を探る。とともに、日本の社会文化の中での独自の組織の中での学びを、日本語の文化的なコードワードによって、解明していく。これを過去のデータを再分析する中で行う。

In the midst of a rapidly changing world and the challenges of a declining local population, we learned from an overseas school that has been promoting systems thinking while collaborating with a pilot school after the earthquake. It starts from the premise that "people don't understand each other, and learners know more than they can tell", and that a series of assessments can create a curriculum that allows students and academics to grapple with the concepts of the future. Learning, not only in schools, but also in good citizenship and, more recently, in the workplace, will be examined through a rich conceptual framework of assessment and evaluation of 21st century competencies and their measurement through the organization of learners, teachers, content, resources, and components. Introduce systems thinking methodologies found in various disciplines (solar, mechanics, biology, water resources and ecology, socio-economics) into (subject) pedagogy to explore the possibility of a new kind of intellectual education, STEAM, that emphasizes subject matter and knowledge beyond subject matter. At the same time, the Japanese cultural code words will be used to clarify learning in the unique organization of the Japanese social culture. This will be done by re-analyzing past data.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

アセスメントの成果・プロセス・文脈についての枠組みをアングロサクソンはじめ他の国々から学び、教育アセスメントとイノベーションに関して、教員の信念やアイデンティティ含めた比較研究、ルーブリックやコーディングなどアセスメントツールの開発の適用それ自体の検討を行う力を身につける。

To learn the framework of assessment outcomes, processes, and contexts from Anglo-Saxon and other countries, to carry out comparative research on educational assessment and innovation, including teachers' beliefs and identities, and to examine the application of assessment tool development, such as rubrics and coding. To acquire the skills to apply the development of assessment.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回 講義のアウトライン、21 世紀型コンピテンシーの説明とクライテリアの共有

第2回 ミニパフォーマンス課題と文脈・プロセスの共有（第1回）

第3回 定義

第4回 " ILE 関連文献の購読

第5回 枠組みの文化的文脈からの読み直し

第6回 " 学習者・教師・コンテンツ・リソース・構成要素の組織の日本型への読み替え

第7回 " 過去の学習理論と（行動主義、認知主義、社会構成主義、社会文化理論）

第8回 " 日本の学校の「授業研究」実践

第9回 " 社会実在論による社会構成主義批判

第10回 "

第11回 " 文化・歴史的活動理論の検討

第12回 " 日本の文化的スクリプトからのアプローチ

第13回 "

第14回 ミニパフォーマンス課題と文脈・プロセスの共有（第2回）

第15回 レポート提出とまとめ

1st Lecture outline, explanation of 21st century competencies and sharing of criteria

2nd Mini performance task and sharing context and process (1st)

3 Definitions

4 Subscribe to ILE related literature.

5 Rereading the framework in its cultural context

- 6 Rereading the learner-teacher-content-resource-component organization into the Japanese model.
7. Past learning theories and (behaviorism, cognitivism, social constructivism, social and cultural theories)
8. "Classroom research" practices in Japanese schools
- 9 Critique of social constructivism through social realism

Part 10 Culture and culture

11. Review of social and historical activity theory
12. Approach from Japanese cultural scripts

Part 13 Social and cultural history

- 14 Mini-performance task and sharing context and process (2nd)
- 15 Submission of report and summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

無断欠席は2回までとする。パフォーマンス課題を複数回に分けたミニタスクによるレポート提出 (40%)、ルーブリック (採点指標) によるセルフ・ピアアセスメント (40%)、ポートフォリオの選択 (20%)とするが、これについては、意味のあるクライテリア (尺度や物差し) を受講生と探し、共有することに努める。

No more than two trespasses will be allowed. Performance tasks will consist of multiple mini-tasks (40%), self- and peer-assessment using rubrics (40%), and portfolio selection (20%), with an effort to find and share meaningful criteria (scales and measures) with students. We will try to find and share meaningful criteria with the students.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

必要な資料は、配布する。

Necessary materials will be distributed.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

BYOD により Trello を用いて文献 (書籍と論文) を指定し、関連文献等を探し出し、時間外学習の課題レポート作成を、時間外学修をより深めるミニパフォーマンス課題により行う。

データの再分析の時間を、講義のコマ数にカウントする。

Using Trello by BYOD, students will specify literature (books and articles), find related literature, etc., and write a report on the overtime learning assignment by means of a mini-performance assignment that deepens the overtime learning.

The time for re-analysis of data will be counted in the number of lecture sessions.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○ JICA ベトナム派遣教育専門家、アフリカ・中南米 (南アフリカ、ガーナ; ボリビア、ペルー) 派遣教員向け講義

Lecture for education experts dispatched by JICA Vietnam and teachers dispatched from Africa and Latin America (South Africa, Ghana; Bolivia, Peru)

9. その他/In addition :

(Google クラウドルーム対応)

① クラスコード

eqh5u7r

② 第一回授業の開始時期

- ・ 第一回目の授業は 4 月 19 日 (月) 18:00 から実施

③ 授業の実施方法

- ・ 授業は Google Meet を使用し行う予定
- ・ 受講希望者は 4 月 19 日 (月) 正午までに有本まで DC メールにて連絡をするように (m.a@tohoku.ac.jp)。26 日 (月)

も繰り返す。

④ 関連資料の入手方法

- ・ 授業の資料については、授業開始前までに共有ドライブにアップロード予定 (受講希望者を招待する)。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・ オンライン授業への参加が困難な学生については、4 月 19 日 (月) 正午までに有本まで DC メールにて連絡をするように (m.a@tohoku.ac.jp)。26 日 (月) も繰り返す。

(Google Classroom support)

Class Code

eqh5u7r

The first class will start at 18:00 on Monday, April 19.

The first class will be held from 6:00 p.m. on Monday, April 19.

The first class will be held from 6:00 p.m. on Monday, April 19.

The first class will be held on Monday, April 19, from 6:00 p.m. ・Classes will be held using Google Meet

The class will be held using Google Meet.

(4) How to obtain related materials

The materials for the class will be uploaded to the shared drive before the class starts (those who wish to attend will be invited).

(5) Measures for students who have difficulty in participating in online classes

For students who have difficulty participating in the online class, please contact Arimoto via DC email by noon

on Monday, April 19 (m.a@tohoku.ac.jp). Repeat on Monday, April 26.

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/06 15:23:41



**科目名/Subject : 教育アセスメント特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 松林 優一郎**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

自然言語処理学入門

Introduction to Natural Language Processing

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

人間によって生み出されるテキストは、その知的活動の表出と見ることができる。テキストをデータ解析することによる教育アセスメントの試みは、小論文問題等、試験問題の自動採点を代表として近年盛んに研究されている。本特論では、テキストデータ解析に必要な自然言語処理の基礎知識を学ぶ。

Texts produced by humans can be viewed as the manifestation of their intellectual activity. Attempts at educational assessment by analyzing text data have been actively studied in recent years, as represented by automatic scoring of exam including essay scoring. In this course, students learn basic knowledge of natural language processing necessary for text data analysis.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

形態素解析、構文解析、意味解析、言語知識獲得など、自然言語処理の様々な基盤技術を幅広く理解する

The goal of this course is to understand fundamental technologies in natural language processing including part-of-speech tagging, syntactic parsing, semantic parsing, and lexical knowledge acquisition.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

授業実施方法

BCP Level 1 and 2

- Google Classroom class code : 4xhf5d2
- 第一回授業の開始時期 : 講義カレンダーの第 1 週目に従う  
Course starts with the 1st week on the academic calendar
- 関連資料の入手方法 : Classroom を通して配布  
Materials are provided through Google classroom
- オンライン授業 (の場合) の対応が困難な学生への対応策 : 事前の申し出により相談  
If you are not comfortable with online lecture, please contact the instructors in advance
- 対面授業 (の場合) の対応が困難な学生への対応策 : 事前の申し出によりハイブリッド授業対応  
If you are not comfortable with face-to-face lecture, please contact the instructors in advance

For BCP Level 1

- 授業の実施方法 : 第 3 回より対面授業  
We start face-to-face lecture from lecture 3.

For BCP Level 2

- 授業の実施方法 : オンライン  
Online lecture

第 1 回 自然言語処理概説

第 2 回 分類問題の学習

第 3 回 品詞解析

第 4 回 プログラミング演習

第 5 回 プログラミング演習

第 6 回 構文解析 (1)

第 7 回 構文解析 (2)

第 8 回 意味解析

第 9 回 単語埋め込み

第 10 回 Feedforward ニューラルネットワーク

第 11 回 文構造のためのニューラルネットワーク

第 12 回 プログラミング演習

第 13 回 機械翻訳

第 14 回 質問応答

## 第15回 自動採点

Lecture 1 Introduction to natural language processing  
Lecture 2 Learning on classification problem  
Lecture 3 Part-of-speech tagging  
Lecture 4 Programming Exercise  
Lecture 5 Programming Exercise  
Lecture 6 Syntactic parsing 1  
Lecture 7 Syntactic parsing 2  
Lecture 8 Semantic parsing  
Lecture 9 Word embeddings  
Lecture 10 Feedforward neural networks  
Lecture 11 Neural networks for sentence structure  
Lecture 12 Programming Exercise  
Lecture 13 Machine translation  
Lecture 14 Question answering  
Lecture 15 Automatic answer scoring

### 5. 成績評価方法/Evaluation method :

適宜行う小レポート (50%) + 最終レポート (50%)

Several assignments (50%) + Final project (50%)

### 6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義毎に適宜資料を配布する。

[参考書] (購入は必須ではありません)

Materials will be distributed as needed for each lecture.

[Reference book] (Purchase is not required)

Daniel Jurafsky & James H. Martin. Speech and Language Processing, Second Edition. Pearson, 2009.

Christopher D. Manning and Hinrich Schütze. Foundations of Statistical Natural Language Processing. The MIT Press, Cambridge, Massachusetts, 1999.

Christopher D. Manning, Hinrich Schutze 著. 加藤 恒昭, 菊井 玄一郎, 林 良彦, 森 辰則 訳. 統計的自然言語処理の基礎, 共立出版, 2017.

黒橋, 柴田『自然言語処理概論』, サイエンス社, 2016.

### 7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

適宜小レポートの提出を求める

Students need to submit three to four assignments.

### 8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

### 9. その他/In addition :

(Google クラスルーム対応)

クラスコード : 4xhf5d2

コロナ対応により、教室変更等、重要な連絡をすることがあるので、Google クラスルームによる連絡の確認を随時行うこと。

### 10. 更新日付/Last Update :

2021/03/12 13:10:44

**科目名/Subject : 教育アセスメント特論Ⅲ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 熊谷 龍一 / 松林 優一郎 / 佐藤 智子 / 柴山 直 / 有本 昌弘**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育評価・測定論研究の実際 (1)

Research of Educational Assessment and Measurement I

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育評価論や教育測定論に関する論文や実践を共同で検討するとともに、各自の関心に基づいた研究を遂行し、進捗状況に応じた指導を受けることを目的とする。

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed for research activity. Students collaboratively discuss about academic articles and practical studies in the field of educational assessment and measurement and tackle some research topics based on individual interests. Staffs in charge support you and give you professional advice and guidance depending on the state of the progress.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 各自の関心を教育的・社会的意義のある研究テーマとして構築できる。
2. 各自の研究テーマに関する先行研究を的確に把握し、批判できる。
3. 各自の研究テーマに沿った研究を遂行できる。

After taking this course, you will be able to:

1. construct meaningful research project proposals based on your interests,
2. exhaustively survey related work on your target research topic, and understand or criticize them,
3. perform high-quality research on the selected topic.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. 各自の関心の発表と研究テーマ化に向けた指導 (3 回)
  2. 各自の研究テーマに関する先行研究のレビューと共同討議 (10 回)
  3. 各自の研究テーマに沿った研究計画の作成・指導 (2 回)
1. Presentation of each student's interest and guidance for developing a research theme (3 sessions)
  2. Review of previous research and joint discussion on your research theme (10 sessions)
  3. Preparation of a research plan and guidance on the research theme (2 sessions)

**授業実施方法****BCP レベル 1、2 共通**

- ・Google Classroom のクラスコード :
- ・第一回授業の開始時期 : 講義カレンダーに従う
- ・関連資料の入手方法 : Classroom を通して配布
- ・オンライン授業 (の場合) の対応が困難な学生への対応策 : 事前の申し出により相談
- ・対面授業 (の場合) の対応が困難な学生への対応策 : 事前の申し出によりハイブリッド対応

**BCP レベル 1 の場合**

- ・授業の実施方法 : 原則オンライン、状況に応じて対面とのハイブリッド

**BCP レベル 2 の場合**

- ・授業の実施方法 : オンライン

**BCP Level 1 and 2**

- ・Google Classroom class code : kb7upwz
- ・第一回授業の開始時期 : 講義カレンダーの第 1 週目に従う  
Course starts based on the academic calendar
- ・関連資料の入手方法 : Classroom を通して配布  
Materials are provided through Google classroom
- ・オンライン授業 (の場合) の対応が困難な学生への対応策 : 事前の申し出により相談  
If you are not comfortable with online lecture, please contact the instructors in advance
- ・対面授業 (の場合) の対応が困難な学生への対応策 : 事前の申し出によりハイブリッド授業対応  
If you are not comfortable with face-to-face lecture, please contact the instructors in advance

For BCP Level 1

- ・授業の実施方法：原則オンライン、状況に応じて対面とのハイブリッド

The course will be conducted online and will be switched to hybrid style depending on the situation.

For BCP Level 2

- ・授業の実施方法：オンライン

Online lecture

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表・レビュー（70%）、討議への参加（30%）

Presentation and review (70%), participation in discussion (30%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

講義中に適宜指示する。

Instructions will be given during the lecture.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

先行研究の探索・整理, レビューの執筆, 発表資料の作成

Searching and organizing previous research, writing reviews, and preparing presentation materials

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

クラスコード : kb7upwz

コロナ対応により、教室変更等、重要な連絡をすることがあるので、Google クラスルームによる連絡の確認を随時行うこと。

教育情報アセスメントコースの教育評価測定論領域に所属する院生は、すでに受講済みの学生であっても、各自の研究を相対化し知見を広げる機会となるので、原則参加すること。

We may make important announcements such as classroom changes due to corona, so be sure to check the Google Classroom as needed.

In principle, graduate students belonging to the Educational Evaluation and Measurement Theory area of the Educational Information and Assessment Course should participate in this course, even if they have already taken the course, because it will provide them with an opportunity to relativize their research and expand their knowledge.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/10 11:19:42

**科目名/Subject : 教育測定学特論 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 柴山 直**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

ベイズ統計の理論と方補

Theory and Method of Bayes Statistics

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

ベイズ統計の原理を理解する

The aim of this exercise is to understand theory and method of Bayesian inference.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

ベイズ統計の手法を教育データに適用できるようになる。

After taking this course, you will be able to apply the Bayesian statistics to the analysis of educational data.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

進行予定 :

第1回 はじめに

第2-3回 ベイズ推測について

第4-5回 基礎概念

第6-7回 正則理論

第8-9回 一般理論

第10-11回 事後分布の実現

第12-13回ベイズ統計学の諸問題

第14-15回 初等確率論の基礎

Schedule :

1 Intoroduction

2-3 Nature of Bayesian inference

4-5 Fundamentals of Bayesian inference

6-7 Standard normal theory inference problems

8-9 Situations where the assumption of Normality is relaxed

10-11 Bayesian computation of the posterior distribution

12-13 Fundamentals of Bayesian data analysis

14-15 An elementary introduction to the theory of probability

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

毎回課す報告に対する評価の合計点

100% for submitted assignments

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書 :

渡辺澄夫 (2012) ベイズ統計の理論と方法, コロナ社

<https://www.coronasha.co.jp/np/isbn/9784339024623/>

各自購入のこと

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :****8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

Google Classroom のクラスコード : svm5vav

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/11 15:34:58

**科目名/Subject : 教育測定学特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 火曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 熊谷 龍一**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

テスト理論の基礎と分析手法

Basic concept and analysis methods of test theory

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育測定・評価の中で必須となる、テスト理論について基礎理論から、統計ソフトを利用した実際のテストデータの分析までを学ぶ。テスト理論では、例えば  $\Sigma$  計算などの数学的知識が必要となるが、これについても学習を行なう。

This course deals with the basic concept of test theory, methods of test data analysis using computer program and basic knowledge about mathematics.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. テスト理論の基礎を習得し、それをテストデータの分析に用いることができる。
2. テストデータの分析およびその解釈を適切に行うことができる。
3. データ分析から得られた指標を正しく読み取り、教育評価に生かすことができる。

The goals of this course are to

1. be able to recognize and apply the basic concept of test theory to test data analysis,
2. be able to evaluate and judge the result of test data analysis appropriately,
3. be able to read the result of analysis, apply it to educational assessment.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

(Google クラウド対応)

以下、BCP レベル 1, 2 とともに共通

① クラスコード : 3nxeab

② 第一回授業の開始時期 : 4 月 13 日 (火) 10 : 30

③ 授業の実施方法

- ・授業は Google Meet を用いた双方向授業
- ・BCP レベルおよびコロナ対応の状況により対面実施に移行する可能性もある

④ 関連資料の入手方法

- ・関連資料については Google Classroom にて共有予定。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・オンライン授業への参加が困難な学生については 4 月 12 日 (月) 正午までに熊谷まで DC メールにて連絡をすること (ryuichi@tohoku.ac.jp)。

第 1 回 : オリエンテーション (授業全体の概要把握)

第 2 回 : テスト法について

第 3 回 : テスト理論に必要な数学的知識 (1) : 平均, 分散, 標準偏差

第 4 回 : テスト理論に必要な数学的知識 (2) : 共分散, 相関係数

第 5 回 : 項目分析

第 6 回 : 相関係数

第 7 回 : 古典的テスト理論 : 基本モデルと測定精度

第 8 回 : 古典的テスト理論 : 信頼性係数 (1) 推定方法について

第 9 回 : 古典的テスト理論 : 信頼性係数 (2) 実際のテストにおける信頼性係数

第 10 回 : 古典的テスト理論 : 信頼性係数 (3) クロンバックの  $\alpha$  係数の導出

第 11 回 : 古典的テスト理論 : 妥当性

第 12 回 : テスト得点の標準化

第 13 回 : テスト得点の等化

第 14 回 : 項目反応理論の基礎

第 15 回 : 項目反応理論の応用

Contents:

1. Orientation
2. Introduction of Testing
3. Basic Statistical Concepts (1)
4. Basic Statistical Concepts (2)
5. Item Analysis
6. Correlations

7. Classical Test Theory (Principles of CTT)
8. Classical Test Theory (Reliability 1)
9. Classical Test Theory (Reliability 2)
10. Classical Test Theory (Reliability 3)
11. Classical Test Theory (Validity)
12. Standardization
13. Equating
14. Item Response Theory 1
15. Item Response Theory 2

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への参加度（発言、質問等，50%），適宜行う小レポート＋最終レポート（50%）

Class attendance and attitude in class: 50%

Short reports and final report: 50%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

熊谷龍一・荘島宏二郎（2015）教育心理学のための統計学．誠信書房．

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

コロナ対応により，教室変更等，重要な連絡をすることがあるので，Google クラスルームによる連絡の確認を随時行うこと。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/10 11:21:05

**科目名/Subject : 教育情報学基礎論特論 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 渡部 信一**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

AI 時代の教師・授業・生きる力

Teachers, classes, and power to live in the age of AI

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

AI 時代の教師・授業・生きる力を自分なりに考え、その点について他の人と議論する。

これからの AI 時代における教育や学校のあり方を検討する。

教科書を読みまとめ、みんなと議論し、それを元に自分の考えをまとめ直すという作業を行う。

Think about teachers, classes, and the power to live in the AI era, and discuss that with other people.

We will consider the ideal way of education and schools in the future AI era.

Read the textbook, discuss it with everyone, and reorganize your thoughts based on it.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

人工知能の学習についての専門的な知識を習得し、AI 時代の教師・授業・生きる力を理解する。

Acquire specialized knowledge about learning artificial intelligence and understand teachers, classes, and the power to live in the AI era.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 1 AI 時代、「教育現場」はどう変わるのか？
- 2 AI 時代の「教師」を探る
- 4 Web を活用した「教師研修システム」の構築
- 5 AI 時代の「教員研修」のあり方とは？
- 6 AI 時代の「授業」を探る
- 7 AI 時代の「国語」「社会」
- 8 AI 時代の「数学」「理科」
- 9 AI 時代の「プログラミング教育」
- 10 AI 時代の「教科教育」はどこへ向かうのか？
- 11 AI 時代の「生きる力」を探る
- 12 「便利な AI 時代」を生きぬく力とは？
- 13 AI 時代の音楽教育と「生きる力」
- 14 AI 時代の「生きる力」をどのように育成するか？
- 15 AI 時代の「教育現場」を探る

(BCP レベル 1 であっても 2 であっても)、基本的に「オンライン」で行う。

- 1 Orientation
- 2 Construction of a "teacher training system" utilizing the Web
- 3 What is the ideal way of "teacher training" in the AI era?
- 4 Discussion
- 5 "language" and "society" in the AI era
- 6 "Mathematics" and "Science" in the AI era
- 7 "Programming education" in the AI era
- 8 Discussion
- 9 What is the power to survive in the "convenient AI era"?
- 10 Music education and "zest for life" in the AI era
- 11 Discussion
- 12 Exploring the "education site" in the AI era
- 13-14 Change the "education site" in the AI era
- 15 Summary

Basically done "online"

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

教科書を読みまとめる能力、みんなと議論する能力、そして自分の考えをまとめ直す能力を評価対象とする。



The ability to read and organize textbooks, to discuss with everyone, and to reorganize one's thoughts will be evaluated.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

渡部信一著『AI時代の教師・授業・生きる力』

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

教科書を読みまとめる作業は、授業時間外の学習で行う。

The work of reading and compiling textbooks is done during off-class learning.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

i7mtheh

② 第一回授業の開始時期

4月16日 第1回講義を配信する予定です。

③ 授業の実施方法

Meet を活用してライブ授業を行う

④ 関連資料の入手方法

Classroom にアップロード予定

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

メール等を活用し適時、対処する (watabe@tohoku.ac.jp)

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/28 10:21:25

**科目名/Subject : 教育情報学基礎論特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 熊井 正之**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

コミュニケーション研究法/Research Methods in Communication Studies

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

この授業では、コミュニケーションのモデルと理論を概観するとともに、コミュニケーション研究法を解説する。

/This course provides an overview of the models and theories of communication, and explanations of research methods in communication studies.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

この授業の目標は、(1)コミュニケーションの要素、目的、特性を理解し、自分なりに説明できるようになること、(2)コミュニケーション研究法を理解し、応用できるようになることである。

/

The goals of this course are to

(1) be able to understand and explain the elements, purposes, and characteristics of communication in their own words,

(2) be able to understand and apply research methods in communication studies.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. コミュニケーションとは

2. 意味とは

3-4. コミュニケーションの要素

5. コミュニケーションの類型

6. コミュニケーションの目的

7. コミュニケーションの特性

8-10. コミュニケーションの滞り

11-15. コミュニケーション研究法

/

1. Definition of communication

2. Meaning of meaning

3-4. Elements of communication

5. Types of communication

6. Purposes of communication

7. Characteristics of communication

8-10. Communication problems

11-15. Research methods in communication studies

・Google Classroom のコード : g53dljl

・第一回授業 : 4 月 15 日 (木曜) 13 時から。

・授業の実施方法 : BCP レベル 1、2 共通で、オンライン (ビデオ蓄積配信方式)。

・関連資料の入手方法 : 授業のビデオ・資料は Classroom で紹介。

・情報保障が必要等の理由によりオンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談。

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

複数のショートレポート (約 55%)、学期末レポート (約 30%)、授業への取り組み (約 15%)

/Short reports (about 55%), final report (about 30%), class participation (about 15%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

各回に配付する資料を教科書・参考書として用いる。

/ No textbooks will be used. References are handed out at every class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

課題に取り組むことを中心に、各回の配付資料を用いて復習すること。

/Students are required to make a thorough review each class using handouts, mainly by completing assignments.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

1) Google クラスルームコード : g53dljl

2) 欠席する場合には事前に申し出てください。

3) オフィスアワーは月曜 13 時から 16 時 10 分です。事前に e メール等でアポイントメントをとってください。

/

1) Google Classroom Code: g53dljl

2) If you have to absent from class, you must notify the lecturer in advance.

3) Office hours are from 13:00 to 16:10 on Mondays. Make an appointment in advance via e-mail or other means.

10. **更新日付/Last Update :**

2021/03/05 18:55:04

**科目名/Subject : 教育情報学基礎論特論Ⅲ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 佐藤 克美**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

ICT を活用した教育

Education using ICT

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

ICT を効果的に教育に活用するためには、技術の特性、またそれを利用した教材の特性を理解し用いることが求められる。そこで本講義では、現在 ICT 教材において、その中心をなしている映像教材を取り上げる。ICT 登場以前の視聴覚教材から最新の 3DCG 映像、バーチャルリアリティ等を活用した教育について具体例を取り上げながら学習し、それを通して映像教材の特性を理解するとともに実際に ICT 教材を作製する際に必要な基礎知識を学ぶ。

In order to use ICT effectively in education, it is necessary to understand and use the characteristics of technology and the characteristics of teaching materials. Therefore, this course focuses on the video teaching materials that are currently the center of ICT teaching materials. Students learn specific examples about education using audiovisual materials which are from before the emergence of ICT, to latest the 3DCG video, virtual reality, etc. Students will also understand the characteristics of video materials through them, and learn the basic knowledge which is necessary to actually create ICT materials.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・視聴覚教材、ICT を活用した教育手法とその効果を理解する
- ・映像教材の特性を理解し、教材作製に必要な基礎知識を理解する
- ・基礎的な映像教材を作製できるようになる

This purpose of this course is to help students better:

- ・Understand visual teaching materials, ICT-based educational methods and their effects
- ・Understand the characteristics of video teaching materials and the basic knowledge which is required for making teaching materials
- ・Be able to create basic video teaching materials

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 第1回 オリエンテーション 授業の概要と評価について
- 第2回 視聴覚機器を活用した教育 (1) 視聴覚機器とは
- 第3回 視聴覚機器を活用した教育 (2) 画像・映像・音声
- 第4回 コンピュータを活用した教育 (1) CAI
- 第5回 コンピュータを活用した教育 (2) マルチメディア
- 第6回 最近の ICT と教育 (1) 携帯端末の利用
- 第7回 最近の ICT と教育 (2) コンピュータグラフィックス (CG)
- 第8回 最近の ICT と教育 (3) バーチャルリアリティ
- 第9回 プログラミング的思考・プログラミング教育 (1)
- 第10回 プログラミング的思考・プログラミング教育 (2)
- 第11回 ICT を活用した教材のデザイン
- 第12回 映像を中心とした e-ラーニング教材に必要な要素
- 第13回 映像・画像の加工の技術 (1) 撮影
- 第14回 映像・画像の加工の技術 (2) 編集
- 第15回 講義のまとめ

- 1 introduction
- 2-3 Education using audiovisual equipment
- 4-5 Education using a computer
- 6-8 About ICT and education
- 9-10 Programming education
- 11 Educational design using ICT
- 12 e-learning and Video
- 13-14 How to edit videos
- 15 Summary

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業内の発言と数回課すレポート課題により総合的に評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance, participation in discussions, and reports.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義中に指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レポートの他に、課題を出すのでその課題に積極的に取り組む必要があります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

※受講生の興味関心に合わせ若干進度・内容を変更する可能性もある。

※ISTU での受講を希望する学生は担当に問い合わせてください。

Google クラスルームクラスコード  
gndmmmb

BCP レベル 1 以下の場合は、対面による講義を行います。

BCP レベル 2 以上の場合は、オンラインによる講義配信にします。

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/01 15:56:12

**科目名/Subject : 教育情報学応用論特論 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 1 講時**担当教員/Instructor :** 倉元 直樹**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

Advanced Lecture on Application Theories of Educational Informatics I

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

データを収集し、計量的方法を用いて分析するテクニックは、テーマによらず実証的研究の方法論的基礎である。言うまでもなく、教育現場において児童・生徒の学習成果の評価を行う際にも必須である。一方、教育評価に関わる技術を理論的に整然と学ぶ機会は多くはない。受講者の中には具体的なデータ解析手法や教育評価論の既習者もいるだろうが、単なるハウトゥや抽象的観念の集積では教育現場において適切な応用はできない。さらに、データ解析法を全く経験せずに進学してきた者にとっては、e-ラーニング、対面授業を問わず、本講義は将来の教育実践の大切な基礎となる方法論を学ぶ機会である。

/

The technique of collecting data and analyzing it using quantitative methods is the methodological basis of empirical research regardless of theme. Needless to say, it is also indispensable when evaluating the learning outcomes of children and students in the field of education. On the other hand, there are not many opportunities to learn techniques related to educational evaluation in a theoretically orderly manner. Some of the participants may have already learned specific data analysis methods and educational evaluation theory, but mere how-tos and accumulation of abstract ideas cannot be applied appropriately in the field of education. Furthermore, for those who have not experienced data analysis methods at all, this lecture is an opportunity to learn the methodology that will be an important basis for future educational practice, regardless of whether it is e-learning or face-to-face lessons.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

教育評価の基礎となる統計的方法の基礎的な概念を身につける。

/

Acquire the basic concept of statistical methods that are the basis of educational evaluation.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回 授業概要

第2回 教育評価と教育測定：目的と位置づけ

第3回 ヒストグラム・累積度数折線による教育評価の図的表現

第4回 教育評価の数値的表現1：数値による分布の要約（モーメント系）

第5回 教育評価の数値的表現2：数値による分布の要約（分位数系）

第6回 複数の教育評価結果の関係性

第7回 教育評価の構造と予測

第8回 教育測定の基礎理論と古典的テストモデル1 妥当性の定義と検証

第9回 教育測定の基礎理論と古典的テストモデル2 信頼性の定義と検証

第10回 初等統計学の数学的基礎1：確率

第11回 初等統計学の数学的基礎2：二項分布・正規分布

第12回 評価結果の一般化1：統計的仮説検定

第13回 評価結果の一般化2：期待値

第14回 評価結果の一般化3：標本平均の分布

第15回 教育評価のための統計手法各論1：2群の母集団平均値の差に関する検定

第16回 教育評価のための統計手法各論2：さまざまな検定

/

1. Class Outline

2. Educational Evaluation and Educational Measurement: Positioning as Purpose

3. Graphical expression of educational evaluation

4. Numerical Expression of Educational Evaluation 1

5. Numerical Expression of Educational Evaluation 2

6. Relationship between multiple educational evaluation results

7. Structure and Forecast

8. Basic Theory of Educational Measurement and Classical Test Model 1

9. Basic Theory of Educational Measurement and Classical Test Model 2

10. Mathematical Foundations of Elementary Statistics 1

11. Mathematical Foundations of Elementary Statistics 2

12. Statistical Hypothesis Test

13. Expected value

14. Distribution of Sample Mean

15. Statistical Method for Educational Evaluation 1

16. Statistical Method for Educational Evaluation 2

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

出席点 (40%程度), 課題提出状況 (課題成績) (30%程度), 期末テスト (30%程度)  
/

Attendance (40%), Assignment grades (30%), Final exam (30%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

[教科書]

なし (自作の授業ノート)

[参考書]

中村知靖, 松井仁, 前田忠彦共著, 2006 年, 心理統計法への招待, サイエンス社

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

8 回のレポートを課す予定。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

第 1 回で授業運営方針について説明する。

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

dcn14xt

②その他

・ 初回 (概要) ~ 第 3 回の授業は公開、それ以後は受講者のみ限定

・ ISTU によるオンデマンド方式も併用予定

・ 8 回出題するレポートはメールで送付のこと (厳守)

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 17:29:34

**科目名/Subject : 教育情報学応用論特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 火曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 宮本 友弘**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育評価のための基礎統計学 Basic statistics for educational evaluation

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教室による教育評価の基盤となる統計的方法の基礎的な概念及び教育調査によって得られる量的データを分析するために必要な基礎理論を学ぶ。統計的方法の考え方について、基本から理解し、把握する機会とする。前半を記述統計学、後半は推測統計学に当てる。統計的な分野に初めて触れる受講者、受講経験があっても理解が不十分と感じる受講者を主な対象とする。教育情報学応用論特論Ⅰと補完的な内容になるので、双方を受講することが望ましい。

Learn the basic concepts of the statistical method as the foundation of the educational evaluation in the classroom and the fundamental theory necessary for analyzing the quantitative data obtained by the educational survey. This lesson will be an opportunity to understand and grasp the concept of statistical methods from the basics. Content of the lesson consists of descriptive statistics in the first half and inference statistics in the second half. The main subjects of the class are those who first touched the statistics or those who feel that they are not well understood even if they have experience in taking statistics. Since it becomes complementary to “教育情報学応用論特論Ⅰ”, it is desirable to take both classes.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・教育評価の基礎となる統計的方法の基礎的な概念を身につける。

Students acquire the basic concepts of statistical methods that form the basis of educational evaluation.

- ・教育関係の各種データを読み解く技能を身に着ける。

Students acquire the skills to read and understand various data on education.

- ・教育者として、生徒を適切に評価する能力を身に着ける。

Students acquire the ability to appropriately evaluate students as educators.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回：教育評価と教育測定：目的と位置づけ

Educational evaluation and educational measurement: purpose and position

第2回：ヒストグラム・累積度数折線による教育評価の図的表現

Graphical representation of educational evaluation by histogram and cumulative frequency distribution curve

第3回：教育評価の数値的表現1：数値による分布の要約（モーメント系）

Numerical expression of educational evaluation 1: Summary of numerical distribution (moment system)

第4回：教育評価の数値的表現2：数値による分布の要約（分位数系）

Numerical expression of educational evaluation 2: Summary of numerical distribution (quantiles system)

第5回：複数の教育評価結果の関係性

Relationship between multiple educational evaluation results

第6回：教育評価の構造と予測

Structure and prediction of educational evaluation

第7回：初等統計学の数学的基礎1：確率

Mathematical Foundation of Elementary Statistics 1: Probability

第8回：初等統計学の数学的基礎2：二項分布・正規分布

Mathematical Foundation of Elementary Statistics 2: Binomial Distribution and Normal Distribution

第9回：評価結果の一般化1：統計的仮説検定

Generalization of evaluation results 1: Statistical hypothesis test

第10回：評価結果の一般化2：期待値

Generalization of evaluation results 2: expected value

第11回：評価結果の一般化3：標本平均の分布

Generalization of evaluation results 3: distribution of sample mean

第12回：教育評価のための統計手法各論1：2群の母集団平均値の差に関する検定

Statistical Methodology for Educational Evaluation 1: Testing for the Difference Between the Mean Values of Two Groups

第13回：教育評価のための統計手法各論2：信頼区間と効果量

Statistical Methodology for Educational Evaluation 2: Confidence interval and effect size

第14回：教育評価のための統計手法各論3：さまざまな検定

Statistical Methodology for Educational Evaluation 3: Various tests

第15回：教育評価のための統計手法各論4：分散分析と線形計画法の基礎

Statistical Methodology for Educational Evaluation 4: Fundamentals of analysis of variance and linear programming

定期試験

The final examination



**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

講義の態度・発言 (40%程度), 課題提出状況 (課題成績) (30%程度), 定期試験 (30%程度)

Presentation and class participation (about 40%), submitted assignments (including the grade) (about 30%), the final examination (about 30%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書は指定しない。毎回の授業で自作資料を配布。

No textbook is specified. Hand-made materials are distributed at each class.

参考書は授業中に示す。

Reference books will be shown during class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

毎回の講義内容の予習・復習

Preparation / review of each class

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

統計ソフトによるデータ分析の演習を行う。

Practice data analysis with statistical software.

(Google クラスルーム対応)

クラスコード cfw2mok

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 14:09:27

**科目名/Subject : 教育情報学応用論特論Ⅲ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 水曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 佐藤 智子**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

社会構成主義の学習理論

Learning Concepts of Socio-Constructivism

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育や学習の効果・成果をどう評価するかは、社会や文化の特質によって多様である。その多様性の前提としては、教育や学習とはどのようなものか、その過程や結果をいかに理解し、どう概念化するかについての理論的な変遷や蓄積がある。現代の教育カリキュラムの重点が知識習得から能力形成へと移行する中で、「何を学ぶか」のみならず「どのように学ぶか」が焦点化されるようになってきている。教育実践の中でも、個人学習より協働学習がより重視される状況になっており、間主観的な協働学習の過程をどう概念化し、それをどのように具体的に評価していくのかが、喫緊の学術的・実践的課題となっている。

そこでこの授業では、昨今のカリキュラム・デザインや教育政策の基盤を成す学習理論となっている構成主義、特に社会構成主義の考え方・理論を基礎から理解することを目指す。

How to evaluate the effects and results of education and learning depends on the nature of society and culture. As a premise of its diversity, there are theoretical accumulation and transition on what learning is and how its process and results are, and how to conceptualize it.

Not only "what to learn" but also "how to learn" is being focused, as the emphasis of modern education curriculum shifts from knowledge acquisition to skill formation. In educational practice, collaborative learning is becoming more focused than individual learning,

In this class, we aim to deeply understand some learning concepts of socio-constitutionism, which forms the foundation of today's curriculum design and educational policy.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- 1) 社会構成主義の学習理論を概観し、それぞれの論者の考え方を理解する。
- 2) 社会構成主義の考え方の本質を熟考し、様々な形態や方法による多様な学習をどう理解し概念化すべきかについて、自らの考えを深化させる。
- 3) 授業への積極的な参加を通して、学習に関する多様な考えや価値観を理解・受容し、討議や対話に参画するために必要な能力を醸成・向上させる。

1) Outline learning concepts of socio-constructivism and understand each viewpoint of thinkers.

2) Ponder the essence of the idea of socio-constructivism and deepen your thought on how to conceptualize diverse learning.

3) Understand and accept diverse ideas and values of learning through active participation in classes, then to foster and improve generic abilities to facilitate discussion and dialogue.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

この授業では、社会構成主義の考え方を理解する上での必読書を取り上げ、輪読形式により各論者の基本理論を理解する。取り上げる図書は、受講生の研究関心等によって決定する。

授業は、一方向的な講義ではなく、共創と対話を基本とするワークショップ形式とし、受講者には積極的な参加（発言と傾聴）を期待する。毎回の課題として、授業の記録を作成し、ふり返り（リフレクティブ・ジャーナルの作成など）を行うことを基本とする。

取り上げる文献の著者（候補）は以下の通りである（但し、受講生と相談の上で最終決定する）。

1. デューイ『経験と学習』・『公衆とその諸問題』・『民主主義と教育』

2. ヴィゴツキー『思考と言語』

3. その他（受講生からの希望に応じて）

など

In this class, we will take up some books that are essential for understanding the concept of social constructivism and read them to understand the basic theories of each theorist more deeply. The book to read will be determined by the research interests of the students.

The class will take the form of a workshop based on co-creation and dialogue, rather than a one-way lecture, and students will be expected to actively participate (speak and listen). Students will be expected to actively participate (speak and listen). Each session will be assigned a record of the class and a reflective journal.

The following is a list of potential authors of the literature to be discussed (to be finalized in consultation with the students).

1. J. Dewey, The School and Society (1899), Experience and Education (1938), The Public and Its Problems (1927), Democracy and Education (1916).

2. L. Vygotsky, Thought and Language (1934).

3. Others, if there are a request from participants

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への積極的参加 (50%)

毎回の小レポート (授業記録とリフレクションレポート) (50%)

Class participation (homework and active participation) (50%)

Discussion essay (50%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

必要に応じて、適宜紹介する。また各自で関連文献を探索して予習・復習することを期待する。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

指定文献を事前に熟読し、各自が論点をまとめてくる。

毎回の授業について、授業記録 (授業内容の要約) とリフレクション・レポート (ふり返り) に取り組んでもらうことにより、学修の定着と思考の深化を図る。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

問い合わせ・相談がある場合には、下記まで連絡してください。

メールアドレス : sato-t@tohoku.ac.jp

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード o5ok7lq

② 第1回授業の開始時期

受講生が確定したら、改めて日程調整を行います。

③ 授業の実施方法

・ 授業は Google Meet を使用し実施。

・ 受講希望者は4月12日 (月) 正午までにDCメールにて連絡 (sato-t@tohoku.ac.jp)

④ 関連資料の入手方法

・ Google Classroom を使用。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・ 受講希望でオンライン授業への対応が困難な場合も、4月12日 (月) 正午までにDCメールにて連絡 (sato-t@tohoku.ac.jp)

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/20 22:46:10

**科目名/Subject : 教育情報学実践論特論 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 小嶋 秀樹**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

人間科学と認知工学の多様な接続の探究

Explorative integration of human sciences and cognitive engineering

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育・療育の先端的な研究に従事するには、人間の身体・脳・認知に関して、認知工学的な視点から理解するスタンスが求められる。この要請に対して学際的なアプローチをとる本講義は、人間に関する諸科学（脳科学・認知心理学・発達心理学・進化心理学など）を縦糸とし、担当教員が専門とする認知発達ロボティクスという工学的な視点を横糸として、それらが織りなす重層的な人間理解を解説していく。また、講義の後半では、このような学際的なアプローチの一例として、担当教員による一連の研究（ロボットを活用した自閉症療育支援）について詳説し、修士論文研究など今後の学修や研究に向けた見通し・動機づけを与える。

To engage in the cutting-edge research of education and therapy, students are required to cultivate a deep understanding of the human body, brain, and cognition from the viewpoint of cognitive engineering. In this interdisciplinary course of lectures, students learn to weave an integrated understanding of human nature from topics of cognitive developmental robotics research and the human sciences such as brain science, cognitive psychology, developmental psychology, and evolutionary psychology. In the final part of the course, students examine research on using robots for autism therapy that was done by the lecturer. Through these activities, students are expected to be able to foresee their future studies and research on the field.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・教育・養育の分野に関する人間の認知特性を工学的な視点から深く理解できる。
- ・未来の教育・療育の形をデザインし、技術的な実現可能性やその教育・療育における効果等について深く検討し、説明・表現することができる。
- ・人間理解とテクノロジーをつなげ、その後の学修・研究に向けた動機づけや、教育・療育における実践的な手法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。
- ・To be able to understand the fundamentals of human cognitive nature for future education and therapy from the viewpoint of cognitive engineering.
- ・To be able to design future forms of education and therapy, and to explain the expected effects of their technical feasibility and expected effects.
- ・To be able to have the perspective for producing innovative education and therapy in their future study and research.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回：イントロダクション：人間科学と認知工学

第2回：身体と脳：環世界とアフォーダンス

第3回：身体と脳：脳科学概論：脳の構造と機能

第4回：認知発達理論の諸相：個体学習から社会的学習へ

第5回：認知発達理論の諸相：活動理論とナチュラルペダゴジー

第6回：コミュニケーション発達：共同注意

第7回：コミュニケーション発達：心の理論

第8回：模倣と言語の発達：行為と意図の模倣

第9回：模倣と言語の発達：シンボルと文法の獲得

第10回：模倣と言語の発達：文化の創造と継承

第11回：自閉症の認知科学：自閉症の特徴

第12回：自閉症の認知科学：自閉症の認知スタイル

第13回：自閉症の認知科学：脳と認知の相対論

第14回：自閉症の認知科学：療育支援の実践

第15回：まとめ：人間科学と認知工学の融合に向けて

定期試験（レポート）

（上記の予定は変更となることがあります。）

Part 1: Introduction: Human cognitive sciences

Part 2: Body and brain: Umwelt and affordances

Part 3: Body and brain: Brain structure and functions

Part 4: Cognitive development: Towards social learning theories

Part 5: Cognitive development: Activity theory and natural pedagogy

Part 6: Development of communication: Joint attention

Part 7: Development of communication: Theory of mind

Part 8: Imitation and language: Emulation and imitation

Part 9: Imitation and language: Symbol and grammar acquisition  
Part 10: Imitation and language: Cultural transmission and creation  
Part 11: Autism studies: Autism spectrum disorder  
Part 12: Autism studies: Cognitive styles  
Part 13: Autism studies: Relativity theory of brains and cognition  
Part 14: Autism studies: Therapeutic applications  
Part 15: Wrap-up: Towards an integrative theory of human cognition  
Final Essay

(The course plan above is subject to change.)

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業時間内で随時行う小テスト (計 50%) と最終レポート「人間の認知特性をふまえた研究構想」(50%) を総合して評価する。

Grade evaluation will be made by putting outcomes of the minute-papers (50%) and of the final essay (50%) together.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特になし。必要に応じて配布する。

None in particular. Provided from the course, if necessary.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

第 2 回目以降では、事前に前回の講義について自主レビューしておくこと。

Individually review what you have learned in the previous lecture before the succeeding lecture.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

クラスコード iaho2kr

初回は 4/15 (木) 14:30 にオンラインで実施する。クラスルームの Meet から参加すること。

2 回目以降の予定については、初回「イントロダクション」の授業内で周知する。

4/29 (昭和の日) と 7/22 (海の日) にも授業があるので注意すること。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 17:19:58

**科目名/Subject : 教育情報学実践論特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 1 講時. 後期 木曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 中島 平**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育情報学実践論特論Ⅱ

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教えること、学ぶことの双方において、自他の認知スタイルの違いを理解して実践に活かすことは、モチベーション及び学習成果を高めるために大変重要である。この授業ではパーソナリティタイプの観点から、より深い自己理解・他者理解を身につけ、実際の教え・学ぶ場面における活用を通して、応用できるようにする。授業は、特別な理由がない限り対面により行う。

In both teaching and learning, it is very important to understand the differences in cognitive styles of oneself and others and to apply them in practice in order to enhance motivation and learning outcomes. In this class, we will learn to understand ourselves and others more deeply from the perspective of personality types, and apply this understanding to actual teaching and learning situations. The class will be conducted face-to-face unless there is a special reason not to.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・ パーソナリティタイプとは何かを説明できる
- ・ 自分自身のパーソナリティタイプを事例を挙げながら説明できる
- ・ 教え・学ぶ状況において、認知スタイルの違いがもたらす視点の歪みの例を挙げられる
- ・ 自らの認知スタイルを活かした学習方法を1つ提案し、実践の結果を述べられる
- ・ To be able to explain what a personality type is.
- ・ To be able to explain one's own personality type with examples.
- ・ To be able to give examples of how differences in cognitive styles can distort perspectives in teaching and learning situations
- ・ Propose a learning method that utilizes one's own cognitive style and describe the results of practice.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. オリエンテーション／自己紹介
2. パーソナリティタイプの理論 1
3. パーソナリティタイプの理論 2
4. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(感覚-直観 1)
5. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(感覚-直観 2)
6. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(外向-内向 1)
7. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(外向-内向 2)
8. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(感情-思考 1)
9. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(感情-思考 2)
10. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(判断-知覚)
11. タイプダイナミクス
12. パーソナリティタイプと学習 1
13. 自らのタイプに合った学習方法を考える
14. 学習の実践と振り返り
15. 授業全体の振り返り
1. Orientation / Self-introduction
2. Theory of Personality Types 1
3. Theory of Personality Types 2
4. Discovering Your Personality Type (Sensing-Intuition 1)
5. Discovering Your Own Personality Type (Sensing-Intuition 2)
6. Discovering Your Personality Type (Extravert-Introvert 1)
7. Discovering Your Personality Type (Extravert-Introvert 2)
8. Discovering Your Personality Type (Emotion-Thinking 1)
9. Discovering One's Personality Type (Emotion-Thinking 2)
10. Discovering One's Personality Type (Judging-Perceiving)
11. Type Dynamics
12. Personality Type and Learning 1
13. Thinking about the learning method that suits your type
14. Learning Practice and Reflection

15. Review of the entire class

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

1. ほぼ毎回の小レポート (20%)
2. 最終レポート (40%)
3. 授業内での種々の活動 (40%)

1. Short report almost every time (20%)
2. Final report (40%)
3. Various activities in the class (40%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

1. ほぼ毎回の小レポート
2. 最終レポート

1. Short report almost every time
2. Final report

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

Google Classroom のクラス コード: ivky663

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/25 09:40:26

**科目名/Subject : 教育心理学特論 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 工藤 与志文**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

学習科学からみた効果的な学習法・教授法

Effective learning and teaching methods from the perspective of learning science

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

この授業では、教育効果に関するメタ分析研究と学習科学の知見を統合した Hattie の著書を参考に、効果的な学習法・教授法についてどのようなエビデンスが得られているのか、検討し議論する。

This course deals with the evidence gained from previous learning studies on effective learning and teaching methods.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ①どのような学習方法や教育方法が効果的か知る。
- ②効果的な学習方法や教育方法についてどのようなエビデンスが得られているか知る。
- ③学習科学の知見との関連を理解する。

The goals of this course are to

- (1) Know what learning and teaching methods are effective.
- (2) Find out what evidence is available about effective learning and teaching methods.
- (3) Understand the relationship between effective learning and teaching methods and learning science.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. なぜ生徒は学校で学ぶことが好きでないのか？
  2. 知識は教えることの障壁になるのか？
  3. 教師と生徒の関係
  4. 教師としてのあなたの人柄
  5. 基礎的学習技能の自動化
  6. フィードバックの役割
  7. いかにして専門的スキルは開発されるか
  8. いかにして知識は獲得されるか
  9. いかにして知識は頭の中に蓄積されるか
  10. 認知負荷の影響
  11. 記憶力はどのようにしたら伸ばせるか
  12. 生徒の学習スタイルの分析
- 
1. Why don't students like learning at school?
  2. Is knowledge an obstacle to teaching?
  3. The teacher-student relationship
  4. Your personality as teacher
  5. Teaching for automaticity in basic academic skill
  6. The role of feedback
  7. Just how does expertise develop?
  8. How knowledge is acquired
  9. How knowledge stored in the mind
  10. The impact of cognitive load
  11. Your memory and how it develops
  12. Analysing your students' styles of learning

・Google Classroom のクラスコード : hwanw3q

・第 1 回授業の開始時期 : 4 月 15 日 (木) 4 限 : 14 : 40 ~

・授業の実施方法 : BCP レベル 2 の場合は Meet を用いた双方向授業。BCP レベル 1 の場合は対面授業も検討。

・関連資料の入手方法 : 授業用の資料は Classroom で紹介。

・オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

・対面授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

(kudou@sed. tohoku. ac. jp へ連絡のこと)

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

議論への参加度 50%、期末レポート 50% で評価する。



The degree of participation in discussion (50%), final report (50%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書

ジョン・ハッティ, グレゴリー・イエーツ著『教育効果を可視化する学習科学』 北大路書房

参考書

ジョン・ハッティ著『教育の効果 メタ分析による学力に影響を与える要因の効果の可視化』 図書文化

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

あらかじめ参考書および関連資料を読み、議論の準備をする。

The students are expected to read the reference books and related materials beforehand and prepare for the discussion.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

連絡先 : kudou@sed.tohoku.ac.jp

(Google クラスルーム対応)

クラスコード hwanw3q

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/03 17:35:43

**科目名/Subject : 教育心理学特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 1 講時**担当教員/Instructor :** 深谷 優子**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育心理学研究の諸問題

/Current topics in Educational Psychology

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育および関連する領域の心理学研究の諸問題および世界におけるそれらの研究動向について学ぶ。本授業では、日本国内外における教育心理学研究の各部門の研究動向について、主に英語で公刊された展望論文（査読付）を用いながら検討する。

/This course is to help students understand the current educational psychology research trends in Japan and other countries through intensive reading of meta-analytic papers and other narrative reviews.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・心理学研究の諸問題について学ぶ。
- ・展望論文のスタイルについて学ぶ。
- ・メタ分析の基礎的な知識を得る。

/The main purpose of this course is to help students deepen their understanding of the current research trends in educational psychology. Students also acquire basic knowledge of meta-analysis and review papers.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回 : 展望論文とは

第2回 -- 第5回 : メタ分析とは

第6回 -- 第14回 : 英語の展望論文の報告・討議

第15回 : まとめ と ふりかえり

/( 1) Styles of Review Papers

( 2) -- ( 5) Basics of Meta-Analysis

( 6) -- (14) Reports and Discussions of Review Papers written in English

(15) Review

**①クラスコード**

kxukisl

**②第一回授業の開始時期**

4月15日（木）1限：8：50～

**③授業の実施方法**

BCP レベル1, 2ともにMeetを用いた双方向授業を基本とする。詳細はClassroomで連絡する

**④関連資料の入手方法**

授業用の資料はClassroomで共有。一部資料については紙媒体で配布

**⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策**

個別に相談（4月12日までに yuko.fukaya.a7@tohoku.ac.jp へ連絡のこと）

**⑥その他****5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表および授業への参加・貢献（70%）、期末レポート（30%）により評価する。

/Students are evaluated on their in-class presentations and the level of participation(70%) and the term paper(30%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

Psychological Bulletin

山田剛史・井上俊哉 編 2012 メタ分析入門：心理・教育研究の系統的レビューのために 東京大学出版会

その他授業中に適宜参考書を紹介する。

/References and reading materials will be shared as needed.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

- ・査読付の英文の展望論文を読む。
- ・簡潔に発表できるよう、レジюме作成と発表準備を行う。

/The students are expected to read handouts and/or assigned review papers beforehand and to prepare presentations.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この授業は教育心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。/This course is for students whose research interests in Educational Psychology. Other psychology students are also welcomed.

(Google クラスルーム対応)

クラスコード

kxukisl

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/19 12:35:34

**科目名/Subject : 学習心理学特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 1 講時**担当教員/Instructor :** 深谷 優子**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

心理学研究の動向 1

/Current Educational Psychology Trends and Issues 1

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育および関連する領域の心理学研究の領域において、受講生が各自テーマを設定し、実証研究論文を読み進めていくことで研究動向および課題を把握する。展望論文の作成も行う。

/The aim of this course is to help students to review published papers based on their own research interests.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

各自の興味関心に基づき、日本国内外の心理学研究の実証研究論文（査読付）を 30 本以上読む。それらの研究論文を展望する論文を作成する。

/Goal of study is to enable students to write a narrative review through intensive reading of peer-reviewed papers.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第 1 回：心理学研究の諸問題とその動向について

第 2 回 ～ 第 3 回：テーマの決定および文献リストの作成

第 4 回 ～ 第 10 回：実証研究論文の報告および討議

第 11 回 ～ 第 15 回：展望論文の目次の作成および論文の執筆

/( 1) Current Educational Psychology Trends and Issues

( 2) -- ( 3) Choosing a topic &amp; Making reference list

( 4) -- (10) Reports and Discussions of Research Papers on the reference list

(11) -- (15) Overview of the Paper &amp; Organizing the Paper

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表および授業への参加・貢献 (60%), 期末レポート (40%) により評価する。

/Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(60%) and term paper(40%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

授業中に適宜参考書を紹介する。

/References and reading materials will be shared as needed.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

・設定したテーマと作成した文献リストに基づき、30 本以上の論文を読み展望論文を執筆する。

/Students are required to read more than 30 peer-reviewed papers to write a narrative review.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この授業は教育心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。

/This course is for students whose research interests in Educational Psychology. Other psychology students are also welcomed.

(Google クラウドルーム対応)

クラスコード hg1kfe

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/19 12:39:01

**科目名/Subject : 発達心理学特論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 水曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 神谷 哲司**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

現代日本における子育て家族の心理社会的問題とその支援

Psychosocial issues in and supports for child rearing family in contemporary Japan

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

少子化、育児不安・ストレスに、児童虐待・ネグレクト、夫婦共働きに保育所待機児童問題など、現代日本社会における子育て家族を取り巻く諸問題の現状とその歴史を概観することを通して、家族を心理学的に支援するとはどういうことかを考える。

The aim of this course is to help participants consider what family support is through an overview of the history of Japanese child rearing family and current issues, such as low-birth rate society, child rearing anxiety, child maltreatment, marital double-career and childcare waiting list in Japanese contemporary society.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

日本の子育て家族における現代的な論点とその支援に関する知識を得る。

Obtain basic knowledge about the contemporary psychological issues of Japanese child-rearing families and the family support.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. オリエンテーション：生涯発達と家族
2. 戦後日本の社会変動と家族の変遷 (1)：世帯変動から見た戦後の日本家族
3. 戦後日本の社会変動と家族の変遷 (2)：高度経済成長と女性のライフコースの多様化
4. 戦後日本の社会変動と家族の変遷 (3)：平成期の家族の矮小化と諸問題
5. 現代家族の諸問題(1)：少子化と児童虐待
6. 現代家族の諸問題(2)：育児ストレスと三歳児神話
7. 現代家族の諸問題(3)：父親の育児とイクメン、子どもの諸問題
8. 家族支援の視座(1)：家族システムと家族発達
9. 家族支援の視座(2)：ライフキャリアと生態学的アプローチ
10. 子どもの発達プロセスと家族
11. 育児期家族への移行と親発達
12. 夫婦サブシステムとコペアレンティング
13. 子どもの成長と親子関係の変容：児童期・思春期の家族問題
14. 子ども家庭福祉の変遷と現状
15. 子育て家庭の支援の枠組みと留意事項

(講義内容は若干、変更の可能性あり)

1. Orientation: Life-span Development and Family
2. Historical Social changes and family shift (1): Japanese families after WWII from the view point of household changes
3. Historical Social changes and family shift (2): Rapid Economic Growth and Diversification of Women's Life Course
4. Historical Social changes and family shift (3): Minimization of Family and Various Problems in the Heisei Era
5. Problems of Modern Family (1): Declining Birthrate and Child Maltreatment
6. Problems of Modern Family (2): Parenting Stress and Myths of Three-Year-Olds
7. Problems of Modern Family (3): Parenting by Fathers and IKUMEN, Problems of Children
8. Family Support Perspective (1): Family System and Family Development
9. Family Support Perspective (2): Life Career and Ecological Approach
10. Child Development Process and Family
11. Transition to parenting and parental development
12. Marital Couple Subsystem and Parenting
13. Child Growth and Transformation of Parent-Child Relationship: Childhood and Adolescent Family Issues
14. Transition and present situation of child family welfare
15. Framework and considerations for child care family support

(Lecture contents may be slightly changed.)

【COVID-19 対応】

- ・Google Classroom のクラスコード : xrkhsmf
- ・第一回授業の開始時期 : 初回オリエンテーションをリアルタイム方式で 4 月 14 日 (水) 2 限 : 10 : 30 から実施する。
- ・授業の実施方法 : BCP レベル 1, 2 とともに, Google meet によるリアルタイム方式
- ・関連資料の入手方法 : 授業用の資料は Classroom で共有
- ・オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談 (4 月 9 日までに tetsuji.kamiya.a4@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業内容に対するコメント (30%) と期末レポート (70%)

Minute Papers: 30%, and Term-end report: 70%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

本郷一夫・神谷哲司(編著) 子ども家庭支援の心理学. 建帛社. 2019 年  
白井利明(編著) 生涯発達の理論と支援. 金子書房. 2019 年  
松村和子・澤江幸則・神谷哲司(編著) 保育現場で出会う家庭支援論—家族の発達に目を向けて— 建帛社 2010 年

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時間内に指示する。

Will be suggested in the class.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/11 19:02:44

**科目名/Subject : 発達障害学特論 I (福祉分野に関する理論と支援の展開)****曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 野口 和人**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

福祉分野における心理社会的課題と支援

Psychosocial problems and supports in the fields of welfare

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

この講義では、児童福祉分野、家庭福祉分野、高齢者福祉分野、障害者福祉分野の各福祉分野における心理社会的課題について概観し、障害児・者にも大きく関わる諸問題（虐待、学校不適応、不登校、引きこもり、就労支援、社会生活支援など）を中心に、それぞれの課題に対する心理社会的支援について議論する。

This advanced lecture outlines psychosocial problems in each welfare field such as child welfare, home welfare, elderly welfare, welfare for people with disabilities. Psychosocial support for each problem will be discussed, focusing on various problems (abuse, school maladjustment, school refusal, withdrawal, employment support, social life support, etc.) which are greatly related to children / adults with disabilities.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

①福祉分野における様々な心理社会的問題について理解する。

②それぞれの課題に対する適切な心理社会的支援について考える。

After taking this advanced lecture, you should be able to :

①Describe various psychosocial problems in the field of welfare.

②Provide appropriate psychosocial support for each problem.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

○Google Classroom クラスコード : abj3iuj

○第1回授業の開始時期 : 通常通り (4月16日 13:00~)

○授業の実施方法 :

・オンライン (リアルタイム配信)。なお、コロナ感染症の感染状況によっては一部対面。

・受講希望者は、4月13日 (火) 正午までに、担当を希望するテーマ (シラバスに示されている13のテーマのうちから第3希望まで) を記したDCメールを野口 (kazuhito.noguchi.a5@tohoku.ac.jp) まで送付してください。希望を踏まえて、担当の割り振りを行います。

○関連資料の入手方法 : 必要な資料はクラスの共有ドライブを利用して配付・共有します。

○オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : オンライン授業への参加が困難な方は、4月13日 (火) 正午までにメールにて、その旨を申し出てください。

○対面授業への対応が困難な学生への対応策 : 上記と同様、個別にご相談ください。

1. オリエンテーション
2. 就学前の障害児における心理社会的問題と支援 (家庭における生活)
3. 就学前の障害児における心理社会的問題と支援 (養育施設等における生活)
4. 就学前の障害児における心理社会的問題と支援 (地域社会における生活)
5. 学齢期 (小学校段階) の障害児における心理社会的問題と支援 (家庭における生活)
6. 学齢期 (小学校段階) の障害児における心理社会的問題と支援 (学校における生活)
7. 学齢期 (小学校段階) の障害児における心理社会的問題と支援 (地域社会における生活)
8. 学齢期 (中学校以降) の障害児における心理社会的問題と支援 (家庭における生活)
9. 学齢期 (中学校以降) の障害児における心理社会的問題と支援 (学校における生活)
10. 学齢期 (中学校以降) の障害児における心理社会的問題と支援 (地域社会における生活)
11. 障害児・者の就労支援における心理社会的問題①
12. 障害児・者の就労支援における心理社会的問題②
13. 障害児・者の地域社会生活における心理社会的問題と支援
14. 障害児・者の家族への支援
15. まとめ

1. Orientation
2. Psychosocial problems and supports for preschool children with disabilities (life at home)
3. Psychosocial problems and supports for preschool children with disabilities (life in nursing homes)
4. Psychosocial problems and supports for preschool children with disabilities (life in the community)
5. Psychosocial problems and supports for school-aged (elementary school) children with disabilities (life at home)

6. Psychosocial problems and supports for school-aged (elementary school) children with disabilities (life at school)
7. Psychosocial problems and supports for school-aged (elementary school) children with disabilities (life in the community)
8. Psychosocial problems and supports for children with disabilities during school age (after junior high school) (life at home)
9. Psychosocial problems and supports for children with disabilities during school age (after junior high school) (life at school)
10. Psychosocial problems and supports for children with disabilities during school age (after junior high school) (life in the community)
11. Psychosocial problems in employment supports for individuals with disabilities①
12. Psychosocial problems in employment supports for individuals with disabilities②
13. Psychosocial problems and supports in community life of individuals with disabilities
14. Supports for the families having children with disabilities
15. Conclusion

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

平常点 (70%) 及びレポート (30%) により総合的に評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance (70%) and report (30%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に指定しない。必要な資料は授業の際に配布する。

Not specified. Necessary materials will be distributed during class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

毎回の授業において指示する。

Learning tasks will be instructed in the class..

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

特になし

None

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/08 15:32:51



**科目名/Subject : 発達障害学特論Ⅱ**

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 川崎 聡大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

言語・コミュニケーション障害の評価と支援 Assessment and support for speech and communication disorders クラスコード ggfb37a

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

「読む」「書く」「聞く」「話す」といった言語モダリティの発達やその心的プロセスについて学び、ディスレクシアをはじめとする当該領域の障害に対する教育的アセスメント方法についても併せて学びます

本講義は一部演習（対面）を含みます。臨床発達心理士シラバス認定科目であり、演習（知能検査などの実施）の制約上、人数によっては履修調整（臨床発達心理士資格取得希望者を優先）しますが、ご希望の方はクラスルームからまずご相談ください

In this lecture, students will learn about the development of language modalities such as reading, writing, listening, and speaking, and their mental processes, as well as educational assessment methods for dyslexia and other disabilities in this area.

This lecture includes some exercises (face-to-face). This is a syllabus-approved subject for clinical developmental psychologists, and due to the limitations of the exercises (such as conducting intelligence tests), depending on the number of students, course adjustments may be made (priority will be given to those who wish to obtain a clinical developmental psychologist license).

クラスコード ggfb37a

必ずクラスコードの登録と「その他」の欄の参照をお願いします。

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

本講義の到達目標は次の通りである①「読み」「書き」「聞く」「話す」の心的プロセスについて代表的なモデルを基に習熟を深める②①を基に読み書き障害や特異的言語障害などの障害機序について知る③それぞれのアセスメント法について知る。The objectives of this lecture are: 1) to deepen proficiency in the mental processes of reading, writing, listening, and speaking based on representative models, 2) to learn about the mechanisms of disorders such as reading and writing disorders and specific language disorders based on 1), and 3) to learn about assessment methods for each of these.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. イントロダクション\*講義全般の内容について概説する。
2. Dyslexia と SLI とは① 定義と変遷
3. Dyslexia と SLI とは② 病理及び疫学
4. 「学業不振」と「学習障害」
5. 「読み」の認知プロセスとその障害
6. 「書き」の認知プロセスとその障害
7. 「聞く」「話す」の認知プロセスとその障害①
8. 「聞く」「話す」の認知プロセスとその障害②
9. 「読み」「書き」の認知神経心理学的評価（アセスメント）
10. 「聞く」「話す」の認知神経心理学的評価（アセスメント）
11. コミュニケーションの障害とその背景①
12. コミュニケーションの障害とその背景②
13. 学習障害と学習意欲、二次障害等について
14. 注意とその障害\*学習の観点から
15. まとめ

1. Introduction\*: Outline of the lecture. 2.

What are Dyslexia and SLI (1) Definition and transition

Pathology and epidemiology of Dyslexia and SLI

4. "Academic failure" and "learning disability"

5. Cognitive processes of reading and their disorders

6. Cognitive process of writing and its disorder

Cognitive processes of "listening" and "speaking" and their disorders (1)

Cognitive processes of listening and speaking and their disorders (2)

Cognitive neuropsychological evaluation (assessment) of "reading" and "writing" 10.

Cognitive neuropsychological evaluation (assessment) of "listening" and "speaking". 11.

Communication disorder and its background (1)

12. Communication Disorders and Their Background 2. 13.
- Learning disabilities and motivation to learn, secondary disabilities, etc. 14.
14. Attention and its disorders\* from the perspective of learning
15. Summary

講義は ZOOM を使用しますので最新版にアップデートしてください。なお、ZOOM 登録用の URL はクラスルームより受講希望者に配布します。登録の上ご参加していただく形になります。15 回のうち、4 回程度は対面での実施を企画しています。

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 40%, term-end examination 60%.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する Not specified. Materials will be distributed as needed.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

発達神経心理並びに心理検査法に関する項目を予習並びに復習しておくことが望ましい。

It is recommended that students prepare for and review the sections on developmental neuropsychology and psychological testing methods.

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

**9. その他/In addition :**

ggfb37a

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 21:38:45

**科目名/Subject : 発達臨床論特論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 長谷川 真里**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

社会・情動発達研究の展開 /New perspectives on social-emotional development

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

社会・情動発達発達についての基本文献を読み、最新の文献を批判的にレビューすることを通して、研究の動向を知る。  
/This course aims to describe the current trends in social-emotional developmental studies on childhood and adolescence through intensive reading of the foundational literature and the latest research on child development.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

社会・情動発達の基礎的な理論、および最新の研究動向を理解する。この領域の発達研究の手法を身につける。注) 対象年齢は、主に乳幼児期、児童期、青年期である。

/At the end of the course, students should be able to grasp the basic theories and current issues, as well as research methods in the field of social-emotional development.

Note: The target age range is mainly infancy, childhood, and adolescence.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

毎回、報告担当者がレジュメを作成し、発表する。

スケジュールは以下を予定する。

/In every class, the reporter creates a resume and introduces the paper.

The contents and schedule are as shown below:

1. オリエンテーション、発表の順番等の決定
2. 社会・情動発達の基礎：ヒトの子どもの未熟性、生まれつきの社会性
3. 社会・情動発達の基礎：初期の母子相互作用
4. 社会・情動発達の基礎：社会と個の相互作用の中での発達、文化・社会に埋め込まれた発達
5. 情動の機能と関係性の発達：情動理論
6. 情動の機能と関係性の発達：関係性の中での情動
7. 気質と個性、パーソナリティの発達
8. 社会性の発達：他者理解に支えられた社会性の発達という考え方
9. 社会性の発達：向社会行動が選択的になるという社会性の発達の考え方
10. 対人関係と集団参加の発達
11. アタッチメントの発達
12. 自己の発達
13. まとめ
14. 調整日
15. 調整日

注) 受講者数および発表希望章/節の数によってスケジュールは変更する。

テキストの中から1節(以上)選択し、概要、およびテキストで紹介されたあるいは関連する文献を報告する。これらを通して、当該領域の議論のポイントと実証研究の方法を理解する。

本講義の対象は、テキストの第1部である。目次は以下：

**第1章 社会・情動発達の基礎**

- 1 ヒトの子どもの未熟性、生まれつきの社会性
- 2 初期の母子相互作用
- 3 社会と個の相互作用の中での発達
- 4 文化・社会に埋め込まれた発達

**第2章 情動の機能と関係性の発達**

- 1 情動理論
- 2 関係性の中での情動
- 3 社会性発達のオーガナイザーとしての情動

**第3章 気質と個性、パーソナリティの発達**

- 1 気質からパーソナリティへの発達
- 2 気質の発達心理学研究

- 3 情動反応性・情動制御性における気質的個人差
- 4 パーソナリティの発達過程

#### 第4章 社会性の発達

- 1 社会性の発達とは
- 2 他者理解に支えられた社会性の発達という考え方
- 3 向社会的行動が選択的になるという社会性の発達の考え方
- 4 家庭・園・学校・地域社会における社会性の発達
- 5 社会性と自己

#### 第5章 対人関係と集団参加の発達

- 1 生涯における対人関係の発達
- 2 各年齢での対人関係の特徴
- 3 集団への参入過程

#### 第6章 アタッチメントの発達

- 1 アタッチメントとは
- 2 アタッチメントの個人差と病理
- 3 様々な文脈におけるアタッチメント
- 4 発達障害児におけるアタッチメント

#### 第7章 自己の発達

- 1 自己の理論
- 2 乳幼児期の自己
- 3 自己概念の発達
- 4 自尊感情

#### 5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

/ Submitted reports, attendance and so on are evaluated.

#### 6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Textbook:

臨床発達心理士認定運営機構（監修）講座・臨床発達心理学：社会・情動発達とその支援 ミネルヴァ書房 2017 年

#### 7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

あらかじめ資料を読み、議論の準備をする。

/Students are expected to read the assigned papers beforehand and prepare for the discussions.

#### 8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

#### 9. その他/In addition :

授業の運営については、初回に説明する。

/The course management will be explained in the first lecture.

Materials are provided via Classroom.

・ Google Classroom のクラスコード : qkyv453

・ 第一回授業の開始時期 : 4 月 12 日 (月) 5 限 : 18 : 00 ~

・ 授業の実施方法 : BCP レベル 1, 2 とともに Meet を用いた双方向授業

・ 関連資料の入手方法 : 授業用の資料は Classroom で共有

・ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談 (4 月 7 日までに mari.hasegawa.c2@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

・ 受講者は必ず登録してください

#### 10. 更新日付/Last Update :

2021/02/15 19:59:08

**科目名/Subject : 臨床心理学特論 I**

**曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 4 講時

**担当教員/Instructor :** 安保 英勇

**単位数/Credit(s) :** 2

**使用言語/Language Used in Course :**

**1. 授業題目/Class subject :**

臨床心理学概論

Introduction to clinical psychology

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

臨床心理学および、専門家としての臨床心理士・公認心理師に求められる知識や社会的責任・役割などについて総合的に学習する。

This class comprehensively deal with clinical psychology and knowledge and social responsibility and role required of clinical psychologists / certified psychologists as experts.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

臨床心理学、心理臨床家の基本問題を総合的に捉える。

Participants will be able to comprehensively grasp the basic problems of clinical psychology and psychologists.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

『公認心理師の職責』を元に、レポーターの報告とそこでの問いをめぐり討論を中心とする。

1. オリエンテーション
2. 心理専門家の役割
3. 心理専門家の役割と法的義務・倫理
4. クライアント/患者らの安全の確保
5. 情報の適切な取り扱い
6. 保健医療分野における心理専門家の業務
7. 福祉分野における心理専門家の業務
8. 教育分野における心理専門家の業務
9. 司法・犯罪分野における心理専門家の業務
10. 産業・労働分野における心理専門家の業務、
11. 支援者としての自己課題発見・解決能力
12. 生涯学習
13. 多職種連携・地域連携
14. 心理専門家の今後の展開
15. まとめ

Based on "Certified Public Psychologist's Responsibilities", this class will focus on reporters' presentation and discussions on the questions there.

1. orientation
2. The role of a psychologist
3. Roles of psychological experts and legal obligations / ethics
4. Ensuring the safety of clients / patients
5. Appropriate handling of information
6. Psychologist's work in the field of health care
7. Psychologist's work in the welfare field
8. Psychologist's work in the field of education
9. Psychologist's work in the field of justice and crime
10. Psychologists' work in the industrial and labor fields,
11. Self-problem finding / solving ability as a supporter
12. Lifelong learning
13. Multidisciplinary collaboration / regional collaboration
14. Future developments of psychologists
15. Summary

【2021. 3. 25 追記】

- ・Google Classroom のクラスコード : nd5mpzf
- ・第一回授業の開始時期 : 2021 年 4 月。暦通り。

・授業の実施方法

BCP2：双方向のオンライン（MEET）

BCP1：状況と環境を勘案し対面もありうる

・関連資料の入手方法：Classroomで指示

・オンライン授業の対応が困難な学生への対応策：応談

・対面授業への対応が困難な学生への対応策：応談

・その他

相談が必要な学生は hideo.ambo.d5@tohoku.ac.jp まで

5. 成績評価方法/Evaluation method：

発表(70%)授業への参加度(30%)

Presentation(70%) and an attitude in class(30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references：

野島一彦編 公認心理師の職責 遠見書房 2019

各自入手すること

このほか必要に応じて授業期間中に指示する

Other texts will be introduced during class if needed.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review：

テキストの事前講読、発表資料作成等

Pre-subscription of text, preparation of presentation materials etc.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition：

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開設されている。

This class is set up for students in the clinical psychology course.

(Google クラウド対応)

クラスコード

nd5mpzf

10. 更新日付/Last Update：

2021/03/06 16:35:59

**科目名/Subject : 臨床心理学特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 金曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 吉田 沙蘭**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

臨床心理学概論

Clinical Psychology

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

グループワークなどを通して、臨床心理学の専門家として必要な知識と技能、社会的責任に関わることの統合的な見通しを得る。

The participants gain an integrated perspective on knowledge, skills and social responsibility necessary for clinical psychologist.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

臨床心理学の専門家として他職種と関わる現場で働く際に求められる、実践的な態度、知識および技能を身につけること。

The aim of this class is to acquire practical attitudes, knowledge and skills required when the participants work in a field as a clinical psychologist collaborating with other experts.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

## 1. オリエンテーション

## 2. 心理士として社会・組織の中で働くということ

## 3-7. 心理援助の専門職として働くために

コミュニティにおける心理援助

グループを通しての心理援助

家族を通しての心理援助

人生の移行について理解する

ストレスとバーンアウト

## 8-13. 心理臨床現場における倫理

専門性の自覚と限界の自覚

守秘義務

多重関係

個人の尊重と自己決定権

インフォームド・コンセント

連携関係と職業倫理の共有 その他

## 14. 社会に出てからのスキルアップ

## 15. 研究者として社会・組織の中で働くということ

## 1. Introduction

## 2. The role of clinical psychologists in organization

## 3-7. How to work as a psychologist

## 8-13. Ethics in clinical psychology

## 14. Skill up after graduation

## 15. The role of researchers in organization

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表や討論を含む授業への参加度 (60%)、レポート (40%) による総合評価

Participation in group work (60%) , Term paper (40%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

心理援助の専門職として働くために-臨床心理士・カウンセラー・PSW の実践テキスト (金剛出版)

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

1 人あたり 1 回、事前に該当テーマについてまとめ、発表を担当する (#3~#8)

The participants required to be in charge of presentation once per person.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開講されている。

臨床心理学コースの学生は、必ず履修すること。

This class is provided for the students of clinical psychology course.

クラスコード : mph252c

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/27 20:07:34





**科目名/Subject : 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 前田 駿太 / 亀倉 大地 / 安保 英勇 / 若島 孔文 / 大場 麗 / 本多 奈美**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

臨床心理面接法

Method of Clinical Counseling

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

多様な臨床心理学的理論に基づいた見立てや介入の方法について、実際の事例を用いて学び、体験的に理解することを目的とする。

In this class, the participants learn about the method of assessment and intervention based on various psychological theories, using actual cases. The aim of this class is to understand experientially how to apply psychological theories to the cases.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 多様な心理学的理論について、実際の事例と結びつけて理解すること

2. 理論に関する知識を活用し、事例の見立てや介入について考えられるようになること

3. ひとつの事例について複数の理論的背景を基にした解説を聞くことで、比較の視点を養うとともに、より柔軟かつ多角的な事例の捉え方をすることができるようになること

1. To understand various psychological theories through actual cases.

2. To consider the assessment and intervention using psychological theories.

3. To attain flexible and various perspective in dealing with clinical cases.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

毎回の授業では、学生が提示した事例を用いて、各担当教員が多様な理論的背景に基づいた解説を行う。

受講者は解説を受け、グループディスカッションおよび個人ワークを行い、各種理論および事例に対する理解を深める。

The faculty members will explain the cases presented by the participants based on various theoretical backgrounds.

The participants deepen their understanding of various theories and cases through group discussions and individual work.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

期末レポートにより評価する

Term paper (100%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に指定しない

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

事例に関する資料は授業週の月曜日から臨床心理相談室事務室内で閲覧できるので、事前に目を通しておくことが望ましい

Participants are expected to read the case report prior to the lecture.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この授業は臨床心理学コースの学生のために開講される

This class is provided for the students of clinical psychology course.

(Google クラウドルーム対応)

① クラスコード

wlt7ez3

② 第一回授業の開始時期

4 月 15 日 (木) 5 限 : 16 : 20 ~ (心理実践実習 I・III と合同開催)

③ 授業の実施方法

Classroom を用いた資料配布、Google ドライブを用いた事前課題と、Meet (音声のみ) を用いた双方向授業 (BCP レベル 1 及び 2 の場合)

④ 関連資料の入手方法

授業用の資料・課題は Classroom に掲載

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談 (前田 (shunta.maeda.d2@tohoku.ac.jp) へ連絡のこと)

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/06 11:53:32

**科目名/Subject : 臨床心理面接特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 吉田 沙蘭 / 亀倉 大地 / 安保 英勇 / 若島 孔文 / 前田 駿太 / 大場 麗 / 本多 奈美**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

臨床心理面接法

Method of Clinical Counseling

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

多様な臨床心理学的理論に基づいた見立てや介入の方法について、実際の事例を用いて学び、体験的に理解することを目的とする。

In this class, the participants learn about the method of assessment and intervention based on various psychological theories, using actual cases. The aim of this class is to understand experientially how to apply psychological theories to the cases.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 多様な心理学的理論について、実際の事例と結びつけて理解すること

2. 理論に関する知識を活用し、事例の見立てや介入について考えられるようになること

3. ひとつの事例について複数の理論的背景を基にした解説を聞くことで、比較の視点を養うとともに、より柔軟かつ多角的な事例の捉え方をすることができるようになること

1. To understand various psychological theories through actual cases.

2. To consider the assessment and intervention using psychological theories.

3. To attain flexible and various perspective in dealing with clinical cases.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

毎回の授業では、学生が提示した事例を用いて、各担当教員が多様な理論的背景に基づいた解説を行う。

受講者は解説を受け、グループディスカッションおよび個人ワークを行い、各種理論および事例に対する理解を深める。

The faculty members will explain the cases presented by the participants based on various theoretical backgrounds.

The participants deepen their understanding of various theories and cases through group discussions and individual work.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

期末レポートにより評価する

Term paper (100%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に指定しない

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

事例に関する資料は授業週の月曜日から臨床心理相談室事務室内で閲覧できるので、事前に目を通しておくことが望ましい

Participants are expected to read the case report prior to the lecture.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

○

**9. その他/In addition :**

この授業は臨床心理学コースの学生のために開講される

This class is provided for the students of clinical psychology course.

クラスコード : i6nfoqu

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/27 11:37:40

**科目名/Subject : 臨床心理研究法特論 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 若島 孔文 / 安保 英勇 / 前田 駿太 / 大場 麗 / 本多 奈美**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

臨床心理学の研究方法 / Clinical Psychology Research

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

臨床心理学の研究方法の基礎およびその実践を学ぶ。

心理学研究の方法論、統計法などを踏まえ、調査研究、実験研究、事例研究などについて理解する。 / Learn the basics and practice of research methods of clinical psychology. Based on psychology research methodology, statistical method etc, understand survey research, experimental research, case study etc.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

臨床心理学の研究法を習得する。 / Mastering clinical psychology research methods

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

受講生は各自の研究テーマ、研究内容を計画し、発表・討論する。

## 1. オリエンテーション

## 2. ～ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介

## 15. 総括 /

Students plan their own research, present and discuss them.

## 1. Orientation

## 2. ～14. Presentation and discussion on research, and literature introduction

## 15. Summary

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

研究発表およびそのレポート、授業の参加、発表時の討論への積極的参加により評価する。 / Evaluate by submitting activities and reports

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

授業中に適宜、提示する。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

各自研究テーマに従い、論文を読むこと。また、研究を計画していくこと。

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

## ① クラスコード

dc2zxqw

## ② 第一回授業の開始時期

・ 第一回目の授業は 4 月 15 日 (木) 13 : 00 から実施

## ③ 授業の実施方法

・ 授業は meet を用いて行う予定が各ゼミで異なる。

## ④ 関連資料の入手方法

・ 資料は各教員にメールにて送る。

## ⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・ オンライン授業への参加が困難な学生については、各ゼミ担当の先生までメールにて連絡をするように。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/15 12:58:34

**科目名/Subject : 臨床心理研究法特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 若島 孔文 / 安保 英勇 / 前田 駿太 / 大場 麗 / 本多 奈美**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

臨床心理学の研究方法 / Clinical Psychology Research

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

臨床心理学の研究方法の基礎およびその実践を学ぶ。

心理学研究の方法論、統計法などを踏まえ、調査研究、実験研究、事例研究などについて理解する。 / Learn the basics and practice of research methods of clinical psychology. Based on psychology research methodology, statistical method etc, understand survey research, experimental research, case study etc.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

臨床心理学の研究法を習得する。 / Mastering clinical psychology research methods

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

受講生は各自の研究テーマ、研究内容を計画し、発表・討論する。

## 1. オリエンテーション

## 2. ～ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介

## 15. 総括 /

Students plan their own research, present and discuss them.

## 1. Orientation

## 2. ～14. Presentation and discussion on research, and literature introduction

## 15. Summary

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

研究発表およびそのレポート、授業の参加、発表時の討論への積極的参加により評価する。 / Evaluate by submitting activities and reports

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

授業中に適宜、提示する。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

各自研究テーマに従い、論文を読むこと。また、研究を計画していくこと。

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラウド対応)

## ① クラスコード

6yqns3j

## ② 第一回授業の開始時期

・ 第一回目の授業は 4 月 15 日 (木) 13 : 00 から実施

## ③ 授業の実施方法

・ 授業は meet を用いて行う予定が各ゼミで異なる。

## ④ 関連資料の入手方法

・ 資料は各教員にメールにて送る。

## ⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・ オンライン授業への参加が困難な学生については、各ゼミ担当の先生までメールにて連絡をするように。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/15 13:00:16

**科目名/Subject : 投影法特論 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 火曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 池田 忠義**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

描画法・SCT 演習

Drawing Tests and SCT Practice

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

心理査定の重要な手段である投影法のうち、描画法およびSCT（文章完成法）を取り上げ、その特徴・実施方法・解釈の基礎について実習を通して学ぶ。

In this course, students will learn about the features, implementation methods, and basics of interpretation of drawing tests and SCT (Sentence Completion Test), which are one of the projection methods, through practical training.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

描画法およびSCTについて、その理論的背景・特徴を把握すると同時に、実施・解釈の方法に関する基礎的な知識を身につける。また、自身が検査者・被験者の両方を体験し、自己理解を深める。

The purpose of this course is to help students understand the theoretical background and characteristics, implementation and interpretation methods of drawing tests and SCT. In addition, students deepen their self-understanding by experiencing both the tester and the testee.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回：投影法の意義と種類

第2回：描画法およびSCTの理論的背景・特徴

第3回：描画法の実施法・被験者体験

第4回：描画法の事例検討(1)内容分析

第5回：描画法の事例検討(2)形式分析

第6回：描画法の事例検討(3)総合所見

第7回：事例と総合所見の比較・検討

第8回：描画法による複数事例間の比較・検討

第9回：SCTの実施法・被験者体験

第10回：SCTの事例検討(1)内容分析

第11回：SCTの事例検討(2)形式分析

第12回：SCTの事例検討(3)総合所見

第13回：事例と総合所見の比較・検討

第14回：SCTによる複数事例間の比較・検討

第15回：心理査定における描画法およびSCTの活用

1. Significance and type of projective test

2. Theoretical background and characteristics of drawing tests and SCT

3. Implementation methods of drawing tests and experience of testee

4. Case study of drawing methods (1) content analysis

5. Case study of drawing methods (2) form analysis

6. Case study of drawing methods (3) Comprehensive interpretation

7. Examination of case and comprehensive interpretation

8. Comparison/examination between multiple cases by drawing method

9. Implementation methods of SCT and experience of testee

10. Case study of SCT (1) content analysis

11. Case study of SCT (2) form analysis

12. Case study of SCT (3) Comprehensive interpretation

13. Examination of case and comprehensive interpretation

14. Comparison/examination between multiple cases by SCT

15. Utilization of drawing method and SCT in psychological assessment

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への積極的参加および発表（70%）、レポート（30%）による。

Active participation and presentation in class (70%), report (30%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書は、特に指定しない。

参考書：樹木画テスト 高橋雅春・高橋依子 北大路書房

その他は、授業中に適宜紹介する。

Not specifically specified.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

事例検討に際しては、事前に配付する資料を予習した上で授業に臨むことが求められる。

Students are required to prepare for case study materials before attending class.

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

この授業は、臨床心理研究コース所属の学生のために開講される。

This class is set up for students in the clinical psychology course.

(Google クラスルーム対応)

クラスコード g2wwm4s

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/08 23:06:17

**科目名/Subject : 投影法特論Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 火曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 池田 忠義**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

T A T 演習

TAT Practice

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

心理査定の重要な手段である投影法のうち、T A T（主題統覚検査）を取り上げ、その特徴・実施方法・解釈の基礎について実習を通して学ぶ。

In this course, students will learn about the features, implementation methods, and basics of interpretation of TAT (Thematic Apperception Test), which are one of the projection methods, through practical training.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

T A Tについて、その理論的背景・特徴を把握すると同時に、実施・解釈の方法に関する基礎的な知識を身につける。

The purpose of this course is to help students understand the theoretical background and characteristics, implementation and interpretation methods of TAT. In addition, students deepen their self-understanding by experiencing both the tester and the testee.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回：T A Tの理論的背景・特徴

第2回：T A Tの実施法、検査者・被験者体験

第3回：T A Tの各図版の特徴と解釈手続き

第4回：事例1についての検討(1)内容分析

第5回：事例1についての検討(2)形式分析

第6回：事例1についての検討(3)総合所見作成

第7回：事例1の概要を踏まえての総合所見の検討

第8回：事例2についての検討(1)内容分析

第9回：事例2についての検討(2)形式分析

第10回：事例2についての検討(3)総合所見作成

第11回：事例2の概要を踏まえての総合所見の検討

第12回：事例3についての検討(1)内容分析・形式分析

第13回：事例3についての検討(2)総合所見と事例理解

第14回：T A Tにおける複数事例間の比較・検討

第15回：心理査定におけるTATの活用

1. Theoretical background and characteristics of drawing tests and SCT

2. Implementation methods of drawing tests and experience of testee

3. Features of each TAT card and interpretation procedures

4. Examination of Case 1 (1) content analysis

5. Examination of Case 1 (2) form analysis

6. Examination of Case 1 (3) Comprehensive interpretation

7. Examination of comprehensive interpretation based on the outline of Case 1

8. Examination of Case 2 (1) content analysis

9. Examination of Case 2 (2) form analysis

10. Examination of Case 2 (3) Comprehensive interpretation

11. Examination of comprehensive interpretation based on the outline of Case 2

12. Examination of Case 3 (1) content analysis and form analysis

13. Examination of Case 3 (2) comprehensive interpretation and case understanding

14. Comparison/examination between multiple cases by TAT

15. Utilization of TAT in psychologic assessment

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への積極的参加および発表（70%）、レポート（30%）による。

Active participation and presentation in class (70%), report (30%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書は特に指定しない。

参考書：T A T アナリシスー生きた人格診断 坪内順子 垣内出版

その他は、授業中に適宜紹介する。

Not specifically specified.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

事例検討に際しては、事前に配付する資料を予習した上で授業に臨むことが求められる。

Students are required to prepare for case study materials before attending class.

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

この授業は、臨床心理研究コース所属の学生のために開講される。

This class is set up for students in the clinical psychology course.

(Google クラスルーム対応)

クラスコード ksikbjf

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/08 23:07:17



**科目名/Subject : 家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関****曜日・講時/Day/Period :** 後期 火曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 若島 孔文**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 / Psychology of Families, Groups, Organizations and Communities

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

システム理論の視点から家族、集団、組織、地域社会への心理的援助について、その歴史と理論について考え、システムの動きを活用する方法、変化を導入するための実際について検討し、理解していく。 / In this lecture, we describe families, groups, organizations and communities from the viewpoint of system theory. I will explain the understanding and psychological aid of families, groups, organizations, and local communities based on their history and theory. Participants will consider how to utilize the movement of the system and how to promote change.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ①臨床心理学における近年重要な発展領域である家族心理学の知識を得ること。  
 ②それらの知識を集団、組織、地域社会の問題に適用し、問題解決の見通し、見立てを得られるようになること。 / ①To understand Family Psychology and Clinical Social Psychology; ②To understand how to solve problems of family, group, organization, community.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. ～ 4. 家族面接の理解 (1) ～ (4)
  5. コミュニケーション理論
  6. システム理論
  7. ～ 10. ワークによる家族面接 (1) ～ (4)
  11. ～ 12. 緊急時支援と組織・地域社会へのアプローチ (1) ～ (2)
  13. ～ 15. 東北大学における家族研究と支援モデルの展開 (1) ～ (3) /
- 
1. ～ 4. To understand Family Session (1) ～ (4)
  5. Pragmatics of Human Communication
  6. System theory
  7. ～ 10. Practice Family Session (1) ～ (4)
  11. ～ 12. Emergency support and approach to organizations and communities
  13. ～ 15. Development of family research and support model at Tohoku University

○リアルタイム方式 (オンラインにより実施する)

- ・Google Classroom クラス コード dg5vwgh
- ・第1回開始時期: 10月4日(月) 6限: 18:00～
- ・授業の実施方法: Meet を用いた双方向授業
- ・関連資料の入手方法: Classroom で紹介
- ・オンライン対応が困難な学生への対応策: 事前に相談  
 (kobun.wakashima.d3@tohoku.ac.jp へ連絡)

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業内における活動とレポート (複数回)。 / Evaluate by submitting activities and some reports

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

野島一彦・岡村達也 2018 第3巻『臨床心理学概論』 (遠見書房)

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

予習として、代表的な個人療法 (精神分析、来談者中心療法など) に関して、読書し、理解しておくこと。復習及び課題として、授業時に配布した資料について理解を深めておくこと。

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

○

**9. その他/In addition :**

- ・臨床心理の実習に関連することも多いため、早い時期での履修を期待する。
- ・臨床心理学コース以外の学生も履修・聴講可能である。
- ・毎年開講の予定である。

10. 更新日付/Last Update :

2021/02/15 13:06:00

科目名/Subject : 犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 1 講時. 前期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 菅藤 健一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

犯罪・非行心理学特論

Advanced lecture on Criminal Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

少年保護法制, 犯罪・非行の現況や犯罪・非行少年の心理的特性及びその支援についての理解を深め, 犯罪・非行臨床のみならず, その他の臨床現場等において直面する問題にできるだけ心理学的知識を獲得することを目的とする。

The aim is to acquire psychological knowledge as much as possible for problems encountered not only in criminal and delinquency clinics but also in other clinical settings by understanding the juvenile protection legislation, the current situation of crime and delinquency, the psychological characteristics of crime and delinquency boys, and their support.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・少年保護法制に関する基本的事情を踏まえて, 少年保護の現状について説明できる。
- ・犯罪・非行に至る少年の心理的特性と支援の方法を説明できる。
- ・犯罪・非行臨床の現況と将来について, 様々な角度から考察し, 説明できる。

Explaining the current status of juvenile protection based on the basic circumstances related to juvenile protection legislation.

Explaining the psychological characteristics of boys who lead to crime and delinquency and how to support them.

Examining and explaining the current status and future of criminal and delinquency clinical practice from various angles.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 オリエンテーション Orientation
- 2 少年保護法制の概説及び関係機関の説明 Outline of juvenile protection legislation and explanation of related organizations
- 3 少年事件の歴史と現況 History and present situation of juvenile case
- 4 架空事例による非行発生機序と処遇について～薬物犯 About mechanism of delinquency occurrence and treatment by fictitious case-drug offender 事例は変更する場合があります。Cases subject to change
- 5 架空事例による非行発生機序と処遇について～放火犯 Arsonis
- 6 架空事例による非行発生機序と処遇について～財産犯 Property criminal
- 7 架空事例による非行発生機序と処遇について～女子非行 Women's delinquency
- 8 架空事例による非行発生機序と処遇について～発達障害を有する少年 Boy with developmental disabilities
- 9 少年鑑別所における鑑別システム Classification system in juvenile classification home
- 10 少年院における矯正教育 Corrective education in juvenile training schools
- 11 犯罪・非行臨床における心理アセスメント Psychological assessment in criminal and delinquency clinical practice
- 12 非行少年の人格上の問題, 拘禁の心理 Personality problems of delinquent boys, psychology of detention
- 13 防犯 Crime prevention
- 14 被害者対応, 裁判員制度, 医療観察法他 Victim response, judge system, medical observation method, etc.
- 15 授業の振り返り Review of class

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業時の発言内容, 毎授業ごとの小レポートで 30%, 期末に実施する試験またはレポート課題で 70% の割合で評価する。  
30% for the content of remarks during class, for small reports for each class, and 70% for exams or report assignments conducted at the end of the term.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書はありません。独自に作成したパワーポイントによる授業を実施します。

参考書としては, 日本犯罪心理学会編 犯罪心理学事典 丸善出版

法務省矯正研修所編 矯正心理学 矯正協会

細江達郎 犯罪心理学 (図解雑学) ナツメ社等を推薦します。

There are no textbooks. I will hold a class using our uniquely created PowerPoint.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

できるだけ新聞等で犯罪に関する記事を読むように心がけてください。日頃から犯罪・非行に対する興味関心を高めて, 授業に臨んでいただくとより興味が増すかと思えます。授業に主体的に取り組むことを期待しています。

Try to read articles about crime in newspapers and other media as much as possible. I think that raising interest in crime and delinquency on a regular basis is expected.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

○

**9. その他/In addition :**

現場での経験を織り交ぜながら犯罪・非行について解説します。実習や討論も実施します，より主体的・積極的に授業に参加してください。

Explains crimes and delinquencies while intermingling experiences on the spot. Practices and discussions will be held. Please participate more actively and actively in the class.

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

wgtd7z

②第一回授業の開始時期

4 月 16 日 (金) 8 : 50 から 2 コマずつ，隔週で実施します。

③授業の実施方法

授業は資料配布方式で実施します。

④関連資料の入手方法

授業の資料については，授業開始前までにアップロードしておきます (google クラスルーム)。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

google クラスルームまたはメールにて教材 PPT を配布します。レポート課題も同様とするので，google クラスルームやメールが使用できる環境であれば支障はないと思われます。

⑥ご質問やご要望があれば，google クラスルームまたはメール (kkanto@e.yamagata-u.ac.jp) にてお願いします。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/08 19:49:01

科目名/Subject : 精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 本多 奈美

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :  
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開) /Advanced Lecture on Psychiatry
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :  
精神医学および精神保健福祉に関する臨床的・実践的な事項について学ぶ。代表的な精神疾患等について、受講者がケーススタディとして発表し討論する。/The aim of this course is to help students acquire an understanding of clinical psychiatry and mental health.
3. 学習の到達目標/Goal of study :  
精神医学・精神保健および代表的な精神疾患等を理解する。/The goal of this course is to understand clinical psychiatry, mental health, and psychiatric disorders.
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
  1. オリエンテーション Introduction
  2. 精神科医療 Psychiatric Care
  3. 精神保健福祉 Mental Health and Welfare
  4. 精神科診断－精神症状、診断基準、臨床検査 Psychiatric diagnosis
  5. 精神科治療－精神療法、社会療法、身体療法 Psychiatric treatment
  6. ケーススタディ①－統合失調症 Schizophrenia
  7. ケーススタディ②－うつ病 Depression
  8. ケーススタディ③－神経症 Neurosis
  9. ケーススタディ④－物質関連障害および嗜癖性障害 Substance related and addictive disorders
  10. ケーススタディ⑤－発達障害 Developmental disorders
  11. ケーススタディ⑥－自殺 Suicide
  12. ケーススタディ⑦－認知症 Dementia
  13. ケーススタディ⑧－災害時のメンタルヘルス Mental Health in Disaster
  14. スピーカーズビューロー (精神疾患当事者による体験談の聴講) Speaker' s Bureau
  15. 筆記試験 Exam
5. 成績評価方法/Evaluation method :  
筆記試験 (50%)、発表・討論 (50%)  
Written examination(50%),Presentation/discussion(50%)
6. 教科書および参考書/Textbook and references :  
小此木啓吾、深津千賀子、大野 裕 (編) : 改訂 心の臨床家のための精神医学ハンドブック. 創元社、2004.  
山下 格 : 精神医学ハンドブック、第 7 版. 日本評論社、2010.  
沼 初枝 : 心理のための精神医学概論. ナカニシヤ出版、2014.  
その他、授業内で適宜紹介する。
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :  
予習・復習についてはその都度指示する。
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。  
/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
9. その他/In addition :  
学部レベルの精神医学あるいは精神保健福祉を履修していることが望ましい。  
  
クラスコード : 6wwgh4r
10. 更新日付/Last Update :  
2021/03/13 11:02:45

科目名/Subject : 学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 小島 奈々恵

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :  
学校臨床心理学特論  
School Clinical Psychology
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :  
教育分野における問題及びその背景, 心理社会的課題及び必要な支援について理解を深める。  
Students will deepen their understanding about problems and its background, and psychosocial problems and the support needed in the field of education.
3. 学習の到達目標/Goal of study :  
教育分野における問題と支援について理解し, 専門家としての在り方について考えを深める。  
Students will deepen their understanding about problems and support in the field of education, and the meaning of becoming a professional clinical psychologist.
4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :
  1. 教育分野における基本
  2. 教育分野における問題と支援
  3. 教育分野における実践
    - ・問題: 不登校, いじめ, 非行・暴力行為
    - ・発達と教育
    - ・学習と教育
    - ・心理学的アセスメント
    - ・心理学的援助: SC, 連携, 情報共有
    - ・特別支援教育
  4. まとめ
  1. Basics in the field of education
  2. Problems and support in the field of education
  3. Practice in the field of education
    - ・Problem: school absence, bullying, misbehavior, violence
    - ・Development and education
    - ・Learning and education
    - ・Psychological assessment
    - ・Psychological support: SC, collaboration, sharing information
    - ・Special needs education
  4. Summary
5. 成績評価方法/Evaluation method :  
授業への積極的参加および発表 (60%), レポート (40%)  
Positive participation and presentation (60%), Report (40%)
6. 教科書および参考書/Textbook and references :  
特に指定しない。  
Not specifically specified.
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :  
発表準備と、ディスカッションに積極的に参加するための準備。  
Preparation for one's presentation, and preparation for the discussions so that one may participate positively.
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。  
/Note: "○" Indicates the practical business
9. その他/In addition :  
臨床心理学コースの学生のための授業科目である。  
This class is for students in the Clinical Psychology Course.  
  
(Google クラウド対応)  
クラスコード wh4d4ye
10. 更新日付/Last Update :  
2021/03/11 18:08:49

科目名/Subject : 産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 若島 孔文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開) / Industrial Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

昨今の社会情勢の中、職場における心理職の果たす役割は大きくなってきている。産業・労働領域で働く心理職は、心理学・臨床心理学・精神医学だけでなく、産業・労働領域に関する法令、厚生労働省の指針、働く人のストレスに関する知見、モチベーション、リーダーシップに関する知見等、さまざまな知識に基づいて活動する必要がある。本授業では、産業・労働領域で働く心理職として知っておくべき基本的知識を調べ、それらに基づき討論を行い、産業・労働領域で働く心理職として身に付けておくべき知識・態度の習得を目指す。／ The purpose of this class is to learn about industrial / organizational psychology. In Industrial-Organizational Psychology, we will be able to consider the behavior of workers and the characteristics of organizations through an understanding of individual psychology and group dynamics. In addition, this class discusses how to deal with stress in workers.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①産業・労働領域で働く心理職として身に付けておくべき知識・態度を学習する。  
 ②働く人のメンタルヘルス対策に関する知識を得る。  
 ③職場におけるコンサルテーションの基本を身に付けることができる。／ ① Learn the knowledge and attitudes that should be acquired as a psychological profession working in the industrial and labor fields; ②Acquire knowledge about mental health measures for workers; ③Learn the basics of consulting in the workplace.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

<授業概要>

はじめに

第一部 産業・組織心理学の基礎

産業心理学とは  
 組織心理学の誕生  
 組織心理学の前提  
 産業・組織心理学の定義  
 産業・組織心理学と公認心理師  
 組織の構成の原則  
 産業・組織心理学の基本的要因  
 日本における働き方の課題

第二部 継続的に働くために

継続的に働ける人材の予想＊  
 ワークファミリーコンフリクト＊  
 ハラスメント＊

第三部 仕事への取り組み

目標設定の重要性  
 X 理論 Y 理論  
 達成動機理論  
 欲求と行動  
 仕事における満足度  
 職務特性論

第四部 動機づけを高める

動機づけを高める  
 キャリア開発プログラム  
 コーチング  
 小集団活動  
 組織開発＊  
 コミットメント

第五部 グループダイナミクス

集団規範と逸脱者への圧力＊  
 影響力の源泉  
 集団凝集性  
 課題遂行と集団  
 集団での決定＊  
 リーダーシップ

## 第六部 産業ストレス

ストレッサー

ストレス反応のアセスメント\*

精神活動と身体

人間の問題

緊張の緩和

ストレスモデル

うつの理解

薬物療法

うつ以外・その他

バーンアウト\*\*

ASD・PTSD

まとめ

## 第七部 関連する法律

1. About Industrial-Organizational Psychology
2. About working 1
3. About working 2
4. Motivation for working
5. Group dynamics
6. Stress
7. Law

<授業の進め方>

今年度、本授業は「リアルタイム方式」で行います。

Google Classroom のクラスコードは、sgoykcw です。

第1回目の授業は、10月4日月曜日6限になります。

授業の進め方については詳しくは第1回目授業の時に説明します。第1回目の授業の受講の仕方については、1回目の授業日が近くなったら Classroom でお知らせします。

### 5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度(50%)、レポート(50%)を総合して評価する。/ Evaluate by submitting activities and some reports.

### 6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：特に指定しない。

### 7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各授業時に適宜指示する。

### 8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practical business

○

### 9. その他/In addition :

<授業の進め方>

今年度、本授業は「リアルタイム方式」で行います。

Google Classroom のクラスコードは、sgoykcw です。

第1回目の授業は、10月4日月曜日6限になります。

授業の進め方については詳しくは第1回目授業の時に説明します。第1回目の授業の受講の仕方については、1回目の授業日が近くなったら Classroom でお知らせします。

### 10. 更新日付/Last Update :

2021/02/15 13:23:14



**科目名/Subject : 心の健康教育に関する理論と実践****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 安保 英勇**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

心の健康教育に関する理論と実践

Theory and practice on mental health education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

心の健康教育に関する理論を学び、実践（ロールプレイおよび高等学校）を行う。

Learn the theory of mental health education and practice (role play and classes in high school).

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

心の健康教育に関する理論を説明できる。

集団の特性に合った心の健康教育を立案・実践できる。

Students will be able to explain the theory of mental health education.

Students will be able to plan and practice mental health education that matches the characteristics of the group.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. オリエンテーション

2. 心の健康教育の理論と実践例の紹介

3. -15. 受講生による心の健康教育の理論と実践例の紹介

1. Orientation.

2. Introduction of theory and practice examples of mental health education.

3. -15. Introduction of theory and practice examples of mental health education by students.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

プレゼンテーション (100%)

Presentation (100%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教室内で指示する

Text will be introduced in class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

プレゼンテーション作成

Making a presentation

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

クラスコード : c2xnkwe

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/06 16:38:35

科目名/Subject : コミュニティ心理学特論

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 小島 奈々恵

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

コミュニティ心理学特論

Community Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

コミュニティ心理学の基礎概念について学び、基本姿勢や支援方法、支援対象について理解を深める。

Students will deepen their understanding about the basics of community psychology, basic behaviors, support, and who to support.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

コミュニティ心理学の基礎概念を理解し、専門家としての在り方について考えを深める。

Students will deepen their understanding about the basics of community psychology, and the meaning of becoming a professional clinical psychologist.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. コミュニティ心理学とは

2. コミュニティ心理学の基本

3. コミュニティ心理学実践

- ・地域における支援：子育て支援、児童虐待、DV、母子支援
- ・教育における支援：いじめ、不登校、特別支援、学生相談
- ・医療における支援：自助グループ、HIV カウンセリング、緩和ケア
- ・多文化コミュニティにおける支援：海外居住とその家族、留学生支援

4. まとめ

1. What is community psychology

2. Basics of community psychology

3. Practice of community psychology

- ・Support in the community: parental support, child abuse, DV, maternal and child support
- ・Support in education: bullying, school absence, special needs, school counseling
- ・Medical support: self-help, HIV counseling, palliative care
- ・Multicultural support: emigrating families, international student support

4. Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への積極的参加および発表 (60%), レポート (40%)

Postive participation and presentation (60%), report (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。

Not specifically specified.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発表準備と、ディスカッションに積極的に参加するための準備。

Preparation for one's presentation, and preparation for the discussions so that one may participate positively.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

臨床心理学コースの学生のための授業科目である。

This class is for students in the Clinical Psychology Course.

東北大学行動指針 (BCP) レベル 1 においても、レベル 2 においても、

リアルタイム方式のオンライン授業を基本とする。

しかし、履修者と相談の上、レベル 1 において、対面での授業実施も検討する。

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード : wecpex3

② 第 1 回授業 : 4 月 14 日 (水) 13 : 00 ~

③ 第 1 回授業の実施方法 : MEET を用いた双方向授業 (カメラ・マイクはオン)

(2 回目以降、Zoom や TEAMS など、他のウェブ会議システムを用いる可能性あり)

④ 関連資料の入手方法 : Classroom で紹介

⑤ 授業に関する相談は、nanae.kojima.e5@tohoku.ac.jp まで連絡すること

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/11 18:10:30

**科目名/Subject : 心理療法特論****曜日・講時/Day/Period :** 前期 火曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 中島 正雄**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

学生相談における心理療法的アプローチ

Psychotherapeutic approach on student counseling

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

大学における学生相談活動では、特定の心理療法アプローチに固執することなく、来談者に合わせた柔軟な対応が求められる。本授業では、学生相談における多様な心理療法的アプローチの特徴や留意点について事例をもとに学習する。

Student counseling activities require flexible response tailored to clients without sticking to a specific psychotherapy approach. In this class, students will learn about the characteristics and points to keep in mind of various psychotherapeutic approaches in student counseling based on examples.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

学生相談における多様な心理療法的アプローチの特徴および相違点について理解する。

The goal is to understand the characteristics and differences of various psychotherapeutic approaches in student counseling.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

## 1. オリエンテーション

Guidance

## 2. 学生相談について

Overview of student counseling

## 3. 学生相談における多様な心理療法的アプローチ:

Psychotherapeutic approach on student counseling

## ・来談者中心療法

Person-centered therapy

## ・認知行動療法

Cognitive behavioral therapy

## ・箱庭療法

Sandplay therapy

## ・リラクゼーション法

Relaxation method

## ・精神分析的な心理療法

Psychoanalytic psychotherapy

## ・音楽療法

Music therapy

## コンサルテーション

Consulting

## 他職種との連携

Cooperation

## 4. まとめ

Summary

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

ディスカッションへの参加度 (20%)、発表 (30%)、期末レポート (50%)

Participation in discussion (20%)、Presentation (30%)、Term-end report (50%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

参考書は日本学生相談学会 (編)「学生相談ハンドブック (新訂版)」(2020 年、学苑社)。

その他の参考書、参考文献は授業内で適宜紹介する。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

学生相談事例に関する事例論文 1 本について、心理療法的アプローチに触れながら、1 人 1 回は発表する。事例論文は事前に用意するが、学生自身が探してきて良い。発表後は全員でディスカッションを行うが、その内容も含めてレポートを書いて提出することを課題とする。

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラウド対応)

クラスコード j1o6ht3

この授業は臨床心理学コース所属の学生のために開講されている。

・授業開始時期: 4 月 13 日 (火) 5 限～

- ・授業の実施方法（BCP レベル 1，レベル 2 ともに共通）

Classroom に講義資料と課題をアップ。第一回授業は Meet を用いてガイダンスを行う。

第二回以降は Meet 等を用いた双方向授業。

- ・関連資料の入手方法

授業用の資料は Classroom で紹介

- ・不明な点があれば個別にご連絡ください

(masao.nakashima.d3@tohoku.ac.jp)

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/08 18:48:15

**科目名/Subject : 人間形成論研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 李 仁子**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

在日外国人とトランスナショナリズム

Foreigners in Japan and Transnationalism

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

現代日本には多様な外国人が暮らしている。国籍も異なれば、日本に入国した時期も異なる。在留資格も、仕事も、家族構成も、母国との関係もさまざまである。在日コリアン 4 世もいれば、いくつもの国を経て数年前に日本にやってきたという人もいる。このように人によって国境の越え方や跨ぎ方は多様だが、確実に言えることはトランスナショナルな動きや現象が日本においても増大しつつあるということである。この演習では、そうした趨勢の中で在日外国人がどのような生活戦略（経済的・社会的・文化的）を立てているのか、またその上で自分たちの子どもに対してどのような教育戦略を編み出し実践に移しているのかを探り、彼らのトランスナショナルな生活世界の一端を理解することを目指す

There are many foreigners living in Japan today. They come from different nationalities and entered Japan at different times. They have different status of residence, different jobs, different family structures, and different relationships with their home countries. Some are 4th generation Koreans living in Japan, while others came to Japan several years ago after having lived in several countries. As you can see, there are many different ways of crossing borders, but what can be said with certainty is that transnational movements and phenomena are increasing in Japan. In this exercise, we will explore what kind of lifestyle strategies (economic, social, cultural) are being developed by foreigners living in Japan, and what kind of educational strategies are being developed and put into practice for their own children, with the aim of understanding some aspects of their transnational lifestyle.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・ グローバル時代における大きな潮流となりつつあるトランスナショナルな現象や生き方に関する理解を深める。
- ・ トランスナショナルな教育戦略の現状をおさえることで、現代日本の教育を再検討するための知見と視座を得る。
- ・ 在日外国人のトランスナショナルな生活世界を知ることを通じて、自らが自明のものとして生きている生活世界や文化を相対化する文化人類学的な眼差しを身につける。
- ・ To deepen our understanding of transnational phenomena and ways of life that are becoming major trends in the global age.
- ・ To understand the current state of transnational educational strategies, and to gain knowledge and perspectives for re-examining education in contemporary Japan.
- ・ To learn about the transnational life world of foreign residents in Japan, and to acquire a cultural anthropological perspective that relativizes the life world and culture that we live in as self-evident.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 1) オリエンテーション
- 2) トランスナショナルとは何か
- 3) グローバル時代のトランスナショナル現象①
- 4) グローバル時代のトランスナショナル現象②
- 5) 過去におけるさまざまな生活戦略
- 6) 差別とヘイトスピーチ
- 7) 現代におけるさまざまな生活戦略①
- 8) マイノリティとグローバル・スタンダード
- 9) 現代におけるさまざまな生活戦略②
- 10) 血縁・IT、トランスナショナル・ネットワーク
- 11) 現代におけるさまざまな生活戦略③
- 12) 子どもの教育戦略①（教育の場）
- 13) 子どもの教育戦略②（教育の質）
- 14) 子どもの教育戦略③（教育の目標）
- 15) 日本におけるトランスナショナリズムのいま
- 1) Orientation
- 2) What is transnational?
- 3) Transnational phenomena in the age of globalization ①
- 4) Transnational phenomena in the global age ②
- 5) Different livelihood strategies in the past
- 6) Discrimination and Hate Speech
- 7) Various livelihood strategies in the present age ①

- 8) Minorities and global standards
- 9) Various livelihood strategies in the present age ②
- 10) Blood relations, IT, and transnational networks
- 11) Various livelihood strategies in the present age ③
- 12) Strategies for children's education ① (Place of education)
- 13) Strategies for children's education ② (Quality of education)
- 14) Children's education strategy ③ (Goals of education)
- 15) Transnationalism in Japan today

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業での発表やディスカッション (50%)、レポート (50%)

Presentations and discussions in class (50%), reports (50%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

授業の初回に紹介する。

It will be introduced at the beginning of the class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

授業においては積極的に発言し、自発的に発表するような姿勢が求められる。

In class, students are expected to speak up and present their work spontaneously.

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

6gs5i46

② 第一回授業の開始時期

10月7日 開始

③ 授業の実施方法

・リアルタイム・対面混合方式

・オンライン授業 (Google Meet、Zoom)

④ 関連資料の入手方法

初回の授業にて紹介する。基本的には、Classroomで紹介

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

対応困難な理由に沿って提示する。

個別相談 (inja.lee.d1@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 09:27:17

**科目名/Subject : 人間形成史研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 八鍬 友広**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育社会史演習

Seminar on the social history of education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

日本教育史に関する文献を講読し、日本教育史に関わる事象について、広く社会的な文脈に位置づけて考察し、自らの研究を深めていくことができる能力を育成する。

This course has a seminar on the history of education in Japan. In this seminar students will have an opportunity to read the textbook on the history of education in Japan and to consider the history of education in Japan in the social context.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

教育社会史に関わる文献講読を通じて、日本の教育史を広く社会的な文脈で理解し、また各自の研究テーマとの関わりを追究する。本年は、山川出版社の新体系日本史シリーズ第16巻『教育社会史』を講読する。教育史学のみならず、歴史学や周辺の社会科学諸領域における研究成果にも留意しながら、教育史の研究課題について探究するものである。

The purpose of this course is to help students master the history of education in Japan and consider it in the social context by reading the textbook, "Social History of Education", edited by Masashi Tujimoto and Kouji Okita.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回：演習の全体計画・文献講読分担

第2回：教育社会史という視点について

第3回：大陸文化の受容から日本文化の形成へ

第4回：中世社会における教育の多面性

第5回：文字社会の成立と出版メディア

第6回：近世社会における教育の多様性

第7回：近世民衆の人間形成と文化

第8回：幕府の教育政策と民衆

第9回：立身出世主義と近代教育

第10回：移民教育と異文化理解

第11回：植民地支配と教育

第12回：近世日本における教育社会史の課題

第13回：近代日本における教育社会史の課題

第14回：戦後日本における教育社会史の課題

第15回：教育社会史に関するカンファレンス

1. Decision of schedule and assignment

2. Viewpoint of the social history of education

3. Introducing the Chinese culture and forming the Japanese culture

4. Diversity of education in medieval Japan

5. Formation of the literal culture and the publication media in Japan

6. Diversity of education in Tokugawa Japan

7. Human formation and culture of people in Tokugawa Japan

8. Educational policy of Tokugawa Government and people

9. Success in life and modern educational system in Japan

10. Education for immigration and understanding of different culture

11. Colonization and education

12. Issues of social history of education in Tokugawa Japan

13. Issues of social history of education in modern Japan

14. Issues of social history of education after the second world war in Japan

15. Conference on the social history of education

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

レポート課題 (20%)、演習における発表 (80%)

Report:20%



Presentation on conference:80%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書：辻本雅史・沖田行司編『新体系日本史 16 教育社会史』（山川出版社 2002 年）

参考書：授業時間中適宜指示する

Textbook: Masashi Tsujimoto and Kouji Okita, 2002, "Social History of Education"

Yamakawa Shuppan. 辻本雅史・沖田行司編『新体系日本史 16 教育社会史』（山川出版社 2002 年）

Reference books will be introduced in the course.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

教科書の講読、演習における発表の準備、レポート作成の準備等が必要となる。

Students need to read textbook and to prepare for report and presentation on conference.

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/03 17:04:27

**科目名/Subject : 人間形成史研究演習 II****曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 池尾 恭一**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :**

1. **授業題目/Class subject :**  
カント道徳哲学講読/Reading Kant's Original Texts
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**  
18 世紀ドイツの哲学者カントの文献を精読し、その内容を検討することにより、哲学文献の読解を通して自律的に思考する態度を身につける。/The purpose of this class is to introduce the basic concepts and principles of Kant's moral philosophy.
3. **学習の到達目標/Goal of study :**  
カントの文献を精確に読み解き、そこにあらわれた思考を追思考しながら、受講者自らが哲学的に思考することができる。/At the end of this class, students are able to understand and describe the basic concepts and principles of Kant's moral philosophy through the close reading of Kant's original German texts.
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**  
1～3 カントの「倫理学」・「教育学」 概観 4～6 『教育学』序論 講読 7～10 『道徳形而上学の基礎づけ』「通常の道徳的理性認識から哲学的な道徳的理性認識への移行」 講読 11～14. 『道徳形而上学の基礎づけ』「通常の道徳的理性認識から哲学的な道徳的理性認識への移行」 講読 15 カントの「道徳哲学」 総括/1～3 Introduction: Kant's moral Philosophy 4～14 Reading Kant's original German texts 15 Review: Kant's moral philosophy
5. **成績評価方法/Evaluation method :**  
テキストの読解とそれに基づくディスカッションへの積極的な参加・取り組みを総合的に評価する。/Grading is to be based on the quality of the students' performance in the classroom.
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**  
Immanuel Kant über Pädagogik, herausgegeben von Friedrich Theodor Rink, 1803.  
(Education By IMMANUEL KANT)  
Kant, Grundlegung zur Metaphysik der Sitten, 1785.  
(Groundwork of the Metaphysics of Morals)
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**  
Students are required to prepare for reading Kant's texts.
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**  
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**  
(Google クラスルーム対応)  
クラスコード 7w7ntxb
10. **更新日付/Last Update :**  
2021/03/08 12:10:41

**科目名/Subject : 社会教育学研究演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 金曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 石井山 竜平**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

地域生涯学習計画論の再検討／Revisiting the theory of community lifelong learning planning

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

今日では、将来の人口減予測を受け、公共施設や事業の大幅な縮減計画が企図される一方で、地域には、①子どもの放課後の受け皿の拡充、②学校を地域が支援する関係づくり、③高齢世代の健康と命を守り合う地域包括ケアなど、従来行政が担っていた領域や、新たに発生した問題の解決を、地域の共助・互助力で担われることが期待され、そうした文脈から、社会教育には新たな期待が高まるなか、その機能が他部局の計画に絡め取られる傾向も現れている。

一方で注目すべきは、近年では、とりわけ少子高齢化や人口減少などの課題が厳しい地域において、行政計画を越えたところで、地域主導で地域の産業の担い手やコミュニティの担い手の育成を目指した計画が生み出され、地域の力で実動しているケースが目立ち始めていることである。

こうした、地域主導の人材育成計画の新たな展開を掴みながら、従来の社会教育計画論で蓄積されてきたもののなかで、今日に継承すべき内容とは何かを吟味する。

In recent years, in regions where the challenges of declining birthrates, aging populations, and declining population are serious, community-led efforts to develop leaders of local industries and resident organizations have gone beyond government initiatives.

While surveying this new trend of community-led human resource development, we will re-examine the conventional theory of social education planning.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・地方創生と社会教育をめぐる今日の状況と、地域生涯学習計画論の蓄積を理解する。
- ・共同調査を行い、共著のレポートをまとめる。

To understand today's development of local development policies and the accumulation of regional lifelong learning planning theory.

Conduct a joint research and compile a co-authored report.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 1 イントロダクション
- 2 地方創生と社会教育をめぐる先行研究の検証 (1)
- 3 地方創生と社会教育をめぐる先行研究の検証 (2)
- 4 地域生涯学習計画論の検討 (1)
- 5 地域生涯学習計画論の検討 (2)
- 6 地域生涯学習計画論の検討 (3)
- 7 地域生涯学習計画論の検討 (4)
- 8 地域生涯学習計画論の検討 (5)
- 9 地域生涯学習計画論の検討 (6)
- 10 生涯学習計画化をめぐる調査 (1)
- 12 生涯学習計画化をめぐる調査 (2)
- 13 生涯学習計画化をめぐる調査 (3)
- 14 生涯学習計画化をめぐる調査 (4)
- 15 生涯学習計画化をめぐる調査 (5)

Review of previous research on local development and social education

Examination of regional lifelong learning planning theory

Research on lifelong learning planning

etc.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業および調査活動への参加、報告書の執筆内容に鑑みつつ、総合的に評価する。／Students will be evaluated comprehensively based on their participation in class and research activities and the content of their written reports.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

授業中に指示する。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

正規の授業日程以外で、週末や冬季休業中を活用した調査実習を予定している。

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

mwfiixe

②第1回授業の開始時期

10月5日(火)5限(18:00～)実施。

③授業の実施方法

初回はZOOMを活用する予定。URL等は授業開始時期にClassroomに掲示する。その後、対面の授業にしていくかどうかは、受講生の希望を確認しながら定めることとする。

④関連資料の入手方法

Classroomで紹介する。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 10:56:55

**科目名/Subject : スポーツ文化論研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 甲斐 健人**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

スポーツ・体育社会学研究の構想と展開

Idea and Development on sociology of sport

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

この授業では、関連領域を含めたスポーツ社会学、体育社会学領域の文献を取り上げ、検討する。あわせて、各自の研究課題にそって、事例研究および学術論文の作成を進めていくための研究発表と討論を行う。

Those who take this advanced seminar will advance their own research through introduction of literature in relevant areas and presentation of their own research, and discussion based on them.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

研究対象についてのアプローチの方法や分析視点をみにつけ、学術論文作成の技法を学ぶ。

After taking this advanced seminar, you should be able to :

①Prepare the thesis and research presentation at academic societies.

②Describe theories and the research trends on your own research themes.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

各自の研究課題にそって、研究の構想や展開、実証的研究の進め方等について報告し、参加者で検討する。

問題意識を作る

研究課題の設定

研究計画の策定

実証的研究の方法

論文作成

Participants will report on the concept and development of research, how to proceed with empirical research, etc. according to their own research themes.

Create problem awareness

Setting research themes

Formulation of research plan

Empirical research method

Treatise writing

**【BCP レベル 1 の場合】(予定)**

対面方式 (初回のみリアルタイム方式を想定)

Google Classroom のクラスコード : k2mjjeo

第 1 回授業開始時期 : 4 月 12 日 (月) 4 限 14 : 40 ~

授業の実施方法 : 初回のみグーグルミートで実施。2 回目からは対面予定 (受講者数等により検討する)。

関連資料の入手方法 : 相談

オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

対面授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

**【BCP レベル 2 以上の場合】(予定)**

リアルタイム方式

Google Classroom のクラスコード : k2mjjeo

第 1 回授業開始時期 : 4 月 12 日 (月) 4 限 14 : 40 ~

授業の実施方法 : グーグルミートによる双方向授業。

関連資料の入手方法 : 授業の資料はクラスルームを通じて配布

オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

対面授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

出席 (50%) と報告内容 (50%) によって評価する。

Attendance 50%

Discussion 50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

適宜指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

適宜指示する

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/14 22:07:17

科目名/Subject : スポーツ文化論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 鷺谷 洋輔

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

身体文化をめぐる方法論

Methodologies on physical cultural experiences

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本演習では、身体実践に関するエスノグラフィックな研究を中心に上げ、その方法論を整理し、可能性と限界とを考察、検討する。

The course focuses on examining methodologies of ethnographic works in the realm of physical cultural experiences and discusses their limitations and possibilities.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

方法論と対象化の関係性を学ぶ

Understanding the relations between methodology and objectivization.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

初回に指示する文献（社会学、人類学を中心とする英語文献）について、受講生がその整理検討と考察を発表する。

Each student will give presentations on materials proposed in the first class. The materials, in English, are picked from ethnographic works in the typical disciplines of sociology and/or anthropology.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席参加（40%）、期末レポート（60%）

Participation (40%), Final paper (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

課題文献の精読、フィールドワークの実施

Read the assigned materials and conduct independent fieldwork.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

クラスコード

vkbzhd3

10. 更新日付/Last Update :

2021/02/25 11:36:16

**科目名/Subject : 人間形成学合同演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 1 講時**担当教員/Instructor :** 李 仁子 / 池尾 恭一 / 八鍬 友広**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

人間形成学の研究方法

Research Methods in Human Development

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

人間形成の本質およびその動態的な展開過程についての洞察力を育成することを目的として、哲学・歴史学・文化人類学などの方法により、人間形成研究の事例に関する合同の演習をおこなう。

The purpose of this course is to develop insight into the nature of human development and its dynamic process of development through joint seminars on case studies of human development using methods from philosophy, history, and cultural anthropology.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

教育および人間形成を総合的に理解することができる。

Gain a comprehensive understanding of education and human development.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回 「ガイダンス」

第2回～4回 : 教育哲学の研究手法～教育現実の事例に即して～ (1) (担当: 李)

第5回～7回 : 教育思想史の研究手法～教育現実の事例に即して～ (1) (担当: 池尾)

第8回～10回 : 日本教育史の研究手法～教育現実の事例に即して～ (1) (担当: 八鍬)

第11回～14回 : 教育人類学の研究手法～教育現実の事例に即して～ (1) (担当: 李)

第15回 : 全体討議、まとめ

Session 1 : Guidance

Sessions 2-4: Research Methods in the Philosophy of Education - based on actual cases of education (1) (In charge: Lee)

Sessions 5-7: Research Methods in the History of Educational Thought - based on actual cases of education (1) (In charge: Ikeo)

Sessions 8-10: Research Methods in the History of Japanese Education - based on actual cases of education (1) (In charge: Yakuwa)

Sessions 11-14: Research methods in educational anthropology - based on actual cases of education - (1) (In charge: Lee)

Session 15: General discussion

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

討論への参加 (50%) およびレポートの内容 (50%) によって評価する。

Evaluation will be based on participation in the discussion (50%) and the content of the report (50%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

初回の授業で提示する。

To be presented in the first class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :****8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラウド対応)

① クラスコード

ojwhzag

② 第一回授業の開始時期



受講希望者は4月9日（金）正午まで、李までDC メールにて連絡をするように（inja.lee.d1@tohoku.ac.jp）

③授業の実施方法

- ・オンライン授業（Google Meet、Zoom）

④関連資料の入手方法

初回の授業にて紹介する。基本的には、Classroomで紹介

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

対応困難な理由に沿って提示する。

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/14 07:44:39

**科目名/Subject : 人間形成学合同演習 II****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 1 講時**担当教員/Instructor :** 李 仁子 / 池尾 恭一 / 八俣 友広**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

人間形成学の研究手法 II

Research Methods in Human Development II

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

人間形成の本質およびその動態的な展開過程についての洞察力を育成することを目的として、哲学、歴史学、文化人類学などの方法により、個別の研究課題に即した人間形成研究に関する合同の演習をおこなう。

The purpose of this course is to develop insight into the nature of human development and its dynamic development process, and to conduct joint seminars on human development research based on individual research topics using methods such as philosophy, history, and cultural anthropology.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

教育および人間形成を総合的に理解することができる。

Gain a comprehensive understanding of education and human development.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

オンラインの Googlemeet のクラスコード : chxep5m

第 1 回 「ガイダンス」

第 2 回～ 4 回 : 教育哲学の研究手法～個別の課題に即して～ (1) (担当 : 李)

第 5 回～ 7 回 : 教育思想史の研究手法～個別の課題に即して～ (1) (担当 : 池尾)

第 8 回～ 10 回 : 日本教育史の研究手法～個別の課題に即して～ (1) (担当 : 八俣)

第 11 回～ 14 回 : 教育人類学の研究手法～個別の課題に即して～ (1) (担当 : 李)

第 15 回 : 全体討議、まとめ

Online Googlemeet class code: chxep5m

Session 1 : Guidance

Sessions 2-4 : Research Methods in Philosophy of Education: Focusing on Individual Issues (1) (In charge: Lee)

Sessions 5-7 : Research Methods in the History of Educational Thought - Focusing on Individual Issues (1) (In charge: Ikeo)

Sessions 8-10 : Research Methods in the History of Japanese Education - Focusing on Individual Issues - (1) (In charge: Yakuwa)

Sessions 11-14: Research Methods in the Anthropology of Education: Focusing on Individual Issues (1) (In charge: Lee)

Session 15: General discussion

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

討論への参加 (50%) およびレポートの内容 (50%) によって評価する。

Evaluation will be based on participation in the discussion (50%) and the content of the report (50%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

初回の授業で提示する。

To be presented in the first class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

teswiu3

② 第一回授業の開始時期

受講希望者は10月1日(金)正午まで、李までDCメールにて連絡をするように(inja.lee.d1@tohoku.ac.jp)

③授業の実施方法

・オンライン授業 (Google Meet、Zoom)

④関連資料の入手方法

初回の授業にて紹介する。基本的には、Classroomで紹介

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

対応困難な理由に沿って提示する。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 08:20:06

**科目名/Subject : 生涯学習論合同演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 石井山 竜平 / 鷲谷 洋輔 / 甲斐 健人**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

生涯学習研究の新動向

New topics in the study of lifelong learning

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

生涯学習に関係する注目すべき研究成果を取り上げ、教員および大学院生全員での検討を行う。また、関連学会の年報、紀要への投稿予定者や、学会発表予定者の事前検討会も合わせて行う。

This course will examine notable works related to lifelong learning. Participants will discuss related articles and prepare for publications in academic journals and bulletins and presentations at conferences.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

教員も院生も共に学び合う場であるので、到達目標は特に設定しない。

No specific goals are set by instructors in considering that the course is expected to be a learning space for all the participants.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

- ・日本社会教育学会等の紀要論文、及び年報論文などの検討
- ・学会発表、論文投稿の事前検討

- ・Discussions on academic articles.

- ・Presentations of articles for academic journals and conferences.

(Google クラスルーム対応)

## ① クラスコード

gd35jhl

## ② 第一回授業の開始時期

4 月 15 日 (木) 5 限 16:20 から実施

## ③ 授業の実施方法

初回は ZOOM を活用する予定。URL 等は授業開始時期に Classroom に掲示する。その後、対面の授業にしていくかどうかは、受講生の希望を確認しながら定めることとする。

## ④ 関連資料の入手方法

Classroom で紹介する。

Google classroom instructions

## ① Classcode:

gd35jhl

## ② Date of the first class:

April 15th, 16:20 ~

## ③ Place:

The first class is held online via ZOOM. The information will be announced through Google Classroom. The class can be conducted face to face upon students' agreement and conditions.

## ④ Access to the materials:

Shared through Google Classroom

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

出席及びレポート、討議への参加などを総合的に評価する。

Evaluation is performed comprehensively based on attendance and essays.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

受講生で話し合いながら決定する。

Will be chosen based on the participants' discussions.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :****8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

担当教員を指導教員とする院生は、すでに受講済みの学生であっても、原則参加すること。

Graduate students supervised by the instructors are expected to participate in this course regardless of this course credit already completed or not.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 10:52:48

**科目名/Subject : 生涯学習論合同演習 II****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 石井山 竜平 / 鷺谷 洋輔 / 甲斐 健人**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

生涯学習研究の新動向

New topics in the study of lifelong learning

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

生涯学習に関係する注目すべき研究成果を取り上げ、教員および大学院生全員での検討を行う。また、関連学会の年報、紀要への投稿予定者や、学会発表予定者の事前検討会も合わせて行う。

This course will examine notable works related to lifelong learning. Participants will discuss related articles and prepare for publications in academic journals and bulletins and presentations at conferences.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

教員も院生も共に学び合う場であるので、到達目標は特に設定しない。

No specific goals are set by instructors in considering that the course is expected to be a learning space for all the participants.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

- ・日本社会教育学会等の紀要論文、及び年報論文などの検討
- ・学会発表、論文投稿の事前検討

- ・Discussions on academic articles.

- ・Presentations of articles for academic journals and conferences.

(Google クラスルーム対応)

**① クラスコード**

pr2qrzp

**② 第1回授業の開始時期**

10月7日(木) 5限(16:20～) 実施。

**③ 授業の実施方法**

初回はZOOMを活用する予定。URL等は授業開始時期にClassroomに掲示する。その後、対面の授業にしていくかどうかは、受講生の希望を確認しながら定めることとする。

**④ 関連資料の入手方法**

Classroom で紹介する。

Google classroom instructions

**① Classcode:**

pr2qrzp

**② Date of the first class:**

October 7th, 16:20～

**③ Place:**

The first class is held online via ZOOM. The information will be announced through Google Classroom. The class can be conducted face to face upon students' agreement and conditions.

**④ Access to the materials:**

Shared through Google Classroom

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

出席及びレポート、討議への参加などを総合的に評価する。

Evaluation is performed comprehensively based on attendance and essays.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

受講生で話し合いながら決定する。

Will be chosen based on the participants' discussions.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :****8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

担当教員を指導教員とする院生は、すでに受講済みの学生であっても、原則参加すること。

Graduate students supervised by the instructors are expected to participate in this course regardless of this course credit already completed or not.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 10:54:29

**科目名/Subject : 人間形成論実習****曜日・講時/Day/Period :** 通年 木曜日 1 講時**担当教員/Instructor :** 李 仁子**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

文化人類学的フィールドワークの実践

Practice of cultural anthropological fieldwork

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

文化人類学が長年培ってきたフィールドワークによる調査法を学び、各自の調査研究にどのように活かせばよいかを模索する。

Students will learn the fieldwork research methods that cultural anthropology has developed over the years and explore how they can be applied to their own research.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

各自のテーマに沿ってフィールドワークの具体的な計画を立て、実際に現場に入って調査を実践すると同時に、調査研究の成果発表を通じて調査をめぐる問題点や課題に関して互いに研鑽する。

Students will make specific plans for fieldwork based on their own themes, actually go into the field to conduct research, and at the same time, study the issues and problems surrounding research through presentations of the results of their research.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

授業では、フィールドワークに関する基本文献をベースに、フィールドワーク経験者の体験談を交えながら、現地調査の全体像や倫理的問題、参与観察や聞き取りの具体的な方法、フィールドノートのとり方、調査データの整理と分析の進め方、考察のまとめ方等を演習形式で学んでいく。また、各自の調査研究に関する計画発表や成果発表を随時行い、授業参加者全員によるディスカッションを通してフィールドワークに関する実践的な理解を深める。

1 ガイダンス

2～6 現地調査と研究倫理

7～12 参与観察と聞き取り

13～16 フィールドノート

17～23 調査データの整理と分析

24～26 民族誌と記述

27～29 理論と考察

30 総括

In the class, based on the basic literature on fieldwork, we will learn the overall picture of field research, ethical issues, specific methods of participant observation and interviewing, how to take field notes, how to organize and analyze the survey data, and how to summarize the discussion, etc. in an exercise format, while sharing the experiences of those who have done fieldwork. In addition, students will make presentations on their research plans and results as needed, and deepen their practical understanding of fieldwork through discussions with all class participants.

1 Guidance

2-6 Field survey and research ethics

7-12 Participatory observation and interviewing

13-16 Field notes

17-23 Organizing and analyzing survey data

24-26 Ethnography and description

27-29 Theory and discussion

30 Conclusion

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

出席およびディスカッションへの参加状況（60%）や、各自の調査研究に関する計画もしくは成果の発表（40%）を総合的に判断する。

Students will be judged on the basis of their attendance and participation in discussions (60%) and the presentation of their research plans or results (40%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

授業中に適宜紹介する。

It will be introduced in class as appropriate.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

フィールドワークの計画作りや実際の調査に相応の時間を要する。



It takes a reasonable amount of time to plan and conduct the actual fieldwork.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

海外へのフィールドワークを行う場合もある。

In some cases, fieldwork may be conducted overseas.

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

azfueeh

②第一回授業の開始時期

4月15日開始

③授業の実施方法

・リアルタイム・対面混合方式

・オンライン授業 (Google Meet、Zoom)、対面授業 (初回の授業で案内する)

④関連資料の入手方法

初回の授業にて紹介する。基本的には、Classroomで紹介

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

対応困難な理由に沿って提示する。

個別相談 (inja.lee.d1@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/14 09:11:00

**科目名/Subject : 教育社会学研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 福田 亘孝**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

応用多変量解析

Advanced Social Statistics

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

社会学で用いられる計量分析の中級以上の手法を修得する

Statistical analysis allows us to bridge theory and social facts at the macro and the micro levels by measuring and quantifying observable phenomena. This course covers the statistical tools needed to understand empirical sociological research and to plan and execute independent research projects. Topics include statistical inference, regression, generalized least squares, instrumental variables, simultaneous equations models, limited dependent variable, non-linear regression, panel-data analysis and multi-level analysis. The goal is to develop a solid theoretical background in intermediate-level statistics, implement the techniques, and critique empirical studies in quantitative sociology studies.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- (1) 社会学で用いられる計量分析の中級以上の手法を理解する
- (2) 一般化線形モデルの理論を理解し、応用した分析ができる
- (3) STATA を用いて中級以上の計量分析を行うことができる

Goals of the course are:

- (1) To improve the mastery of multiple regressions
- (2) To understand multicollinearity, heteroscedasticity, and serial correlation
- (3) To understand generalized linear models
- (4) To be familiar with panel-data analysis and multi-level analysis
- (5) To conduct statistical analysis with STATA

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 1 はじめに：計量分析の可能性と限界
- 2 指数型分布族と一般化線形モデル
- 3 尤度推定と統計量
- 4 正規線形モデル
- 5 STATA 実習 (1)
- 6 二値変数の回帰分析
- 7 名義・順序変数の回帰分析
- 8 STATA 実習 (2)
- 9 ポアソン回帰
- 10 生存時間分析
- 11 STATA 実習 (3)
- 12 制限従属変数モデル
- 13 パネル・データの分析
- 14 傾向スコアと因果分析
- 15 マルチレベル分析

Week 1: General introduction to the class

Week 2: Review of linear regression with multiple regressors

Week 3: Heteroskedasticity, serial correlation and general least square estimation

Week 4: Instrumental variable regression

Week 5: Maximum likelihood estimation and asymptotical properties of estimator

Week 6: Exponential family and generalized linear models.

Week 7: Logistic regression and probit regression

Week 8: Multi-nominal regression and ordered logit regression

Week 9: Structural equation modelling

Week 10: Poisson regression and negative binomial regression

Week 11: Survival Analysis

Week 12: Analysis of limited dependent variable

Week 13: Panel data analysis

Week 14: Multi-level analysis

Week 15: Propensity score and causality

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への参加度 (20%), 発表・レポート (40%), 課題 (40%)

Class participation, attendance, and discussion (20%)

Mid-term and final exam (50%)

Problem sets (30%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

Greene, W. (2011). Econometric Analysis. Pearson Education.

Dobson, A. J. & Barnett, A. (2008). An Introduction to Generalized Linear Models. Chapman and Hall/CRC.

Agresti, A. (2007). An Introduction to Categorical Data Analysis. Wiley-Interscience.

Hosmer, D. W. & Lemeshow, S. (2008). Applied Survival Analysis. Wiley-Interscience.

Guo, S. & Fraser, M. W. (2014). Propensity Score Analysis. Sage.

Raudenbush, S. W. & Bryk, A. S. (2002). Hierarchical Linear Models: Applications and Data Analysis Methods (2nd ed.). Sage.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする

★必要に応じて Reading Assignment と Writing Assignment を課す

★Students read required texts accurately and write a brief summary of the reading before the class.

★Students thoroughly review topics dealt with in the class and acquire knowledge regarding social statistics.

★Each student prepares a research paper on a topic of interest in social statistics, and have to submit it by the end of the term.

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

○

**9. その他/In addition :**

★This is NOT an introductory class.

★A high level of proficiency in English is required for this class.

★Students should complete required assignments before they attend the class.

★Students should attend the class with good manners.

★The schedule of the class is a map, not a fixed train timetable, and it may be changed. Also, the grading method is subject to change.

★Assignment は必ずやり遂げてから授業に出席すること

★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる

★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります

★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります

★本授業科目は、日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会が共同で設立した一般社団法人社会調査協会の定める「専門社会調査士のための必修科目」のうち、「I. 多変量解析に関する演習（実習）科目」として認定の申請を予定している授業科目である。社会調査士資格については、<http://jasr.or.jp/>を参照のこと。

(Google クラスルーム対応)

クラスコード osgewx2

Google Classroom Class Code

osgewx2

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/06 16:46:24

**科目名/Subject : 教育社会学研究演習 II**

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 島 一則

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

教育経済学領域における計量分析 Intermediate-Level Statistics for Economics of Education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

本演習では、教育経済学で用いられる複数の統計的手法について、関連論文・図書の講読と議論を通じて理解を深める。

Students will deepen their understanding of statistical methods used in economics of education through reading related papers and books and discussing.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

受講学生は、基礎的な統計手法から重回帰分析までの学部レベルの基礎的な知識を踏まえて、より深いレベルの知識の獲得と R を使った演習により、中級レベルの統計的知識と R の基礎的な利用法を学ぶ（想定対象者・SPSS を利用した経験はあるが R は利用経験のない院生）ことが、専門的知識・技能という観点からはその到達目標となる。また、汎用的技能・態度・志向性という観点からは、コミュニケーションスキル・論理的思考力・自己管理力・批判的思考力、生涯学習力を向上させる。特に数量的スキルの向上に力点を置く。

Based on the basic knowledge about the undergraduate level statistics to multiple regression analysis, students can acquire intermediate-level statistical knowledge and R.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 1 回：調査とデータ (Survey and Data)
- 2 回：記述統計量 (Descriptive Statistics)
- 3 回：母集団と標本 (Population and Sample)
- 4 回：仮説と統計的検定 (Hypothesis and Statistical Test)
- 5 回：クロス集計 (Cross Tabulation)
- 6 回：平均の差の検定 (Difference Test of Mean)
- 7 回：分散分析 (ANOVA)
- 8 回：相関分析 (Correlation Analysis)
- 9 回：3 変数の関連 (Relation of Three Variables)
- 10 回：単回帰分析 (Simple Regression Analysis)
- 11 回：重回帰分析 (Multiple Regression Analysis)
- 12 回：ダミー変数・相互作用項 (Dummy Variables and Interaction Terms)
- 13 回：主成分分析 (Principal Component Analysis)
- 14 回：因子分析 (Factor Analysis)
- 15 回：マルチレベル分析 (Multi-Level Analysis)

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業内容についての理解とコミットメント (50%)・最終レポート (50%) による。ただし、出席状況によっては受験資格を喪失する。

Quiz (50%) / Final Reports (50%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書：特になし

授業ごとに指示する

Textbook : Nothing special

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。

For the preparation and review, specific contents will be instructed in the class.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

授業中の発言など積極的な関与を求める

Seeking active involvement, such as remarks during class

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/10 12:54:29



**科目名/Subject : 教育行政学研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 後期 火曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 青木 栄一**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育政治学—発展編

Politics of Education: Advanced

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育政治に関する代表的研究と政治学の関連文献を学ぶ。ストリートレベルの官僚制論の理解を通じて、たとえば「(教育の) 地方分権改革が、地方政治にどのような変容をもたらすのか?」「地方政府間で教育政策にはどのような相違が存在するのか、そして相違をもたらす要素は何か」という論点を扱う。

This course explains the politics of education, which is constructed of policy, election, political party, interest group, legislature, executive, bureaucracy, local government, street-level bureaucracy, and the teachers union.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

教育政治についての文献を批判的に読解できる。

The purpose of this course is to help students review the articles on the politics of education.

英語文献から社会科学としての教育政治学に寄与する情報を析出できる。

The purpose of this course is to help students learn the essence of social sciences from English literature.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :****【オンラインによるリアルタイム授業】**

Google Classroom クラスコード : q7xgfo6

第 1 回授業開始時期 : 10 月 5 日 (火) 6 限 : 18:00~

Zoom で実施する。事前にアプリをインストールしておくこと。アクセス情報は事前に Google Classroom で通知する。

授業の実施方法 : 全ての回でリアルタイム授業 (ウェブ会議方式)。予習で関連資料・文献を読みリアクションペーパーを提出し、授業を受講し毎回フィードバックを送信し、復習でさらに関連資料・文献を読む。

関連資料の配布方法 : 全て Google Classroom で配布する。当該回の資料は前週月曜日 23:59 までにアップロードする。

オンライン授業への対応が困難な学生への対応 : 個別に担当教員に相談

内容及び進捗は以下の通りであるが、内容を変更する場合もある。

The contents and schedule are as shown below but subject to change.

毎回、授業のテーマについてリアクションペーパーを用いたディスカッションを行う。

In every class, students discuss the issues of politics and education using the reaction paper.

1. イントロダクション Introduction
2. マシン政治 Machine Politics
3. 地域権力 Community Power Structure
4. 都市の限界 City Limits
5. 教育ガバナンス Education Governance
6. 教員組合 Teachers Union
7. 議会 Legislature
8. 財団 Foundations and Philanthropy
9. ニューアーク市 New Arc City Case
10. 人種 Race
11. 階級 Class
12. 草の根政治 Grassroots Politics
13. 告発と退出 Voice and Exit
14. 政府を超えた政治 Nationwide Reform
15. まとめのディスカッション Looking Back and Looking Forward

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への貢献度 (20%)、リアクションペーパー (40%)、期末レポート (40%)。

Class participation (20%), Reaction papers (40%), Review paper (40%).

リアクションペーパー (Reaction papers) は 13 回課され、最低でも 8 回の期限内提出が必要である。さもないと試験の受験資格を失う。

There are 13 weeks with reading assignments; students should post at least 8 reaction papers.

欠席 3 回に達した時点で評価の対象から外れる。

Every student is expected to attend this class regularly but can be absent up to 3 times.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書：使用しない。開講時に参考文献を提示する。

No textbooks will be used. References are provided via Google Classroom.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

指定したテキスト等の該当箇所を読み予習してくる。これは全受講生にとって極めて重要なことである。

Every student is required to prepare for the assigned part of the designated textbook, papers, and books for each class.

リアクションペーパーを投稿すること。締め切りは授業の前日月曜日 23:59 である。

Every student is required to write papers reacting to the week's reading assignment along with questions and post them on Google Classroom no later than 23:59 on the Monday before class.

復習を必ず行うようにすること。

Every student is required to review for each class.

本授業を深く理解したい場合には、大学院設置基準（第 15 条）、大学設置基準（第 21 条）の規定に基づいた自己学習（予習復習等）を行うことを強く推奨する（1 回あたり 4 時間程度が標準）。

Students are required to study at home for about four hours per class, according to government guidelines.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

【オンラインによるリアルタイム授業】

Google Classroom クラスコード : q7xgfo6

第 1 回授業開始時期 : 10 月 5 日（火）6 限 : 18:00～

Zoom で実施する。事前にアプリをインストールしておくこと。アクセス情報は事前に Google Classroom で通知する。

受講要件 : 「教育行政学講義 I・II」。

※これに該当しない受講希望者は事前に担当教員と相談し、必要に応じて第 1 回授業までに最大で 12,000 字の教育行政学に関するレポートを提出し、受講可否に関する判断を仰ぐこと。

Students who have not got credits of Educational Administration I, II should see the lecturer.

教育政策科学コース博士課程前期及び他コース学生の「自由聴講」は認めない。

Students who are in the master course of the EPSA Program or other programs cannot audit.

担当教員ホームページ : <https://researchmap.jp/read0124718/>

Lecturer website: <https://researchmap.jp/read0124718/>

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/15 13:12:33

**科目名/Subject : 教育行政学研究演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 後藤 武俊**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育政策研究への政治哲学の応用 / Applying Political Philosophy on Education Policy Studies.

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

政治哲学で用いられる規範的分析の手法（功利主義、リベラリズム、共同体主義等の社会構想に基づく教育行政上の諸問題の分析）を学ぶ。

/ The course deals with the normative analysis on education policies by applying the concepts of political philosophy (Utilitarianism, Liberalism, Communitarianism and so on).

NOTICE: This course will be taught in Japanese.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・政治哲学の代表的な社会構想を理解できるようになる。
- ・政治哲学の代表的な社会構想を応用して教育行政上の諸問題を考察できるようになる。
- ・政治哲学の代表的な社会構想を駆使して適切な論証を行えるようになる。

/The goals of this course are to

1) understand typical conceptions in the field of political philosophy.

2) obtain the skill to discuss problems related to education policies by applying the knowledge of political philosophy.

3) obtain the skill to write an article by applying the knowledge of political philosophy.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

テキスト・参考書に挙げた図書を輪読するかたちで進めていく。論点・疑問点をまとめた資料（ワークシート）を毎回作成して持参することが求められる。

/ We will discuss the contents of the textbooks. Participants are required to write their impressions, thoughts and questions for the textbooks on the worksheet every week.

1. オリエンテーション / Orientation

2～8. テキスト①の購読 / Reading textbook No. 1

9～14. テキスト②の購読 / Reading textbook No. 2

15. まとめ / Final Discussion

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

ワークシートへの評価（60%）、最終レポート（40%） /

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

-- Quality of comments written in worksheet: 60%

-- Final report: 40%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

【テキスト】

①キムリッカ, W. (千葉眞・岡崎晴輝他訳) (2005)『新版 現代政治理論』日本経済評論社。(テキスト① / Text No. 1)。

②ヤング, アイリス・M (1990=2020)『正義と差異の政治』法政大学出版局 (テキスト② / Text No. 2)。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

テキストの熟読およびワークシートの作成。 / Reading textbook and writing comments on worksheet.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

【使用言語】日本語のみ。 / This course will be required in Japanese.

【受講要件】特になし

【Google Classroom 対応】

クラスコード: ctdg4te

授業形式: 受講者が5名以下の場合は、対面での実施も検討する。

【連絡先】

E-mail: taketoshi.goto.a8@tohoku.ac.jp

**10. 更新日付/Last Update :**



2021/03/09 14:40:27

**科目名/Subject : 比較教育学研究演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 金曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 井本 佳宏**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

比較・国際教育学の諸課題 / Issues in Comparative and International Education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

本授業では、比較・国際教育学のテキストの講読を通じて、比較・国際教育学が取り組んでいる諸課題への理解を深めるとともに、比較教育学的思考のセンスを身につけることを目指す。 /

The aim of this course is to deepen understanding of various issues in comparative and international education and to acquire a sense of comparative educational thinking through reading texts.

Notice: This course will be taught in Japanese, although we shall read texts written in English.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 比較・国際教育学の学問的性質を理解する。
2. 教育に関わる具体的課題を比較の視点から考察する力を身につける。
3. 授業への参加を通じて英文読解力、討議能力および論証力を獲得する。 /

The goals of this course are to

- understand the academic nature of comparative and international education,
- acquire the ability to examine issues related to education from comparative perspective,
- acquire English reading comprehension, discussion, and argumentation skills.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回 オリエンテーション / Orientation

第2回 An introduction to comparative education

第3回 How are comparisons made?

第4回 Culture and education

第5回 Economic, political, social and historical contexts for comparison

第6回 Education and the developing world

第7回 Gender and education

第8回 第2回から第7回までのまとめと討議 / Review and reflection from the 2nd to the 6th lesson

第9回 Understanding international education

第10回 Globalisation and education

第11回 Global citizenship education

第12回 Multicultural education

第13回 International schools

第14回 Internationalisation of higher education

第15回 全体のまとめと補足 / Review, reflection, and course evaluation

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

1. 授業内での報告および議論への貢献 (50%)
2. 期末レポート (50%) /

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Presentation and attitude in class: 50%
- Final paper: 50%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

・Marshall, J. (2019) Introduction to Comparative and International Education, Second Edition, SAGE.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

- ・検討対象の章については各回の授業までに必ず読み、要点をメモにまとめておくこと。
- ・各回の報告担当者は事前にプレゼンの準備をすること。 /

-The students are required to read the chapter to be discussed before each class and make a memo of the main points.

-The students in charge of the presentation in each lesson are required to prepare for it.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

・授業に関する諸連絡、資料の配付、課題等の提示や提出には Google Classroom を利用します。クラスコードは 5czgzt4 です。第1回授業の前に各自で生徒登録してください。

・オフィスアワー 火曜日 13:00~15:00 /

We will use google classroom to manage the course. The class code is "5czgzt4". Please register yourself before the first lesson.

-Office Hour: 13:00-15:00, Every Tuesday

10. 更新日付/Last Update :

2021/02/25 16:28:14

**科目名/Subject : 教育政策科学合同演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 通年 木曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 井本 佳宏 / 青木 栄一 / 島 一則 / 福田 亘孝 / 後藤 武俊**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :**

1. **授業題目/Class subject :**  
教育政策科学研究法／Research Methods in Education Policy
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**  
教育社会学、教育行政学、比較教育学、教育経済学の観点から、修士論文作成に向けた課題設定や文献研究についての指導を行う。より具体的には、参加者が各自の研究テーマに即して報告し、論文の執筆や研究を進めるために必要な知識や手法をアドバイスするための授業である。教育政策科学コース前期課程 1 年次学生の課題研究論文執筆のための研究指導を主たる目的とする。／  
This course introduces the research methods in education policy from a viewpoint of educational sociology, educational administration study, comparative education study, and educational economics. In each lesson, participants report based on their own themes of research. The advice for improving paper writing is given to each report. This course is for 1st-year students in master's course program.
3. **学習の到達目標/Goal of study :**  
受講学生は、学術水準の高い論文を執筆するために必要な力量を形成する。／  
The goal of this course is to be able to write high quality academic papers.
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**  
1 回：授業概要の説明、2～14 回：受講学生による報告と研究指導、15 回：授業の振り返りと最終成果報告／  
1. Orientation, 2. ~14. Reports by Students, 15. Reflection
5. **成績評価方法/Evaluation method :**  
授業への貢献度による／  
Grading will be decided based on class attendance and attitude in class.
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**  
特になし
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**  
予習・復習については各回の報告内容や関連文献に基づいて、適宜指示する。／  
The directions about preparation and review are given based on the contents and related literature of each report.
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**  
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**  
本授業の評価については、課題研究論文とは別に行うので注意されたい。  
本授業に関する諸連絡は Google Classroom ではなく、Slack を用いる。  
Slack への登録については別途コースから案内する。／  
Notice: The evaluation in this course is performed independently of the evaluation of other research papers.  
Slack, not Google Classroom, will be used for all communication related to this course.  
Information on how to register for Slack will be provided separately.
10. **更新日付/Last Update :**  
2021/02/25 15:59:06

**科目名/Subject : 教育政策科学合同演習 II****曜日・講時/Day/Period :** 通年 木曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 井本 佳宏 / 青木 栄一 / 島 一則 / 福田 亘孝 / 後藤 武俊**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育政策科学研究法 : Research Methods in Education Policy

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育社会学、教育行政学、比較教育学、教育経済学の観点から、修士論文作成に向けた課題設定や文献研究についての指導を行う。より具体的には、参加者が各自の研究テーマに即して報告し、論文の執筆や研究を進めるために必要な知識や手法をアドバイスするための授業である。教育政策科学コース前期課程 2 年次学生の修士論文のための研究指導を主たる目的とする。／

This course introduces the methods of education policy research from a viewpoint of educational sociology, educational administration study, comparison pedagogy, and educational economics. In each lesson, participants report based on their own subjects of research. The advice for improving paper writing is given to each report. This course is for 2nd year students in master's course program.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

受講学生は、学術水準の高い論文を執筆するために必要な力量を形成する。／

The goal of this course is to be able to write high quality academic papers.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

1 回 : 授業概要の説明、2～14 回 : 受講学生による報告と研究指導、15 回 : 授業の振り返りと最終成果報告／

1. Orientation, 2. ~14. Reports by Students, 15. Reflection

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への貢献度による／

Grading will be decided based on class attendance and attitude in class.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特になし

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

予習・復習については各回の報告内容や関連文献に基づいて、適宜指示する。／

The directions about preparation and review are given based on the contents and related literature of each report.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

本授業の評価については、修士論文とは別に行うので注意されたい。

本授業に関する諸連絡は Google Classroom ではなく、Slack を用いる。

Slack への登録については別途コースから案内する。／

Notice: The evaluation in this course is performed independently of the evaluation of other research papers.

Slack, not Google Classroom, will be used for all communication related to this course.

Information on how to register for Slack will be provided separately.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/25 16:01:33

**科目名/Subject : 成人教育研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 火曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 松本 大**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

成人教育研究の探究 (1)

Exploring adult education research (1)

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

(1) 自身の研究に関連する国内外の先行研究を収集し報告することによって、研究内容を深める。

(2) 自身の研究内容の発表・検討をとおして、研究を発展させる。

(1) The purpose of this course is to help students develop their research through literature reviews related to their own research.

(2) The aim of this course is to help students advance their research through research presentation and discussion.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

(1) 自身の研究テーマに関わる研究動向を把握できる。

(2) 成人教育研究における研究方法を身につけることができる。

(3) リサーチクエスションや研究デザインを改善することで研究を発展させる。

(1) Students better understand the research trends in their research.

(2) Students learn about research methods in adult education research.

(3) Students develop their research by improving research questions and research design.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. オリエンテーション/Orientation

2~15. 発表と議論/Presentation and discussion

○授業実施方法について

【BCP レベル 1 の場合】

リアルタイム・対面併用方式 (ハイブリッド方式)

・ Google Classroom のクラスコード : sfz3jil

・ 第 1 回授業 : 開始時期 : 4 月 13 日 (火) 5 限 : 16 : 20 ~

・ 授業の実施方法 : 初回と 2 回目は、Meet を用いた双方向授業、3 回目以降は、教室での対面方式とリアルタイム配信の同時併用によるハイブリッド方式。3 回目以降の対面式の教室での受講については、収容人数の上限があるため、前後の授業スケジュールやオンライン授業への対応が困難な状況について、学生から聞き取りを行いながら決定する。恒常的にオンライン授業への対応が困難な学生あるいは、対面授業への対応が困難な学生に対しては、事前に要相談とするので、dai.matsumoto.c5@tohoku.ac.jp へ連絡のこと。

【BCP レベル 2 の場合】

リアルタイム方式 (ウェブ会議方式)

・ Google Classroom のクラスコード : sfz3jil

・ 第 1 回授業の開始時期 : 4 月 13 日 (火) 5 限 : 16 : 20 ~

・ 授業の実施方法 : Meet を用いた双方向授業。

・ 関連資料の入手方法 : 授業用の資料は Classroom で紹介

・ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

(dai.matsumoto.c5@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表・授業への取り組みに基づき総合的に評価を行う。

Evaluation is performed comprehensively based on their presentations and class participation.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書は使用しない。

No textbooks will be used.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことが強く期待される。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/11 19:17:56

**科目名/Subject : 成人教育研究演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 火曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 松本 大**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

成人教育研究の探究 (2)

Exploring adult education research (2)

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

(1) 自身の研究に関連する国内外の先行研究を収集し報告することによって、研究内容を深める。

(2) 自身の研究内容の発表・検討をとおして、研究を発展させる。

(1) The purpose of this course is to help students develop their research through literature reviews related to their own research.

(2) The aim of this course is to help students advance their research through research presentation and discussion.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

(1) 自身の研究テーマに関わる研究動向を把握できる。

(2) 成人教育研究における研究方法を身につけることができる。

(3) リサーチクエスションや研究デザインを改善することで研究を発展させる。

(1) Students better understand the research trends in their research.

(2) Students learn about research methods in adult education research.

(3) Students develop their research by improving research questions and research design.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. オリエンテーション/Orientation

2~15. 発表と議論/Presentation and discussion

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表・授業への取り組みに基づき総合的に評価を行う。

Evaluation is performed comprehensively based on their presentations and class participation.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書は使用しない。

No textbooks will be used.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことが強く期待される。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :****10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/11 19:17:56



**科目名/Subject : 学校教育論研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 劉 靖**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

グローバル教育改革運動とアジア太平洋地域における教育の未来 Global Education Reform Movement & The Future of Education in Asia-Pacific Region

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

過去数十年間で、グローバル教育改革運動（GERM）は、教育改善を目指す教育政策のモデルとして世界諸国の教育システムに急速に普及されつつある。しかしながら、その結果、世界諸国の学校教育には様々な問題が生じている。本演習では、学習者がグローバル社会及びアジア太平洋地域におけるグローバル教育改革運動への理解を深め、アジア太平洋地域における教育改善のための新たなアプローチを探索することを通して、アジア太平洋地域（特に日本）における教育の将来を再考する能力を身につけることを目的とする。

本演習は3部で構成されている。第1部では、学習者は過去数十年間における世界の教育変遷に関する理論とパラダイムシフト、そしてグローバル教育改革における動きを理解する。第2部では、学習者はグローバル社会における教育改革の動きと、アジア太平洋地域における新たな教育改善アプローチについての理解と洞察をグループプレゼンテーションにより共有する。最後に、学習者は日本の教育改革の成果と課題を探索し、日本の教育の将来に適用できる代替アプローチについて議論する。

In the past decades, there is a rapid rise of global education reform movement (GERM) recognized as education policy borrowing for education improvement around the world. As a result, schools got fever, teachers and school leaders coughed heavily, parents got headache, and students lost their appetite to go to schools. This course aims to enable students to deepen their understanding of the ongoing global education reform movement at global and Asia-Pacific region levels. Also, it gives students a platform to explore alternative approaches for education change in Asia-Pacific region. Last but not the least, it is designed to enable students to reconsider the future of education in Japan and Asia-Pacific region by applying the alternative approaches.

The seminar has three parts. In the 1st part, students review theories and paradigm shifts of global education change in the past decades and common ways of the movement in the global education reform. In the 2nd part, students are invited to share their understanding and insights of the global education reform movements and alternative approaches in Asia-Pacific region by group presentations. In the last part, students are encouraged to explore the achievements and challenges of Japan's education reform and discuss about alternative approaches which can be applied to the future of Japan's education reform.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

本演習で学習者は、(1) グローバル教育変遷のパラダイムシフトとグローバル教育改革運動（GERM）への理解を深め、(2) 教育課題に関する分析と解釈に必要な知識と批判的な思考のスキルを習得し、(3) 日本を含むアジア太平洋地域における教育の将来に向けた適切かつ建設的な提言ができるようになる。

Goals of study are to enable students to: (1) have an in-depth understanding of the paradigm shifts of global education change and the global education reform movement (GERM), particularly in the Asia-Pacific region, (2) to obtain knowledge and skills of critical thinking for analyzing and interpreting educational issues, (3) to provide relevant and constructive recommendations for the future of education in Japan and the Asia-Pacific region.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

BCP レベル1 の場合: 対面授業実施 At BCP Level 1: the class will be conducted face-to-face.

BCP レベル2 の場合: オンラインでの授業実施 At BCP Level 2: the class will be conducted online.

なお年度途中で対面授業への変更を行う場合、別途 j 事前に連絡する。 In case there is shift to face-to-face class, announcement will be made in advance.

Session 1 Introduction オリエンテーション

Session 2 Global Education Change グローバル教育の変遷

- the 1st way 第一の道
- the 2nd way 第二の道
- the 3rd way 第三の道
- the 4th way 第四の道

Session 3 Global Education Reform Movement (GERM) 1

グローバル教育改革運動 1

-Competition & Standardization 競争と標準化

Session 4 Global Education Reform Movement (GERM) 2

グローバル教育改革運動 2

-Focus on literacy and numeracy & Accountability

識字力および計算能力の向上の強化とアカウンタビリティ

Session 5 Global Education Reform Movement (GERM) 3

グローバル教育改革運動 3

-School choice 学校選択

Session 6 Global Education Reform Movement (GERM) 4

グローバル教育改革運動 4

-School collaboration 学校間協力

Session 7 Global Education Reform Movement in Asia-Pacific Region 1

アジア太平洋地域におけるグローバル教育改革運動 1

-Presentation session 発表

Session 8 Global Education Reform Movement in Asia-Pacific Region 2

アジア太平洋地域におけるグローバル教育改革運動 2

-Presentation session 発表

Session 9 The Fourth Way of Global Education Change in Asia-Pacific Region

アジア太平洋地域におけるグローバル教育変遷の第四の道

-Presentation session 発表

Session 10 Future of Japan's Education

日本の教育の未来

Session 11 Exploring the Fourth Way of Japan's Education Reform Fieldwork preparation 1

日本における教育改革の第四の道を探究する 調査準備 1

Session 12 Exploring the Fourth Way of Japan's Education Reform Fieldwork preparation 2

日本における教育改革の第四の道を探究する 調査準備 2

Session 13 Exploring the Fourth Way of Japan's Education Reform School Visit 1

日本における教育改革の第四の道を探究する 学校訪問 1

Session 14 Exploring the Fourth Way of Japan's Education Reform School Visit 2

日本における教育改革の第四の道を探究する 学校訪問 2

Session 15 Presentation session 発表会

## 5. 成績評価方法/Evaluation method:

Class participation (25%) 授業参加 (25%)

Group preparation (35%) グループワーク (35%)

Final group report (40%) 最終報告書 (40%)

## 6. 教科書および参考書/Textbook and references:

References and reading materials will be distributed at class. 授業内で文献などを配布する。

## 7. 授業時間外学習/Preparation and Review:

1. Students are highly encouraged to collect information on relevant alternative approaches for educational change and reform in the Asia-Pacific region and actively share the information at class. 学生には、アジア太平洋地域における教育の変遷と改革に向ける新たなアプローチに関する情報を収集し、クラスで情報を共有することを強く推奨する。

2. There are group works for preparing group presentations.

グループプレゼンテーションを準備するためのグループワークが時間外学習となる。

## 8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

## 9. その他/In addition:

1. Google Class code: xdm2r5n

2. 第一回目の授業 4月15日 (木) 13:00~から

The 1st session will start at 13:00 on April 15 (Thursday), 2021.

3. 受講希望者は4月14日（水）正午までに劉までDCメールにて連絡をするように（jing.liu.e8@tohoku.ac.jp）。  
Those who plan to take course, please contact Dr. Jing Liu by jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by April 14, 2021.

4. 授業はGoogle Meet/ZOOMを使用し行う予定  
The class will be implemented by Google Meet/ZOOM

5. Both English and Japanese will be used in this course. Students are highly encouraged to take part in discussion and make presentations in English.

この授業は日本語と英語で行われる。学生には英語で議論および発表に参加することを強く推奨する。

6. Office hour: Friday 2nd period  
オフィスアワー：金曜日 2限

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/05 14:05:39

**科目名/Subject : 学校教育論研究演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 劉 靖**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

学校間協力による教育改善 School Collaboration for Education Improvement

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

1990 年代以降、すべての人に平等で質の高い教育を提供するために、多くの国が恵まれない学校の改善に取り組んできた。早期選抜の回避や学校選択のコントロールなどの政策や実践は、多くの OECD 諸国で学校間の社会経済的分離を回避し、多様な能力を持つ生徒が公立学校で一緒に学ぶようにバランスよく配置するための一般的なアプローチとなった。ほとんどの先進国は、発展途上国と同様に、学校の指導者に力を与え、支援的な学校風土と学習環境を刺激し、教師の研修を強化し、学校、保護者、地域社会の間の協力のネットワークを促進するための行動をとってきた。

本演習では、グローバル社会における「学校間協力」ネットワークによる教育の質改善の取り組みに関する政策、議論、研究などを収集し、批判的にレビューを行い、「学校間協力」の多様性を理解した上で、アジア太平洋地域における多様な「学校間協力」ネットワークによる教育の質改善の取り組みの成果および課題を探索し、この地域の教育開発の将来に適用できる「学校間協力」の在り方について議論する。

Since the 1990s, many countries have been working to improve disadvantaged schools in order to provide equal and quality education for all. Policies and practices such as avoiding early selection and controlling school choice have become common approaches in many OECD countries to avoid socio-economic segregation among schools and to balance the distribution of students with diverse abilities so that they can learn together in public schools. Most developed countries, as well as developing countries, have taken actions to empower school leaders, stimulate supportive school climates and learning environments, enhance teacher training, and promote networks of collaboration among schools, parents, and communities.

In this seminar, we will collect and critically review policies, debates, and research on efforts to improve the quality of education through school collaboration networks in the global community, to understand the diversity of school cooperation, and to examine the achievements and challenges of various school collaboration network education quality improvement efforts in the Asia-Pacific region. We will also explore the achievements and challenges of various school collaboration networks in the Asia-Pacific region, and discuss ways in which school collaboration can be applied to the future of educational development in the region.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

本演習で学習者は、(1) グローバル社会における「学校間協力」ネットワークによる教育の質改善の取り組みへの理解を深め、(2) 「学校間協力」ネットワークによる教育の質改善の取り組みに関する分析と解釈に必要な知識と批判的な思考のスキルを習得し、(3) 日本を含むアジア太平洋地域における教育開発の将来に適用できる「学校間協力」の在り方について議論ができるようになる。

Goals of study are to enable students to: (1) deepen their understanding of the quality improvement efforts of school collaboration networks in a global society, (2) acquire the knowledge and critical thinking skills necessary to analyze and interpret school collaboration network for quality improvement, and (3) discuss the future of school collaboration as it applies to educational development in the Asia Pacific region, including Japan.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

Session 1 Introduction オリエンテーション

Part 1 理論と背景 Theories and Backgrounds

Session 2 公共政策枠組みとしてのネットワーキングと協力

Networking and Collaboration as a Public Policy Framework

Session 3 ネットワーキングと協力に関する理論 Theories of Networking and Collaboration

- 構造主義的組織論 Constructivist Organizational Theory

- 社会資本論 Social Capital Theory

- 社会的ネットワーク理論 Social Network Theory

- 新社会運動論 New Social Movement Theory

Session 4 教育ネットワークの類型化に向けて Towards a Typology of Educational Networks

- 目的と活動 Objectives and activities

-ネットワークの分類 Types of networks

Session 5 ネットワークと協力の影響 Impact of Networking and Collaboration

Session 6 研究方法 Research Methods

Part 2 ネットワーキングと協力の事例研究 Networking in Practice

Session 7 中国 China

Session 8 イギリス UK

Session 9 カナダ Canada

Session 10 シンガポール Singapore

Session 11 タイ Thailand

Session 12 韓国 Korea

Session 13 日本 Japan

Part 3 結論 Conclusion

Session 14 学校連携に関する研究の今後の展開 Future of research on school collaboration

Session 15 発表会 Presentation session

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

Class participation (25%) 授業参加 (25%)

Individual/Group presentation (40%) 個人・グループ・プレゼンテーション (40%)

Final report (35%) 最終報告書 (35%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

References and reading materials will be distributed at class. 授業内で文献などを配布する。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

1. Students are highly encouraged to collect information on relevant diverse school collaboration for education quality improvement in the Asia-Pacific region and actively share the information at class.

学生には、アジア太平洋地域における多様な「学校間協力」による教育の質改善の取組み情報を収集し、クラスで情報を共有することを強く推奨する。

2. There are group works for preparing group presentations.

グループプレゼンテーションを準備するためのグループワークが時間外学習となる。

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

1. Google Class code: 1t3pq77

2. 第一回目の授業 10月7日(木) 13:00~から

The 1st session will start at 13:00 on October 7 (Thursday), 2021.

3. 受講希望者は10月6日(水) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように(jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。

Those who plan to take course, please contact Dr. Jing Liu by jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by October 6, 2021.

4. 授業はGoogle Meet を使用し行う予定

The class will be implemented by Google Meet

5. Both English and Japanese will be used in this course. Students are highly encouraged to take part in discussion and make presentations in English.

この授業は日本語と英語で行われる。学生には英語で議論および発表に参加することを強く推奨する。

6. Office hour: Friday 2nd period

オフィスアワー: 金曜日 2限

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/06 17:43:01



**科目名/Subject : 多文化教育論研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 末松 和子**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

多文化教育論研究演習 I Seminar I: Research on International Education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

高等教育におけるカリキュラムの国際化、多文化教育、国際共修、留学生教育等の分野において、先行研究のレビューを中心に現状と課題を整理する。最終的にはリサーチクエストを設定し、研究の内容に沿った検証方法を検討し、研究計画を立てるための準備を行う。

This seminar provides students with an opportunity to explore research on international education such as internationalization of curriculum, intercultural/multicultural education, intercultural collaborative learning, and education and support for international students. Based on the basic literature review, students will identify some "issues" in the field of their academic interest and gain insights into appropriate research methodologies in order to address the issues.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・関心のある研究分野の文献に精通する
- ・先行研究レビューをもとに検証すべき課題を設定する
- ・定性的研究を中心に調査方法を学ぶ

Students should become able to

- carry out literature review
- find issues from the previous studies
- learn how to conduct qualitative research

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

日程 授業内容

4 月 12 日 ★Zoom 情報は Classroom で情報提供

April 12 授業の概要

Introduction about this seminar

4 月 19 日 ★MEET 情報は Classroom で情報提供

April 19 研究計画とは

Research Plan/Proposal

-----

これ以降は大学の BCP レベルや受講生の事情に配慮しオンラインか対面を決めます。情報は Classroom で提供します。

4 月 26 日 April 26

合同演習 (文献レビュー&amp;クリティーク) Literature review &amp; critique

5 月 3 日 May 3

祝日・休講 University closed for holiday

5 月 10 日 May 10

研究テーマの設定 How to set a research theme/topic

5 月 17 日 May 17

合同演習 (文献レビュー&amp;クリティーク) Literature review &amp; critique

5 月 24 日 May 24

研究目的 Purpose/goal of research

5 月 31 日 May 31

合同演習 (文献レビュー&amp;クリティーク) Literature review &amp; critique

6 月 7 日 June 7

先行研究 Literature review

6月14日 June 14

合同演習（文献レビュー&クリティーク） Literature review & critique

6月21日 June 21

リサーチクエスション How to set research questions

6月28日 June 28

合同演習（文献レビュー&クリティーク） Literature review & critique

7月5日 July 5

研究方法 Research methods

7月12日 July 12

合同演習（文献レビュー&クリティーク） Literature review & critique

7月19日 July 19

研究計画まとめ Summary of research plan/proposal

7月26日 July 26

研究計画発表 Presentation of research plan/proposal

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

課題（レポート）50%、ディスカッションへの貢献 30%、最終プレゼンテーション 20%

Assignments (reports) 50%, Contribution to class discussions 30%, Final presentation 20%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に指定しない。授業内で文献等を教材として配布する。

Will be provided in class

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

授業に貢献できるよう予習すること

Students are encouraged to become independent learners

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

① クラスコード hi53bio

② 第一回授業の開始時期 4月12日 Zoom (Classroomで案内)

第二回目はMEET <https://meet.google.com/lookup/azy5oyzqdd>

③ 第三回目以上は大学のPCBレベルや学生の事情によりオンラインか対面かを決定。連絡はClassroomより行う。

④ 関連資料の入手方法 授業内で配布

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

メール（末松和子 <kazuko.suematsu.a3@tohoku.ac.jp>）

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/04 22:14:43



**科目名/Subject : 多文化教育論研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 渡部 由紀**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

文献レビューの基礎

Introduction to the literature review process

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

多文化教育論研究演習 I・II は、グローバル共生教育論・多文化教育論コースを専攻する前期課程学生の課題研究論文・修士学士請求論文、後期課程学生の特定研究論文・博士学位請求論文作成のための研究指導を主たる目的としたゼミである。演習 I では、多文化・国際教育研究の領域において、受講生が各自研究テーマを設定し、研究論文を批判的かつ建設的に批判する。

Research Seminar in Multicultural Education I & II are mainly offered to master and doctoral students majoring in the Multicultural Education Course of the Global Education Program. In those seminars, students are expected to develop general research skills to embark on their Master's and Doctoral thesis. Research Seminar I aims to provide students with the know-how and skills to identify their research theme, critically and constructively review research literature, and complete a systematic literature review.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1) 多文化・国際教育研究領域の研究論文を批判的かつ建設的に評価分析ができる。  
2) 文献レビューマトリックスを作成する。文献レビューマトリックスの作成を通して、課題研究論文・修士請求論文、または特定研究論文・博士学位請求論文の研究テーマと一致した文献を整理し、既存の文献を分類し、学生自身の分析に基づいた所見を明らかにする。

1) Critically and constructively read and analyze research literature in the field of multicultural/international education.

2) Create a literature review matrix in which students organize the literature, which corresponds to their Master or Doctoral thesis study, aiming to identify and synthesize the patterns of the extant literature and formulate their own observations.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回 授業概要の説明

第2回～13回 受講学生による報告と討議

第14～15回 文献レビューの発表

Week 1 Orientation

Week 2-13 Presentations and Discussions

Week 14-15 Final Presentations on literature review

**【Google クラウドルーム情報及び授業運営の詳細】****① クラスコード**

・PM530100

**② 第一回授業の開始時期**

・4月12日(月)3限:13:00～

**③ 授業の実施方法****A. BCP レベル1の場合**

・初回と2回目は、Zoomを用いた双方向授業、3回目以降は、教室での対面方式とリアルタイム配信の同時併用によるハイブリッド方式。Zoomへのアクセス情報はGoogle Classroomに掲載。

・3回目以降の対面式の教室での受講については、収容人数の上限があるため、前後の授業スケジュールやオンライン授業への対応が困難な状況について、学生から聞き取りを行いながら決定する。恒常的にオンライン授業への対応が困難な学生あるいは、対面授業への対応が困難な学生に対しては、事前に要相談とするので、yuki.watabe.c6@tohoku.ac.jpへ連絡のこと。基本的に特別な事情がない場合は、担当発表者は対面にて教室で発表を行う。

**B. BCP レベル2の場合**

・授業の実施方法: Zoomを用いた双方向授業。Zoomへのアクセス情報はGoogle Classroomに掲載

・オンライン授業への対応が困難な学生への対応策: 個別に相談(yuki.watabe.c6@tohok.ac.jpへ連絡のこと)

**④ 関連資料の入手方法**

・授業の資料は、Google Classroom で共有

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

- 30% 授業への参加・貢献
- 30% 指定論文レビューの発表 (2回)
- 20% 文献レビューマトリックス (研究論文 15 本以上)
- 20% 文献レビュー発表

- 30% Class participation
- 30% Two presentations on an assigned article
- 20% A literature review matrix (more than 15 articles)
- 20% A final presentation on literature review

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書は特に定めないが、授業に沿った参考図書を適宜紹介する。

No textbook will be used. Other readings will be announced in class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

Students are required to prepare for the class according to the goal and contents of each class.

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/16 13:11:00

**科目名/Subject : 多文化教育論研究演習 I**

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 高橋 美能

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

多文化共生と教育 (Multicultural Community and Education)

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

本授業は、クラスという1つのコミュニティに参加する一人ひとりの間に「多文化共生」の関係性を構築するため、いかなる教育実践が効果的であるのかを考えることを目的としている。具体的には、学習環境、教育方法、学習テーマの3つの観点から、多文化共生実現に向けた教育実践を検討する。

The purpose of this course is to think about what kind of educational practices are effective in order to build relationships for a 'multicultural community' among each individual participant within a community of a class. Specifically, educational practice devoted to multicultural community will be considered from the viewpoint of three themes: learning environment, educational method and learning theme. The course is designed for students interested in educational practice at the actual educational site or those with related research themes, and begins with a discussion on the nature of multicultural community. Further, students examine the relationship of their own research theme with multicultural community, deepen their research through presentations in class and carry out preparations for essay writing.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 多文化共生社会の構築に必要な教育のあり方を考える。
2. 多文化共生と自身の研究の関係性を考え、発表や論文執筆を通じて自身の研究を深める。

1. To think about what kind of education is necessary to build a multicultural society.
2. To think about the relation between a student's own research and multicultural community, and through presentations and essay writing, deepen the student's research.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

初回の授業はオリエンテーションで授業概要の説明、および自身の研究分野等の自己紹介を行ってもらい、2回目の授業以降は、議論や文献収集を行いつつ、定期的に自身の研究発表を行ってもらい、最後には自身の研究成果をレポートにまとめ、提出を求める。

The first class is orientation. The outline of the course will be explained and students will introduce themselves and their research field, etc. From the 2nd class onwards, while engaging in debates and the collection of research sources, students will regularly carry out research presentations. Finally, students will be asked to summarize the results of their research in a report for submission.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

出席および議論への参加度 (30%)、発表 (30%)、レポート (40%)

Attendance and participation in discussion(30%), presentation(30%), report(40%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :****7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

発表の準備、およびレポート作成にかかる時間

Preparation for presentations and writing a report

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicates the practical business

○

**9. その他/In addition :**

・Google Classroom のクラス コード f2zc6gx になります。

・初回の授業は、4月12日(月)3限:13:00~

・初回の授業は、Classroom 上のオンライン Meet で行います。

・授業の実施方法は、Meet を用いた双方向授業。

・関連資料は授業時、および Classroom 上で説明します。

・オンライン授業への対応が困難な学生は、メールでご連絡ください。メールアドレス: minotakahashi@tohoku.ac.jp

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/02 14:32:59

**科目名/Subject : 多文化教育論研究演習Ⅱ**

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 末松 和子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

多文化教育論研究演習Ⅱ Seminar II: Research on International Education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

高等教育におけるカリキュラムの国際化、多文化教育、国際共修、留学生教育等の分野において先行研究レビューをもとに、リサーチクエスチョンを設定し、定性的研究アプローチを用いた研究（パイロット）を実施する。研究の進捗状況を発表しあい相互研鑽を図る。

This seminar provides students with an opportunity to gain deeper insights into international education such as internationalization of curriculum, intercultural/multicultural education, intercultural collaborative learning, education and support for international students. Based on the extensive literature review, students will develop research questions, identify an appropriate research method, and actually conduct a pilot study.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・先行研究レビューをもとに検証すべき課題を設定する
- ・定性的研究方法を学ぶ
- ・パイロット研究を実施する

Students should be able to

- develop a problem statement with the literature review
- select a research method suitable to their research
- conduct a pilot study

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1: 授業の概要説明、ディスカッション

第2～5回: 先行研究レビュー

第6～7回: リサーチクエスチョン設定

第8回～10回: 研究方法

第11回～14回: パイロット研究

第15回: 授業の振り返りと最終発表

1st Class: Introduction of the seminar and expectations for the students taking this seminar

2nd-5th class: Literature review

6th-7th class: Research questions

8th～10th class: Research methodologies

11th-14th: Conduct a pilot study

15: Reflection and final presentation

This seminar will be done both online and onsite. The first and second class will be online.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

課題（レポート）50%、ディスカッションへの貢献 30%、最終プレゼンテーション 20%

Assignments (reports) 50%, Contribution to class discussions 30%, Final presentation 20%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

授業内で配布する

Will be provided in class

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

授業に貢献できるよう予習すること

Students are encouraged to become independent learners

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

クラスルームコード ; syawtzr

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/04 22:16:21



**科目名/Subject : 多文化教育論研究演習 II****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 渡部 由紀**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

論文執筆の基礎

Master/Doctoral (thesis) Introduction

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

多文化教育論研究演習 I・II は、グローバル共生教育論・多文化教育論コースを専攻する前期課程学生の課題研究論文・修士学術請求論文、後期課程学生の特定研究論文・博士学位請求論文作成のための研究指導を主たる目的としたゼミである。演習 II では、演習 I で受講生が各自の研究テーマに即して進めてきた文献レビューを基礎に、序章をドラフトする。

Research Seminar in Multicultural Education I & II are mainly offered to master or doctoral students majoring in the Multicultural Education Course of the Global Education Program. Students are expected to develop general research skills to embark on their Master's thesis in those seminars. In Research Seminar II, students will draft an introductory chapter of their Master's or Doctoral thesis based on a literature review, which they have been working on in Research Seminar I.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- 1) 研究課題および研究課題に対する具体的な問いを立てることができる。
- 2) 研究論文の序章(ドラフト)を完成させる。

1) articulate a research problem and create research questions

2) write an introductory chapter of a Master's or Doctoral thesis

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回 授業概要の説明

第2回 研究科題名(仮でもよい)と研究の概要と計画(A4-1枚)

第3回~14回 受講学生による報告と討議

第15回 授業の振り返りと最終成果報告

Week 1 Orientation

Week 2-3 How to review a research article

Week 4-14 Presentations and Discussions

Week 15 Wrap up

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

30% 授業への参加・貢献

30% 発表

40% 研究論文の序章(ドラフト)

30% Class participation

30% Presentations

40% Introductory chapter of Master's or Doctoral thesis

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書は特に定めないが、授業に沿った参考図書を適宜紹介する。

No textbook will be used. Other readings will be announced in class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

Students are required to prepare for the class according to the goal and contents of each class.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

①Google クラスルームコード : PM530120

②第一回授業の開始時期

・10月4日(月)3限:13:00からリアルタイム型オンラインと対面併用のハイブリットにて実施予定。

・オンラインを希望する人はクラスのGoogle Meetにログインしてください。

・対面授業を希望する人は指定された教室に来てください。

③授業の実施方法

・リアルタイム型オンラインと対面併用のハイブリット型授業

④関連資料の入手方法

- ・授業の資料は、Google Classroom で共有

10. 更新日付/Last Update :

2021/02/16 13:11:34

**科目名/Subject : 多文化教育論研究演習Ⅱ**

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 高橋 美能

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

多文化共生と教育 Multicultural Community and Education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

本授業は、クラスという1つのコミュニティに参加する一人ひとりの間に「多文化共生」の関係性を構築するため、いかなる教育実践が効果的であるのかを考えることを目的としている。具体的には、学習環境、教育方法、学習テーマの3つの観点から、多文化共生実現に向けた教育実践を検討する。

授業では教育現場における実践に興味のある学生、および自身の研究テーマと関連のある学生を対象に、まずは多文化共生とは何かを考え議論する。そして、自身の研究テーマと多文化共生の関係性を考察し、クラス内での発表を通じて自身の研究を深め、論文執筆に向けた準備を行う。

The purpose of this course is to think about what kind of educational practices are effective in order to build relationships for a 'multicultural community' among each individual participant within a community of a class. Specifically, educational practice devoted to multicultural community will be considered from the viewpoint of three themes: learning environment, educational method and learning theme. The course is designed for students interested in educational practice at the actual educational site or those with related research themes, and begins with a discussion on the nature of multicultural community. Further, students examine the relationship of their own research theme with multicultural community, deepen their research through presentations in class and carry out preparations for essay writing.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 多文化共生社会の構築に必要な教育のあり方を考える。
2. 多文化共生と自身の研究の関係性を考え、発表や論文執筆を通じて自身の研究を深める。

1. To think about what kind of education is necessary to build a multicultural society.
2. To think about the relation between a student's own research and multicultural community, and through presentations and essay writing, deepen the student's research.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

初回の授業はオリエンテーションで授業概要の説明、および自身の研究分野等の自己紹介を行ってもらい、2回目の授業以降は、議論や文献収集を行いつつ、定期的に自身の研究発表を行ってもらい、最後には自身の研究成果をレポートにまとめ、提出を求める。

The first class is orientation. The outline of the course will be explained and students will introduce themselves and their research field, etc. From the 2nd class onwards, while engaging in debates and the collection of research sources, students will regularly carry out research presentations. Finally, students will be asked to summarize the results of their research in a report for submission.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

出席および議論への参加度 (30%)、発表 (30%)、レポート (40%)

Attendance and participation in discussion(30%), presentation(30%), report(40%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :****7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

発表の準備、およびレポート作成にかかる時間

Time required for the preparation of the presentation, and the writing of the report.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

○

**9. その他/In addition :**

Google Classroom のクラス コードは、 s7w2ka2 です。

初回の授業はオンラインで行いますので、Google Meetに参加してください。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/02 14:46:57



**科目名/Subject : グローバル共生教育論合同演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 劉 靖**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

持続可能な社会と教育 Sustainable Society &amp; Education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

2015 年に採択された持続可能な開発目標 (SDGs) には「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」ことが持続可能な社会の実現のための教育目標として設定された。もう一方で、SDGs 時代の教育は持続可能な社会を実現する直接的な諸課題を解決する方法としても注目されてある。本演習では、SDGs 時代において、「目標としての教育」と「方法としての教育」を着目し、SDGs 時代における社会教育や学校教育を含むすべての教育の在り方について考察し、日本を含むアジア諸国の事例研究を通してその再構築の必要性や方法や課題などを理解し、課題設定力をはじめとする研究力を獲得することを目的とする。

In 2015, "Ensure inclusive and equitable quality education and promote lifelong learning opportunities for all" as an educational goal of SDGs for achieving a sustainable society. On the other hand, education is considered means of dealing with different issues for achieving a sustainable society. By taking education as goals and means, this seminar aims at enabling participants to consider the roles of all types of education (including school education & social pedagogy) in the era of SDGs, to understand the necessity, methods and challenges of reconstruction of these education through case studies of Asia including Japan, and to strengthen their research capacity.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

本演習の目的は次の 3 点である。

- ①持続可能な社会の実現をめぐる教育の役割を理解できるようになる。
- ②SDGs 時代における諸課題に対する教育的な視座を提供できるようになる。
- ③日本を含むアジア諸国の事例研究を通して、研究課題の設定力および考察力を身につけるようになる。

Three Goals of this seminars, including,

- 1. To deepen understanding of the roles of education in achieving a sustainable society;
- 2. To be able to provide an educational perspective to issues in the Era of SDGs;
- 3. To be able to consider and set up research topic through case studies of educational issues in Asia including Japan.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

BCP レベル 1 の場合: 対面授業実施 At BCP Level 1: the class will be conducted face-to-face.

BCP レベル 2 の場合: オンラインでの授業実施 At BCP Level 2: the class will be conducted online.

なお年度途中で対面授業への変更を行う場合、別途 j 事前に連絡する。 In case there is shift to face-to-face class, announcement will be made in advance.

第 1 回 1st Session: オリエンテーション Orientation

第 2 回 2nd Session: SDGs 時代における教育のあり方 Education in the Era of SDGs

第 3 回 3rd Session: 持続可能な開発のための教育 Education for Sustainable Development (ESD)

第 4 回 4th Session: 地球市民教育 Global Citizenship Education (GCED)

第 5 回 5th Session: 目標としての教育(1) 平等と公平の教育 Education as goals (1) Equality &amp; Equity

第 6 回 6th Session: 目標としての教育(2) 質の高い教育 Education as goals (2) Quality

第 7 回 7th Session: 目標としての教育(3) 学び方の転換 Education as goals (3) Transformation of Learning

第 8 回 8th Session: 目標としての教育(4) 教え方の転換 Education as goals (4) Transformation of Teaching

第 9 回 9th Session: 方法としての教育(1) 健康と福祉 Education as means (1) Health &amp; Well-being

第10回 10th Session: 方法としての教育(2) Education as means (2) 環境と経済 Environment & Economy

第11回 11th Session: 方法としての教育(3) Education as means (3) 文化と社会 Culture & Society

第12回 12th Session: 方法としての教育(4) Education as means (4) パートナリーシップ Partnership

第13回 13th Session: 文献発表(1) Presentation (1)

第14回 14th Session: 文献発表(2) Presentation (2)

第15回 15th Session: 授業の繰り返し Reflection

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への参加度 (20%), 発表 (40%), レポート(感想文) (40%) による総合評価

Participants will be evaluated comprehensively through their participation attitude (20%), presentations (40%), and reports(Reflection papers) (40%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

北村友人・佐藤真久・佐藤学 (2019)『SDGs 時代の教育』学文社

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

1. Google Class Code グーグルクラス コード:jhlzrh

2. 第一回授業の開始時期 4月15日(木) 18:00- Schedule of 1st session: April 15 (Thu) 18:00-

3. 授業の実施方法 How to implement this class

・授業はGoogle Meet/ZOOMを使用し行う予定 The class will be implemented by Google Meet/ZOOM.

・受講希望者は4月14日(水) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように (jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。

Students who plan to take this class, please contact Prof. Jing Liu through jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by April 14 (Wed).

4. 関連資料の入手方法 How to get teaching materials and reading assignment

・授業の資料については、授業開始前までにGoogle Classroomの共有ドライブにアップロード予定(受講希望者を招待する)。Teaching materials and reading assignment will be uploaded to Google Classroom.

・授業課題については、Google Classroomで知らせる予定。Homeworks will be announced through Google Classroom.

5. オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 Towards Students without access to online class.

・説明会や授業を録画し、Google Classroomで履修生に共有する Recordings of orientation and lectures will be shared through Google Classroom.

・オンライン授業への参加が困難な学生については、4月14日(水) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように (jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。Those who have difficulties in taking part in online class, please contact Dr. Jing Liu by email(jing.liu.e8@tohoku.ac.jp) by April 14(Wed) 12:00pm.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/08 19:56:38

**科目名/Subject : グローバル共生教育論合同演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 劉 靖/井澤 仁美/吉田 美穂/山屋 理恵/鈴木 辰吉**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

グローバル共生教育論研究 Research on Educational Practices for Global Coexistence

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

持続可能な社会の時代に向けて、社会、経済および環境といった様々な分野の変容と共に、教育のあり方の再検討も必要になっている。本講義では、グローバル社会における諸教育課題を取り上げ、参加者全員での検討を行うと共に、参加者が各自の研究テーマを探し、修士論文作成に向けた課題設定や先行研究や研究手法などについての指導を目的とする。

In the era of SDGs, with the changes of society, economy and environment, it is necessary to reconsider the role of education. In this seminar, participants will discuss educational issues of the global society, select research topics, and acquire knowledge and skills of how to set up research topic, how to conduct literature review and how to conduct research.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

本演習の目的は次の3点である。

- ①グローバル社会における諸教育課題を理解できるようになる。
- ②グローバル共生教育に関する諸理論を応用しグローバル社会における諸教育問題を考察できるようになる。
- ③グローバル社会における諸教育課題に関する研究能力を身に着けるようになる。

Three Goals of this seminars, including,

1. To deepen understanding of the roles of education in achieving a sustainable society;
2. To be able to provide an educational perspective to issues in the Era of SDGs;
3. To be able to consider and set up research topic through case studies of educational issues in Asia including Japan.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回 1st Session : オリエンテーション Orientation

第2回-3回 2nd-3rd Session : グローバル共生教育論研究について Introduction to Research on Educational Practice for Global Coexistence

第4回-6回 4th-6th Session : 受講学生による研究テーマに関する報告

第7回 7th Session : 先行研究 How to conduct literature review?

第8回-11回 8th-11th Session : 外部講師による講演 : 国内外における諸教育課題

第12回-14回 12th-14th Session : 受講学生による報告と研究指導 Presentations &amp; Guidance

第15回 15th Session : 授業の振り返り Reflection

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

講義への貢献度 (20%)、発表 (40%) およびレポート(感想文) (40%) で総合的に評価する。

Participants will be evaluated comprehensively through contribution to the class (20%), presentation (40%), and reports (reflection paper) (40%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

授業ごとに提供する。References will be provided in each class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :****8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

1. Google Class Code グーグルクラス コード: qk32dgt

2. 第一回授業の開始時期 10月7日(木) 18:00- Schedule of 1st session: October 7 (Thursday) 18:00-

3. 授業の実施方法 How to implement this class

・授業はGoogle Meet/ZOOMを使用し行う予定 The class will be implemented by Google Meet/ZOOM.

・受講希望者は10月6日(水) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように(jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。

Students who plan to take this class, please contact Prof. Jing Liu through jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by October 6 (Wed).

4. 関連資料の入手方法 How to get teaching materials and reading assignment

- ・授業の資料については、授業開始前までに Google Classroom の共有ドライブにアップロード予定（受講希望者を招待する）。Teaching materials and reading assignment will be uploaded to Google Classroom.

- ・授業課題については、Google Classroom で知らせる予定。Homeworks will be announced through Google Classroom.

5. オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 Towards Students without access to online class.

- ・説明会や授業を録画し、Google Classroom で履修生に共有する Recordings of orientation and lecturers will be shared through Google Classroom.

- ・オンライン授業への参加が困難な学生については、10 月 6 日（水）正午までに劉までDCメールにて連絡をするように（jing.liu.e8@tohoku.ac.jp）。Those who have difficulties in taking part in online class, please contact Dr. Jing Liu by email(jing.liu.e8@tohoku.ac.jp) by October 6 (Wed) 12:00pm.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/08 19:59:07

**科目名/Subject : 国際教育共同実習****曜日・講時/Day/Period :** 通年 金曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 松本 大**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

コロナ禍における実践のポリティクス

The politics of practice in the coronavirus pandemic

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

コロナ禍において教育実践は再帰的に変化し続けている。こうした実践の変化は、学習者、教育者、教育機関、地域社会など、実践に関係する人びとや機関を複雑に巻き込み、関係的に構成されている。このように実践が再帰的かつ社会的に、そして時に政治的に構成される過程やあり方そのものを、ここでは実践のポリティクスと呼ぶ。この実践のポリティクスのなかにコロナ禍における人びとの学習をとらえる。

この授業では、コロナ禍における様々な実践の動態を描くことによって、コロナ禍は人びとの学習に何をもたらしているのかを考える。

In the coronavirus pandemic, the educational practice continues to change reflexively. These changes in practice are complex and intertwined with learners, educators, educational institutions, and communities. This view of

how the practice is structured reflexively, socially, and sometimes politically, is referred to here as "the politics of practice". Students examine the learning of people in the coronavirus pandemic in the realm of "the politics of practice".

By showing the dynamics of various educational practices in the corona, students will consider what the corona crisis has brought to people's learning.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

(1) 自分で研究をデザインし、研究成果をまとめ、最終的に英語で発表することができる。

(2) コロナ禍における教育に関する研究動向について理解を深めることができる。

(1) The purpose of this course is to help students design their own research, consider the research findings, and finally make a presentation in English.

(2) Students learn about research trends related to education in the coronavirus pandemic.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

(1) 各自のリサーチクエストや研究方法の検討/Examination of your own research questions and research methods

(2) 各自の研究結果の検討/Discussion of your research findings

(3) 各自の発表内容の検討/Examination of your own presentation

(4) 海外の大学の先生を招いた国際 webinar にて研究成果を発表する。また、その先生にその国における教育実践について講義もして頂く。/Students present their research in English at an international webinar inviting a professor from a foreign university. Also, a lecture will be given by the professor on the status of educational practice in corona related confusion.

## ○授業実施方法について

## 【BCP レベル 1 の場合】

リアルタイム・対面併用方式（ハイブリッド方式）

・Google Classroom のクラスコード : etsqcs

・第 1 回授業 : 開始時期 : 4 月 16 日（金）3 限 : 13:00 ~

・授業の実施方法 : 初回と 2 回目は、Meet を用いた双方向授業、3 回目以降は、教室での対面方式とリアルタイム配信の同時併用によるハイブリッド方式。3 回目以降の対面式の教室での受講については、収容人数の上限があるため、前後の授業スケジュールやオンライン授業への対応が困難な状況について、学生から聞き取りを行いながら決定する。恒常的にオンライン授業への対応が困難な学生あるいは、対面授業への対応が困難な学生に対しては、事前に要相談とするので、dai.matsumoto.c5@tohoku.ac.jp へ連絡のこと。

## 【BCP レベル 2 の場合】

リアルタイム方式（ウェブ会議方式）

・Google Classroom のクラスコード : etsqcs

・第 1 回授業の開始時期 : 4 月 16 日（金）3 限 : 13:00 ~

・授業の実施方法 : Meet を用いた双方向授業。

・関連資料の入手方法 : 授業用の資料は Classroom で紹介

・オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

(dai.matsumoto.c5@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表・授業への取り組みに基づき総合的に評価を行う。

Evaluation is performed comprehensively based on their presentations and class participation.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は使用しない。

No textbooks will be used.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことが強く期待される。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/11 19:17:56

**科目名/Subject : 教育アセスメント研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 有本 昌弘**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育アセスメントと研究方法

Educational Assessment and Research Methods

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

○リアルタイム・対面混合方式

・Google Classroom のクラスコード : acorkm3

アセスメントとエヴァリュエーションのシナジー効果という政策と実践を通底する概念枠組みが、21世紀型学習環境とそのイノベーションに結実している海外の動向を把握し、国内でもアクセスできる方法と受け入れられるアプローチや方向について検討する。その際、探究とゆとり教育から、教育の来し方を振り返るとともに、学際分野を切り拓くシステム思考とデザイン思考を核に、世界を見るグローバルコンピテンシー、21世紀型のコンピテンシーを、日本文化から取り上げる試みをする。

To grasp a conceptual framework based on the policy and practice of synergy between assessment and evaluation, and the trends of the 21st century learning environment and the overseas trends resulting in its innovation, accessible methods and acceptable approaches. And look at 21st century competencies, such as global competencies that look at the world from Japanese culture.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

アセスメントの成果・プロセス・文脈についての枠組みをアングロサクソンはじめ他の国々から学び、教育アセスメントとイノベーションに関して、教員の信念やアイデンティティ含めた比較研究、ルーブリックやコーディングなどアセスメントツールの開発の適用それ自体の検討を行う力を身につける。

To learn the framework of assessment outcomes, processes, and contexts from Anglo-Saxon and other countries, to carry out comparative research on educational assessment and innovation, including teachers' beliefs and identities, and to examine the application of assessment tool development, such as rubrics and coding. To acquire the skills to apply the development of assessment.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

・第一回授業 : 開始時期 : 10月4日(月)6限 : 18:00~

・授業の実施方法 : Meet を用いた双方向授業 (1回~2回)。Meet 等での会議の実施方法について Classroom で紹介

・その後対面方式 (3~15回) 203教室への変更

ただし、海外留学生の参加、季節的にインフルエンザ等他の感染症の増加も予想され、コロナ感染症のリスクがある場合には、オンラインに切り替える。

・関連資料の入手方法 : 授業用の資料は Classroom や教室で紹介

・オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

・対面授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談

(m.a@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

第1回 データ収集と研究データに向けた方法論について

第2回 アプリによるクラウドソーシングデータ収集

第3回 " 動画作成

第4回 " ナラティブデータ

第5回 " 属性

第6回 評価からアセスメント

第7回 " 暗黙知

第8回 " コミュニケーション

第9回 " 社会化(発達成長)

第10回 文化コードワードによるコーディング

第11回 " プロットとスクリプト

第12回 " 行動規範

第13回 " ハビトゥス

第14回 " 社会文化パターン

第15回 まとめ

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

基本的にはレポート(40%),出席点(40%)で総合的に判断する。用意したいいくつかの問いを含むアサインメントに対する何らかのアセスメントによる加点方式をとる(20%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

Wierzbicka, Anna (2003) CrossCultural Pragmatics: The Semantics of Human Interaction. De Gruyter Mouton.

Wierzbicka, Anna (1997) Understanding Cultures Through Their Key Words: English, Russian, Polish, German, and Japanese (Oxford Studies in Anthropological Linguistics) Oxford University Press USA. (キーワードによる異文化理解—英語、ロシア語、ポーランド語、日本語の場合

Wierzbicka, A. (1991). Japanese key words and core cultural values. Language in Society, 20(3), 333-38.)

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

講義する側からは、文献からビデオを含めアセスメントタスクをいくつか用意する。これを時間外学習で取り組みその成果を講義の中でもちよる。そのために、講義する側は、Trello というソフトウェアの中のカードとボードにてフィードバックを行うので、受講する側は、BYOD により、指定された文献（書籍と論文）のみにとどまらず、関連文献等を探し出すようにしてほしい。

データの再分析の時間を、講義のコマ数にカウントする。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○ JICA ベトナム派遣教育専門家、アフリカ・中南米（南アフリカ、ガーナ；ボリビア、ペルー）派遣教員向け講義

**9. その他/In addition :**

<https://classroom.google.com/c/Mjc2NjYwODgyNDQ1?cjc=acorkm3>

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/06 15:28:32



**科目名/Subject : 教育アセスメント研究演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 松林 優一郎**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

自然言語処理学の最前線

Cutting-edge research on natural language processing

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

大規模データを使った様々なテキスト解析技術について、特に基盤技術や汎用技術を中心に最前線の研究成果を学ぶ。演習は主要な論文の精読を中心とした輪講形式で進める。

This course offers an opportunity to learn recent research topics in the field of natural language processing (NLP) by collaboratively reading and discussing about important papers, particularly focusing on the ones about fundamental and general-purpose NLP technologies.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 自然言語処理に関する最新の研究成果に関する知見を深める
2. 学術論文を調査し、読み解く能力を得る
3. 論文読解を通して、問題の提起から解決手法の提案、結論までの論理的な考えの筋道をトレースできるようになる

The goals of this course are to:

1. widely understand the recent research in NLP,
2. improve the skills in surveying and reading academic papers, and
3. acquire an ability to trace the logical paths presented in papers.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 単語ベクトルと分布意味論 (1)
- 第3回 単語ベクトルと分布意味論 (2)
- 第4回 ニューラル言語モデル (1)
- 第5回 ニューラル言語モデル (2)
- 第6回 構文解析 (1)
- 第7回 構文解析 (1)
- 第8回 意味解析 (1)
- 第9回 意味解析 (2)
- 第10回 敵対的学習
- 第11回 強化学習
- 第12回 クラウドアノテーション
- 第13回 ニューラル機械翻訳
- 第14回 質問応答 (1)
- 第15回 質問応答 (2)

Seminar 1 Orientation

Seminar 2 Word vectors and distributed semantics (1)

Seminar 3 Word vectors and distributed semantics (2)

Seminar 4 Neural language models (1)

Seminar 5 Neural language models (2)

Seminar 6 Syntactic parsing (1)

Seminar 7 Syntactic parsing (2)

Seminar 8 Semantic parsing (1)

Seminar 9 Semantic parsing (2)

Seminar 10 Adversarial machine learning

Seminar 11 Reinforcement learning

Seminar 12 Cloud annotation

Seminar 13 Neural machine translation

Seminar 14 Question answering (1)

Seminar 15 Question answering (2)

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業での発表と議論への参加度 (100%)

Presentation quality and participation in discussions (100%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

講義毎に適宜資料を配布する。

Materials will be distributed for each seminar.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

クラスコード : pnkba6z

コロナ対応により、教室変更等、重要な連絡をすることがあるので、Google クラスルームによる連絡の確認を随時行うこと。

本研究演習履修のためには「教育アセスメント特論Ⅱ 前期 月曜日 3講時」を履修済みのこと。

In order to take this course, students must have already taken "Advanced Lectures on Educational Assessment II" on Monday 3rd period on the first semester.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/12 13:07:08

**科目名/Subject : 教育アセスメント研究演習Ⅲ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 金曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 熊谷 龍一 / 松林 優一郎 / 佐藤 智子 / 柴山 直 / 有本 昌弘**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育評価・測定論研究の実際 (2)

Research of Educational Assessment and Measurement II

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

各自の関心に基づいた研究を遂行し、その発表と共同討議を通じて、教育評価・教育測定論に関する高度な知見を確立することを目的とする。

The aim of this course is to acquire the comprehensive knowledge about educational assessment and measurement. Students tackle some research topics based on individual interests, make oral presentation and discuss collaboratively.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 各自の研究テーマに沿った研究を遂行できる。
2. 発表と共同討議を通じて、教育評価・教育測定論分野の幅広い知見を獲得する。
3. 発表と共同討議を通じて、研究者に求められる討議能力を獲得する。

The goals of this course are to

1. Tackle some research topics based on individual interests,
2. Obtain comprehensive knowledge about educational assessment and measurement, through oral presentations and joint discussions,
3. Obtain the discussion ability as researchers, through presentations and joint discussions.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. オリエンテーション (1 回)
2. 各自の研究発表と共同討議 (14 回)

1. Orientation (1 session)
2. Presentations and collaborative discussions (14 sessions)

**授業実施方法****B C P レベル 1、2 共通**

- ・Google Classroom のクラスコード : adcvbty
- ・第一回授業の開始時期 : 講義カレンダーに従う
- ・関連資料の入手方法 : Classroom を通して配布
- ・オンライン授業 (の場合) の対応が困難な学生への対応策 : 事前の申し出により相談
- ・対面授業 (の場合) の対応が困難な学生への対応策 : 事前の申し出によりハイブリッド対応

**B C P レベル 1 の場合**

- ・授業の実施方法 : 原則オンライン、状況に応じて対面とのハイブリッド

**B C P レベル 2 の場合**

- ・授業の実施方法 : オンライン

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表・レビュー (70%), 討議への参加 (30%)

Presentation and review (70%), participation in discussion (30%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

講義中に適宜指示する。

Instructions will be given during the lecture.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

先行研究の探索・整理, レビューの執筆, 発表資料の作成

Searching and organizing previous research, writing reviews, and preparing presentation materials

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

クラスコード : adcvbty

コロナ対応により、教室変更等、重要な連絡をすることがあるので、Google クラスルームによる連絡の確認を随時行うこと。

教育情報アセスメントコースの教育評価測定論領域に所属する院生は、すでに受講済みの学生であっても、各自の研究を相対化し知見を広げる機会となるので、原則参加すること。

We may make important announcements such as classroom changes due to corona, so be sure to check the Google Classroom as needed.

In principle, graduate students belonging to the Educational Evaluation and Measurement Theory area of the Educational Information and Assessment Course should participate in this course, even if they have already taken the course, because it will provide them with an opportunity to relativize their research and expand their knowledge.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/10 11:13:39

**科目名/Subject : 教育測定学研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 柴山 直**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

大規模計算時代の統計推論

Computer Age Statistical Inference

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

統計推論の発展史を理解することで大規模計算時代における教育データ解析への方法論を修得する

The aim of this exercise is to understand how statistics has evolved during the past years, under the influence of computers and digitalization.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

大規模計算時代の統計的方法論を教育データに適用できるようになる。

After taking this course, you will be able to apply computer age statistical methodologies to the analysis of educational data.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

進行予定 :

第1回 はじめに

第2回 アルゴリズムと推論/頻度派的な推論 / ベイズ派的な推論

第3回 フィッシャー派的な推論と最尤推定 / パラメトリックモデルと指数型分布族

第4回 経験ベイズ法 / ジェームズ=スタイン推定量とリッジ回帰

第5回 一般化線形モデルと回帰木 / 生存時間解析と EM アルゴリズム

第6回 ジャックナイフとブートストラップ / ブートストラップ信頼区間

第7回 交差検証と予測誤差の Cp 推定 / 客観ベイズ推論とマルコフ連鎖モンテカルロ法

第8回 戦後の統計推論と方法論

第9回 大規模仮説検定と偽発見率

第10回 疎なモデリングとラッソ

第11回 ランダムフォレストとブースティング

第12回 神経回路網と深層学習

第13回 サポートベクトルマシンとカーネル法

第14回 モデル選択後の推論

第15回 経験ベイズ推定戦略

Schedule:

1 Introduction

2 Algorithms and Inference / Frequentist Inference / Bayesian Inference

3 Fisherian Inference and Maximum Likelihood Estimation / Parametric Models and Exponential Families

4 Empirical Bayes / James-Stein Estimation and Ridge Regression

5 Generalized Linear Models and Regression Trees / Survival Analysis and the EM Algorithm

6 The Jackknife and the Bootstrap / Bootstrap Confidence Intervals

7 Cross-Validation and Cp Estimates of Prediction Error / Objective Bayes Inference and MCMC

8 Postwar Statistical Inference and Methodology

9 Large-Scale Hypothesis Testing and FDRs

10 Sparse Modeling and the Lasso

11 Random Forests and Boosting

12 Neural Networks and Deep Learning

13 Support-Vector Machines and Kernel Methods

14 Inference After Model Selection

15 Empirical Bayes Estimation Strategies

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

毎回課す報告に対する評価の合計点

100% for submitted assignments

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書 :

Bradley Efron ・ Trevor Hastie 著・藤澤 洋徳・井手 剛監訳 (2020) 大規模計算時代の統計推論—原理と発展—、共立出版

<https://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320114340>

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。  
/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

Google Classroom のクラスコード : djom447

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/11 16:26:45

**科目名/Subject : 教育測定学研究演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 火曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 熊谷 龍一**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

項目反応理論に基づくテストの分析手法

Test data analysis using item response theory

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

昨今、多くのテスト分析で用いられている項目反応理論 (Item Response Theory: 以下 IRT) について、その基本概念から発展モデルの理解、および実際のテストデータ分析手法を習得する。

This course deals with basic concepts and advanced model of item response theory. It also enhances the development of student's skill in test data analysis using item response theory.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. IRT の基本概念を理解し、テストデータ分析結果を正しく読み取ることができる。

2. 実際のテストデータに対して、IRT 分析を行うことができる。

3. IRT の発展モデル (多値型モデル, 多次元モデル) について、その概要を説明できる。

The goals of this course are to

1. be able to understand the basic concept of IRT, read the result of test data analysis,

2. be able to analyse the real test data using IRT,

3. be able to describe and explain advanced model of IRT.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回: オリエンテーション: 授業全体の概要把握

第2回: IRT 理解に必要なとなる数学的知識 (1) 統計学の基礎

第3回: IRT 理解に必要なとなる数学的知識 (2) 基礎解析 (微分, 積分, 指数関数)

第4回: Concepts, Models, and Features

第5回: Ability and Item Parameter Estimation (1)

第6回: Ability and Item Parameter Estimation (2)

第7回: Assessment of Model-Data Fit

第8回: The Ability Scale

第9回: Item and Test Information and Efficiency Functions

第10回: Test Construction

第11回: Identification of Potentially Biased Test Items

第12回: Test Score Equating

第13回: Computerized Adaptive Testing

第14回: Future Directions of Item Response Theory

第15回: Conclusion

Contents :

1. Orientation

2. The basics of mathematics 1

3. The basics of mathematics 2

4. Concepts, Models, and Features

5. Ability and Item Parameter Estimation (1)

6. Ability and Item Parameter Estimation (2)

7. Assessment of Model-Data Fit

8. The Ability Scale

9. Item and Test Information and Efficiency Functions

10. Test Construction

11. Identification of Potentially Biased Test Items

12. Test Score Equating

13. Computerized Adaptive Testing

14. Future Directions of Item Response Theory

15. Conclusion

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への参加度 (発言, 質問等, 50%), 適宜行う小レポート+最終レポート (50%)

Class attendance and attitude in class: 50%

Short reports and final report: 50%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

Hambleton, R. K., Swaminathan, H., and Rogers, H. J. (1991) Fundamentals of Item Response Theory. Sage Publications, Inc.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

クラスコード : c6xcmmj

コロナ対応により、教室変更等、重要な連絡をすることがあるので、Google クラスルームによる連絡の確認を随時行うこと。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/10 11:15:16



**科目名/Subject : 教育情報学基礎論研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 後期 金曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 渡部 信一**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

「学び」の認知科学に関する演習

Exercises on cognitive science of “learning”

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

ICT を活用した教育に関する研究成果を理解できるようになる。

「学び」の認知科学を応用した学習指導ができるようになる。

映像撮影・編集手法、プログラミング教育に関する基礎知識・実践ができるようになる。

デジタル時代における学びの問題に関する教育・研究の計画・実施ができるようになる。

You will be able to understand the research results related to education using ICT.

You will be able to provide learning guidance that applies the cognitive science of “learning.”

You will be able to acquire basic knowledge and practice regarding video shooting / editing methods and programming education.

You will be able to plan and implement education and research on learning issues in the digital age.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

超デジタル時代における「学び」に関する教育・研究の計画・実施する能力の獲得する。

Acquire the ability to plan and implement education and research related to “learning” in the ultra-digital age.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

- 1 オリエンテーション
- 2 超デジタル時代の学び ICT を活用した教育(1) e-ラーニングの実践
- 3 超デジタル時代の学び ICT を活用した教育(2) モーションプロジェクト
- 4 協同的な学びと認知科学
- 5 グループによる映像製作活動-(1) 撮影・編集手法の習得
- 6 グループによる映像製作活動-(2) シナリオと教授デザイン・認知科学
- 7 グループによる映像製作活動-(3) シナリオとコンテンツ作製と指導案
- 8 グループによる映像製作活動-(4) 番組制作
- 9 グループによる映像製作活動-(5) 番組の評価
- 10 プログラミング教育実習-(1) プログラミング教育の背景
- 11 プログラミング教育実習-(2) 学習アプリのデザイン
- 12 プログラミング教育実習-(3) 学習アプリの作製・評価
- 13 プログラミング教育実習-(4) 人の学びとコンピュータの学習「フレーム問題」
- 14 プログラミング教育実習-(5) プログラミング学習と論理的思考
- 15 まとめ

- 1 Orientation
- 2-3 Learning in the ultra-digital age Education using ICT
- 4 Collaborative learning and cognitive science
- 5-9 Video production activities by the group

- 10-14 Programming education training
- 15 Comprehensive summary

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

ミニットペーパーと発言、レポートおよび、演習で作製された成果物から総合的に評価する。

Comprehensive evaluation from minit paper, remarks, reports, and deliverables produced in the exercise.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

教科書： 渡部信一著 『A I に負けない「教育」』(大修館書店 2018)

(教科書は図書館等で借りるか、購入することが望ましい。)

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

講義の中で指示する書籍を学習する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

2zc2sdn

②第一回授業の開始時期

5月8日(連休明け)、第1回講義を配信する予定です。

③授業の実施方法

Meet を活用してライブ授業を行う

④関連資料の入手方法

Classroom にアップロード予定

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

メール等を活用し適時、対処する(shinichi.watabe.d1@tohoku.ac.jp)

10. 更新日付/Last Update :

2021/02/28 10:17:16

**科目名/Subject : 教育情報学基礎論研究演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 熊井 正之**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

アクセシビリティとユーザビリティ/Accessibility and Usability

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

(コロナの状況に応じてグループウェアとUD トークと Zoom・Meet と対面を組み合わせて実施する。受講対象者は教育情報アセスメントコース教育情報デザイン論領域の基礎論所属学生です。)

この授業では、学習コンテンツや学習システムのアクセシビリティとユーザビリティについて学ぶ。また、教育情報学の研究に必要な知識と技能の習得も目指す。

/This course deals with accessibility and usability of e-learning contents and platforms. It also helps students acquire the skills and knowledge necessary for conducting educational informatics research.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

この授業の目標は、(1)学習コンテンツや学習システムのアクセシビリティ・ユーザビリティを理解し、説明できるようになること、(2)教育情報学の研究に必要な知識と技能を習得することである。

/

The goals of this course are to

(1) be able to explain accessibility and usability of e-learning contents and platforms,

(2) acquire the skills and knowledge necessary for conducting educational informatics research.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

(コロナの状況に応じてグループウェアとUD トークと Zoom・Meet と対面を組み合わせて実施する。受講対象者は教育情報アセスメントコース教育情報デザイン論領域の基礎論所属学生です。対象者にはグループウェア、UD トーク、Zoom 等について別途詳細連絡をします。)

1. イントロダクション

2. アクセシビリティとユーザビリティ

3-4. Usability methods とユーザビリティテスト

5-14. 発表と討論

15. 総括

/

1. Introduction

2. Definition of accessibility and usability

3-4. Usability methods and testing

5-14. Presentation and discussion

15. Review

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表・授業への取り組み (約 80%)、学期末課題 (約 20%)

/Presentations and class participation (about 80%), final paper (about 20%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

各回に配付する資料を教科書・参考書として用いる。

/No textbooks will be used. References are handed out at every class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

課題に取り組むことを中心に、各回の配付資料を用いて復習すること。

/Students are required to make a thorough review each class using handouts, mainly by completing assignments.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

1) Google クラスルームコード: w6rdyh2

2) 欠席する場合には事前に申し出てください。

/

1) Google Classroom Code: w6rdyh2

2) If you have to absent from class, you must notify the lecturer in advance.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/05 18:59:56

**科目名/Subject : 教育情報学基礎論研究演習Ⅲ**

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 佐藤 克美

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

ICT 教材の作製・ICT を用いた学びの体験

Learning experiences by creating of ICT teaching materials and using ICT

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

ICT を効果的に教育に活用するためには、単にそれを使うだけでなく教育者が ICT の基礎を理解し、それを用いた教材を作製したり評価したりできること、さらには ICT を学習者に使用させることができることが重要である。また ICT 活用が学習者に与える影響を理解しなければならない。そこで本演習では ICT を用いた教育の例として CG を用いた教材を取り上げ、それを実際にデザイン、プログラムし作製する。さらには ICT 用いた学びを受講生自らが実際に体験することで、ICT を活用した教育手法の基本について体得する。

To use ICT effectively in education, educators not only need to use it, but also need to understand the basics of ICT, to create and evaluate teaching materials using it. It is important that learners can use it, but educators also need to understand the influence ICT utilization gives it to learners. Therefore, this course takes up teaching materials by using CG as an example of education using ICT, and students actually create those designs and programs. In addition, students will learn about the ICT-based educational methods by actually experiencing ICT-based learning.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・ICT が人と社会にどのような影響を及ぼすかを理解する。
- ・ICT を活用した教材の作製ができる。(特に CG を用いた教材の作製)
- ・自ら ICT を積極的に活用し学ぶことができる。
- ・ICT を教育・学習に活用しようとする人に対して、適切な支援・助言ができる。

This purpose of this course is to help students better:

- ・Understand how ICT affects people and society.
- ・Create teaching materials using ICT. (Especially, create the teaching materials by using CG)
- ・Be able to actively utilize and learn ICT.
- ・Appropriate support and advice can be provided to those who intend to use ICT for education and learning.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. オリエンテーション ～概要、評価方法の説明～
2. 人間と ICT との関わり
3. ICT による社会と文化の変化
4. コミュニティの活用と新しい文化
5. CG 教材を用いた教育(1) CG 教材のデザイン
6. CG 教材を用いた教育(2) CG 教材の作り方
7. CG 教材を用いた教育(3) CG 教材の作製①
8. CG 教材を用いた教育(4) CG 教材の作製②
5. CG 教材を用いた教育(5) CG 教材の受講と評価
10. モノづくりによる学習(1) 外部情報の取得(センサーの活用)
11. モノづくりによる学習(2) プログラムによる動作制御(ロボット)
12. モノづくりによる学習(3) 簡単な教育ロボットのデザイン
13. モノづくりによる学習(4) 簡単な教育ロボットの製作
14. モノづくりによる学習(5) ロボットを活用した学びの体験
15. まとめ

- 1 Introduction
- 2 Development of ICT
- 3 Impact of ICT on social change
- 4 New culture
- 5-9 Teaching materials using CG
- 10-14 Creative Learning
- 15 Summary

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業毎に行うミニットペーパーの内容、授業内の発言とレポート課題、及び演習中作製した成果物により評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance, participation in discussions, reports,

and productions.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

必要に応じて配布

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

教材作製などの活動は授業時間外にも相当な時間行う必要があります。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

ICTについてポジティブに活用し、それらを生かした新しい使い方について模索する意欲が必要です。

GoogleClassroom のクラスコード hev2xh7

bcp レベル 1 以下の時は対面で講義を行います。2 以上の場合はオンラインによる講義を実施します。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/01 15:52:49

**科目名/Subject : 教育情報学応用論研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 1 講時**担当教員/Instructor :** 倉元 直樹**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

Advanced Seminar on Application Theories of Educational Informatics I

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

指導と評価は一体である。各教科の指導法の成果を評価するためのテスト法の専門的な知識について習得するとともに、授業の進捗状況によっては ICT を活用したテスト法である e テスティングの基礎となる理論についても触れる。まず、テスト作成の基本、試験問題の開発、実施といった側面について我が国のテストの品質基準である「テスト・スタンダード」を参考とする。授業の後半には、テスト作成実習とデータ収集の演習も取り入れたい。教育情報学応用論特論 I、II の履修を前提とする。

なお、対面での実施を予定している。Google Classroom を補助的に利用する可能性がある。

Teaching and evaluation are undividable. As well as learn about the specialized knowledge of the test method for evaluating the results of the teaching methods of each subject, also touch the theory underlying the e-testing is a test method in which the use of ICT by the progress of the lesson. First, we will refer to the "test standard", which is the quality standard for tests in Japan, regarding aspects such as the basics of test creation, development of test questions, and implementation. In the latter half of the class, I would like to incorporate test creation training and data collection exercises.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・教育評価・測定の方法に関する実践的な基礎を学ぶ。
- ・テスト法の実践について、我が国の実践に沿った方法論について学ぶ。
- ・将来、教育評価のための大規模テストの開発、実施に責任ある立場となるための基礎を学ぶ。

1. Learn the practical basics of educational evaluation and measurement methods.
2. Learn about the practice of the test method and the methodology that is in line with the practice of Japan.
3. Learn the basics of becoming responsible for the development and implementation of large-scale tests for educational evaluation in the future.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：テスト・スタンダード1：テスト・スタンダードの構成，基本条項

第3回：テスト・スタンダード2：テストの定義

第4回：テスト・スタンダード3：開発と頒布

第5回：テスト・スタンダード4：実施と採点

第6回：テスト・スタンダード5：結果の利用，記録と保管

第7回：テスト・スタンダード6：コンピュータを利用したテスト

第8回：テスト・スタンダード7：テスト関係者の責任と倫理

第9回：e テスティングの基礎理論1：項目反応理論のモデル

第10回：e テスティングの基礎理論2：テスト情報量とテストの精度

第11回：テスト開発演習1：客観式テストの開発：テスト問題の作成と集計、分析

第12回：テスト開発演習2：記述式テストの開発（1）：テスト問題の作成

第13回：テスト開発演習3：記述式テストの開発（2）：ループリックの構成

第14回：テスト開発演習4：e テスティングの開発：項目プールの考え方

第15回：まとめ

1. Orientation
2. Test standard 1: Structure of test standard, basic clause
3. Test standard 2: Definition of test
4. Test standard 3: Development and distribution
5. Test Standard 4: Implementation and scoring
6. Test standard 5: Use, record and storage of result
7. Test standard 6: Computer test
8. Test standard 7: Responsibility and ethics of test person concerned
9. Basic theory of e-testing 1: Model of item reaction theory
10. Basic theory of e-testing 2: Test information amount and test accuracy
11. Objective test development: Creation, aggregation and analysis of test questions

12. Descriptive test development 1: Creation of test question1
13. Descriptive test development 2: Composition of rubric
14. Development of e-testing: Concept of item pool
15. Summary

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

出席状況（ミニットペーパーと授業内の発言）とレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

Attendance, assignments, and the content and attitude of remarks in discussions will be comprehensively judged and evaluated.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

テキスト： 日本テスト学会編（2007）『テスト・スタンダード』，金子書房

参考書： 荒井克弘・倉元直樹編著（2008）『全国学力調査——日米比較研究——』，金子書房  
戸瀬信之・西村和雄編（2011）『教育における評価とモラル』，東信堂

その他、必要に応じて配付

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

授業時間内に指示する。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

クラスコード d6pem56

・授業形態、授業内容・方法については、実情に応じて変更の可能性がある。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 17:56:48

**科目名/Subject : 教育情報学応用論研究演習Ⅲ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 水曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 佐藤 智子**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

社会構成主義の学習方法と評価

Learning methods and evaluation of socio-constructivism

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

本演習では、社会構成主義の概念や方法が、教育制度や教育カリキュラムの中でどのように具体的にデザインされ、実践されているのかを明らかにし、その在り方について熟議・考察する。

受講生がその具体的な実践方法や評価について調査・考察し、報告する。この報告に基づいて授業の場で対話と議論を図り、アイディアの創発と深化を目指す。

The object of this class is to clarify how the concepts and methods of socio-constructivism are specifically designed and practiced in the educational system and educational curriculum.

We aim at dialogue and discussion for emergence and deepening of each ideas.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1) 社会構成主義の学習理論が、現代教育の中でどのように具体化・制度化されているかを理解する。

2) 社会構成主義の考え方を踏まえて、その過程や成果を評価する方法論について自らの考えをまとめ深化させる。

3) 授業への積極的な参加を通して、学習に関する多様な考えや価値観を理解・受容したり、討議や対話に参画するために必要な能力を醸成・向上させる。

1) Understand how the learning concepts of socio-constructivism is realized and institutionalized in modern education practices.

2) Based on the concepts, to summarize and deepen your thoughts and ideas about process and the methodology to evaluate its outcome.

3) Understand and accept diverse ideas and values of learning through your active participation in classes, then to foster and improve each generic ability to facilitate your academic discussion and dialogue.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

この授業では、社会構成主義の考え方・理論的基礎を踏まえた上で、その考え方がどのように制度化され、カリキュラムの中でデザインされ、あるいは実践の中に導入されているのかを明らかにし、その方法と評価のあり方について考察する。

授業は、一方的な講義ではなく、共創と対話を基本とするワークショップ形式とし、受講者には積極的な参加（発言と傾聴）を期待する。毎回の課題として、各自が授業の記録（議論の要約など）を作成し、リフレクション・レポート（前回授業内容のふり返りと考察）を行うことを基本とする。

In this class, based on the ideas and theoretical foundations of social constructivism, we will clarify how these ideas are institutionalized, designed in curricula, or introduced into practice, and discuss the methods and evaluation of these ideas.

The class will take the form of a workshop based on co-creation and dialogue, rather than a one-way lecture, and participants will be expected to actively participate (speak and listen).

Each student will be required to prepare a record of the class (summary of the discussion, etc.) and write a reflection report (review and discussion of the previous class) as a basic assignment for each session.

予定の詳細は、状況に合わせて、受講生と相談の上で決定・調整する。

Classroom クラスコード : obwhule

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への積極的な参加 (50%)

毎回の小レポート（授業記録とリフレクション・レポート）(50%)

Class participation (homework and active participation) (50%)

Discussion essay (50%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

必要に応じて授業内で紹介する。また各自で関連文献を探索して予習・復習することを期待する。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

担当テーマについて各自で文献調査し、論点をまとめる。



毎回の授業について、授業記録（授業内容の要約）とリフレクション・レポートに取り組んでもらうことにより、学修の定着と思考の深化を図る。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

教育情報学応用論特論Ⅲの履修を前提とする。

問い合わせ・相談がある場合には、下記まで連絡してください。

メールアドレス： sato-t@tohoku.ac.jp

10. 更新日付/Last Update :

2021/02/20 22:50:57

**科目名/Subject : 教育情報学実践論研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 4 講時**担当教員/Instructor :** 小嶋 秀樹**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

人間科学と認知工学の融合による新しい「学び」の実践的構築に向けた文献研究

Reviewing the research papers on designing innovative "learning" based on the integration of human sciences and cognitive engineering

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

人間科学と認知工学の融合による新しい「学び」を構築するために、人間科学研究および認知工学研究の重要文献をレビューする。究極的なゴールは人間理解であり、脳科学・心理学・ロボット工学などからの研究アプローチを学び、修士論文研究など今後の学修や研究に向けた見通し・動機づけを与える。

In this course of the seminar, students review a series of academically important papers and books on human sciences and cognitive engineering in order to be able to construct a new perspective for "learning". The ultimate goal of this seminar is the understanding of humans by integrating the approaches from brain science, psychology, and robotic engineering. Through these activities, students are expected to be able to foresee their future studies and research on the field.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・新しい「学び」を構想・研究するために必要となる人間科学・認知工学に関する重要研究について基礎的な理解をもつ。
- ・自分が調べた文献の概要（理論的背景、実験内容、結果の意義など）を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- ・これら重要研究に対する理解をもとに、今後の研究の進め方を具体的に考察・説明することができる。
- ・To be able to understand the fundamentals of human sciences and cognitive engineering for future "learning".
- ・To be able to understand the contents of research papers and explain them using one's own words.
- ・To be able to envision further study and research on this field by integrating the existing knowledge.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回：イントロダクション：人間研究のための諸科学

第2回：論文紹介（1）認知科学

第3回：ディスカッション（1）認知科学

第4回：論文紹介（2）コミュニケーション科学

第5回：ディスカッション（2）コミュニケーション科学

第6回：論文紹介（3）発達心理学

第7回：論文紹介（3）発達心理学（つづき）

第8回：ディスカッション（3）発達心理学

第9回：論文紹介（4）一般言語学

第10回：論文紹介（4）一般言語学（つづき）

第11回：ディスカッション（4）一般言語学

第12回：論文紹介（5）進化心理学

第13回：論文紹介（5）進化心理学（つづき）

第14回：ディスカッション（5）進化心理学

第15回：まとめ：諸科学の統合による人間研究

（上記の予定は変更となることがあります。）

Part 1: Introduction

Part 2: Reading articles (1) Cognitive sciences

Part 3: Discussion on the articles (1) Cognitive sciences

Part 4: Reading articles (2) Human communication

Part 5: Discussion on the articles (2) Human communication

Part 6: Reading articles (3) Developmental psychology (1)

Part 7: Reading articles (3) Developmental psychology (2)

Part 8: Discussion on the articles (3) Developmental psychology

Part 9: Reading articles (4) General linguistics (1)

Part 10: Reading articles (4) General linguistics (2)

Part 11: Discussion on the articles (4) General linguistics

Part 12: Reading articles (5) Evolutionary psychology (1)

Part 13: Reading articles (5) Evolutionary psychology (2)

Part 14: Discussion on the articles (5) Evolutionary psychology

Part 15: Wrap-up: Discussion on interdisciplinary human research

（The course plan above is subject to change.）

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

各ターゲット文献についてのレビュー発表、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

Grade evaluation will be made by putting outcomes of the review presentations and engagement to the discussion activities together.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

とくになし。ターゲット文献は都度提供する。

None in particular. The target papers are provided (or specified) in the course.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

ターゲット文献をそれを扱う演習時までにあらかじめ読んでおくこと。

Required preparation: read the target paper before the class.

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

クラスコード ivsy5ir

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 17:08:01

**科目名/Subject : 教育情報学実践論研究演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 中島 平**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育情報学実践論研究演習Ⅱ

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教えること、あるいは学ぶことを、テクノロジーによってより効果的にするための方法を実践を通して学ぶ。

例えばショーンの省察的実践を学習者が身につけるのを支援するために、どのような学習プログラムとテクノロジーを提供できるかを学ぶ。

Learn through practice how to make teaching and learning more effective by using technology.

For example, we will learn what learning programs and technologies can be provided to help learners acquire Schön's reflective practices.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・あなた自身の興味や経験から、テクノロジーを活用してより効果的にしたい教育・学習のテーマを選ぶことができる。
- ・選んだテーマの学習プロセスを記述し、テクノロジーによって改善・置き換えができる部分を見いだすことができる。
- ・上記のテーマに関して、テクノロジーによってより効果的に支援するための方法を提案できる。

- ・Select a theme of teaching or learning that you would like to make more effective through the use of technology, based on your own interests and experiences.

- ・Describe the learning process for the selected topic and identify areas that can be improved or replaced by technology.

- ・Propose ways to support the above themes more effectively with technology.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. オリエンテーション
2. テクノロジーによる教育・学習の支援
3. 事例紹介 1
4. 事例紹介 2
5. テーマを選ぶ
6. 学習プロセスを記述する
7. 学習プロセスの課題を探る
8. 課題に対する解決法を学ぶ 1
9. 課題に対する解決法を学ぶ 2
10. 課題に対する解決法を学ぶ 3
11. テクノロジーの導入 1
12. テクノロジーの導入 2
13. 学習プログラムの設計 1
14. 学習プログラムの設計 2
15. 全体の振りかえり

1. Orientation
2. Supporting teaching and learning with technology
3. Case Study 1
4. Case Study 2
5. Selecting a theme
6. Describe the learning process
7. Exploring Issues in the learning process
8. Learn how to solve the problem 1
9. Learn how to solve problems 2
10. Learn how to solve problems 3
11. Applying technology 1
12. Applying technology 2
13. Designing a Learning Program 1
14. Designing the learning program 2
15. Summary

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

1. 授業内での種々の活動への取り組み (20%)
2. 授業内での発表 (30%)

3. 最終レポート (50%)

1. Participation in various activities in class (20%)
2. Presentation in class (30%)
3. Final report (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

1. 毎回の復習
2. 発表準備
3. 最終レポート

1. Weekly review
2. Preparation for presentation
3. Final report

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

- ・ Google Classroom のクラスコード: 7au7j7v

- ・ 授業において、研究開発中のテクノロジーを使ってもらうことがある。
- ・ 授業で得られたデータ（授業映像など）を、後に研究目的で使う可能性がある。授業外でデータを使用されたくない場合は、事前に担当教員に連絡のこと。

- ・ Students may be asked to use technologies under research and development in the class.
- ・ There is a possibility that data obtained in the class (e.g., class video) will be used later for research purposes.

- ・ If you do not want your data to be used outside the class, please contact your instructor in advance.

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/25 09:30:25

**科目名/Subject : 教育情報学実践論研究演習Ⅲ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 金曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 佐藤 克美 / 小嶋 秀樹 / 中島 平**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

情報セキュリティに関する授業を実施するための知識・技能を獲得する

Information Security for Education

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

本授業では、ICT (Information and Communication Technology) 活用教育において必要不可欠な情報リテラシーと授業設計について学ぶ。特に、情報セキュリティを中心に授業を展開する。情報セキュリティの一般的なイメージは、「情報を守る」ことである。しかし、現実には、情報を大切に保管するだけでなく、使いたいときにアクセスできなければならない。また、情報セキュリティ教育（学習者の情報セキュリティを向上させるための教育）は、大学などの高等教育だけでなく、現在は小学校から実施されている。そこで本授業では、情報セキュリティに関する知識・技能の獲得だけでなく、情報セキュリティ教育を実施するための知識・技能の獲得も目的としている。なお、本授業では、演習を中心にこの授業目的を実現する。

In this class, students will learn about information literacy and Instructional design so that students can use ICT for education. In particular, we will focus on information security. We must not only protect information, but also make it available when needed. Recently, not only university students but also elementary and junior high school students are learning about information security. Therefore, in this class, students will learn not only knowledge about information security but also education of information security.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

- ・ICT 社会に必要な情報リテラシー（「情報セキュリティ」を中心とする）に関する知識について説明できる
- ・情報リテラシー（「情報セキュリティ」を中心とする）を獲得する授業を実施することができる
- ・学習用プログラミング言語 Scratch を用いてプログラムとは何かを説明することができる（情報セキュリティの理解には、プログラムの知識が重要である）

To Learn information security knowledge

To be able to teach information security

To be able to program using Scratch

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :****1. オリエンテーション**

情報セキュリティチェックシートを実施し、自分自身の情報セキュリティのレベルについて確認する

**2. 情報セキュリティとは**

機密性、可用性、完全性など情報セキュリティの基礎を概観する。また、情報セキュリティの一番の弱点はユーザであることを確認し、情報セキュリティ教育の必要性に気付く。

**3. パスワードを破るとは**

カード当てゲームを例にして、パスワードの破る理屈を考える。力任せ検索（ブルートフォースアタック）の有効性と防御方法について理解をする。

**4. 人はどうして情報を流出させるのか**

情報セキュリティの大きな脅威となっている「標的型攻撃」と「ソーシャルエンジニアリング」について概観する。また、オレオレ詐欺の仕組みについても考えてみる。

**5. 偽 Web サイトを作ってみよう**

標的型攻撃の利用する重要なツールが偽 Web サイトである。HTML の基礎を学びつつ、偽 Web サイトの作成が簡単であることを実感する。

**6. 偽 Web サイトへどうやって誘導するか？**

偽 Web サイトを作っただけでは意味がない。そのサイトへ導く必要がある。そのために、悪意ある人はメールや SMS の文面を工夫している。悪意ある人の気持ちになって、思わずクリックしたくなる文面を作ってみる。

**7. 情報活用能力（「情報モラル」を含む。）について**

小学校から高等学校では、情報モラルの向上で情報セキュリティリテラシーの育成を図っている。

**8. Scratch の準備とサンプルプログラムの作成**

Scratch を利用するための準備である。練習として三角形を描画するプログラムを作成する。

**9. Scratch で多角形を描画するプログラムの作成****10. 多角形を描画するプログラムの発表会****11. Scratch でパスワードの重要さを学ぶプログラムを設計する**

設計段階。パスワード・パスフレーズの重要点を議論する。その中で、自分が教育したい事項を考え、プログラムの設計に盛り込む。

**12. Scratch でパスワードの重要さを学ぶプログラムを作成する①****13. Scratch でパスワードの重要さを学ぶプログラムを作成する②**

14. Scratch でパスワードの重要性を学ぶプログラムの発表会
15. まとめ

- 1 Introduction
- 2 What is information literacy?
- 3 Break Password
- 4 Why do people leak information?
- 5 Fake websites
- 6 How to get to a phishing site
- 7 What is information utilization?
- 8-14 How to use Scratch
- 15 Summary

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

成績は以下を総合的に判断する。

授業内の活動（例えば、ディスカッション、リフレクションシートなどの）：30%

レポート、作品提出（2回を予定）：約 70%

Comprehensive evaluation will be made based on class performance, participation in discussions, (30%) and reports (70%) .

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

必要な資料は講義の中で配布もしくは紹介する

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

授業に関して予習と復習を行うこと。予習については講義で課題を課すが、その課題を授業時間外に行ってきたことを前提に講義をする。

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

特に無し

google classroom クラスコード g47i3ao

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/11 13:12:59

**科目名/Subject : オープンエデュケーション論合同演習****曜日・講時/Day/Period :** 通年 水曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 小嶋 秀樹 / 熊井 正之 / 佐藤 克美 / 中島 平 / 渡部 信一**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育情報デザイン論領域における研究方法の修得  
Designing research on educational informatics

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

教育情報デザイン論に関する研究を進める上で求められる基礎的な能力について学ぶ。研究の在り方や意義についての理解、研究方法に関する基礎的な理解、研究論文の書き方や研究発表の方法についての基礎といった多様な視点から、教育情報デザイン論の研究を進める上で修得が強く望まれる事項について学ぶ。

In this course of seminars, students acquire the basic capabilities of designing and proceeding with their own research for Master theses. Topics include, but not limited to, the significance of research activities, how to proceed with your research, how to write reports and thesis, and how to present your work.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

・教育情報デザイン論に関連する研究手法に関する基本的な知識を学び、研究事例から学ぶことや、研究事例を批評することができる。

・自身の研究を進める上で必要な基礎的な研究方法論（研究の進め方、論文の書き方、発表の仕方など）や事例を学び、その後の学修・研究に向けた動機づけや、実践的な教育方法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。

To be able to learn the fundamental methods in the research on educational informatics, and to learn and critically evaluate the existing research cases in this field.

To be able to learn the fundamental skills for conducting and presenting your research, and to motivate yourself for further study and research in this field.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回：イントロダクション：趣旨説明（小嶋・佐藤）・教育環境について（大河）・留学生へのアドバイス（尹）

第2回：研究方法論（1）認知科学の研究手法（渡部）

第3回：研究方法論（2）人間科学とロボティクスの融合研究の方法（小嶋）

第4回：研究方法論（3）コミュニケーション研究の方法（熊井）

第5回：研究方法論（4）教育現場での研究（佐藤）

第6回：研究方法論（5）研究方法の展開（中島）

第7回：合同セミナー（1）修士論文中間発表会（参加・聴講）

第8回：研究に役立つツール（1）研究発表の基礎（佐藤ほか）

第9回：合同セミナー（2）課題研究構想発表会（参加・発表）

第10回：研究に役立つツール（2）統計の基礎（小嶋ほか）

第11回：研究に役立つツール（3）続・統計の基礎（小嶋ほか）

第12回：研究に役立つツール（4）論理的な文章の書き方（小嶋ほか）

第13回：研究に役立つツール（5）論文執筆の理論と実際（小嶋ほか）

第14回：合同セミナー（3）課題研究発表会（参加・発表）

第15回：合同セミナー（4）修士論文発表会（参加・聴講）

（上記の予定は変更となることがあります。）

Part 1: Introduction (Kozima, Sato, Okawa and In)

Part 2: Research methodology (1) Cognitive science (Watabe)

Part 3: Research methodology (2) Cognitive developmental robotics (Kozima)

Part 4: Research methodology (3) Human communications (Kumai)

Part 5: Research methodology (4) Studies in educational fields (Sato)

Part 6: Research methodology (5) Employment of research methods (Nakajima)

Part 7: Seminar (1) Interim presentation of master research (Attendance required)

Part 8: Research tools (1) How to make your presentations (Sato)

Part 9: Seminar (2) Interim presentation of project research (Presentation required)

Part 10: Research tools (2) Fundamental statistics (1)

Part 11: Research tools (3) Fundamental statistics (2)

Part 12: Research tools (4) Logical writing

Part 13: Research tools (5) Writing with sources

Part 14: Seminar (3) Final presentation of project research (Presentation required)

Part 15: Seminar (4) Final presentation of master research (Attendance required)

(The course plan above is subject to change.)

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業時間内で随時行うミニットペーパー（計 50%）と複数回の実践演習（論理的な作文、プレゼンテーション等）の出来（計 30%）、合同セミナーへの参加態度（計 20%）などを総合して評価する。



Grade evaluation will be made by putting outcomes of the minute-papers (50%), some exercise on writing, presentation, and statistics (30%), and participation to and presentation at the seminars (20%) together.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特になし（授業内で資料を適宜配布する）

None in particular. Provided in the course, if necessary.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

必要な予習・復習については、都度、授業のなかで指示する。

Required preparation and review will be instructed in the course.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

(Google クラスルーム対応)

クラスコード vetrk5n

初回は 4/21 水曜 2 限にオンラインで実施する。Google クラスルームから Meet にて参加すること。

2 回目以降の予定については、初回「イントロダクション」の授業内で周知する。

本演習には、教育情報デザイン論分野の専任教員で共担する。

本演習は通年科目であるが、毎月 2 回（水曜 2 限）を原則として隔週開講する。スケジュールの詳細は年度初めのオリエンテーションなどで周知する。

4 回ある「合同セミナー」では、研究発表会等への参加聴講または参加発表を行う。これらの回については当該研究発表会への参加または発表をもって出席とみなす。

研究発表会等のスケジュール等に合わせて、上記の授業内容について一部テーマや実施順序の変更がありうる。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/14 17:03:56

**科目名/Subject : 教育心理学研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 深谷 優子 / 工藤 与志文**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育心理学研究の構想と展開 1

Research concept and its development of educational psychology 1

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

この授業は、大学院生各自の研究について、それぞれの構想ないしデータ収集中の研究の途中経過を報告し、参加者全員で検討することを通して、研究の構想とその具体化、研究結果の記述などについて相互に学習する機会を提供することを目的とする。

The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge that needed to conduct psychological research in education.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 研究計画の立案方法について学ぶ。

2. 発達心理学研究におけるデータ分析の手法について学ぶ。

3. 研究の結果と研究目的、考察との関連性の記述方法について学ぶ。

The goals of this course are to learn

1. the way to make a research design

2. methods of data analysis on developmental psychological research.

3. how to describe connected thesis through purpose, results, and discussion.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回～第15回 学生各自が自身の研究構想ないし途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想ないし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。

Each student reports on their own research concept or progress and discusses it. Students need to report what changes have been made to their research plans as a result of the discussion. In addition, students are required to report on their data and the results of their analysis.

## ①クラスコード

zkgke25

## ②第一回授業の開始時期

4月15日(木) 5限: 16:20～

## ③授業の実施方法

BCP レベル 1, 2 ともに Meet を用いた双方向授業

## ④関連資料の入手方法

授業用の資料は Classroom で共有

## ⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談 (4月9日まで に yuko.fukaya.a7@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

## ⑥その他

Classroom では、「教育心理学研究演習 I」ではなく、「教育心理学分野 合同木ゼミ 2021」のクラス (zkgke25) から入室すること。

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表および授業への参加・貢献 (80%), 期末レポート (20%) により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution (80%) and term paper (20%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に用いない。参考書については授業内で適宜紹介する。

Will be introduced in the class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

・研究構想 (途中経過も含む) を立案する。

・データおよびその分析を遂行する。

・討議の準備 (報告者によるレジュメ作成, 受講者による質問準備等) を行う。

・討議の結果を研究構想・計画, 論文等に反映させる。

The students are expected to 1) make their own research plan; 2) analyze their data; 3) prepare for discussion; 4) reflect the results of discussions in their research ideas, plans, and research papers.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この授業は教育心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。

This course is for students whose research interests in Educational Psychology. Other psychology students are also welcomed.

(Google クラスルーム対応)

クラスコード

zkgke25

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/19 12:25:07

**科目名/Subject : 教育心理学研究演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 深谷 優子 / 工藤 与志文**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

教育心理学研究の構想と展開 2

Research concept and its development of educational psychology 2

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

この授業は、教育心理学研究演習Ⅰを踏まえて、大学院生各自の研究について、それぞれの構想ないしデータ収集中の研究の途中経過を報告し、参加者全員で検討することを通して、研究の構想とその具体化、研究結果の記述などについて相互に学習する機会を提供することを目的とする。

The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge that needed to conduct psychological research in education.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 研究計画の立案方法について学ぶ。

2. 発達心理学研究におけるデータ分析の手法について学ぶ。

3. 研究の結果と研究目的、考察との関連性の記述方法について学ぶ。

The goals of this course are to learn

1. the way to make a research design

2. methods of data analysis on developmental psychological research.

3. how to describe connected thesis through purpose, results, and discussion.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第1回～第15回 学生各自が自身の研究構想ないし途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想ないし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。

Each student reports on their own research concept or progress and discusses it. Students need to report what changes have been made to their research plans as a result of the discussion. In addition, students are required to report on their data and the results of their analysis.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表および授業への参加・貢献(80%)、期末レポート(20%)により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(80%) and term paper(20%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に用いない。参考書については授業内で適宜紹介する。

Will be introduced in the class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

・研究構想(途中経過も含む)を立案する。

・データおよびその分析を遂行する。

・討議の準備(報告者によるレジュメ作成、受講者による質問準備等)を行う。

・討議の結果を研究構想・計画、論文等に反映させる。

The students are expected to 1) make their own research plan; 2) analyze their data; 3) prepare for discussion; 4) reflect the results of discussions in their research ideas, plans, and research papers.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この授業は教育心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。

This course is for students whose research interests in Educational Psychology. Other psychology students are also welcomed.

(Google クラウド対応)

クラスコード ejqzapz

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/19 12:26:22

科目名/Subject : 学習心理学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :

思考・推論研究の動向ー推論の二重過程理論を中心にー

Research trends in thinking and reasoning

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

近刊のハンドブックを参考に、思考・推論に関する研究動向について、特に「推論の二重過程理論」に関連する研究を中心に検討する。

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the research trends in psychology of thinking and reasoning.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・ 思考・推論に関する研究動向について知る。
- ・ 推論の二重過程理論について理解を深める
- ・ 研究動向と自身の研究テーマとの関連について理解する。

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Obtain basic knowledge about the research trends in psychology of thinking and reasoning.
- ・ Understand the dual-process theory of reasoning.
- ・ Understand the relationship between current trends and their research subjects.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

以下のトピックに関する研究について検討する。

This course deals with the following topics.

- ・ Belief bias and reasoning (信念バイアスと推論)
- ・ Intuitive thinking (直観的思考)
- ・ Emotion and reasoning (情動と推論)
- ・ Dual-process theories (二重過程理論)
- ・ Analogical reasoning (類推的推論)
- ・ The development of logical thinking (論理的思考の発達)
- ・ Creative thinking (創造的思考)
- ・ Thinking and reasoning across cultures (思考・推論と文化)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

討議への参加度 50%、期末レポート 50%

Class attendance and attitude in class: 50% - Report: 50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Ball, L. J., & Thompson, V. A. (Eds.). (2018). The Routledge International Handbook of Thinking and Reasoning. Routledge.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

あらかじめ指定された文献を読み、内容を理解しておくとともに、必要に応じて事前学習や資料調べを行う。

The students are recommended to prepare each lecture by reading the corresponding chapter in the textbook.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

連絡先: kudou@sed.tohoku.ac.jp

(Google クラウドスルーム対応)

クラスコード 46xqeqc

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/03 18:18:51

**科目名/Subject : 発達心理学研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 神谷 哲司 / 長谷川 真里**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

発達心理学研究の方法と分析 I

Methods and Analyses of Developmental Psychology Research I

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

この授業では、大学院生各自の研究について、それぞれの構想と内容（目的・方法・結果等）を発表し、参加者全員で検討することを通して、研究の進め方、研究結果の記述、提示の方法について学ぶことを目的とする。

This course deals with the basic psychological research skills through discussion about participants' research design and report.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 研究計画の立案方法について学ぶ。
2. 発達心理学研究におけるデータ分析の手法について学ぶ。
3. 研究の結果と研究目的、考察との関連性の記述方法について学ぶ。

The goals of this course are to learn

1. the way to make a research design
2. methods of data analysis on developmental psychological research.
3. how to describe connected thesis through purpose, results, and discussion.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第 1 回～第 15 回 学生各自が自身の研究構想ないし、途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想ないし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。

Each participant reports on their own research concept or progress and discusses it. Then they report what changes have been made to their research plans as a result of the discussion. In addition, they report on their data and the results of their analysis.

**【COVID-19 対応】**

- ・ Google Classroom のクラスコード : zkgke25
- ・ 第一回授業の開始時期 : 4 月 15 日 (木) 5 限 : 16 : 20 ~
- ・ 授業の実施方法 : BCP レベル 1, 2 とともに Meet を用いた双方向授業
- ・ 関連資料の入手方法 : 授業用の資料は Classroom で共有
- ・ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談 (4 月 9 日まで  
に tetsuji.kamiya.a4@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)
- ・ 留意事項 : Classroom では、「発達心理学研究演習 I」ではなく、「教育心理学  
分野 合同木ゼミ 2021」のクラス (zkgke25) から入室すること。

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表および授業への参加・貢献(80%), 期末レポート(20%)により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution (80%) and term paper (20%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に用いない。参考書等については、授業時間内に適宜紹介する。

Will be introduced in the class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

- ・ 研究構想の立案
- ・ データ分析
- ・ 討議の準備 (報告者によるレジュメ作成, 受講者による質問準備等) を行う。
- ・ 討議の結果を研究構想・計画, 論文等に反映させる。

The participants are expected to 1) make their own research plan; 2) analyze their data; 3) prepare for discussion; 4) reflect the results of discussion in their research ideas, plans, and research papers.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この講義は発達心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。

This course is for students whoes research interests in Developmental Psychology. Other psychology students are also welcomed.

(Google クラスルーム対応)

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/11 18:37:07

**科目名/Subject : 発達心理学研究演習 II****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 神谷 哲司 / 長谷川 真里**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

発達心理学研究の方法と分析 2

Methods and Analyses of Developmental Psychology Research II

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

この授業では、大学院生各自の研究について、それぞれの構想と内容（目的・方法・結果等）を発表し、参加者全員で検討することを通して、研究の進め方、研究結果の記述、提示の方法について学ぶことを目的とする。

This course deals with the basic psychological research skills through discussion about participants' research design and report.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 研究計画の立案方法について学ぶ。
2. 発達心理学研究におけるデータ分析の手法について学ぶ。
3. 研究の結果と研究目的、考察との関連性の記述方法について学ぶ。

The goals of this course are to learn

1. the way to make a research design
2. methods of data analysis on developmental psychological research.
3. how to describe connected thesis through purpose, results, and discussion.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

第 1 回～第 15 回 学生各自が自身の研究構想ないし、途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想ないし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。

Each participants report on their own research concept or progress and discusses it. Then they report what changes have been made to their research plans as a result of the discussion. In addition, they report on their data and the results of their analysis.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

発表および授業への参加・貢献(80%)、期末レポート(20%)により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution (80%) and term paper (20%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に用いない。参考書等については、授業時間内に適宜紹介する。

Will be introduced in the class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

- ・研究構想の立案
- ・データ分析
- ・討議の準備（報告者によるレジュメ作成、受講者による質問準備等）を行う。
- ・討議の結果を研究構想・計画、論文等に反映させる。

The participants are expected to 1) make their own research plan; 2) analyze their data; 3) prepare for discussion; 4) reflect the results of discussion in their research ideas, plans, and research papers.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この講義は発達心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。

This course is for students whose research interests in Developmental Psychology. Other psychology students are also welcomed.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/11 18:38:23





**科目名/Subject : 発達臨床論研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 後期 月曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 長谷川 真里**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

発達心理学研究の動向 / Current trends of researches and studies of developmental psychology on childhood

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

子どもを対象とした発達心理学研究の論文を講読し、発達心理学の研究動向を把握するとともに、子どもを対象とする研究手法について理解する。具体的には、(1) 自身の研究に関連する研究論文を収集し報告する、(2) 複数の研究論文をまとめた展望論文を作成する。

注) この演習は、発達心理学を専攻する院生を対象とするものである。

/ This course aims to describe the current trends of developmental studies on childhood and to understand study methods through intensive reading the research papers of the developmental studies.

Specifically, you will (1) collect and report on research papers related to your own research, and (2) prepare a review that summarizes multiple research papers.

Note: This course is designed for graduate students majoring in developmental psychology.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

現在の発達心理学研究における主要な研究テーマと研究手法について理解する。

/ At the end of the course, you should be able to describe main research interests and study methods in current developmental psychology.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

毎回、報告担当者がレジメを作成し、論文を紹介および考察する。

/In every class, the reporter creates a resume and introduces the paper.

The contents and schedule are as shown below:

第1回 オリエンテーション (ガイダンスのみ)

第2-3回 発達心理学の研究方法解説、発表準備

第4-11回 発表: 自身の研究に関連する研究論文を収集し報告する。

第12-15回 展望論文作成準備、期末レポート提出

注) 受講者数により進捗が変更になることがあります。

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

/ Submitted reports, attendance and so on are evaluated.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

授業中に適宜参考書を紹介する。

/Materials will be introduced as needed during class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

報告者は討論のための準備を行い、討議の結果を研究計画や論文に反映させる。

/ The students are expected to prepare for discussion and to reflect the results of discussions in their research plans and research papers.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

授業の運営については初回に説明する。/The course management will be explained in the first lecture.

・ Google Classroom のクラスコード : m6sqkiu

・ 第一回授業の開始時期 : 10月4日 (月) 6限 : 18:00~

・ 授業の実施方法 : BCP レベル 1, 2 ともに Meet を用いた双方向授業 (ただし、レベル 1 の場合、受講人数によっては対面の可能性がある)

・ 関連資料の入手方法 : 授業用の資料は Classroom で共有

・ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 個別に相談 (10月1日までに mari.hasegawa.c2@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/15 19:29:41

**科目名/Subject : 発達臨床論研究演習 II**

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 神谷 哲司

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

調査系量的心理学研究のリテラシー

Literacy for quantitative research around psychological study.

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

本授業では、心理学とその関連領域における量的データを用いた調査系の論文を取り上げ、批判的に検討することによって、論文作成のリテラシー向上を目指す。

また、実際のデータを使って SPSS 等の統計ソフトで分析を行い、分析の実際についても習熟する。

This course deals with the basic knowledge and skills of way to write academic papers through critical review and discussion about quantitative research.

And students will learn how to use statistical software such as SPSS, to gain skills to analyze research data.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

1. 問題と目的における先行研究の引用の仕方と論旨展開の留意点について理解する
2. 収集するデータの特性を理解し、それに適した分析手法を選択できるようになる
3. 論文の目的と分析の結果との整合性に配慮し、結果を踏まえた適切な「考察」を行えるようになる

By the end of the course, participants should be able to do the following:

- Understand points of citation and article story on Introduction and Purpose.
- Choice an appropriate analysis method of the collected data.
- Explain reasonable the Discussion based on the Purpose and the Results on the article.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

この授業でいう「調査系」「量的」心理学研究とは、「質問紙・面接法」といった方法論に基づき、収集したデータを「数量」にコーディングを行い、その数値を用いて、情報の縮約、変数間の関連の検討、仮説の検証を行う研究を意味する心理学領域の研究を意味する。

本授業では、毎回、発表の担当者を決めて発表を行う。担当者は、調査系量的研究の論文を、自分の興味・関心に沿って1編選び、レジュメを作成して、授業の前半で報告する。後半はその報告を踏まえ、その論文の構成や論旨展開の在り方について、全体で討論を行う。

1. オリエンテーション
2. 調査系論文の構成と特徴
3. ~14. 個々のグループによる研究発表と質疑応答・討論
15. 全体のまとめ

※進め方の詳細は、初回時に応相談。

In this class, we summarize "empirical research-based" and "quantitative" psychological research based on methodology such as "questionnaire / interview method", that is, research that tests hypotheses by coding collected data into "quantity".

Students select a academic empirical research-based" and "quantitative" paper and make a presentation of the paper. In the class of early half, presenters report an academic paper and point a couple of questions. Last half of the class, all participants make a discussion of the questions.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業時間内の研究報告(30%), 授業態度・討論への参加状況(40%), 期末レポート(30%)により評価する。

- 1) Report of academi paper(30%), 2) A fraction of in-class contribution(40%). 3) Term-end report(30%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

必要な資料はその都度配布する。

Will be provided in the class

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

各回で発表される論文は、1週間前にレジュメとともに配布されるので、必ず精読してから授業に臨むこと。

また、担当した論文については、使用されている尺度項目や実験資材について可能な限り調べ、授業時間に資料として配

布すること。

自ら主体的に疑問を提示し、その解決に臨む姿勢を求める。

The paper and its resume will be provided at the class of one week before. Participants must read the paper critically before the class.

Presenters should prepare materials concerning the paper such as a psychplogical scale and provide the participants.

Participants are encouraged to actively ask questions and work toward solving the questions.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

初回授業時に発表の担当日を決めるので必ず出席すること。

Be sure to attend the first class to determine the date of the presentation.

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/11 18:46:08

**科目名/Subject : 発達障害学研究演習 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 野口 和人**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

発達障害学研究法 (1)

Research methods of developmental disabilities (1)

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

課題論文・修士論文、学会発表論文、学術論文などの作成に向け、文献紹介・研究発表とそれらに基づく議論を通じて受講者各自の研究内容を深めることを目的とする。

Those who take this advanced seminar will advance their own research through introduction of literature in relevant areas and presentation of their own research, and discussion based on them.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

①論文作成及びプレゼンテーションのスキルを習得する。

②受講者各自の研究テーマに関する国内外の研究動向、理論を把握する。

After taking this advanced seminar, you should be able to :

①Prepare the thesis and research presentation at academic societies.

②Describe theories and the research trends on your own research themes.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

○Google Classroom クラスコード : j3ettqj

○第1回授業の開始時期 : 通常通り (10月1日)

○授業の実施方法 :

・この授業は、授業担当者の指導学生を対象としています。

・授業は、Google meet 等を用いたリアルタイム方式 (新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては一部対面方式) で行う予定です。

○関連資料の入手方法 : Google 共有ドライブ等の使用を想定しています。

○オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 : 第1回目の授業開始までのなるべく早い時期に、対応が困難な旨及びその理由をお知らせください。Google Classroom を通じてでも、直接にメール (kazuhito.noguchi.a5@tohoku.ac.jp) をいただいても構いません。

○対面授業への対応が困難な学生への対応策 : 上記と同様、個別にご相談ください。

1~5. 各自の研究テーマに関する諸文献のクリティカル・レビュー

6~10. 各自の研究テーマに応じた研究デザインの検討

11~15. 各自の研究テーマに応じたデータ収集・分析の方法の習得

1~5. Critical review of research papers on one's own research theme

6~10. Examination of research design according to one's own research theme

11~15. Acquisition of data collection and analysis methods according to one's own research theme

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

平常点 (50%), 討論への参加 (25%), 研究発表内容 (25%) により、総合的に評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance (50%), participation in discussions (25%), and contents of research presentations (25%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に指定しない。必要な資料は授業の際に配布する。

Not specified. Necessary materials will be distributed during class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

文献紹介・レビュー・論文等作成に向け、毎週複数の国内外の研究論文を読み進める。

You need to read several domestic and international research papers each week for introduction and review of research papers, and writing papers.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この授業は、発達障害学を専攻する学生を対象とする。また、発達障害学研究演習Ⅲと連続して行うので、受講者はⅠ・Ⅲの両方を履修すること。

This class is for students majoring in "Developmental Disorders". In addition, students must take Seminar I and seminar III, as both seminars will be conducted consecutively.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/08 15:15:09

**科目名/Subject : 発達障害学研究演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 前期 金曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 川崎 聡大**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

発達障害学研究法 u3akybf

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

研究計画法を中心に、課題研究、修士論文の作成に向けた研究指導を行う。受講者は自分の研究に関する先行研究のレビューならびに研究状況の発表を行い、質疑や討論を通して研究を深める。

This course provides research guidance for the preparation of research projects and master's theses, focusing on research planning methods. Students will review previous studies on their own research, present their research status, and deepen their research through questions and discussions.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

先行研究の検索ならびにレビュー（プレゼンテーション）の方法について習熟し、研究方法や最新の研究知見について理解を深める。

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

本演習は修士論文作成に向けた演習であり、以下の通り各自の研究テーマに沿った発表から 15 回を構成する。1. 先行研究のレビュー, 2. 各自の研究に関する構想発表, 3. 各自の研究計画に該当する必要な研究方法（統計解析等）の習熟。これらについて受講生相互の討論により理解を深める。

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業（ディスカッション）への参加（70%）、レポート（30%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 70%

- Short reports: 30%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に指定しない

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

各自の発表内容並びに関連領域について適宜習熟を深める。

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この授業は 1・2 学期を通して行われるので、受講者は連続して履修すること。

本演習は発達障害に関する研究を修論のテーマとする学生を対照とし、演習の中で研究データを深めうるものを対象とする。

akihiro.kawasaki.c5@ohoku.ac.jp

障害実験系（川崎ゼミ）対象です。

u3akybf

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/07 08:30:05

**科目名/Subject : 発達障害学研究演習Ⅲ**

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

発達障害学研究法 (2)

Research methods of developmental disabilities (2)

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

課題論文・修士論文、学会発表論文、学術論文などの作成に向け、文献紹介・研究発表とそれらに基づく議論を通じて受講者各自の研究内容を深めることを目的とする。

Those who take this advanced seminar will advance their own research through introduction of literature in relevant areas and presentation of their own research, and discussion based on them.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

①論文作成及びプレゼンテーションのスキルを習得する。

②受講者各自の研究テーマに関する国内外の研究動向、理論を把握する。

③受講者各自の研究を纏める。

After taking this advanced seminar, you should be able to :

①Prepare the thesis and research presentation at academic societies.

②Describe theories and the research trends on your own research themes.

③Make your own research thesis.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

○Google Classroom クラスコード : 3wem6pj (この授業は、発達障害学を専攻する学生を対象としています)

○第1回授業の開始時期 : 通常どおり

○授業の実施方法 : Google Classroom の「研究室ゼミ」クラスにて確認します。

○関連資料の入手方法 : Google Classroom の「研究室ゼミ」クラスにて確認します。

○オンライン授業への対応が困難な学生への対応 : Google Classroom の「研究室ゼミ」クラスにて確認します。

1～5. 各自が研究テーマに沿って収集したデータの分析結果の検討

6～10. 各自の研究テーマに関し、得られた知見と従来の知見との比較検討

11～15. 各自の研究のまとめ

1～5. To analyze collected data and examine the results

6～10. To compare newly discovered findings with previously revealed findings

11～15. To write a research paper

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

平常点 (50%), 討論への参加 (25%), 研究発表内容 (25%) により、総合的に評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance (50%), participation in discussions (25%), and contents of research presentations (25%).

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に指定しない。必要な資料は授業の際に配布する。

Not specified. Necessary materials will be distributed during class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

研究発表・論文作成に向け、国内外の研究論文の知見の整理、収集したデータの分析を進める。

You need to organize findings of domestic and foreign research papers and analyze collected data for research presentations and paper writing.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この授業は、発達障害学を専攻する学生を対象とする。また、発達障害学研究演習Ⅰと連続して行うので、受講者はⅠ・Ⅲの両方を履修すること。

This class is for students majoring in "Developmental Disorders". In addition, students must take Seminar I and seminar III, as both seminars will be conducted consecutively.



10. 更新日付/Last Update :  
2021/03/08 15:17:17

**科目名/Subject : 発達障害学研究演習Ⅳ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 金曜日 6 講時**担当教員/Instructor :** 川崎 聡大**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

発達障害学研究法 (Ⅳ) Research methods of developmental disabilities (Ⅳ) クラスコード gavfh6q

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

研究計画法を中心に、課題研究、修士論文の作成に向けた研究指導を行う。受講者は自分の研究に関する先行研究のレビューならびに研究状況の発表を行い、質疑や討論を通して研究を深める。

\* 障害分野実験系のゼミ（演習）になります。前期から連続して受講が必要です

This course provides research guidance for the preparation of research projects and master's theses, focusing on research planning methods. In this course, students will review previous research on their own research and present their research status, and deepen their research through questions and discussions.

This is an experimental seminar (seminar) in the field of disability. (Students are required to take this course consecutively from the first semester.)

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

先行研究の検索ならびにレビュー（プレゼンテーション）の方法について習熟し、研究方法や最新の研究知見について理解を深める。

The goal of this lecture is to familiarize students with the methods of searching and reviewing (presentation) of previous research, and to deepen their understanding of research methods and the latest research findings.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

本演習は修士論文作成に向けた演習であり、以下の通り各自の研究テーマに沿った発表から 15 回を構成する。1. 先行研究のレビュー, 2. 各自の研究に関する構想発表, 3. 各自の研究計画に該当する必要な研究法（統計解析等）の習熟。これらについて受講生相互の討論により理解を深める。

\* 本演習は前期のⅡを引き継ぐものであり継続した履修がのぞまれる

クラスコード gavfh6q 授業はすべてオンライン（ZOOM）を用いて行う。

クラスルームに初回講義前に登録用 URL を貼り付ける

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業（ディスカッション）への参加（70%）、レポート（30%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 70%

- Short reports: 30%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

特に指定しない

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

各自の発表内容並びに関連領域について適宜習熟を深める。

Students are expected to familiarize themselves with the contents of their presentations and related areas.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この授業は 1・2 学期を通して行われるので、受講者は連続して履修すること。

本演習は発達障害に関する研究を修論のテーマとする学生を対象とし、演習の中で研究データを深めうるものを対象とする。This class will be offered throughout the first and second semesters, so students should take it consecutively.

This seminar is intended for students whose master's thesis topic is research on developmental disabilities, and who can deepen their research data during the seminar.

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/07 09:03:01

**科目名/Subject : 臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)****曜日・講時/Day/Period :** 前期 木曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 安保 英勇**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

心理アセスメント演習

psychological assesment

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

質問紙法によるパーソナリティと症状の査定、及び知能の査定を扱う。講義と共に実際のツールに触れ、体験的な理解も目指す。

This class deals with personality and symptom assessment by questionnaire method and assessment of intelligence.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

心理アセスメント技法の基礎を習得する。諸検査の特徴を理解し、必要に応じ適切な検査を選択し、実施できるようになる。

Learn the basics of psychological assessment techniques.

Understand the characteristics of various tests.

Participants will be able to select and conduct appropriate inspections as necessary.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

1. 性格の類型論
- 2.-3. 性格の特性論
- 4-10 パーソナリティテスト
- 11-12 精神症状の査定
- 13-15 知能テスト

1. Typology of personality
- 2.-3. Trait theory
- 4-10 Personality tests
- 11-12 Assessment of mental states
- 13-15 Intelligence test

**【2021. 3. 25 追記】**

- ・Google Classroom のクラスコード : pnbwlob
- ・第一回授業の開始時期 : 2021 年 4 月。暦通り。
- ・授業の実施方法
  - BCP2 : 双方向のオンライン (MEET)
  - BCP1 : 状況と環境を勘案し対面もありうる
- ・関連資料の入手方法 : Classroom で指示
- ・オンライン授業の対応が困難な学生への対応策 : 応談
- ・対面授業への対応が困難な学生への対応策 : 応談
- ・その他
  - 相談が必要な学生は hideo.ambo.d5@tohoku.ac.jp まで

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への参加状況 30%、学期末のレポート 70%

attitude in class:30%, final report:70%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

参考書 : 下仲順子編、臨床心理査定技法 1、誠信書房、2004。このほか適宜教室で指示。

Some handouts will be distributed in the class.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

テキスト講読、質問票への回答等

Text reading, answering questionnaire etc.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。  
/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

この授業は、臨床心理研究コースの学生のために開設されている。

This class is set up for students of the clinical psychology research course.

(Google クラスルーム対応)

クラスコード:pnbwlob

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/06 15:04:50

**科目名/Subject : 臨床心理査定演習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 前田 駿太 / 大場 麗**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

心理アセスメント演習 / Psychological Assessment

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

ロールシャッハ・テスト, 症状等査定のための構造化面接, 神経心理学的検査の実施方法と結果の整理および解釈の基本を学習する。 / This course is designed to help students learn how to administer the Rorschach test, structured interview for symptom assessment, and neuropsychological tests.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

各検査の施行法の習得および検査データの解釈の仕方を学ぶ。 / At the end of the course, participants are expected to each test and how to interpret the test data.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

## 1. オリエンテーション

## 2. ロールシャッハ・テスト (1) 理論および施行法

## 3. ロールシャッハ・テスト (2) スコアリング①

## 4. ロールシャッハ・テスト (3) スコアリング②

## 5. ロールシャッハ・テスト (4) 結果の整理

## 6. ロールシャッハ・テスト (5) 解釈

## 7. ロールシャッハ・テスト (6) ロールプレイ及びコーディングの練習

## 8. ロールシャッハ・テスト (7) ケーススタディ

## 9. 構造化面接 (1)

## 10. 構造化面接 (2)

## 11. 構造化面接 (3)

## 12. 構造化面接 (4)

## 13. 神経心理学的検査 (1)

## 14. 神経心理学的検査 (2)

## 15. まとめ

※進行状況によって各回の内容は変更されることがある。

## 1. Orientation

## 2. Rorschach test (1)

## 3. Rorschach test (2)

## 4. Rorschach test (3)

## 5. Rorschach test (4)

## 6. Rorschach test (5)

## 7. Rorschach test (6)

## 8. Rorschach test (7)

## 9. Structured Interview (1)

## 10. Structured Interview (2)

## 11. Structured Interview (3)

## 12. Structured Interview (4)

## 13. Neuropsychological tests (1)

## 14. Neuropsychological tests (2)

## 15. Summary

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

授業への取り組み (30%) / Participasion (30%)

小テスト, 小レポート (70%) / Final case report (70%)

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

適宜紹介する。 / Textbooks will be introduced in class as needed.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

ロールシャッハ・テストについて, 事前に体験する機会を授業外で設ける予定である。 / There will be an opportunity to experience the Rorschach test outside the class.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開設されている。 / This course is provided for master's students in clinical psychology.

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/01 19:47:29

**科目名/Subject : 臨床心理基礎実習**

曜日・講時/Day/Period : 通年 火曜日 1 講時. 通年 火曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 安保 英勇 / 前田 駿太

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

カウンセリングの体験的学習

Experiential learning of counseling

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

臨床心理学に必要な基礎的な面接技法を修得する。

Learning basic counseling techniques necessary for clinical psychology

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

カウンセリング場面で必要とされる基本的な技法を修得し、実践的に活用できるようになる。技法修得を通じてのクライアント理解への姿勢をより深める。

Participants will

- 1) acquire the basic techniques required in the counseling
- 2) be able to use counseling skills practically.
- 3) deepen their understanding of clients.

**4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**

カウンセリングのトレーニングプログラムであるマイクロカウンセリングに基づいて、カウンセリングの諸技法を体系的に学ぶ。前期は基本的なかわり技法を中心に、各技法の解説、映像教材による技法の観察、小グループでのロールプレイによる練習、振り返り、といった段階により修得した後、試行カウンセリングを行い、より具体的な理解を図る。これを受けて後期は、試行カウンセリングを連続的にを行い、そのプロセスを含めて詳細に検討し、より実践場面にむけた技法の修得とクライアントへの傾聴と共感についての体験的理解を深める。

1-4 オリエンテーション、グループエンカウンター

5-16 基本的なかわり技法：かわり行動、質問技法、はげまし技法、いいかえ技法、感情の反映技法、要約技法、5段階の面接。

17-30 試行カウンセリング(1)：基本的関わり技法を用いた試行カウンセリングの実施、逐語録の作成、スーパービジョン、カウンセリングプロセスの検討など。

31-60 試行カウンセリング(2)：試行カウンセリングの実施、逐語録の作成、スーパービジョン、カウンセリングプロセスの検討を通じて、基本的なかわり技法を基礎とした技法の統合を体験する。

Participants systematically learn counseling techniques based on counseling training program, micro counseling.

In the first semester, after acquiring the basic engagement technique, trial counseling is performed using counseling techniques.

In the second semester, trial counseling will be conducted continuously and the process will be examined in detail. Participants will acquire hands-on techniques and deepen their experiential understanding of listening to clients and empathy.

1-4 Orientation, group encounter

5-16 Basic attending skills

17-30 trial counseling 1

31-60 trial counseling 2

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

討議への参加状況 (60%)、発表とレポート (40%) による。

attitude in class:60%, presentations and final report:40%

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

アイヴィら (福原真知子訳) 1999、マイクロカウンセリング基本的なかわり技法、丸善

Ivey A.E., Gluckstern N. B., Ivey M. B., Basic attending skills 3rd edition.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

テキストの事前講読、修得技法の練習、試行カウンセリングの実施と逐語録の作成

Preliminary reading of text, practice of acquired technique, implementation of trial counseling and creation of

serialization

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開設されている。

This class is set up for students in the clinical psychology course.

(Google クラスルーム対応)

- ・ Google Classroom のクラスコード : 2szt4h2
- ・ 第一回授業の開始時期 : 2021 年 4 月。暦通り。
- ・ 授業の実施方法
  - BCP2 : 双方向のオンライン (MEET)
  - BCP1 : 状況と環境を勘案し対面もありうる
- ・ 関連資料の入手方法 : Classroom で指示
- ・ オンライン授業の対応が困難な学生への対応策 : 応談
- ・ 対面授業への対応が困難な学生への対応策 : 応談
- ・ その他
  - 相談が必要な学生は hideo.ambo.d5@tohoku.ac.jp まで

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/01 17:42:24



**科目名/Subject : 臨床心理実習 I (心理実践実習 I)****曜日・講時/Day/Period :** 通年集中 その他 連講**担当教員/Instructor :** 安保 英勇 / 亀倉 大地 / 若島 孔文 / 吉田 沙蘭 / 前田 駿太 / 大場 麗 / 本多 奈美**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**臨床心理演習/  
Clinical Psychology (Practice)**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

心理臨床の専門性を有した援助と連携について、実習を通じて学習する。/

In this subject, students will learn about specialized support methods and cooperation in clinical psychology.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

実際の心理面接を遂行できること、また、他機関との連携ができること。/

The goal is to allow students to conduct actual psychological interviews and to be able to collaborate with other organizations.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

実習講義事前指導、大学病院実習、学外実習施設（保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野）、学内相談施設（臨床心理相談室における心理面接、ケース検討（第1学期）、スーパービジョン）での実習を軸に進める。

心理に関する支援を要する者等に関する知識および技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携および地域連携、職業倫理および法的義務等の内容について、実習を通じて学習する。/

This subject is practical training in the Clinical Counseling Room in Tohoku University and the outside institute (health and medical field, welfare field, education field, legal field, and industry field).

Through practical training, learn about specialized knowledge and skills (communication, psychological assessment, psychotherapy, regional support, etc.) professional understanding needs, preparing support plans, professional team approach, multi-occupation collaboration and regional collaboration, professional ethics and legal obligations.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

学内・学外両実習の活動状況（70%）およびレポート（30%）で総合的に判断する。/

Evaluate by activities and submission of several reports

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

実習先等に関する資料を随時、提示する。

Information on the training institute etc. will be distributed.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

各実習先の概要および関連する法律の調査、実習記録の作成。/

Preparation of practical training and preparation of report

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note:"○"Indicate the practical business

○

**9. その他/In addition :**

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開講されている。

実習先に関する詳細は別紙にて配布する。

This class is offered for students in clinical psychology courses.

(Google クラスルーム対応)

クラスコード : 22hcb6s

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/06 15:29:19

**科目名/Subject : 臨床心理実習Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 5 講時**担当教員/Instructor :** 吉田 沙蘭 / 亀倉 大地 / 安保 英勇 / 若島 孔文 / 前田 駿太 / 大場 麗 / 本多 奈美**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :**

1. **授業題目/Class subject :**  
心理臨床ケースカンファレンス / Case Studies in Clinical Psychology
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**  
心理面接に関する基本的な事項について、事例を通して学び、心理臨床の理論と方法を理解する。 / This course deals with case studies to help participants learn basic concepts and principles of clinical psychology. It also provides an overview of therapeutic approach and practical skills for psychological counseling.
3. **学習の到達目標/Goal of study :**  
グループ討論や全体討論を通して、カウンセラーがどのように相談者の状況や感情を理解し、問題解決のために動くことができるのかを理解すること。面接の枠組み、見立て、諸技法による対応を現実の事例対応に活かせるようになること。 / Through class work and group discussion, participants should be able to do the following:
  - ・ Understand how counselors work to identify issues, explore clients' feelings, and resolve their concerns.
  - ・ Apply therapeutic structure, approach and skills to actual psychological counseling situations.
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**  
授業では各回 1 事例の検討を行う。面接担当者による事例報告、簡単な質疑応答後、グループワークによる事例検討を行う。受講者は、事例について意見、疑問等を積極的に発言し、グループおよび全体で議論し、事例の理解を深める。 / Psychological case studies based on presentation of counseling cases and group discussions.
5. **成績評価方法/Evaluation method :**  
グループワークへの参加状況 (40%) / Participation in group discussion (40%)  
事例に関する各回レポート (60%) / Brief report each week (60%)
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**  
教科書は特に定めない。テキストは適宜紹介する。 / Reference will be introduced in the class.
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**  
予習・・・資料は授業終の月曜日から臨床心理相談室事務室内で閲覧できるので、事前に目を通しておくとよい。 / Participants are expected to prepare each discussion by reading the case materials prior to the class.  
復習・課題・・・授業を通じて事例から学んだことはレポートにまとめて翌週提出する。 / Participants should turn in brief report each week.
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**  
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
  - ・ この授業は臨床心理学コースの学生のために開設される。 / This course is provided for master's students in clinical psychology.

・ 来談者の人権を尊重し、個人、家族等、関係者の情報保護に十分な配慮をすること。 / Respect the human rights and protect personal privacy for clients and the people concerned.

※クラスコード : qyiod6x

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/07 11:05:43

**科目名/Subject : 臨床心理実習Ⅲ (心理実践実習Ⅱ)****曜日・講時/Day/Period :** 通年集中 その他 連講**担当教員/Instructor :** 若島 孔文 / 亀倉 大地 / 安保 英勇 / 吉田 沙蘭 / 前田 駿太 / 大場 麗 / 本多 奈美**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

臨床心理実習 / Clinical Psychology (Practice)Ⅲ

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

心理臨床の専門性を有した援助と連携について、実習を通じて学習する。 / In this subject, students will learn about specialized support methods and cooperation in clinical psychology.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

実際の心理面接を遂行できること、また、他機関との連携ができること。 / The goal is to allow students to conduct actual psychological interviews and to be able to collaborate with other organizations.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

実習講義事前指導、学外実習施設（保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野）、学内相談施設（臨床心理相談室における心理面接、ケース検討、スーパービジョン）での実習を軸に進める。

1. ～30. を通じて、以下の内容について実習を通じて学習する。

心理に関する支援を要する者等に関する知識および技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携および地域連携、職業倫理および法的義務 /

This subject is practical training in the Clinical Psychology Counseling Room in Tohoku University and the outside institution (health and medical field, welfare field, education field, legal field, industry field).

Through practical training, learn about specialized knowledge and skills (communication, psychological assessment, psychotherapy, regional support, etc.), professional understanding needs, preparing support plans, professional team approach, multi-occupation collaboration and regional collaboration, professional ethics and legal obligations.

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

学内・学外両実習の活動状況（70%）および期末レポート（30%）で総合的に判断する。 / Evaluate by activities and submission of several reports

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

実習先等に関する資料を随時、提示する。

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

各実習先の概要および関連する法律の調査、実習記録の作成。 / Preparation of practical training and preparation of report

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

○

**9. その他/In addition :**

この授業は臨床心理学コースの学生のために開講されている。

実習先に関する詳細は別紙にて配布する。

(Google クラウドルーム対応)

**① クラスコード**

wlt7ez3

**② 第一回授業の開始時期**

・第一回目の授業は4月15日（木）16:20～から実施

**③ 授業の実施方法**

・ケースカンファレンスはGoogle Meet を使用し行う予定（BCP レベル1 及び2 の場合）

**④ 関連資料の入手方法**

・授業の資料については、授業開始前までに共有ドライブにアップロード予定（受講希望者を招待する）。

**⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策**

・オンライン授業への参加が困難な学生については、若島までメールにて連絡をするように (kobun.wakashima.d3@tohoku.ac.jp)。

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/02/15 12:48:40



科目名/Subject : 課題研究

曜日・講時/Day/Period : 通年集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 各指導教員

単位数/Credit(s) : 8

使用言語/Language Used in Course :

1. 授業題目/Class subject :
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
3. 学習の到達目標/Goal of study :
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
5. 成績評価方法/Evaluation method :
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。  
/Note: "○" Indicates the practical business
9. その他/In addition :
10. 更新日付/Last Update :

科目名/Subject : 国際教育開発論概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 劉 靖

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course :

**1. 授業題目/Class subject :**

International Education and Development: An Introduction

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

This course covers a wide range of knowledge and discussion about international education and development. It aims at enhancing students' understanding of basic knowledge and up-to-date discussion on international education and development towards 2030 and beyond. It will begin with mapping paradigm shifts of international education and development before and after WWII, after which theories of development and the role of education in these theories will be reviewed. Then, it will introduce key themes of international education and development and raise discussion on these issues both in developed countries and developing countries. In the final stage of the course, the history of international cooperation in education and development and newly emerging models for education and sustainable development will be introduced and discussed.

Students will engage in discussion about assigned readings and share their opinions and reflections that link to selected themes on international education and development in class. Then, featured guest speakers from international organizations and new emerging donor countries will share experiences and discuss the achievements and challenges of international cooperation in educational development. Finally, students are invited to select themes related to international education and development for written assignments and presentations.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

Goals of course are to enable students to:

- (1) obtain comprehensive knowledge about international education and development.
- (2) hold a comparative perspective on issues in international education and development at both global and local levels.
- (3) enrich practical experiences in educational development and social change
- (4) enhance mutual understanding and communication about education and development between participants from different cultures and backgrounds.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

At BCP Level 1: the class will be conducted face-to-face.

At BCP Level 2: the class will be conducted online.

In case there is shift to face-to-face class, announcement will be made in advance.

Session 1: Introduction to Sustainable Development Goals (SDGs)

Part I Paradigm shift

Session 2: The Development Project and education (Late 1940s to Early 1970s)

Session 3: The Globalization Project, education, and crisis (1980s and 2000s)

Session 4: The Sustainability Project and education (2000s to Present)

Part II Theories of development

Session 5: Development Theory 1

The liberal capitalist paradigm

The Marxist paradigm

Postcolonialism

Liberal egalitarianism

Radical humanism

Session 6: Development Theory 2

Post-Development theory

Feminism

Environmentalism

Part III Key themes

Session 7: Inequalities in education

Session 8: Family and community engagement with education  
Session 9: Teachers and teacher education  
Session 10: Higher education and development  
Session 11: New technologies, future education, and development

Part IV International cooperation in education and development

Session 12: History, organization, and partnership  
Session 13: UNESCO and international cooperation in educational development  
Session 14: Newly emerging donors & South-South Cooperation

Part V Summary

Session 15: Final presentations & Reflection

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

Participants will be evaluated comprehensively through their participation and attitude (30%), Group works (20%), Group/individual presentations (20%), final presentation (10%), and final report (20%).

Absence without prior approval is subject to negative evaluation.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

Students will find the reading materials of each session in Google Classroom. References for further reading/study will be provided in class and uploaded to Google Classroom.

List of main textbooks:

Desai, V., & Potter, R. B. (Eds.). (2014). The Companion to Development Studies 3rd Edition. Oxon: Routledge.

Fagerlind, I., & Saha, L. J. (1989). Education & National Development: A Comparative Perspective 2nd Edition. Oxford: Pergamon Press.

McCown, T., & Unterhalter, E. (Eds.). (2015). Education and International Development: An Introduction. London: Bloomsbury.

McGrath, S., & Gu, Q. (Eds.). (2016). Routledge Handbook of International Education and Development. Oxon: Routledge.

McMichael, P. (2012). Development and Social Change: A Global Perspective 5th Edition. Thousand Oaks: SAGE Publications Ltd.

UNESCO. (2020). Global Education Monitoring Report: Inclusion and education: All Means All. Paris: UNESCO.

Wagner, D. A. (2018). Learning as Development: Rethinking International Education in a Changing World. New York: Routledge

荻巣 崇世、橋本 憲幸、川口 純 (著) (2021)『国際教育開発への挑戦—これからの教育・社会・理論』 東信堂

北村友人、佐藤 真久、佐藤学 (編著) (2019)『SDGs 時代の教育：すべての人に質の高い学びの機会を』 学文社

黒田 一雄 , 横関 祐見子 (編集) (2005)『国際教育開発論—理論と実践』 有斐閣

ダニエル・A・ワグナー (著), 前田 美子 (翻訳) (2020)『SDGs 時代の国際教育開発学: ラーニング・アズ・ディベロップメント』 法律文化社

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**

1. The session time is limited, and therefore self-directed learning is essential. Students are encouraged to prepare and review for each class by individuals and groups.

2. Students are encouraged to collect information and topics related to the class' s content using newspapers, books, the internet, and other resources.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

1. Google Class code: 16bzbmb

2. The 1st session will start at 10:30 on April 15, 2021. Those who plan to take course, please contact Dr. Jing Liu by jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by April 14, 2021.

3. In principle, this course will be a virtual course by Google Meet/ZOOM. If the condition allows, students may be invited to join the course in a hybrid approach, including online and onsite styles. How to proceed with this approach will be explained in the 1st session.

4. Office hour: Thursday 15:00-17:00, appointment is required.

5. Email of the instructor in charge: jing.liu.e8@tohoku.ac.jp

**10. 更新日付/Last Update :**

2021/03/04 09:29:37





**科目名/Subject :** 国際教育開発論特論

**曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 2 講時

**担当教員/Instructor :** 劉 靖

**単位数/Credit(s) :** 2

**使用言語/Language Used in Course :**

**1. 授業題目/Class subject :**

Education and Development in an Asia-Pacific Context: A comparative perspective

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

The major objective of this course is to consider issues of education and development in a comparative perspective and understand trends of research on education and development in an Asia-Pacific context. Although Asia-Pacific region has made a comprehensive progress in achieving SDG4 since 2015. With a rapid economic and social development, this region is also facing unprecedented challenges, such as rise of inequality and social exclusion at country and local levels. In education sector, on one hand, there are increasing number of people who can get access to schooling. On the other hand, there are different forces formulating inclusiveness, quality and resilience of people's education in this region, which have been interpreted and analyzed through western theories rather than by Asian thoughts.

Therefore, in this course, first students will learn achievements and challenges of education and development from different targets of SDG4 and country studies in Asia-Pacific region. Then, student will be introduced to understand research paradigms in international education and development and comparative education and development. More importantly, students will be encouraged to consider and interpret education and development in Asia-Pacific in an Asian context and Asian methods.

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

Goals of course are to enable students to:

- (1) obtain knowledge of education and development in Asia-Pacific.
- (2) enhance understanding of achievements and challenges of education and development in Asia-Pacific from a comparative perspective.
- (3) acquire an attitude that considers the meanings of education and development from a comparative perspective.
- (4) understand trends of research on education and development from both the western approach and an Asian method.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

Session 1: Introduction

Part 1: SDG4 in an Asia-Pacific Context: Progress and Challenges

Session 2: Education and Sustainable Development Goals

Session 3: Educational inequality in Asia-Pacific

Session 4: Education reforms for quality education in Asia-Pacific

Session 5: Technical and vocational education and trainings in Asia-Pacific

Session 6: Higher education in Asia-Pacific

Session 7: Partnership for education and development in Asia-Pacific

Part 2: Country Studies

Session 8: Japan's educational development

Session 9: China's educational development

Session 10: Philippines's educational development

Session 11: Cambodia's educational development

Part 3: Research on Education and Development: Approaches and Methods

Session 12: Research paradigms in international education and development

Session 13: Comparative education and development

Session 14: Asia as a method

Part 4: Conclusion

Session 15: Final presentations

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

Participants will be evaluated comprehensively through their participation and attitude (30%), Group works (20%), Group/individual presentations (20%), final presentation (10%), and final report (20%).

Absence without prior approval is subject to negative evaluation.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

Students will find reading materials for each session in Google Classroom. References for further reading/study will be provided in class and uploaded to Google Classroom.

- Bray, M., Adamson, B., & Mason, M. (Eds.). (2014). *Comparative Education Research: Approaches and Methods* 2nd Edition. Hong Kong: Springer.
- Guo, S., & Guo, Y. (Eds.). (2016). *Spotlight on China: Changes in Education under China's Market Economy*. Rotterdam: Sense Publishers.
- Kitamura, Y., Jr., D. B. E., Sitha, C., & Williams, J. H. (Eds.). (2016). *The Political Economy of Schooling in Cambodia: Issues of Quality and Equity*. New York: Palgrave Macmillan.
- Kitamura, Y., Omomo, T., & Katsuno, M. (Eds.). (2019). *Education in Japan*. Singapore: Springer.
- McCown, T., & Unterhalter, E. (Eds.). (2015). *Education and International Development: An Introduction*. London: Bloomsbury.
- UNESCO. (2020). *Global Education Monitoring Report: Inclusion and education: All Means All*. Paris: UNESCO.
- Vicente Chua Reyes, J. (2015). *Mapping the Terrain of Education Reform: Global trends and local responses in the Philippines*. Abingdon: Routledge.
- Zhang, H., Chna, P. W. K., & Kenway, J. (Eds.). (2015). *Asia as Method in Education Studies: A defiant research imagination*. Abingdon: Routledge.
- 荻巢 崇世、橋本 憲幸、川口 純 (著) (2021)『国際教育開発への挑戦—これからの教育・社会・理論』東信堂
- 北村友人 (2015)『国際教育開発の研究射程：「持続可能な社会」のための比較教育学の最前線』東信堂
- 黒田 一雄，横関 祐見子 (編集) (2005)『国際教育開発論—理論と実践』有斐閣

#### 7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

1. The session time is limited, and therefore self-directed learning is essential. Students are encouraged to prepare and review for each class by individuals and groups.
2. Students are encouraged to collect information and topics related to the class' s content using newspapers, books, the internet, and other resources.

#### 8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

#### 9. その他/In addition :

1. Google Class code: xdm2r5n
2. The 1st session will start at 10:30 on October 7, 2021. Those who plan to take course, please contact Dr. Jing Liu by jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by October 6, 2021.
3. In principle, this course will be a virtual course. If the condition allows, students may be invited to join the course in a hybrid approach, including online and onsite styles. How to proceed with this approach will be explained in the 1st session.
4. Office hour: Thursday 15:00-17:00, appointment is required.
5. Email of the instructor in charge: jing.liu.e8@tohoku.ac.jp

#### 10. 更新日付/Last Update :

2021/03/04 20:49:30

**科目名/Subject : 国際実践研究 I****曜日・講時/Day/Period :** 前期集中 その他 連講**担当教員/Instructor :** 劉 靖 / 安保 英勇**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

Asia Education Leader Course (Summer)

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

Asia Education Leader (AEL) Course is to nurture internationally minded educational professionals (IMEP) who have international perspective and are able to address educational challenges in contemporary East Asia. Specifically, it nurtures (1) Education researchers capable of undertaking comparative analysis of educational issues in East Asia; (2) Teacher leaders who are practicing educators capable of engaging with researchers, policymakers and other practitioners; and (3) Education administrators with the knowledge and skills required to collaborate with partners across the region.

Each summer/winter course basically has three subjects which are based on KAP-S Rainbow Curriculum design of AEL Course. Knowledge refers to high professional knowledge; Attitude means empathic attitude towards Asia; Skills symbolize research skills; and Practice gives emphasis on experience in the field.

AEL Course is set up by consensus among, and its summer/winter courses are hosted in rotation by, six partner institutes of five universities in East Asia. They are ;

- Graduate School of Education, Tohoku University (TU), Sendai, Japan
- College of Education, National Chengchi University (NCCU), Taipei, Taiwan
- School of Education Science, Nanjing Normal University (NNU), Nanjing, China
- School of Psychology, Nanjing Normal University (NNU), Nanjing, China
- Department of Education, Korea University (KU), Seoul, Korea
- College of Education, National Taiwan Normal University (NTNU), Taipei, Taiwan

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

Goals of course are to enable students to:

- (1) obtain comprehensive and professional knowledge and skills related to education and social change in East Asia.
- (2) hold emphatic attitude towards equality, equity, inclusiveness and sustainability in education of East Asia.
- (3) enrich practical experiences in educational change in East Asia.
- (4) enhance mutual understanding and communication between participants from different universities in East Asia.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

AEL 2021 Summer Course (online) which is going to be hosted by Korea University, includes the following subjects.

- A-P: Comparative Education (Aug. 9-11)
- K-P: Quantitative Methods in educational Research (Aug.12, 13, and 16)
- S-P: Technology Enhanced Learning Environment (Aug.18-20)
- K-P: Theories and Practices of Counselling (Aug.23-25)

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

Evaluation mainly depends on students' participation and performance in AEL 2021 Summer Course hosted by Korea University. Students' attitude, participation, and performance in preparation and Asia Education Leader Forum will have positive impact on students' evaluation results.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

The information will be shared before the summer course.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :****A. Preparation**

- Participants of AEL Summer Course need to finish necessary reading references assigned by lecturers of AEL Summer Course.
- Participants of AEL Summer Course are encouraged to take part in global webinars and open lectures hosted by the Graduate School of Education, Tohoku University.

**B. Review**

Participants are encouraged to take part in Asia Education Leader Forum to be held in September.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicate the practical business

**9. その他/In addition :**

1. Guidance of AEL Summer Course will be held in April. Please check AELC homepage for details.

<https://www2.sed.tohoku.ac.jp/~aelc/>

2. For any inquiries, please contact Dr. Jing Liu by [aelc@sed.tohoku.ac.jp](mailto:aelc@sed.tohoku.ac.jp).

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/03 12:58:33

**科目名/Subject : 国際実践研究Ⅱ****曜日・講時/Day/Period :** 後期集中 その他 連講**担当教員/Instructor :** 劉 靖 / 安保 英勇**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :****1. 授業題目/Class subject :**

Asia Education Leader Course (Winter)

**2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**

Asia Education Leader (AEL) Course is to nurture internationally minded educational professionals (IMEP) who have international perspective and are able to address educational challenges in contemporary East Asia. Specifically, it nurtures (1) Education researchers capable of undertaking comparative analysis of educational issues in East Asia; (2) Teacher leaders who are practicing educators capable of engaging with researchers, policymakers and other practitioners; and (3) Education administrators with the knowledge and skills required to collaborate with partners across the region.

Each summer/winter course basically has three subjects which are based on KAP-S Rainbow Curriculum design of AEL Course. Knowledge refers to high professional knowledge; Attitude means empathic attitude towards Asia; Skills symbolize research skills; and Practice gives emphasis on experience in the field.

AEL Course is set up by consensus among, and its summer/winter courses are hosted in rotation by, six partner institutes of five universities in East Asia. They are ;

- Graduate School of Education, Tohoku University (TU), Sendai, Japan
- College of Education, National Chengchi University (NCCU), Taipei, Taiwan
- School of Education Science, Nanjing Normal University (NNU), Nanjing, China
- School of Psychology, Nanjing Normal University (NNU), Nanjing, China
- Department of Education, Korea University (KU), Seoul, Korea
- College of Education, National Taiwan Normal University (NTNU), Taipei, Taiwan

**3. 学習の到達目標/Goal of study :**

Goals of course are to enable students to:

- (1) obtain comprehensive and professional knowledge and skills related to education and social change in East Asia.
- (2) hold emphatic attitude towards equality, equity, inclusiveness and sustainability in education of East Asia.
- (3) enrich practical experiences in educational change in East Asia.
- (4) enhance mutual understanding and communication between participants from different universities in East Asia.

**4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**

Details of AEL 2022 Winter Course (online) is going to be announced soon.

- ・ A-P
- ・ K-P
- ・ S-P

**5. 成績評価方法/Evaluation method :**

Evaluation mainly depends on students' participation and performance in AEL 2022 Winter Course. Students' attitude, participation, and performance in preparation and Asia Education Leader Forum will have positive impact on students' evaluation results.

**6. 教科書および参考書/Textbook and references :**

The information will be shared before the winter course.

**7. 授業時間外学習/Preparation and Review :****A. Preparation**

- ・ Participants of AEL Winter Course need to finish necessary reading references assigned by lecturers of AEL Winter Course.
- ・ Participants of AEL Winter Course are encouraged to take part in global webinars and open lectures hosted by the Graduate School of Education, Tohoku University.

**B. Review**

Participants are encouraged to take part in Asia Education Leader Forum to be held in March.

**8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**

/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他/In addition :**

1. Guidance of AEL Winter Course will be held in October. Please check AELC homepage for details.

<https://www2.sed.tohoku.ac.jp/~aelc/>

2. For any inquiries, please contact Dr. Jing Liu by [aelc@sed.tohoku.ac.jp](mailto:aelc@sed.tohoku.ac.jp).

10. 更新日付/Last Update :

2021/03/03 13:03:44